

海外果樹農業情報 No. 173
2025-2

海外の果樹産業ニュース 2025 年度上期版

2025 年 7 月

公益財団法人 中央果実協会
[JAPAN FRUIT ASSOCIATION]

本書の内容について、ご質問やお気づきの点がありましたら、
下記あてにご連絡下さるようお願いいたします。

公益財団法人 中央果実協会 情報部

〒100-0011 千代田区内幸町 1-2-1 日土地内幸町ビル 2 階

【電 話】 03-6910-2922（代）

【F A X】 03-6910-2923

序 文

果樹農業を取り巻く国際化の進展に伴い、我が国の果樹産業は外国産果実及びその加工品等との競争が激化しており、一方で果実の輸出促進の努力が行われています。

このような我が国の果樹産業を取り巻く環境の変化に対応した関係機関・団体等からの海外果樹関係の情報ニーズの高まりを踏まえ、当協会では農林水産省補助事業「果樹農業生産力増強総合対策」における調査研究等事業の一環として、海外における果実及びその加工品等の生産・流通事情等に関する情報の収集・提供を行うことにより、我が国果樹産業の振興・活性化並びに果実の需給と価格の安定及び輸出の振興に資することとしています。

具体的には、特定のテーマを対象とした調査報告書及び果樹全般についてのFAO(国連食糧農業機関)の生産貿易統計データ等を元とした報告書を取りまとめて刊行するほか、海外の果樹産業を扱う雑誌、新聞、ウェブサイトから我が国果樹産業に密接に関係する記事や公表資料を翻訳し関係者に提供しています。

この度は2025年3月から6月に翻訳・提供したニュースを取りまとめ刊行することといたしました。また、本書は当協会ウェブサイトにもカラー版を掲載しています。

本書が最近の世界の果樹産業事情を理解する上で少しでもお役に立てば幸いです。

なお、本書の翻訳責任は当協会にあることを申し添えます。

2025年7月

公益財団法人 中央果実協会

理事長 村 上 秀 徳

目 次

1. 米国 農産物輸出の市場アクセス拡大を推進	1
2. ブラジル オレンジ果汁の先物価格が50%下落	2
3. ニュージーランド 2025年はエンヴィリンゴ輸出の記録的なシーズンに	2
4. 米国 トランプ大統領が最低10%の関税を発表	3
5. トランプ大統領の関税がカナダ、メキシコ、その他の地域に与える影響	4
6. 米国の関税に対する世界の農業団体の反応	6
7. トルコ 米国・カナダ間の高関税はサクランボ輸出のチャンスになる可能性	10
8. 世界のブドウ市場(要約部分抜粋)	10
9. 米国カリフォルニア州 サクランボの出荷シーズン開始は少し遅い予想	11
10. ブラジル・サンパウロ州 日本とチリへのアボカド輸出を開始	12
11. インド マンゴー1,000トンを日本に輸出する計画	12
12. エジプト 果汁工場の台頭で生鮮果実の梱包が停止	13
13. アジアのブドウ市場の動向	14
14. メキシコ 2025年のアボカド生産量と輸出量は増加を予測	16
15. ペルー ハスアボカドの業界団体は品質と販促への取組みを再確認	16
16. 南アフリカ 西ケープ州のアボカド生産が拡大	17
17. ブラジル 2024/25年度のオレンジ収穫量は37年間で2番目に少ない	18
18. 米国フロリダ州 カンキツグリーニング病耐性の6品種を導入	19
(関連記事)米国フロリダ州 グリーニング病耐性品種の導入と出荷予測	20
(関連記事)米国 柑橘類出荷予測 4月	20
19. 南アフリカ タイ向けリンゴ輸出の再開でアジアでの存在感を拡大	21
20. トルコ MA包装で輸出用サクランボの鮮度を30日間保持	22
21. 米国北西部 果樹産業は関税を支持するが最大の懸念は人件費	23
22. スペイン 無許可のマンダリン栽培者に対する法的措置を準備	24
23. エジプト ブドウの輸出シーズンを前に育種家の権利保護を再確認	25
24. 韓国 厳しい春霜でナシ農場に被害	25
25. フィリピン 生産者団体がキャベンディッシュバナナの減少を報告	26
26. 世界の生鮮ブルーベリーの見通し 2025-2030	27
(関連記事)ペルー 世界のブルーベリー市場でのリーダーシップの確立	28
27. 米国フロリダ州 グリーニング病対策で保護スクリーン下の栽培を拡大	30
28. トルコ 厳しい霜害がリンゴ果汁の供給を脅かす	30
29. トルコ サクランボに深刻な降霜被害	31
30. チリ ブルーベリー市場で競うための構造改革	32
31. 世界のブルーベリー新興輸出国の見通し	33
32. 米国 日本等のブルーベリー関税には楽観的	35
33. モロッコ 歴史的な貿易ミッションがシンガポール市場を勝ち取る	36
34. 米国ワシントン州 生産者は関税による輸出リスクを警戒	37
35. モロッコ産柑橘類が日本市場に上陸	37
36. ベルギー 地域農業大臣の訪日で洋ナシの輸出を推進	38
37. トルコ 今シーズンのサクランボ生産量は50～60%減少の予想	38
38. メキシコ ブルーベリーの輸出見通し	39
39. オーストラリア 日本との園芸製品の貿易を強化	40
40. 南部アフリカ 柑橘類の輸出は課題はあるものの成長を予測	41
41. 中東地域のモモ・ネクタリン市場は成長が見込まれる	42
42. 米国カリフォルニア州 柑橘類の最近の状況	43
43. 北米 ブルーベリーのシーズンはメキシコ産から米国产へ	44

44. エジプト 早生ブドウは早期出荷と消費者志向への対応に注力	44
45. 米国農務省 1万5千人以上の職員が離職.....	45
46. 台湾 日本の学校給食に7年連続でパイナップルを供給	45
47. 米国のブルーベリーシーズン 供給予測は微減だが堅調な見通し.....	46
48. 米国 ブルーベリー生産者はカナダとの関税問題に直面	47
49. 南アフリカ 品薄の海外市場が早生の柑橘類を歓迎.....	48
(関連記事)中東市場は南アフリカ産オレンジの入荷に期待	49
50. ブラジル 2025/26年度のオレンジ収穫量は前年比36%増加の予測	50
51. アジアのサクランボ市場は2025年も成長を続けるとの報告.....	51
52. 米国 2024年の有機青果物販売額は95億ドルに.....	52
53. 米国フロリダ州 オレンジ出荷予測は前年比36%減.....	53
(関連記事)米国フロリダ州 柑橘類再活性化への希望	53
(関連記事)米国 柑橘類出荷予測 5月	54
54. エジプト オレンジは早期の出荷終了を控え高値	55
55. アルゼンチン 米国とブラジルの不作で早生オレンジの需要が増加	55
56. 世界のオレンジ市場(抜粋)	56
57. ブラジル アボカド生産者が日本向けの輸出審査を受ける	58
58. カナダ ブリティッシュコロンビア州のサクランボに強い需要の予想	59
59. ニュージーランド ゼスプリの2024/25年度の販売額は史上最高.....	60
60. トルコ サクランボの主産地で甚大な霜の影響.....	61
61. 米国 生鮮リンゴの貯蔵量が5月の5年平均を19%上回る	61
62. ベトナム産ライチの収穫が始まり日本で関心が高まる.....	62
63. 米国 カリフォルニア州のサクランボは大幅減収、ワシントン州は順調	63
64. 世界のブルーベリー市場(抜粋).....	64
65. 米国 子供の健康レポートが不適切な食生活を指摘	66
(関連記事)米国 青果物団体が子供の健康レポートに反応	67
66. ニュージーランド ユズ生産者は需要を満たせない	68
67. オーストラリア 柑橘類の輸出が回復する見込み	68
68. 米国カリフォルニア州 今シーズンの核果類は増収の予想.....	69
69. 南半球の2024/25年度のブルーベリー輸出量は28%増加	70
70. 米国フロリダ州 果汁用に潜在的な代替オレンジ品種	70
71. ペルー 次期のブルーベリー輸出は20%の成長を予測.....	71
72. 米国北西部 中国の関税一時停止はサクランボの出荷時期と一致	72
73. 南アフリカ 南半球のリンゴ輸出をリード.....	74
74. 米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大.....	74
75. 米国北西部 サクランボは国内販売に十分な量が準備完了	75
76. 米国カリフォルニア州 生食用ブドウ委員会が収穫開始を発表	75
77. エジプト ブドウの輸出シーズンが高値で始まる	76
78. フィリピン バランゴンバナナの輸出を拡大	76
79. 世界のアボカド市場(要約部分抜粋)	77
80. 米国から台湾への生鮮果実輸出が2024年に34%増加.....	78
81. アジア域内コンテナ指数は安定	78
82. 米国北西部 サクランボ出荷シーズンの状況.....	79
83. ペルー 2025年産ハスアボカドの輸出見通しを下方修正	81
84. ブラジル オレンジは契約がないまま5月が終了	82
85. ニュージーランド キウイフルーツの収穫はここ数年で最も順調	82
86. ペルー 生食用ブドウの記録的なシーズン	83
(関連記事)ペルー 輸出用に認定された生食用ブドウは2万3,320ヘクタール	84

87. チリ アジアと米国がブドウ、キウイ、サクランボの需要を押し上げ.....	85
88. チリ 生食用ブドウの現状と課題.....	86
89. 米国 サクランボはカリフォルニア州からワシントン州へ完璧な移行.....	87
90. ベトナム 2025年これまでの米国産果実の輸入が約60%急増.....	87
91. オーストラリア 生食用ブドウは甘いライセンス品種が伝統品種を追い越す.....	88
92. 中国 雲南省に南部最大の高品質リンゴ産地が誕生.....	88
93. アジア太平洋地域の物流 年央の状況報告.....	89
94. 米国フロリダ州 オレンジの出荷予測は前年比34%減.....	90
(関連記事)米国 柑橘類出荷予測 6月.....	90
95. トルコ 今シーズンのサクランボの70~80%に被害.....	91
96. 米国 農業労働力不足を緩和する大統領令を計画.....	91
97. 米国北西部 サクランボのシーズンは早期に力強く開始.....	92
(関連記事)米国ワシントン州 労働力不足がサクランボの収穫を直撃.....	92
98. ベトナム、タイ向け米国産果実のアクセスが改善.....	93
99. 米国 移民への強制捜査は農場を混乱させ、農産物の供給を脅かす.....	94
(関連記事)米国 外国人農場労働者等の強制捜査を一時停止.....	94
100. スペイン 1万本以上の違法マンダリンを排除.....	95
101. インド 柑橘類の研究で日本との協力を探る.....	96
102. インド 湾岸諸国への高級サクランボの輸出を開始.....	96
103. 世界の2025年のサクランボ供給量は減少.....	97
104. ニュージーランド ゼスプリはキウイ生産者の好調な収益を予測.....	97
105. ブラジル 果実の輸出拡大を目指す.....	98
106. 米国 農場、レストラン、ホテルはもはや強制捜査から免除されない.....	99
107. 南半球のブルーベリー輸出が増加.....	99
108. 米国フロリダ州 柑橘類産業支援に1億4千万ドルの予算を承認.....	100
109. アジア域内のコンテナ運賃は6月前半に8%上昇.....	100
110. 米国カリフォルニア州 生食用ブドウは豊富な量と安定した市場を期待.....	101
(関連記事)米国カリフォルニア州 ブドウは高値で始まる可能性.....	102
111. 香港 輸出者向けガイド(抜粋).....	103
112. 米国北西部 サクランボの出荷量は13%増加の予想.....	105
113. 南半球の生食用ブドウ輸出量は2024/25年度に11%増加.....	105
114. チリ 2024-25年度のサクランボと生食用ブドウ輸出シーズンの総括.....	106
115. ペルー 2025年にチリを抜いて南米最大の果実輸出国に.....	107
116. 世界のリンゴ市場(要約部分抜粋).....	108
117. ペルー 冷凍果実の輸出が2020~2024年に年4%の成長.....	109
118. 台湾 輸出者向けガイド(抜粋).....	110
119. トルコ 果実の収穫量は厳しい春霜のため24%減少.....	112
120. 中国 リンゴの包装侵害訴訟で原告が勝訴.....	113
121. ベトナム 冷凍果実・野菜の人気の日本が高まる.....	113
122. タイ 輸出者向けガイド(抜粋).....	114
123. 世界のサクランボ市場(要約部分抜粋).....	116
124. オーストラリア オレンジ市場は輸出で成長.....	117
125. シンガポール 輸出者向けガイド(抜粋).....	118
126. 世界のブルーベリー輸出の未来.....	120
127. ベトナム ライチ等の日本向け果実輸出が増加.....	122

(2024年度3月分)

422. 米国 21世紀に入ってからの実消費量が減少.....	123
423. チリ 生産者と輸出業者は高品質な生食用ブドウに満足.....	124
424. 米国 2023-24年度の柑橘類の生産量は6%増加.....	125
425. ブラジル 低品質と果汁の国際価格下落で加工用オレンジが安値.....	125
426. 米国 カナダとメキシコからの農産物に25%の関税.....	126
427. ウズベキスタン マイヤーレモンを日本に初出荷.....	127
428. フランス 「ノウハウ、時間、お金の不足」が若い消費者を遠ざける.....	128
429. 南アフリカ リンゴ・ナシ産業の2025年シーズンの展望.....	129
430. 中国 2024年の生食用ブドウ輸出量が史上最高を記録.....	130
431. 遺伝子編集で非褐変、貯蔵寿命延長、TR4耐性の各バナナを作出.....	131
432. 中国 米国産果実とナッツ類に10%の追加関税.....	132
433. 米国 農務長官がカリの関税引き下げで大統領を称賛.....	133
434. ブラジル オレンジ果汁の在庫が24%減少し史上最低に.....	133
435. メキシコ アボカドの関税は誰が代償を払うのか?.....	134
(関連記事)メキシコ産アボカドは1994年以来関税を支払ったことがない.....	135
436. 米国フロリダ州 オレンジの予測は上方修正するも昨季より35%少ない.....	136
(関連記事)米国フロリダ州 3月の柑橘類出荷予測がほのかな希望に.....	136
(関連記事)米国 柑橘類出荷予測 3月.....	137
437. 南アフリカ 10年間の交渉の末に生食用ブドウをフィリピンに輸出.....	138
438. 中国 裁判所がリンゴ品種育成者の権利を支持.....	139
439. 米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大.....	139
440. ニュージーランド 赤肉系キウイフルーツの課題に取り組む.....	140
441. ニュージーランド 2025年最初のキウイフルーツ専用船が出航.....	141
442. アジア域内コンテナ指数は2%下落するも前年同期比では39%の上昇.....	142
443. フィリピン パイナップル輸出額が7.5%増加.....	142
444. 米国カリフォルニア州 核果類の見通しは良好.....	143
445. 台湾 より多くのカナダ産リンゴに市場を開放.....	144
446. 米国 裁判所がスタックカートチェリーの特許を復活させる.....	144
447. イタリア ゼスプリガールビーレッドキウイフルーツの商業生産を承認.....	145
448. 中国 2024年の果実輸出入統計.....	146
449. ブルーベリーが健康的な老化を促進する可能性.....	147
450. 米国フロリダ州 フィンガーライムが柑橘類産業を助ける可能性.....	148
451. ペルー 柑橘類の輸出は競争の中で堅調に推移.....	149
452. 南アフリカ 柑橘類の輸出予測は「バランスの取れた成長と優れた品質」.....	150
453. 2024年の世界のリンゴ輸出量.....	151
454. 世界のドラゴンフルーツ市場の未来を形作る.....	152
(関連記事)ドラゴンフルーツが抗酸化物質と食物繊維で人気.....	153
455. 米国 果実とナッツ類の生産見通し(主要果実抜粋).....	154
456. 米国 柑橘類の遺伝子編集に対する消費者の反応を調査.....	159

(ご利用上の留意事項)

- 記事の出典はすべて各媒体の電子版です。
- 文中の「フォントの小さいカッコ書き」及び「フォントの小さいですます体」は訳者による注記です。
- 文中の固有名詞(人名、会社名、団体名、品種名等)の日本語表記は一般的に確定しているものを除き仮訳です。
- 翻訳記事は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品等を推奨するものではありません。
- PDF版では、目次の見出しが各記事にリンクしています。
- PDF版では、各記事のタイトル右下の出典・日付が原文記事にリンクしています。
- PDF版から原文記事、参考資料等外部へのリンクは、原文記事掲載時点のものです。

1. 米国 農産物輸出の市場アクセス拡大を推進

[FreshFruitPortal](#) 2025年4月1日

農務長官は米国産農産物輸出の市場アクセス拡大に意欲

ブルック・ロリンズ米国農務長官は、市場を拡大し米国の農産物輸出を後押しするため、任期の最初の6カ月間に6つの国際市場を訪問する予定である。

米国農務省はリリースで、「前政権が国際市場でほとんど、またはまったく行動を起こさなかったため農産物貿易の赤字が500億ドル近くになっており、米国農務省(USDA)は、世界市場を多様化し、既存の市場を強化し、既存の貿易相手国に貿易に対する責任を果たさせるよう取り組んでいる」としている。

ロリンズ農務長官は、「トランプ大統領は、我が国の農場主や牧場主を支援している。農務省は、世界中の市場アクセスを拡大することに引き続き取り組んでいる。私は、アメリカ農業の恵みを売り込み、我が国の勤勉な農業生産者の繁栄を確保するために、海外に行くつもりである。米国産品の市場をより多く獲得するためのすべての取組みが検討のテーブル上にある」と述べた。

ブルック・ロリンズ氏は今年2月、米国最高裁判所のクラレンス・トーマス陪席判事に宣誓し、第33代アメリカ農務長官に就任した。

ターゲット市場

ロリンズ農務長官は今年、ベトナム、日本、インド、ペルー、ブラジル及び英国を訪問する予定である。農務省のその他の貿易使節団は、香港、ドミニカ共和国、台湾、コートジボワール、メキシコ等を訪問する。

インド: 米国は、インドにとって6番目に大きな農産物の供給国である。米国はインドに対して13億ドルの貿易赤字を抱えている。

ブラジル: 米国はブラジルに対して70億ドルの貿易赤字を抱えている。

英国: 英国は、米国にとって14番目に大きな農産物輸出市場である。英国に輸出する際、米国の生産者は不釣り合いに高い関税と関税割当の少なさに直面している。

日本: 日本は、トウモロコシ、牛肉、豚肉、小麦、米、大豆等、多くの主要な米国産品でトップ5の市場である。しかし、米国はこれらの品目の日本市場の多くで他国との競争に直面している。

ベトナム: ベトナムは米国にとって10番目に大きな農産物輸出市場である。米国はベトナムと貿易協定を結んでいないが、中国等の主要な競争相手国は協定を結んでいる。

ペルー: ペルーは、南米において米国にとって3番目に大きな農産物輸出市場であり、米国は依然としてペルーにとって2番目に大きな農産物供給国である。米国からペルーへの主要輸出農産物は、エタノール、乳製品、肉、ナッツ類、豆類等である。

2. ブラジル オレンジ果汁の先物価格が50%下落

[FreshPlaza 2025年4月1日](#)

世界最大のオレンジ果汁輸出国であるブラジルは、オレンジ果汁価格の大幅な下落に影響を与えており、今年は先物価格が50%減少した。冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)の契約価格は、今年1月にニューヨーク取引所で1ポンド当たり5.1465ドルのピークに達し、その後2.6210ドルで取引された。さらに3月18日には2.4290ドルの安値をつけた。バロールデータ(経済情報サイト)によると、昨年、果汁価格は28.7%下落した。

この下落は、5月から始まる2025/26年度シーズンのブラジル産オレンジ収穫量の改善予想に関連している。前回の出荷量は、干ばつの影響を受け2億2,852万箱であった。ラボバンク・ブラジルの上級アナリストであるアンドレス・パディリャ氏は、予想は2億6千万箱から3億箱の範囲で、以前の水準から30%増加する可能性がある」と指摘した。米国農務省のブラジリア事務所は、さらに多い3億2千万箱と予測している。

パディリャ氏は、農務省の予測は楽観的だが可能性がある」と認めた。同氏は、栽培面積の停滞とカンキツグリーンング病の増加にもかかわらず、果樹園への生産者の投資が増加している等の要因を強調しつつ、「気温は年々上昇しており、最近は降雨量が改善しているが、3億2千万箱に達するかどうかはまだ疑わしい」と述べた。

市場の期待は、より穏やかな天候の予測と5月に予定されている柑橘類栽培保護財団(Fundecitrus)の公式の収穫量予測にかかっている。パディリャ氏は、収穫量が2億6千万箱近くであれば価格を押し上げる可能性があり、3億箱を超える場合はさらに価格が下落する可能性がある」と示唆した。

価格の下落にもかかわらず、世界的な需要は依然として抑制されている。ブラジルの主要な果汁輸出業者を代表する団体であるCitrusBRは、消費者の需要がすぐに回復しない可能性がある」と指摘した。パディリャ氏は、「先物価格の変動が実際の消費者市場に反映されるまでには時間がかかる」と述べた。

出典: Agribusiness

3. ニュージーランド 2025年はエンヴィりんご輸出の記録的なシーズンに

[FreshPlaza 2025年4月2日](#)

ギズボーン地方で収穫されたニュージーランド産のエンヴィりんごは、55カ国以上に輸出される予定である。T&G社のりんご部門の最高執行責任者(COO)であるシェーン・キングストン氏は、今シーズンのエンヴィブランドのプレミアムなりんごは、世界中の取引先から非常に期待されている」と指摘した。

キングストン氏は、「過去16年間にわたり、エンヴィブランドのりんごの生産に多額の投資を行い、ベトナム、タイ、中国、米国などの主要な世界市場でりんごのプレミアムブランドの1つに成長させてきた」と述べた。同氏は、一貫した食体験と生産者への強力な収益還元を確保するためには、統合されたサプライチェーンシステムが重要であると強調した。

天候に恵まれた今年の収穫物は、着色が良く、歯ごたえと繊細で甘い風味があり、北半球産のエンヴィから南半球産へのスムーズな供給の移行が促進される。

2025年のニュージーランドのりんご出荷シーズンについて、同社は総輸出量を440万箱相当(TCE)と予測しており、これは7万9,200トンのりんごに相当し、2022年以来最大の収穫量となる。キングストン氏は、「弊社はブランドに対する消費者の需要の高まりに対応するよう懸命に取り組んでおり、取引先は今シーズンのエンヴィりんごの数量の増加を喜んでくれるだろう」と付け加えた。

同社は、ここ数カ月アジア全域で旧正月の売上高が好調であり、その勢いは続いていると報告している。米国では、エンヴィりんごは1回の買い物で購入される数量が2番目に多いブランドりんごにランクされ、またリピート買いの多さで3番目にランクされており、このプレミアムブランドに対する消費者の強い嗜好を示している。

出典: F+B Tech

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

4. 米国 トランプ大統領が最低10%の関税を発表

[FreshFruitPortal](#) 2025年4月2日

米国のドナルド・トランプ大統領は4月2日、自らが「解放の日」と名付けた待望のイベントで、主要な貿易相手国に大規模な相互関税を課す大統領令への署名を発表した。

トランプ氏は初めに、何十年もの間、米国は近隣諸国及び遠方の諸国から奪われ、搾取されてきたと発言し、これに対して相互関税を課す大統領令に署名すると述べた。

同大統領は、米国のすべての貿易相手国に最低限の基本関税10%を課すと発表し、追加の相互関税を課される数十の特定の国を「最悪の違反者」としてリストアップしたチャートを掲げた。

このリストは、中国に34%、欧州連合39%、ベトナム46%、台湾32%、日本24%、インド26%、スイス31%、英国10%、南アフリカ30%、バングラデシュ37%等の関税を4月5日から課すとしている。

トランプ氏は、この関税の計算は米国が支払ってきているものの半分に過ぎず、もっと高くすることもできたと述べ、自らのアプローチを「親切的な相互的」と呼んだ。

同大統領はまた、自動車と自動車部品に25%の関税を課すと発表した。

トランプ大統領は、米国はその偉大な農業生産者と牧場主の側に立っており、この課税は最終的にアメリカの黄金時代につながると述べた。

国際ニュースネットワークのCNNによると、これらの関税には、フェンタニル(違法薬物)や不法移民の米国への流入の抑制、貿易相手国との公正な競争の確保、公的歳入の増加、及び国内製造業の振興という4つの主要な目的がある。

最も注目されているのは、米国市場への主要な供給国であるメキシコ、カナダ等の主要なパートナーからの農産物貿易に影響を与える関税である。

中南米の農業部門から最も期待されていることの1つは、米国の2つの主要な貿易相手国であるメキシコとカナダの産品に対する課税の可能性である。両国からの産品に対する25%の関税の脅威は、何カ月も前から迫っており、米国の関税が実施された場合には「相互関税」をめぐる二国間会議や議論につながる。

メキシコのクラウディア・シェインバウム大統領は、対話を通じて意見の相違を解決することに注力しており、カナダのマーク・カーニー首相との間で、米国との意思疎通の維持、3カ国の経済の統合、及びメキシコ・米国・カナダ協定(USMCA)の強化の重要性について合意した。

米国は、トマト、アボカド、ピーマンをはじめとする多数の果実と野菜の供給をメキシコに大きく依存している。さらに、カナダは牛肉、豚肉、キャノーラ油の米国への主要な輸出国である。25%の関税が課せられる場合、価格上昇につながる可能性がある。

米国は食料不足のリスクにはさらされていないが、米国の食生活における主要な食品の一部は、すぐにも大きな価格圧力を受ける可能性がある。たとえば、アボカドトーストのような人気商品の価格は、メキシコ産アボカドの関税により上昇する可能性がある。その結果、米国の食品価格は季節変動の影響を受けやすくなる可能性がある。

トランプ大統領によるあらゆる発表、あるいは発表の欠如は、関係する業界と最終消費者に影響を与える特定の原材料価格の上昇をめぐる不確実性を引き起こし、国際市場に不安定性を生み出した。

ホワイトハウスのキャロライン・リービット報道官は火曜日(4月1日)、トランプ氏が関税に関して最終的に発表するものはすべて「直ちに」発効すると述べた。

トランプ大統領の「解放の日」を前に(各国の反応等)

カナダ

米国とカナダは主要な貿易相手国である。カナダは2023年に米国から50億ドル強の青果物を輸入し、青果物の総輸入額のほぼ半分を占めている。

一方、カナダ企業は40億ドル強の青果物を米国に輸出しており、カナダの青果物輸出全体の95%以上を占めている。

ヨーロッパ

トランプ氏の発表の数時間前に、欧州委員会(EUの執行機関)のウルズラ・フォンデアライエン委員長は、欧州連合はトランプ氏の関税に対応する万全の準備ができていると述べた。

同氏は、「明確にしておかなければならない。ヨーロッパがこの対立を始めたのではない。我々は必ずしも報復を望んでいるわけではないが、必要であればそれを行うための強力な計画がある」と述べた。

同氏はまた、「ヨーロッパの市民は知らなければならぬ。我々は常に自らの利益と価値を推進し、擁護し、ヨーロッパのために立ち上がる」とフランスのある都市から宣言し、トランプ氏の行動に対して「団結」を呼びかけた。

欧州連合(EU)では、アルミニウムと鉄鋼に25%の関税が課される。EUはこれに対応し、トランプ大統領の最初の任期中の2018年から2020年の間に課された関税(への対抗措置)を復活させる。この関税は、フランスワイン、スペインのオリーブオイル、イタリアのチーズ等に影響を与えた。

対象となる物品及びサービスの全リストは、関税が発効した際に開示される。

アジア

中国国営放送CCTVによると、中国、日本、韓国は差し迫った関税に共同で対応する。(原文のまま)

報じられるところによると、3カ国は、米国がすべての貿易相手国に対する大幅な関税を発表する数日前の3月30日(日)に5年ぶりに経済貿易大臣会合を行い、公正な貿易を促進し、互いの経済関係を強化することを約束した。

5. トランプ大統領の関税がカナダ、メキシコ、その他の地域に与える影響

[FreshPlaza 2025年4月3日](#)

ドナルド・トランプ大統領は昨日、米国に輸入されるすべての物品に対する新たな輸入関税を発表した。約60カ国の商品や製品は、トランプ氏が不公正な貿易政策の見返りと呼ぶ高い税率に直面している。同氏の計画では、4月5日からすべての輸入品に対して10%の基本関税が課される。一部の国には、より高い関税が4月9日から適用される。Fruit & Vegetable Facts(青果物情報サイト)の最近の分析で明らかになったとおり米国は果実と野菜の輸入に大きく依存しており、同国にとってどのような展開になるのだろうか。トマトは最大の輸入野菜で、カナダとメキシコが主な供給国である。ピーマンとキュウリが2位と3位にランクされている。生鮮果実の輸入量は、生鮮野菜の輸入量の約2倍で、バナナが最大の品目である。輸入量が多いその他の品目は、パイナップル、ブドウ、メロン、レモン、ブルーベリー、マンゴー等である。

米国・メキシコ・カナダ協定

昨日の発表は、米国の最も緊密な貿易相手国であるメキシコとカナダにとっては何も変わらない。カナダとメキシコは、米国・メキシコ・カナダ協定(USMCA)に準拠した物品(特産農産物を含む)については、追加関税の対象にならない。IFPA(国際青果物協会)のキャシー・バーンズCEOは声明で、「USMCAの対象となる青果物と花きの取引の継続を可能にする政権の決定を高く評価している。生鮮果実、野菜、花きは、北米地域内外で最も取引の多い商品の一つである。貿易障壁を減らすことで、消費者は新鮮で手頃な価格の

農産物や花きへのアクセスを引き続き確保することができ、生産者や業界を支える事業者を支援することができる」としている。しかし、IFPAは、世界の貿易相手国に対する関税の広範な適用と、その結果としてのサプライチェーン、市場の安定及び食料価格への世界的な影響について、依然として懸念を抱いている。バーンズCEOは、「青果物の世界的な取引は、すべての国の人々の健康と福祉に不可欠である。的を絞った関税の使用は、貿易相手国との間の不平等に対処するためのツールとなり得るが、この切れ味の悪いツールの広範な適用は、市場を混乱させ、消費者価格を押し上げ、サプライチェーン全体の生産者や出荷業者に不必要な負担をかけることが多い」と述べた。

輸出のための資本を提供するブルームズ社のフランシスコ・メレ氏も、メキシコから米国への輸入農産物に関する決定に満足しており、LinkedIn(ビジネス向けSNS)上の声明で、「USMCAに準拠した農産物の輸入は関税を免除するというトランプ大統領の決定を歓迎する。メキシコとカナダは、年間1千億ドルの米国の家庭需要のかんりの部分を満たす生鮮・冷凍青果物の最大の供給源である。これは、消費者の栄養と健康的な選択を満たしながら、食品のインフレを下げるための重要なステップである」と述べている。

個々の国の関税

一方、北米大陸以外の国から輸出される農産物には、最低10%の関税が課せられる。欧州連合(EU)と英国は、それぞれ20%及び10%である。中国からの商品は、既存の20%の関税に加えて34%追加され、合計の関税率は54%となる。下表に国別の関税率を示す(広く報道されているため省略)。

農産物に対する報復関税の恐れ

全米農業団体連盟(AFBF)のジッピー・デュバル会長は、世界の貿易相手国に対して課された関税についてコメントした。同氏は、「貿易は、全国の農業生産者と牧場主の成功にとって極めて重要である。我々は、国際的な貿易相手との取引の場を平等にするという政権の目標を共有するが、関税の引き上げは、ほとんどの主要作物で過去3年間に損失を計上した農業生産者の経済的持続可能性を脅かす」と言う。同氏は報復関税の脅威について、「農業収入の20%以上は輸出によるもので、生産者は肥料や特殊な機材などの重要な資機材を輸入に頼っている。関税は重要な資機材の供給コストを押し上げ、報復関税は米国の産品を世界的に高価にするだろう。この組合せは、短期的に生産者の競争力を脅かすだけでなく、市場シェアの喪失につながることで長期的な損害を引き起こす可能性がある」と言及している。

全米リンゴ協会のジム・ベア氏は、「大統領の発表では、米国産リンゴの上位5つの輸出市場がすべて対象となった」と言う。メキシコ、カナダ、台湾、ベトナム、インドは、2024年に合わせて7億5,600万ドル相当の米国産リンゴを購入した。ベア氏は「我々は今、それらの国の反応を神経質に見守り、穏便に収まることを願っている」と付け加えた。

欧州連合

米国以外の諸国でも、関税の発表に反応している。欧州連合(EU)は、これらの関税はさらなる関税の引き上げと、米国と世界全体の経済の下降スパイラルにつながるだけであると懸念している。欧州議会国際貿易委員会のベルント・ラング委員長は、「トランプ大統領の決定により、米国の消費者は貿易戦争で最も重い負担を背負わされるだろう。トランプ大統領は4月2日を『解放の日』と呼ぶかも知れないが、一般市民の視点から見れば、これは『インフレの日』だ」と述べた。EUは合法的、適正かつ均衡のとれた断固たる措置を通じて対応する計画である。同委員長は、「これらの措置の対象となっている国々は、統一戦線として対応し、この関税の狂気を終わらせるよう米国に明確なメッセージを送らなければならない」と言う。ラング氏は、米国政府がEUとの協議に関心を持つことを望んでいるが、自信はない。

オーストラリアは失望

米国はオーストラリアからの輸入品に10%の関税を課したが、ニューサウスウェールズ州農業生産者組合のザビエル・マーティン会長は、農家に冷静さを保つよう促し、「我々の業界が影響を受け、一部の品目が他の品目よりもそうなることは間違いないが、我々は以前にも貿易問題に取り組んできており、今回も同様に対処する」と述べている。米国はオーストラリアから一部の農産物を輸入しているが、オーストラリアは主に中国(39億米ドル)、日本(26億米ドル)及び韓国(25億米ドル)への果実と野菜の輸出に重点を置いている。食

肉はオーストラリアにとって最大の輸出品目であり、赤身肉諮問委員会は、オーストラリア産赤身肉に対する関税が米国の消費者に与える影響は合計6億豪ドル(3億8千万米ドル相当)と推定している。

南米

ペルー、チリ、コロンビアは、南米最大の米国向け青果物の輸出国であり、近年、この大陸のシェアは急速に拡大している。南米のほとんどの国は10%の関税を課されると見られ、これはこれらの国が毎年米国に輸出する農産物の価値を考えると莫大である。ペルーは、生食用ブドウ、ブルーベリー、アスパラガス、アボカド、柑橘類に関し、米国市場への重要な供給国である。同国は、2023年にはメキシコに次ぐ22億7,700万ドルの生鮮果実を米国に輸出した。チリは米国への果実の輸出国として第3位であり、主な輸出品目は柑橘類、ベリー類、生食用ブドウ、サクランボ、核果類、アボカド等である。

アフリカ内の明暗

柑橘類、ブドウ、核果類を米国に輸出する南アフリカは、30%の関税を課された。米国のある輸入業者はコメントを求められ、その完全な影響を判断するためには、この新しい関税の詳細についてまだ調査する必要があると述べた。一方、モロッコの輸出業者達は、特権と見なされる10%の関税を課されたことで安堵の色を見せている。柑橘類が米国へ輸出される最大の品目であるが、最近ではブルーベリー等の輸出が力強く伸びている。これまでモロッコと米国との間の貿易は自由貿易協定によっており、貿易収支は米国に有利であったことで、今回の関税が低いことが説明される。

全体として、これらの輸入関税は、パンデミック、景気後退、物流問題、投入コストの増加等の逆風に直面してきた業界に多くの不確実性を与えている。今後、より多くの情報が利用可能になり次第、お知らせする。

出典: IFPA、Fruit & Vegetable Facts、AFBF、European Parliament、NSW Farmers

執筆者：マリーカ・ヘムス

6. 米国の関税に対する世界の農業団体の反応

[FreshFruitPortal](#) 2025年4月4日

ドナルド・トランプ米大統領は4月2日、全世界からの輸入品に対して10%の関税を基本とし、一部の国にはより高い関税を課すと発表した。このニュースは、多くの貿易相手国に調整と戦略的対応を強いることとなる。ここでは、世界の有名な農業団体や生産者団体の反応の一部を紹介する。

米国 米国種子貿易協会(ASTA)は、種子セクターは関税の発表を非常に懸念しており、米国の生産者に革新的な種子を提供する上で国際貿易は重要かつ必要な役割を果たしているとの声明を発表した。

同協会のアンディ・ラヴィーニュ会長兼CEOは、「貿易相手国との関税の一層のエスカレーションは、種子生産に関連するコストを大幅に増加させることが予想され、残念ながら米国の生産者と消費者がそれを負担することになる。農業セクター全体の多くのパートナーと同様、我々種子セクターは、安定して予測可能な経済状況に依存している」と述べた。

同氏は、種子の国際的な移動は長年にわたる研究開発(R&D)活動の蓄積の基本的な構成要素であり、それによって米国の生産者が世界最高の種子と革新的農業技術にアクセスできる、また植物育種家は作物改良の迅速化、特定の環境における新品種の試験栽培、清浄で効率的な方法による種子の増殖の実践といった全てのプロセスにおいて貿易に依存していると付け加えた。

ラヴィーニュ氏は、同団体は引き続きトランプ政権に対し、貿易相手国との間で国家安全保障と食料安全保障の両方に利益をもたらす解決策に迅速に至るよう要請しているとして、「追加関税や予想される報復措置のニュースは重大な不確実性をもたらし、米国の何百万世帯ものために食料、飼料、繊維、燃料の生産に貢献している人々に悪影響を与える」と付言した。

米国農業団体連盟 (AFBF) のジッピー・デュバル会長は、追加関税や予想される報復関税は米国の農村部に打撃を与えるだろうと述べた。

同氏は、「農業生産者や牧場主は、我々の最大の貿易相手国であるカナダ、メキシコ、中国からの輸入品の関税を引き上げるという決定に懸念を抱いている。昨年、米国はこれら3カ国に830億ドル以上の農産物を輸出した」と述べ、「肥料の主原料であるカリの総供給量の約85%はカナダから輸入されている。生産者はこの3年連続して、ほぼすべての主要作物で損失を計上している。さらにコストを増やし、米国産農産物の市場を縮小させることは、一部の生産者が耐えられない経済的負担を生じさせる可能性がある」と続けた。

同団体は、米国大統領に対し、国際的なパートナーと引き続き協力し、意見の相違を解消する方法を見つけるよう促した。

2万以上のリンゴ生産者、業界団体、加工業者、販売事業者及び出荷業者で構成される米国のリンゴ業界最大の代表組織である全米リンゴ協会 (USApple) は、同協会は貿易が米国のリンゴ産業の将来にとって重要であると考えていると表明した。これは、1週間前の同協会の議会デー (首都でのロビー活動の日) で14の州から参加した90人のリンゴ生産者、梱包業者、出荷業者が、100回以上の会議を通じて上下両院の関係者に伝えたメッセージである。

同団体は、貿易相手国に責任を負わせるという選択を支持するものではなく、一方、米国の関税は、過去にインドで見られたように、主要な輸出市場へのアクセスを制限し、全国のリンゴ生産者に害を及ぼす報復措置を呼び起こす可能性があると付け加えた。

全米リンゴ協会のジム・ブレア会長兼CEOは、「大統領の関税の発表では、米国産リンゴの上位5つの輸出市場がすべて対象となった。メキシコ、カナダ、台湾、ベトナム、インドは2024年に、合わせて7億5,600万ドル相当の米国産リンゴを購入した。米国産リンゴの理想的な市場になり得る国々が、非関税貿易障壁によって我々を締め出している。だからこそ、当協会はいま機能している米国・メキシコ・カナダ協定を強く支持している。これらの国々は依然として我々の最大の輸出先である」と述べた。

欧州連合 (EU) 欧州議会国際貿易委員会のベルント・ランゲ委員長は、トランプ大統領の「解放記念日」は一般市民の視点から見れば「インフレの日」と呼ぶべきだと述べ、EUは合法的、適正かつ均衡のとれた断固たる措置を通じて対応すると付け加えた。

ランゲ氏はさらに、「これらの不当で違法で不均衡な措置は、さらなる関税の引き上げと、米国と世界経済全体の下降スパイラルにつながるだけだ」として、「この決定のために、米国の消費者は貿易戦争で最も重い負担を背負わされることになる。これらの関税は、加工・製造業をより非効率的にするだけである。また投資環境に有害な不確実性をもたらしており、株式市場の反応はこれまでになく明確だ」と述べた。

同氏は、欧州連合は、使用できる手段のうち、どれが最も適しているかを検討すると述べ、引き下がる考えはないと付け加えた。同氏はまた、EUのドアは常に解決策を見つけるために開かれており、トランプ政権がEUとの協議に純粋に関心があることを望んでいるものの自信はないとしつつ、「我々は自らの主権を擁護し、たとえそれが米国の一部の億万長者を不快にさせるとしても、EU市民の利益のために我々が民主的に作り上げた法律を変えるつもりはない。これらの措置の標的となっている国々は、統一戦線で対応し、この関税の狂気を終わらせるよう米国に明確なメッセージを送らなければならない」と述べた。

スペインの農業団体であるバレンシア州農民協会 (AVA-ASAJA) は、米国政府がEU産農産物に20%の関税を課すことは、「競争力の喪失と食料価格の上昇につながるため、バレンシア州にとっても米国にとっても良いニュースではない」と警告する。

同団体は、スペイン政府とEUに対し、「ロシアの禁輸措置やトランプ前政権時代に課された関税の時のように見捨てるのではなく、影響を受けたセクターに適切に補償を行う」よう求めている。

また、EUとスペインの指導者に対し相互主義を提唱している。AVA-ASAJAのクリストバル・アグアド会長

は、「輸入される米国産農産物に同じ関税を課し、増えた歳入に影響を受けたセクターの補償にあてる以外に、我々のリーダーの対応を理解することはできない」と述べた。

この組織は、「市場にあふれて農場出荷価格を押し下げている」アーモンドとクルミを重視している。

バレンシア州の農業についてアグアド会長は、「クレメンタインの出荷が締め出されるまで、米国市場は非常に魅力的であった。それ以降は、ワイン、食用油、野菜の販売が目立つようになったEU市場に比べて、はるかに小さな輸出先となった」と付言する。

同会長は、それでもEU以外の何百万人もの消費者を抱える国際市場で競争力を失うことは前向きな展開ではなく、また従来米国に送られていた他国の産品がバレンシア州産の競争相手になれば、バレンシア州の農業部門は間接的な損失を被る可能性がある」と述べた。

チリ チリ果実生産者連盟 (Fedefruta) は、10%の関税はチリの生産者と労働者の双方にとって有害であるとしている。

同連盟のビクトル・カタン会長は、「米国は、チリの果実に関税を課す必要はない。特に、1937年にまで遡り国内の生産者を保護するために通常使用される『マーケティングオーダー』と呼ばれる仕組みなど、他の手段が存在している場合にはなおさらそうだと述べた。

全米農業協会 (SNA) のアントニオ・ウォーカー会長は、現在チリに影響を与えている米国の関税政策は遺憾であるとして、「これは二国間貿易関係の後退であり、農産物輸出部門への影響を分析している。一見したところ、影響を受ける品目は、サクランボ、ブルーベリー、リンゴ、ナシ、生食用ブドウなどの生鮮果実やワインであり、これらはすべて、その品質、食品安全、国際的規制の厳格な遵守により、米国市場で強い存在感を示しているものである」と述べた。

ウォーカー氏は、チリへの関税の賦課は不確実性を生み出し、「他国の産品と比較して、我が国の産品の競争力に影響を与える可能性があるだけでなく、米国の消費者にとって持続可能な方法で生産された安全で健康的な食品へのアクセスがより高価なものになる可能性がある」と付け加えた。

同会長はさらに、「チリは、長期的な協定と明確なルールに基づく開かれた貿易政策によってその発展を築いてきた。そのため、米国との二国間条約で定められた原産地規則に準拠した輸出品にこれらの貿易障壁を適用することは理解不能だ」と述べた。

ペルー ペルー農業生産者組合協会 (AGAP) のガブリエル・アマロ会長は本サイト (Freshfruitportal.com) に対し、トランプ大統領が発表したリストには、「南半球にあり、季節的に逆転する作物を複数有する」国がほぼすべて含まれていると語った。

同氏は「我が国の全農産物輸出の少なくとも35%は米国向けで、かなりの割合を占めており、今後はすべての輸出品が10%高いコストで参入することになる」と述べ、「これは、消費者向け最終価格の上昇により、消費者の行動と市場に明らかに影響を与えるだろう。もし市場と消費が悪影響を受ければ、必然的に生産にも影響が出る」と説明した。

同会長は、まだ状況を分析しているとしつつ、「我々はこれらのリスクに対抗するための対策を講じる必要があり、それは今や現実のものとなっている。我々は長年にわたり、グローバル市場へのアクセスを拡大する計画に基づいて取り組んできた」と述べた。

同氏は、ペルー産品のアジア市場での取り組みを加速していると付け加え、コストと輸送時間を削減しアジア大陸との距離を縮めるのに役立つチャンカイ港などのインフラ整備の取り組みを強調した。

どの果実が最も影響を受けるかについて同氏は、生食用ブドウ、アボカド、ブルーベリーを挙げた。

エクアドル エクアドル・バナナ販売輸出協会 (ACORBANEC) のリチャード・サラザール事務局長は、エクアドルはこれまで関税率0%の恩恵を受けていたと Freshfruitportal.com に語った。

同氏は「発表に従い、コスタリカ、コロンビア、グアテマラ、ドミニカ共和国、ペルーなど他のバナナ生産・輸出国と同様に、我々が10%の関税を支払うことになるのは明らかだ。これにより、各国は対等な立場に立つが、メキシコとカナダはリストに含まれていない。メキシコはバナナの生産国であり輸出国でもある」と述べた。

同氏は、他の国よりも状況が悪くなっていた可能性がある」と指摘し、「しかし、この措置は間違いなくインフレと価格の上昇につながるため、我々が今から直面する影響は消費者の反応次第だろう」と述べ、新しい関税にもかかわらず、消費者のバナナ購入量が変わらないことへの期待を表明した。

一方、エクアドル・バナナ輸出業者協会(AEBE)のホセ・アントニオ・イダルゴ・モリーナ事務局長は、米国の措置は「世界的に大きな影響を与えるが、主要な競争相手と比較してエクアドル産バナナの競争力を特に損なうものではない」と述べ、米国へのバナナ供給国はすべて「同等の関税条件の下にある」と指摘した。

同氏は、「他方、まだこの措置の公式で詳細な発表を待っている段階だ」という認識が重要だ。その発表により、バナナだけでなく他の農産物に対する最終的な実施内容も決定されることになる」と付け加えた。

この点に関して同氏は、「我々は、引き続き当局及び他の貿易団体と連携し、エクアドルの輸出の安定性と競争力を維持するために必要な技術的及び政治的な監視に取り組む」と再確認した。

コロンビア アグロベンチャーキャピタル社(農業投資会社)の統括マネージャーであるミラー・プレシアド氏は、マクロ経済の観点から状況を分析した。同氏は Freshfruitportal.com に対し、「コロンビアは、この件に関してうまくいった。なぜなら、世界の農業の状況から見ると、我々は10%の相互関税しか課されないため、有利な立場に置かれているからだ」と語った。

同氏は、主要なコーヒー生産国であるベトナムなどは、コロンビアと比べてはるかに高い関税を課されており、「これにより、我が国のコーヒー部門は市場に到達するための絶好の立場に置かれた」と付け加えた。

プレシアド氏は、主要な花き生産者であり輸出者である欧州連合に課せられた関税が「我々を良い立場に置く」ため、コロンビアの花き産業も恩恵を受ける可能性がある」と述べた。

ブルーベリー産業については、「チリ、ペルー、コロンビアなどのブルーベリー生産国を見ると、我が国は10%の関税という同じ条件下にある」と指摘した。

同氏は、ベリー部門では、チリやペルーと比較して、コロンビアには「活用すべき物流上の大きな利点」があることを強調し、「我々は米国市場に近く、カナダ市場にも近い。それが我々のベリーに興味深いチャンスを提供している」と述べた。

この文脈で、同氏は「コスト、生産能力、最適化において非常に効率的である必要がある。これは我々を不利な立場に置くものではない」と述べた。

同氏は、コロンビアの農業は総合的に見て「落胆に直面することはない。それどころか、一部のセクターは大いに優遇されている」と言い、最終的に「コストへの影響はあるものの、少なくとも我々の視点と分析からは、必ずしも落胆につながるものではない」と結論付けた。

7. トルコ 米国・カナダ間の高関税はサクランボ輸出のチャンスになる可能性

[FreshPlaza 2025年4月4日](#)

トルコから米国への果実や野菜の輸出はあまりないため、トランプ大統領が課した関税は大きな影響を与えないと見られる。しかし、アラナール社のイギット・ギョキギット氏は、カナダが米国からの輸入への依存度を減らしたくなる現在の政治情勢が、カナダへの輸出のチャンスにつながる可能性があると考えている。(以下「」は同氏の話)

「大部分の果実と野菜に関して輸出に必要な議定書が整備されていないため、トルコから米国に輸出できる生鮮果実は非常に限られている。一方、カナダは何十年にもわたってトルコの生鮮果実輸出業者にとって北米の主要市場であった。ザクロ、イチジク、柑橘類、ブドウ、アンズ、さらにサクランボ等のトルコ産の果実や野菜は、それらの旬の時期にカナダのスーパーマーケットで見つけることができる。しかし、特にパンデミック以降、物流コストの増加がトルコの輸出業者にとって最大の課題となった。パンデミック以降、米国やメキシコなど、カナダへの地理的な近さによって物流コストが低い国と競争しなければならない。」

ギョキギット氏は特に、カナダへのサクランボの輸出が大幅に増加する可能性があると考えている。「カナダと米国との間の関税引き上げは、トルコの生産者と輸出業者にとって好機になるかもしれない。カナダは重要なサクランボ消費国であると同時に、主にブリティッシュコロンビア州で栽培される自国産のサクランボを輸出している。カナダは毎年3万トン以上のサクランボを輸入しており、その約95%は米国から来ている。最近カナダと米国の間で引き上げられた関税は、生鮮果実や野菜の貿易にも影響を与えると思う。トルコは、風味の豊かな洗練されたサクランボを栽培しており、特にヨーロッパ市場で非常に需要がある。ジラート900 (Z-900) はトルコ特有の品種であり、レジーナはそのしっかりとした果皮と貯蔵寿命の長さでよく知られている成長中の品種である。トルコは、高い物流コストの不利益を、最近課された関税で相殺できると思う。」

執筆者: ニック・ピーターズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

8. 世界のブドウ市場(要約部分抜粋)

[FreshPlaza 2025年4月4日](#)

世界のブドウ市場では、季節の移り変わりや輸出動向の変化により、様々な動きが見られる。北米では、メキシコ産の収穫がチリの輸入とうまく一致している。一方、オランダではインド産が少なく、前年よりもゆっくと入荷している。

イタリアでは輸入ブドウによる周年供給を続けており、5月中旬から国内産の出荷が開始される見込みである。スペインでは、需要が10~15%増加し、5月上旬に一時的な品薄が予想される。ドイツでは南アフリカが主要な供給国であり、安定的な需要が報告されている。フランスでは、依然として南アフリカ産のブドウが大半を占めているが、高い輸送コストのために価格がわずかに上がっている。

世界的な競争が激化している中、南アフリカは高い品質で好調の内に出荷シーズンを終えた。エジプトは、輸出用プレミアム品種に焦点を当てながら早期の収穫に向けて準備している。ペルーは生食用ブドウ輸出量の記録的なシーズンを迎えるが、一部の市場では価格が軟調であると報告されている。

チリは、果実の品質が高いにもかかわらず、供給過剰による収益の減少に直面している。ブラジルでは雨と労働力不足によって収穫が中断され、輸出の可能性が制限されている。

インドの通常より短い出荷シーズンは順調に進んでおり、旺盛な需要に牽引されて価格が高騰している。中国では、清明節に先駆けて輸入ブドウが増加し、チリ産のオータムクリスプ品種が主導している。

9. 米国カリフォルニア州 サクランボの出荷シーズン開始は少し遅い予想

[FreshPlaza 2025年4月7日](#)

カリフォルニア州の早生のサクランボの状態は、今シーズンは収穫量が少ないことを示している。J&M農場兼デルタ梱包会社のジョー・カタルド氏は、「これまでの早生品種の着果量は平均より少ない。この数年はかなりの豊作が続いたが、今年は開花期の天候も不安定で、雨や強風もあれば高温の日もあり、早生品種の着果を妨げた」と言う。(以下「」は同氏の話)

現在、そのあとの品種が満開を過ぎたところで、今年は果粒が大きく高品質になると予想されている。

また、出荷シーズンの開始が1週間程度遅れると見られるが、5月5日から6月10日までの出荷量は販売促進が可能なほどまで増えると予想されている。同氏は、「一部の地域では平年並みに近いものの、(全体的に)遅れが発生している」と言い、収穫の後半には追いつく可能性があると付け加えた。

同氏はまた、太平洋岸北西部からのサクランボの出荷との重複は最小限であると予想している。「切れ目のない移行になると思う。価格が公正で、小売業者がマーケティング担当者や梱包会社と協力できる限り、過去数年間のように生産者が苦しむことはないだろう。」

価格を上げる必要 ここ数年、サクランボの市場価格が非常に低くなっている。「収量が少なめで、収穫費用が上昇し、様々な市場状況に対処することになる今年のような年に、カリフォルニア州の出荷の終盤で価格が上がらなければ大変なことになる。」同氏は、カリフォルニア州の価格が下がると太平洋岸北西部の価格に影響を与える可能性があると付け加えた。

需要については、シーズン当初から好調と予想されているが、カリフォルニア州産のシーズンが進み、青果物売り場での競争が激化する夏になると、需要が軟化することがよくある。「小売業者が適切なタイミングで適切な販促活動を実施し、それが誰にとっても公平であれば、多くの需要があるはずだ。」

同氏は、課題の1つはカリフォルニア州の品種であると指摘している。同州には、消費者が良く知らない新しい早生品種のサクランボが多い。「そのため、消費者がサクランボを購入したが、それが好みに合わず、その品種が何であるかよく知らない場合、翌週にもう1袋買うことはないかも知れない。繰り返しの購入が必要だ。我々の最高のサクランボは、何年もの間支配的な品種となっている晩生のビング品種だと思っている。購入者達が早生品種を好まない場合、我々が最も顧客を必要とするメモリアルデー(戦没将兵追悼記念日。5月の最終月曜日)の後のビング品種の時期に彼らは戻ってこないかも知れない。ビングは最高のサクランボだが、価格は最も低い。」

執筆者: アストリッド・ファン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

10. ブラジル・サンパウロ州 日本とチリへのアボカド輸出を開始

[FreshPlaza 2025年4月7日](#)

ブラジル最大のアボカド生産州であるサンパウロ州は、高価値市場をターゲットに、チリと日本への輸出を開始した。これは、輸入基準への準拠を評価した2023年からの植物検疫上の査察の結果を受けたものである。チリは、一人当たりのアボカド消費量が世界第2位であり、注目すべきチャンスを提供している。

ジャグアリ社の生産者兼ディレクターであるリジア・カルヴァーリョ氏は、「チリの1人当たりの消費量は年間約8kgで、増加を続けている。今年は試験的な輸出だが、今後の大きな成長を期待している」と話す。

サンパウロ州農業・供給省のギリエルメ・ピアイ長官は、これらの貿易の開始が同州の果実セクターの競争力を高めると指摘した。同長官は、国際的な植物検疫基準を満たすサンパウロ州の能力と、それが地元の農業へのさらなる投資を引き付けていることを強調した。

生鮮果実の主要輸入国である日本への輸出は、航空輸送などの物流上の課題に加え、厳しい品質・安全基準など、難しさを伴うチャンスを提供している。

IEA-Apta(農業経済研究所及び州立農業技術研究所)のデータによると、サンパウロ州の2024年のアボカド生産量は22万3千トンを超え、主な産地はオウリーニョス、モギミリム、サンジョアンダボアビスタの各地域にある。国内需要は拡大しているものの、ブラジルの消費量は世界の平均を下回っている。カリフォルニア州原産のハスアボカドは、その栄養価と調理の多様性で人気を集めている。

サンパウロ州農牧保護局(CDA)は、輸出適性を確保するための認証を監督している。これには、病害虫防除の基準適合を確認するための技術的検査が含まれる。

出典: DatamarNews

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

11. インド マンゴー1,000トンを日本に輸出する計画

[FreshPlaza 2025年4月7日](#)

農産・加工食品輸出振興局(APEDA)とマルダ県庁(西ベンガル州)は、マルダ産のマンゴー1千トンを日本に輸出する計画を開始した。マルダで開催された会議には、生産者、輸出業者のほか、行政からサンディーブ・サハ(ジャンムー・カシミール州担当)、シェイク・モンダル(西ベンガル州コルカタ支部)の両氏、デバフティ・インドラ地区統括官補、サマンタ・ライェク園芸局次長及びインド農業研究評議会中央亜熱帯園芸研究所(ICAR-CISH)から科学者のディーパク・ナヤク氏等の関係者が参加した。

サンディーブ・サハ氏は「今シーズンは、他の国への輸出とは別に、日本にも焦点を当てている。ウッタルプラデーシュ州で蒸熱処理(VHT)を行って国際基準の遵守を確保した上で、約1千トンのマンゴーを日本に輸出する目標を掲げている」と述べた。

独自のマンゴー品種で知られるマルダ地域は、日本市場への参入を目指している。APEDAと地方当局は、品質基準の維持と日本の規制を遵守するための研修の実施を計画している。マルダ・マンゴー商協会のウザル・サハ会長は、「日本以外にも、イタリア、ベルギー、ドイツ、その他の国々から問い合わせがある。また、輸出に必要な証明書の迅速な入手について管轄当局と協議している」と話す。

この取組みは、マルダ地域のマンゴー輸出の評価を高め、世界の果実市場でのインドの存在感を強化する可能性がある。

出典: Millinium Post

12. エジプト 果汁工場の台頭で生鮮果実の梱包が停止

[FreshPlaza](#) 2025年4月7日

エジプトのほとんどの梱包施設が柑橘類の包装を一時停止することを決定

エジプトの柑橘業界は今シーズン大きな変化に直面しており、最近ではほとんどの梱包施設で生鮮柑橘類の包装作業が完全に停止する事態に至っている。TCフルーツ社のワリド・ハッサン氏がこの状況について報告する。(以下「」は同氏の話)

振り返ってみると、エジプトでのオレンジ果汁濃縮工場の台頭は、オレンジの調達をめぐる激しい競争を引き起こし、生鮮柑橘類を輸出する梱包業者が入手できる供給量が制限されている。ハッサン氏は、梱包業者はもはや対応することができなくなったと言う。「イード休暇(今年は3月29日～4月1日)の後に仕事が再開されて以来、生産者は過度に高い価格を要求している。梱包業者の大多数はこれらの価格を受け入れることができず、柑橘類の事業を一時停止することを決定した。」

「柑橘類濃縮工場は、魅力的な価格と、全額前払い等のより良い支払い条件を提示しており、大量の果実を引き取ることができる。今日、生産者は原料としてのバレンシアオレンジとレモンに20エジプトポンド/kg以上を求めているが、輸出業者にとってこれはもはや利益を生む価格ではない。ワックス処理、選別、格付け、梱包が必要で、しかも原料果実は輸出に適さないものが多いことを念頭に置くと、市場はこれらの価格を受け入れることができない。」

これらの混乱は、エジプトのオレンジ出荷シーズンの終盤を混乱させている。「ほとんどの梱包業者は、現在、もうすぐ出荷シーズンが始まるブドウなどの他の果実に目を向けている。自社でオレンジを生産している輸出業者は、引き続き柑橘類の事業に供給することができる。」

「これは、業界における継続的な変化の始まりである。エジプトでは、生鮮柑橘類の輸出を犠牲にして、加工用柑橘にシフトしている。主要な輸出業者は、既に自社の柑橘類濃縮工場を立ち上げたか、その過程にある。」

ハッサン氏によると、この変化は、生産者にとって不利益であった生鮮柑橘類輸出業界の慣行を排除するものである。「生産者達は、小玉のオレンジの価格を下げようとせず、法外な支払い条件を適用しない濃縮工場と取引することを好んでいる。さらに、加工することによって柑橘類の貯蔵寿命が大幅に長くなり、大企業と小規模農家の両方にとって優れた解決策となる。我々は業界の根本的な変化を目の当たりにしている。」

執筆者: ユーネス・ベンサイド

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

13. アジアのブドウ市場の動向

FreshPlaza 2025年4月8日

世界のブドウ市場は大きな変革期を迎えている。アジア、南米、米国では、輸出業者、小売業者、生産者は、消費者トレンドの変化、競争の激化及び物流のボトルネックによって形作られた新たな現実と直面している。これらの地域のブドウ市場は現在、どのような状況にあり、どこに向かっているのだろうか。

世界的な競争が激化 消費の観点から見ると、コロナ禍後の経済の軟調が続く中、アジアの需要は全般的に減少している。インターナショナルプロデュースグループ (IPG) 社(本社米国)のダルトン・ドボリス氏は、「消費者の可処分所得は減少しているが、彼らの期待はかつてないほど高まっている。スーパーの買い物客は今、4〜6の異なる国から同時に出荷された生食用ブドウ、サクランボ、リンゴやその他の果実でいっぱいの売り場を眺めている」と話す(以下「」は同氏の話)。記録的な出荷量のチリのサクランボは、非常に低価格でアジアに殺到し、ブドウの需要に大きな影響を与えた。香港などの主要市場では、ブルーベリーの人気が急上昇し、健康上の利点と利便性に対する認識によって、ブドウの直接の競争相手となった。

「最近アジアを訪れた際、卸売市場では、ペルー、チリ、南アフリカ、オーストラリア、インド、中国からのブドウ、さらには中国産の偽装オーストラリア産ブドウまでが同時に扱われていた。」非常に多くの選択肢が手に入るようになったため、競争と消費者の基準は急激に上昇している。以前とは異なり、アジア市場は現在、サイズや一般的な外観よりも味と茎の鮮度を重視している。「ペルー産のブドウは、その印象的な大きさにもかかわらず、茎が乾燥しているために苦戦していた。一方、オーストラリア産のブドウは、少し小さいながらも新鮮で、市場の好みを捉えていた。」

興味深いことに、これらの課題にもかかわらず、一部のアジア諸国ではブドウの消費量と購入量が毎年増加し続けており、これは特にペルーとチリのブドウシーズンと一致する11月から4月にかけて顕著である。しかし同時に、これらの国の生産者の収益は前年比で減少している。この矛盾は、主にこの期間の世界的な供給過剰に起因している。複数の産地からの大量のブドウが、需要が吸収できるよりも早く市場に殺到するため、価格に大きな下押し圧力がかかる。生産者が収益性を維持するためには、植え付けの決定を慎重に管理し、市場を戦略的に配分する必要がある。

アジアの新たな現実：価格、味、鮮度 アジア全域の小売段階では、ブドウはブランドパッケージや原産国ラベルなしにバラ売りされることが多い。これは、ブドウが主に鮮度、味、サイズ、価格に基づいて競争していることを意味する。アジアの消費者は、圧倒的に緑色で種無しのプレミアム品種、特にオータムクリスプ®とスイートグローブ™を好む。赤と黒の種無しプレミアム品種の需要は年々減少し続けているが、スイートセレブレーション、ルビーラッシュ、及び様々なキャンディ系やマスカット系の品種等の高品質な特産ブドウのニッチ市場は残っている。

人気のある米国産のキャンディ系の品種でさえ、深刻な供給過剰のために価格の下押し圧力と直面している。「アジアを旅行している間、販売されているブドウの約90%が緑の種無しであり、そのシェアのうち85%がスイートグローブとオータムクリスプであった。しかし、品質は生産者や地域によって大きく異なっている。」

ドボリス氏は、今後アジアでは最高品質のブドウだけが生き残り、繁栄すると固く信じている。「平凡な果実や平均的な果実が生き残る余地はない。」アジア市場は現在、最高級のプレミアム品質のブドウのみを選択的に購入しており、この傾向は既に米国産、ペルー産、チリ産のブドウにはっきりと表れている。市場での価格差は驚異的である - プレミアム品質の緑色ブドウと平凡な、または平均以下のブドウの場合、その差は簡単に1箱当たり20ドルに達する可能性がある。アジアは今や極めて選択的になれるだけの余裕があるため、最高品質の果実だけが成長の機会を確保できると見られる。

ペルーはオーストラリアとの激しい競争に直面 ペルーは依然としてアジアへの主要なブドウ輸出国であるが、特に旧正月 (CNY) の後の時期のオーストラリアとの競争はますます厳しくなっている。オーストラリア産のブドウは、輸送時間が短く、より新鮮なより良い状態で到着するという恩恵を大いに受けている。「東南アジアでは、パックされた日付が12月と1月のペルー産ブドウの隣に、3月にパックされたオーストラリア産のブド

ウが並んでいた。」

消費者は茎を食べる訳ではないが、その鮮度は市場性の重要な指標となっている。以前は、ペルー産のブドウは、茎がわずかに乾燥していても大きな問題なく市場に参入することができたが、今日では、より迅速な輸送時間と航空貨物による輸送能力を活用するオーストラリアや南アフリカとの競争により、大きな差を付けられている。物流を改善し、主要なアジア市場への航空貨物によるアクセス - 現在は植物検疫プロトコルによって制限されている - を確保することは、ペルーが市場シェアを維持する上で重要である。

米国産のブドウは中国との競争の激化に直面 中国は最大の競争相手として急速に浮上し、ブドウの生産、品質、物流、市場の支配において世界的な大国へと変貌を遂げている。「中国のブドウの品質は劇的に向上しており、クリムゾン、ロングクリムゾン、レッドグローブ、メロディ™、スイートサファイア™、アドラ®などの品種は、一貫してしっかりした茎、鮮やかな色、並外れた新鮮さで着荷する。」中国産のブドウは米国産よりも30～40%安く、競争をさらに激化させている。さらに、中国は現在、レッドグローブを年に2回収穫しており、オフシーズンのない年間を通じて一貫したブドウの供給国となっている。

中国はかつて米国と南米諸国のブドウの主要な顧客であったが、今日では最も手強い競争相手になりつつある。「カリフォルニア州のブドウのシーズン中、中国は主に赤い種無しブドウで挑戦してくるが、次第にプレミアムな緑色品種や権利関係の有る品種を植えることが多くなっている。」

長くて信頼性に欠ける輸送時間 フィリピン、インドネシア、マレーシア、ベトナムなどの極東市場は、ブドウの品質に関して特に厳しく、茎の新鮮さと完璧な外観が求められる。一方、米国のブドウ価格は人件費の高騰により上昇を続けており、皮肉なことに米国からの海上輸送の所要時間は劇的に悪化している。アジアの小売業者は、着荷時の品質劣化のために、海上輸送される米国産ブドウの購入を躊躇している。

「IPGでは、物流上の課題により、輸出戦略が劇的に変化した。以前は、ブドウの90%近くが海上輸送で出荷されていたが、海上輸送時間がますますかかり信頼性が低下したため、現在では半分以上が空輸で出荷されている。航空貨物は全体の量が制限され、コストが増大するが、ますます選択が厳しくなるアジアの市場でプレミアム価格を正当化するのに十分な鮮度でのブドウの着荷を保証してくれる。残念ながら、航空貨物のコストが高いため、輸送できる総量は限られている。しかし、米国産ブドウのプレミアムな品質と評判を保護するためには、このアプローチが不可欠である。「我々は、常に最適な状態で果実を提供することで、生産者の評判と市場での適性を維持することに取り組んでいる。米国からの海上物流が大幅に改善されるまでは、航空貨物を戦略的に活用することで、生産者の収益を保護し、中国のより迅速で費用対効果の高い供給に対する競争力を維持することができる。」

将来の成長に向けた市場の多様化 アジアから南米、北米まで、ブドウ産業は重要な転換点に立っている。「ブドウの未来は、スピード、ブドウの状態、適応力にかかっている。ペルー、チリ、米国の生産者達は、市場を多様化する必要がある。IPGでは、市場機会を拡大し、生産者がこの困難な状況を乗り越えられるよう支援することに引き続き取り組んでいる。弊社は、利用可能なあらゆる市場機会を積極的に探究し、引き続き生産者の果実の多様性と収益を最大限に提供している。我々は、今後何世代にもわたりブドウ業界の繁栄と持続可能性を支えるため、すべての生産者に最大限の成功を確保することに尽力していく。」

米国の生産者にとっての楽観的見通し 「アジア中の取引先と話をした結果、関税や貿易戦争の潜在的な課題をうまく乗り越えることができさえすれば、これからの米国のブドウシーズンについて非常に楽観的な見方が広がっている。私は、生産者の皆様に、プレミアムな緑色種無し品種への取り組みを維持し、差別化されたブランド戦略と革新的なパッケージへの投資を続け、ブドウの貯蔵性を高めるポストハーベスト技術を採用することを強く推奨する。たとえ物流が依然として困難であっても、思慮深く提供された優れた品質のブドウは、常に熱心な市場を見出すことができるだろう。我々は、積極的に適応し、これらの重要な世界市場でのプレゼンスを自信をもって守り、拡大し続けるべきである。」

執筆者： マリーカ・ヘムス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

14. メキシコ 2025年のアボカド生産量と輸出量は増加を予測

[FreshFruitPortal](#) 2025年4月8日

(訳注: 元の英文記事では重さはショートトン、面積はエーカーで表記されていますが、翻訳では引用されている米国農務省の年次報告書に従いメートル法のトン及びヘクタールで表記しています。)

最近公表された米国農務省の[年次報告書](#)によると、2025年のメキシコのアボカドの生産量は、2024年の推定267万トンに比べて3%増となる275万トンと予測されている。この増加は、良好な生育条件、農法の改善、及び旺盛な輸出需要に起因している。

アボカドの栽培面積は2025年も比較的安定しており、約25万6,500ヘクタールと予想されている。生産者達は、これはミチョアカン州における新たな「森林非破壊認証プログラム」と土地利用規制の厳格化により、新植が制限されているためであると報告している。メキシコの農業食品水産情報サービス(SIAP)のデータによると、2024年のアボカドの栽培面積は、2023年に比べ1%減の約25万6,200ヘクタールであった。

ミチョアカン州はメキシコ最大のアボカド生産州で、全国の生産量の68%を占めており、次いでハリスコ州が12%、メキシコ州が5%となっている。ミチョアカン州では、好ましくない天候条件と、森林伐採地にある果樹園への罰金等の執行措置の強化により、2024年には生産量が1%減少した。

一方、ハリスコ州の生産量は、輸出需要と十分な水資源により5%増加した。ミチョアカン州とハリスコ州だけが米国への輸出資格を有するが、他の州も国際市場に輸出しながら、国内市場にも供給している。

貿易

米国のトランプ政権が最近発表した、米国のすべての貿易相手国に対する10%の基本関税の設定により、農産物業界に広範な懸念が広がっている。ただし、アボカドは、T-MEC(メキシコ・米国・カナダ協定)の原産地規則に準拠している限り、0%の関税が維持される。

米国農務省によると、メキシコのアボカド輸出量は2025年に134万トンに達すると予測されており、これ(T-MECによるゼロ関税)は特に重要になる。この輸出量が実現すれば、主に米国からの国際需要の増加に対応した前年比5%の増加となる。2024年の推定輸出量は約128万トンで、主に物流コストの上昇と収穫量の変動により、2023年から9%減少した。

2024年の米国向け輸出量は約107万トンで、前年比5%の減少となった。メキシコのアボカド輸出量のうち、米国市場向けは80%以上を占めており、次いでカナダが7%、日本が3%であった。

アボカドは一年中輸出されるが、最盛期は12月から2月で輸出の35%以上を占め、スーパーボウル(毎年2月上旬の日曜日)はメキシコ産アボカドの米国向け輸出需要の重要な推進力となっている。メキシコは2024年の米国の全アボカド輸入量の約88%を供給した。

輸出市場では、その味、食感、さらに日持ちの良さから、一般的にハスアボカドが他の品種よりも好まれる。2024年のメキシコの農産物輸出の中でアボカドはビールとテキィラに次いで3位に位置し、ベリー類とトマトを上回った。

2024年7月以降、米国農務省は、米国向け輸出のためのアボカド果樹園の認証に関する監督方法を改訂した。この変更により、米国農務省は第3者機関の認証に当たってすべての果樹園の現場に立ち会うのではなく、日々の果樹園の活動をリモートで監視し、必要に応じて監査を実施できるようになった。

15. ペルー ハスアボカドの業界団体は品質と販促への取組みを再確認

[FreshFruitPortal](#) 2025年4月8日

ペルーのハスアボカド生産者輸出業者協会(ProHass)は、米国の10%の基本関税の発表を受けて声明を発表した。同協会は、戦略的提携とマーケティングへの投資を通じて世界的なプレゼンスを強化することによるハスアボカドの販売促進の取組みを再確認した。LinkedIn(ビジネス向けSNS)のアカウントで公開された

声明で同協会は、その主要な取り組みの1つを、ヨーロッパでのアボカドの販促を担当する世界アボカド機構(WAO)と、米国でアボカドの消費を促進するペルー・アボカド委員会(PAC)を通じて行うと説明した。

世界におけるペルー産ハスアボカド ペルーは、7万7千ヘクタール以上でハスアボカドを栽培し、すでに世界第2位の生産・輸出国としての地位を固めている。輸出市場としては欧州が57%で、次いで米国(17%)、チリ(10%)、中国(7%)が続き、その他の市場が全体の9%を占めている。3年間の悪天候の後、2025年シーズンの予測は楽観的で、37%の成長が見込まれている。特に、昨年は2023年と比較して10%減少し、同年には2022年と比較して1%しか成長しなかったことを考えると、これは大幅な回復を意味している。

輸出の増加に加え、ペルーにおけるハスアボカドの国内消費量は着実に増加している。より多くのペルー人が、その高い栄養価と郷土料理の中での利用方法の多様性に魅かれて、この果実を食事に取り入れている。この傾向をさらに促進するために、ProHassは、ハスアボカドの栄養上の利点と調理方法の多様性を強調する全国キャンペーンを開始する。

このセクターの成長に照らして、ProHassは、生産・輸出体制全体での戦略的かつ協調的な計画を呼び掛けた。この文脈では、製品の品質を最適化することが不可欠である。同協会は、すべての生産者と輸出業者に対し、必要な品質基準(例えば果実の十分な熟成、風味、及び消費者による受け入れを確保するため乾物含有率は最低22%が必須であること等)への適合を確認するよう促した。

16. 南アフリカ 西ケープ州のアボカド生産が拡大

[FreshPlaza 2025年4月10日](#)

南アフリカ・アボカド生産者協会(Saaga)は最近ジョージ市(西ケープ州)で開催したイベントで、ジョージ、ヘルダーバーグ盆地、リーベークカステール等の地域でのアボカド生産の拡大を強調した。焦点は、業界の見通しと地元の生産者へのその影響であった。同協会の次の勉強会は5月6日に予定されている。

ステレンボッシュ大学は、特にジョージ地域でのアボカドに関する研究の取り組みを強化している。同大学の亜熱帯研究ユニットは、60kgの吊り上げが可能なAI搭載型の農業用ドローンの活用について国際的なNIKグループ(親会社ブルガリア)と提携している。最初の試験はジョージ地域で予定されている。

このイベントでは、ステレンボッシュ大学のアンドレ・ヨースト教授とアネル・ブランケンベルグ博士が洞察を発表した。ヨースト教授は、多様化と市場機会について論じ、南アフリカの生産者が中国とインドの市場にアクセスする必要性を強調した。ブランケンベルグ博士は、ツァニン市で最近開催された研究シンポジウムの最新情報を紹介し、南ケープ州で計画されている研究の概要を説明した。同博士は、北部の亜熱帯地域から西ケープ州への生産の移行が、ヨーロッパ向け輸出シーズンを延長するチャンスを提供すると指摘した。

「グレート・ブラック・アボス」プロジェクトのガイ・ウィットニー博士は、西ケープ州のアボカド生産量が2017年の135ヘクタールから現在は1,250ヘクタール以上に増加したことを強調した。同博士は、「我々はシーズン後半の生産者であり、作物は9月に主産地であるローヴェルド地域の出荷が終わった後に収穫される。すなわち、西ケープ州では9月から1月にかけて果実を収穫する。今季(昨シーズン、2024年～2025年初頭)は西ケープ州で3千トン強の果実を収穫した。2025年には多くの新しい果樹園が出荷を開始するため、初期段階の収穫予測としては、5千トンから6,500トンの間と見ている」と述べた。

ウィットニー氏はまた、国内市場への供給についても言及し、「2024年12月から2025年2月にかけて、国内市場では地元産の果実が供給不足になり、価格が高騰した。今シーズンは、果実の供給量のはるかに多いため、消費者価格は前シーズンに比べて軟調になると予想している」と指摘した。同博士はさらに、トランプ大統領がアボカド生産国を含む他国の製品に課した関税による輸出市場の不安定性に関しコメントした。

出典: George Herald

17. ブラジル 2024/25年度のオレンジ収穫量は37年間で2番目に少ない

[FreshPlaza 2025年4月11日](#)

2025年4月10日に柑橘類栽培保護財団(Fundecitrus)が発表した最新の情報によると、サンパウロ州とミナスジェライス州西南西部(トリアングロミネイロ地域)の柑橘類地帯における2024-25年度のオレンジの収穫は合計2億3,087万箱(40.8kg/箱)で終了した。この最終的な数字は、2024年5月に発表された当初予測の2億3,238万箱より0.65%少なく、前年度の合計3億722万箱と比較して24.85%の減少となる。

品種別の出荷量は、ハムリン、ウェスティン、ルビーが合計3,763万箱、バレンシアアメリカナ、セleta、パイナップル、アルボラーダが合計1,560万箱、ペラリオが7,470万箱、バレンシアとバレンシアフォーリャムルチャが7,599万箱、ナタールが2,695万箱であった。約1,494万箱がトリアングロミネイロ地域で収穫された。

好ましくない天候条件が収穫量減少の主な要因であった。長期にわたる干ばつと高温のほか、遅いものの旺盛であった4回目の開花が影響した。

2024年5月から8月までの降水量は予想水準を31%下回り、この期間の最高気温の平均は過去(1991～2020年)の平均を3～4℃上回った。

2024年5月から2025年3月までの柑橘類地帯の降水量は1,050mmで、過去の平均である1,305mmを20%下回った。ボトゥポランガ地域を除くほとんどの地域で、降雨量が平均を下回った。顕著な降水量不足は、ベベドゥーロ(749mm、-41%)、マタン(805mm、-39%)、サンジョゼドリオプレト(918mm、-26%)の各地域で記録された。

天候の問題にもかかわらず、4回目の開花は損失を軽減するのに役立った。この遅咲きの開花による果実は、2024年後半の雨の恩恵を受けた。

果実の平均重量は最終的に159グラムで、当初予測の169グラムを下回り、10年平均の163グラムよりも軽かった。最終的に1箱当たりの平均果実数は256玉であった。比較のために挙げると、ハムリン、ウェスティン、ルビーは1箱当たり平均283玉、その他の早生品種は257玉、ペラリオは253玉、バレンシアとフォーリャムルチャは247玉、ナタールは252玉であった。

累積落果率は17.8%で、5年間で最も低かった。品種別ではハムリン、ウェスティン、ルビーが10.6%、他の早生品種が13.9%。ペラリオが16.5%、バレンシアとフォーリャムルチャが21.6%、ナタールが22.6%であった。地域別落果率が最も高かったのは中部地域で20.5%、最も低かったのは北西部で13.4%であった。

未熟果の落下による総生産量の損失は5千万箱と推定される。カンキツグリーンニング病が主な原因であり、総落果率17.8%のうちの9.05%、つまり2,500万箱に相当した。その他の要因としては、ミバエ等の害虫が4.11%(1,200万箱)、自然及び物理的な落果が3.01%(800万箱)、カンキツ黒星病が1.11%(300万箱)であった。残りの200万箱の損失要因は、果皮のひび割れ、カンキツかいよう病、その他の病害等であった。

レポート全文はこちら(原文参照)

18. 米国フロリダ州 カンキツグリーニング病耐性の6品種を導入

[FreshPlaza 2025年4月14日](#)

フロリダ州はカンキツグリーニング病(HLB)耐性が向上した6つの柑橘類新品種をリリース

非営利法人フロリダ州基本種苗生産機構(FFSP)は、カンキツグリーニング病(HLB)に対するより強い耐性を示す6つの有望な柑橘類品種の導入について、新品種開発管理法人(NVDMC)とのライセンス契約に署名した。これは、フロリダ大学食品農業科学研究所(UF/IFAS)及びフロリダ州政府柑橘局(FDOC)と共同で進めてきたものであり、20年近くHLBと戦ってきたフロリダ州の柑橘類産業の回復を支援するためのより広範な取組みの一部である。

ライセンスを受けた品種のうち、「N14-10」ハムリンは、そのHLB耐性と糖度及び可溶性固形物含有量の向上で知られている。スイートオレンジの選抜品種である「OLL-DC-3-40」と「OLL-DC-3-36」もHLBに対する耐性を示し、糖度、色及び果汁の品質が向上している。マンダリン交雑種「C4-10-42」と「RBA 13-18」は糖度と色が改善されており、加工用途や非濃縮(NFC)オレンジ果汁へのブレンドに適していると考えられる。「オレンジ14」台木は、柑橘類の根喰いゾウムシ(Diaprepes Root Weevil)やフィトフトラ(疫病菌)の影響を受けている地域も含め、HLBの存在する環境で良好な成績を示している。

6つの品種はすべて特許が出願されており、2009年以来、フロリダ州の生産者に増殖と販売のためにライセンスされたUF/IFASの他の45の柑橘類品種に追加されることになる。新品種はいずれもHLBへの抵抗性(感染しない性質)は持たないが耐性が向上しており、柑橘類産業の長期的な解決策を構築するための継続的な取組みに貢献するものである。

FFSPのジョン・ボイテンミュラー事務局長は、パートナーシップへの熱意を表明し、目標はこれらの新品種を迅速に生産者の手元に届けることであると述べた。これらの6つの新品種は、同州レイクアルフレッドのUF/IFAS柑橘類研究教育センターのフレデリック・グミッター・ジュニア、ジュード・グロッサー両博士によって開発された。グロッサー氏は、これらの新しく選ばれた穂木と台木が非濃縮オレンジ果汁の品質を向上させ、持続可能で収益性の高いフロリダ州の柑橘類産業の役に立つと強調した。

フレデリック・グミッター・ジュニア氏は、より多くの成績データの取得が望ましい一方で、状況の緊急性を踏まえれば行動が必要であると指摘した。同氏は、これらの選ばれた品種を、商業的果樹園での試験に現在使用できる最も有望な部類のものであると説明した。

業界のリーダーたちは、この動きを歓迎している。フロリダ州柑橘類協会のマット・ジョイナー副会長兼CEOは、この共同の取組みを称賛し、この品種が生産者の選択肢を広げ、業界を活性化する可能性について楽観的な見方を示した。NVDMCのピーター・チェアーズ事務局長は、改良された植物材料を生産者に迅速に届けることの重要性を強調し、FDOC、UF/IFAS、FFSP及びその他の関係機関の取組みを称賛した。

フロリダ州柑橘局(FDOC)のシャノン・シェップ局長も、こうした意見に共鳴し、このようなパートナーシップがフロリダ州の柑橘類産業の将来にとって不可欠であると指摘した。同局長は、この取組みは、有望な品種を生産者の手に渡し、持続可能性と収益性に向けた業界の動きを支援するための重要なステップであると述べた。

(関連記事) 米国フロリダ州 グリーニング病耐性品種の導入と出荷予測

FreshFruitPortal 2025年4月11日

訳注： 原文記事前半のカンキツグリーニング病耐性品種導入の記述は、前のページの記事と同趣旨のため省略しました。

農務省の2025年4月の柑橘類推計値

フロリダ州柑橘類協会のマット・ジョイナーCEOは、農務省の最新の柑橘類出荷予測(2025年4月)について発した声明の中で、今回示された安定性は、問題に直面しても回復力があることを表していると述べた。

同CEOは、「壊滅的な嵐とカンキツグリーニング病との継続的な戦いにもかかわらず、我々の生産者は引き続き忍耐強く取組み、治療と処置は柑橘類の果樹の回復を助けている」として、「我々は、ベン・アルブリットン州上院議長と、業界の長期的な持続可能性のための研究と改植への記録的な投資を通じて柑橘類を再び素晴らしいものにするという同議長のビジョンに感謝している」と述べた。

米国農務省が2025年4月に改訂した柑橘類出荷予測では、2024-25年度のフロリダ州の出荷量をオレンジ1,160万箱、グレープフルーツ130万箱、タンジェリン及びタンジェロ40万箱としている。

(関連記事) 米国 柑橘類出荷予測 4月

米国農務省農業統計局 2025年4月10日

フロリダ州農業消費者サービス局との共同発表

柑橘類の品目別出荷量及び予測出荷量 - 州別及び米国計

品目及び州	出荷量 ¹		2024-2025 予測出荷量 ¹	
	2022-2023 (1,000 箱)	2023-2024 (1,000 箱)	3 月予測 (1,000 箱)	4 月予測 (1,000 箱)
バレンシア種以外のオレンジ ²				
フロリダ州	6,150	6,760	4,600	4,600
カリフォルニア州	36,000	38,300	39,000	40,000
テキサス州	570	690	600	530
米国計	42,720	45,750	44,200	45,130
バレンシア種のオレンジ				
フロリダ州	9,670	11,300	7,000	7,000
カリフォルニア州	8,600	7,100	7,500	7,500
テキサス州	560	490	300	350
米国計	18,830	18,890	14,800	14,850
オレンジ合計				
フロリダ州	15,820	18,060	11,600	11,600
カリフォルニア州	44,600	45,400	46,500	47,500
テキサス州	1,130	1,180	900	880
米国計	61,550	64,640	59,000	59,980
グレープフルーツ				
フロリダ州合計	1,810	1,790	1,200	1,300
赤肉系	1,560	1,550	1,070	1,160
白肉系	250	240	130	140
カリフォルニア州	4,500	3,900	3,700	4,300
テキサス州	2,250	2,400	2,500	2,300
米国計	8,560	8,090	7,400	7,900
レモン				
フロリダ州 ³	(NA)	(NA)	600	600
アリゾナ州	1,400	950	900	950
カリフォルニア州	25,800	24,500	26,000	27,000
米国計	27,200	25,450	27,500	28,550
タンジェリン及びマンダリン ⁴				
フロリダ州	480	450	350	400
カリフォルニア州	23,500	27,200	25,000	26,000
米国計	23,980	27,650	25,350	26,400

¹ 1箱当たりの正味重量(ポンド) オレンジ：カリフォルニア州 80、フロリダ州 90、テキサス州 85。グレープフルーツ：カリフォルニア州及びテキサス州 80、フロリダ州 85。レモン 80。タンジェリン及びマンダリン：カリフォルニア州 80、フロリダ州 95。

² カリフォルニア州ではネーブル種及びその他の品種。フロリダ州とテキサス州では早生品種(ネーブル種を含む)及び中生品種。

³ 2024-25 年度産から推計を実施。(NA) はデータなし。

⁴ タンジェロ及びタンゴールを含む。

19. 南アフリカ タイ向けリンゴ輸出の再開でアジアでの存在感を拡大

[FreshFruitPortala](#) 2025年4月14日

先週、南アフリカ産のリンゴが16年ぶりにタイに到着し、これは両国間の新たな貿易パートナーシップを象徴している。

植物検疫上の懸念によりタイの柑橘類市場は南アフリカに対して閉ざされていたが、両国の農業当局の共同作業を通じて解決され、高い食品安全基準(原文のまま)を確保するための新たな植物衛生プロトコルが確立された。

南アフリカ・リンゴ協会の対タイ代表であるサシン・キュラーナー氏は本サイト(Freshfruitportal.com)に対し、タイは南アフリカにとってかつての非常に重要な市場であり、それを再構築して新たな高みに引き上げる機会を得たことは大変エキサイティングであると語った。(以下「」は同氏の話)

「かつて市場アクセスがあり取引ができていた時には、消費者は我々の果実の品質と風味を高く評価していた。そのため、これ(市場の再開)はタイの消費者が再び我々の果実を試す絶好の機会である。」

キュラーナー氏は、この初めてのシーズンに約300コンテナを出荷し、今後数年間で増やす予定であると述べた。

「我々は、これらのプレミアム果実を市場に投入することに多大な熱意を示してくれたフローラキャピタル社をはじめとするタイの輸入パートナーに大変感謝している。我々は、包括的な販促活動と小売店内の販売促進で輸入業者と小売パートナーを支援する。タイの消費者は、世界の最高品質の青果物にアクセスするに相応しい顧客である。ロイヤルガラ、グラニースミス、ピンクレディー、ジョヤなどのプレミアムなリンゴ品種は、新たな風味と選択肢を市場にもたらすだろう。」

この市場再開により、タイにおける輸入果実の提供が大幅に多様化し、消費者は一年中リンゴを入手できるようになると期待されている。南アフリカの季節が逆転した生産は、北半球の栽培サイクルを補完する。

キュラーナー氏によると、業界の専門家達は、消費者の健康意識が高まり果実の消費量が増加し続けているタイ市場での力強い成長の可能性に期待を寄せている。

市場での競争

タイ市場における他の原産国との競争の可能性についてキュラーナー氏は、「どこに行っても南アフリカ産果実に対する強い嗜好を目の当たりにしてきたので、我々が誰かと競争しているとは思わない。それがタイでも続くことを願っている」と述べた。とは言え、同氏は他国の果実が同時期に市場に出回ることを認めた。

南アフリカでは2月にリンゴの出荷を開始し、晩生の品種を8月まで収穫できる。「ただし、我々はほぼ年間を通じて出荷することができる。」

南アフリカ産リンゴの将来の市場開放

南アフリカ産リンゴがアジアで存在感を増す中、キュラーナー氏は、タイへの復帰が「近隣地域に次第に影響を与えることは間違いない」と話す。

しかし同氏は、これが近い将来、他のどの市場へのアクセスにつながるかを語るのは時期尚早であると指摘した。「おそらく今から3カ月後には、どこで市場を拡大できるかについてももう少しお話しできるだろう。」

執筆者: セバスチャン・ラミレス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

20. トルコ MA包装で輸出用サクランボの鮮度を30日間保持

[FreshPlaza 2025年4月14日](#)

トルコは世界で最も有名なサクランボ生産国の1つであり、通常、世界の総生産量の約20%を占めている。今年の収穫量の当初予測は約72万5千トンに達し、12万トンが輸出される計画である。しかし、シーズン初期の霜が主要産地に影響を及ぼしており、これらの予測の下方修正につながっている。

セルパック包装社の輸出担当役員であるヤームル・オズブトゥン氏は、「霜が果樹園に大きな被害をもたらしており、今年は収量が低下する可能性がある。現在、生産量と輸出量はいずれも以前の予測を下回ると予想している。この困難にもかかわらず、トルコは依然として世界のサクランボ市場の主要なプレーヤーである。最終的な生産量は、シーズンが進むにつれて明らかになるだろう」と説明する。(以下「」は同氏の話)

これらの課題に直面して、輸送中のサクランボの品質と貯蔵寿命を維持することは、ますます重要になっている。オズブトゥン氏はまた、サクランボの果皮の外観を維持しながら貯蔵寿命を延ばすMA (Modified Atmosphere) 包装の役割を強調する。「生鮮サクランボは通常、数日以内に傷み始め、輸送中の損失につながる可能性がある。これらの損失は、特に輸送段階で適切な包装手段を使用することで最小限に抑えることができる。MA包装は、果実の呼吸数を減らし、その新鮮さ、果皮の外観、それに栄養価を長期間維持するのに役立つ」

「さらに、MA包装は蒸散による損失を最小限に抑えることができる。これにより、輸送及び貯蔵中のサクランボの重量損失を削減する。これは、サクランボが長距離輸送され、品質の維持が必須である場合に特に重要である。MA包装は水分の損失を防ぐことで、果重の減少と果皮の変形を減らし、サクランボを新鮮で視覚的に魅力ある状態に保つ。」

輸出されるサクランボは最大30日間鮮度を保つことができるとオズブトゥン氏は説明する。「弊社では、MA包装が適切な条件下で最大30日間サクランボを新鮮に保てることを保証している。これにより、サクランボは輸送中や保管中に最高の品質を維持し、廃棄物が大幅に削減される。弊社の包装方法は、気体の動きを最適化することにより鮮度の維持に貢献する。湿度、温度変化、酸素濃度などの外的要因からサクランボを保護し、損失を減らし、果実の品質を向上させる。」

同社では、取引先が包装方法の有効性を評価できるよう、サクランボのシーズンに向けての準備を支援している。「弊社は、サクランボの出荷シーズンが始まる前に、トルコ、米国、スペイン、イタリア、チリの取引先に要となる技術的支援を提供している。シーズン前に取引先と実施する試験と実証を通じて、包装方法の有効性と質を評価する。これらの実証試験の結果を踏まえ、シーズン中の新たな協力の確立を目指す。さらに、潜在的な取引先の特定のニーズを満たすため、カスタマイズされた解決法を提供している。」

「さらに、弊社はその社名においてBRC (英国小売業協会) の認証を得ていることを誇りとしている。この認証は、弊社の包装方法が最高の国際基準を満たしていることを示し、弊社の製品の安全性、品質、有効性を保証している。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

21. 米国北西部 果樹産業は関税を支持するが最大の懸念は人件費

[FreshFruitPortal](#) 2025年4月15日

北西部園芸評議会 - 果樹産業の主要な懸念事項として人件費が関税を上回る

最近では、米国の主要な農業団体が関税以外の事に焦点を当てるのを目にするのは珍しい。ドナルド・トランプ大統領の公式な「解放の日」が決まる前から、農業界は米国が課す関税や他国からの報復関税に目を光らせてきた。しかし、北西部園芸評議会(NHC)のマーク・パワーズ会長は本サイト(Freshfruitportal.com)に対し、この問題は常に理事会のレーダーに引っかかっているが、今はリストのトップにはないと語った。

北西部園芸評議会は、ワシントン州、オレゴン州及びアイダホ州のリンゴ、ナシ、サクランボの生産者、梱包業者、出荷業者を代表している。

協議会の生産者は、米国で栽培されるすべてのリンゴの63%、生鮮ナシの87%、生鮮サクランボ(甘果オウトウ)の68%を生産する。パワーズ氏によると、この業界はリンゴ、ナシ、サクランボの収穫量の約30%を世界40カ国以上に輸出しており、半分以下ではあるがそれでもかなりの部分を占めている。

関税に関する北西部園芸評議会の見解

パワーズ氏は、同団体は以前から果実と野菜の輸入関税を提唱してきていると述べた。同団体の関心は、米国の生産者に影響を与える関税及び貿易上の非関税障壁を減らすことにあり、同氏は競争条件を均一化するトランプ大統領の斬新なアプローチがまさにそれを達成することを期待している。(以下「」は同氏の話)

「NHCは、不公平で非相互的な貿易は問題であり、これまで何十年もの間問題であったと考えている。米国に輸入される果実や野菜の関税はゼロであり、我々は長い間、それを変えるべきだと言ってきた。」

中国は、太平洋岸北西部の甘果オウトウの輸出市場としては第2位、同地域のリンゴについては第9位の輸出市場である。したがって、中国が発表する報復関税に業界が痛みを感じることは間違いない。

「中国が発表した報復関税は、中国に輸出する果実の生産者にとって市場の課題を生み出している。世界中の競争相手はこれまで、しばしば特惠的な貿易協定を交渉してきており、それが多くの市場で米国産果実の競争を困難にしている。貿易における相互性の必要性が認識され、米国産果実に競争力を持たせる必要性が目まぐるしく注目を集めていることを喜んでいる。」

同氏はしかし、評議会の一員である生産者や輸出業者は、報復関税の潜在的な影響や主要な輸出市場に影響を与える可能性のある不確実性を懸念しているものの、関税は彼らの主たる関心事ではないことを明確にした。

「関税よりも、主に人件費の持続不可能な上昇により、我々の業界が長年受けてきた極端な経済的圧迫の方が問題だ。果実は依然として大部分が手摘みされており、市場を無視したH-2Aプログラムによって押し上げられた賃金が、我々の生産者を苦しめている。太平洋岸北西部の果樹栽培者は、関税や報復に関係なく、生き残りをかけて戦ってきた。」

同氏は、「我々の業界は、貿易戦争が始まるずっと前から絶滅と戦ってきた」と強調した。

北西部園芸評議会が委託した2023年のワシントン州のリンゴ作にかかる人件費の分析によると、調査対象の農場で2022年に果樹園が得た純利益は1億ドルで、これは州のリンゴ総産出額20億7千万ドルの約5%であった。

パワーズ氏は、2023年産に関しては、過去10年間で127%上昇した人件費が、生産者の収益の99%を食い潰したと述べた。

「輸出市場に新たな関税が課されるかどうかに関わらず、多くの生産者にとって、人件費やその他の投入コストは、果実の栽培を続けるか、果樹園を伐採するかを決定する最も重要な要素だ。」

22. スペイン 無許可のマンダリン栽培者に対する法的措置を準備

[FreshPlaza 2025年4月15日](#)

ジェネシスフレッシュ社とTEO(The Enforcement Organization)社は、2024年12月に公表されたシガル(Sigal)品種マンダリンの違法栽培の猶予期間が2025年5月1日に終了することを業界に注意喚起している。両社は、この期間中は許可されていない生産者に対して法的措置を取らないことを約束しているが、保護されたシガル品種マンダリンの無許可農場の探索と監視は続けている。生産者はこの期間中に、法的な追及に直面することなく、自らの状況を正常化することができた。5月1日からは、植物新品種育成者の権利を保護し、正式に認可された生産者の投資を保護するため、厳格な法的行動計画が実施される。

シガル品種を守るため能力と経験をフルに活用 植物新品種育成者の権利を保護する長い歴史を持ち、オッリマンダリンの保護に成功してきたTEO社は、5月1日にシガル品種マンダリンの正当な権利を保護するための作戦を開始する。自治州レベルの植物品種当局(CPVO)によって付与された権利として、シガルは2054年12月31日まで植物品種として保護される。この目的のためTEO社は、植物新品種育成者の権利と合法的にシガル品種のライセンスを取得した生産者を保護するために必要なすべての機能、手段、及び管理の仕組みを備えている。これには、権威あるバレンシア州農業研究所(IVIA)によって承認された分子マーカータクニクによる最新の品種同定の実施が含まれる。この技術により、市場に流通している他のマンダリンからシガル品種を明確に識別することができる。さらに、TEO社は農場の監視に高度な衛星映像システムを利用するほか、ほ場監査員と情報提供者の広範なネットワークがあり、彼らには、許可されていない農場の正確な位置を簡単に報告するための測位ソフトウェアツールWatchSATが提供されている。また、植物の知的財産に高度に専門化し、この種の法的措置において実績のある法務チームも有している。

無許可農場の詳細を登録 過去数年間に実施された体系的な探索、監視、及び包括的な分析により、ジェネシスフレッシュ社とTEO社は、ライセンスを持たずに約135ヘクタールでシガル品種を栽培する30以上の農場の詳細な記録を入手することができた。この記録は、専門家の詳細な報告、毎年の生産記録、及び品種の同一性を明確に確認する遺伝子分析に基づいている。特定された農場は地理的に、スペイン国内の柑橘類産地全体に分布し、バレンシア州では違法農場の数が最も多く、アンダルシア州は面積が最大である。

無許可の生産者は、植物品種の保護と植物新品種育成者の権利に関する現行の法律に違反しているだけでなく、正式にライセンスを取得した生産者に対して不公平な競争をもたらしている。

シガル品種の違法な搾取を続ける生産者は、他の保護された品種に対するこれまでの取組みで既に適用されたのと同じ法的及び経済的な結果を招くこととなる。それは、多額の金銭的補償、違法な農場の強制的な伐根、及び違反者の費用負担による報道への有罪判決の公表等である。植物新品種育成者の知的財産権の侵害は、法的及び経済的に深刻な結果を引き起こす重大な犯罪である。

ライセンスの取得手続きは植栽目標が達成されるまで解放 猶予期間は5月1日に終了するが、シガル品種の新規ライセンス付与プロセスは、1千ヘクタールの目標が達成されるまで継続される。

ヴォルカーニインスティテュート社(イスラエル)によって開発されたシガル品種は、プレミアムなマンダリン品種カタログの新たな指標である。鮮やかなオレンジ色から赤みを帯びた色合いで、脱緑処理を必要としない。皮をむきやすく、風味に優れ、果汁含有量が多い。果実の大部分は種が無い。商業的に評価が高く、アルタナリア属菌に対して遺伝的耐性がある。収穫期は12月から2月までで、スペインの柑橘類シーズンの主要な時期をカバーし、同じ時期に入手可能な従来品種よりもはるかに優れた選択肢を提供する。

ジェネシスフレッシュ社とTEO社が推進するヴォルカーニプロジェクトは、全面的な法的支援を受けつつ持続可能で革新的な品種に投資することにより、柑橘類セクターの品種モデルを変革することを目指している。規制の遵守は、単なる法的義務ではない。それは、技術革新の価値を維持し、サプライチェーン全体の未来を確保するための重要な条件である。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

23. エジプト ブドウの輸出シーズンを前に育種家の権利保護を再確認

[The Grape Reporter 2025年4月15日](#)

エジプトのブドウは新しいシーズンを迎えようとしている。新規市場の開拓に伴い、世界的な需要は高まっている。シーズン開幕に先立ち、エジプト中央植物検疫局(CAPQ)の責任者であるモハメド・マンシ博士は、育種者連盟のダンカン・マッキンタイア会長と主要な生食用ブドウ育種会社の代表者を迎えた。双方は、戦略的な輸出作物としてのブドウの重要性を確認した。近年、育種家達は多くの高性能な生食用ブドウの新品種をエジプトに導入し、現在ではエジプトの主要な生産者によって栽培されている。

これらの新品種は、生産性と品質の向上、耐病性、風味、食感など、今日の国際市場が要求するすべての属性が強化されている。これらの新品種はすべて、植物品種の権利に係るエジプトの法律の下で保護されている。CAPQは、これらの権利を侵害する農場や輸出業者の輸出コードを取り消す意向を改めて確認した。

双方は、違法な果実のエジプトからの輸出を防ぐことは、輸出先の市場でそれらを摘発するよりもはるかに良いことに同意した。とは言え、マッキンタイア会長は、違法な果実の輸入を防ぐため、育種者連盟がヨーロッパと英国の税関当局と緊密に協力し、市場での監視活動を強化することを約束した。

CAPQは、農業・土地改良大臣の命令に基づき、輸出コードシステムを管理している。同局のスタッフは、育種者からの有効なライセンスなしにこれらの新品種を生産している疑いのある農場からサンプルを採取する。これらのサンプルは、新たに設立された同局のラボでDNA検査される。

一行は、カイロ国際空港のラボも訪問し、そのスタッフとDNA検査技術について意見交換を行った。

24. 韓国 厳しい春霜でナシ農場に被害

[FreshPlaza 2025年4月16日](#)

果樹園経営者のイ・ミスク氏は、慶尚北道尚州市沙伐^{サボルグクミン}国面地区でナシの花に花粉を振りかけながら、「子房がないのに花粉を調べて何の意味があるのか」と語った。季節外れの春の寒波により、花の雌しべが黒く変色し、霜焼けのような損傷を受けていた。イ氏は、「30年以上ナシを育ててきたが、花がこんなに凍って枯れるのを見たことがない」と述べた。主要なナシ産地である沙伐国面地区では、3月30日に気温が摂氏マイナス5.2度まで下がり、雌しべが枯れ、果実の生産が停止した。地元の推定によると、90%以上の農場が影響を受け、花は4月13日の別の寒波によってさらに被害を受けた。

沙伐国面のパク・ジョンウク地区長は「通常は年間約500億ウォン(3,500万ドル)相当のナシを販売するが、今年は50億ウォンだろう」と述べた。3月中旬に暖かい日が続いたこと等の不規則な天候により、早咲きとなり、その後の気温の急落で雌しべが死んでしまった。生産者が使用した送風機はほとんど効果がなかった。韓国農業協同組合中央会沙伐国面支部ナシ輸出部会のイ・ソンデ代表は、「一部の農場では、花の最大99%が不稔であると報告している。金を借りてナシを育てていた若い移住者達は、完全に絶望している」と述べた。

モモやリンゴなどの他の作物も不安定な天候に見舞われた。忠清北道では、4月14日までに545件の低温被害が報告され、そのうちモモが210件を占めた。リンゴの生産は、寒波による被害と最近の慶尚北道の山火事によって脅かされている。

気候の専門家は、春の天候の異常は地球温暖化によるもので、早咲きと寒波に対する脆弱性を引き起こしたと考えている。ソウル大学のチョン・スジョン教授は、「これまでは、温暖な天候と早い開花が作物の生産性を高めると信じていた。だが、今見ている事は逆で、春の霜害の頻繁な発生と生産性の低下だ」と述べた。

生産者は、気候関連災害の研究と対策を求めている。一部の国では指標に基づく気象保険を導入しているが、韓国では、霜害を部分的にカバーする作物災害保険に加入している生産者は半数に過ぎない。チョン教授は、被害を最小限に抑え、インフレを抑制するための気候適応政策の必要性を強調した。

出典: Korea JoongAng Daily

25. フィリピン 生産者団体がキャベンディッシュバナナの減少を報告

[FreshPlaza 2025年4月16日](#)

ミンダナオ協同組合連合会 (Fedco) は、フィリピンのダバオ地方 (ミンダナオ島南東部) のバナナ産業が直面している課題を指摘した。キャベンディッシュバナナの生産は減少しており、特に小規模生産者に影響を及ぼしている。Fedco のアイレネオ・ダライオン CEO は 2025 年 4 月 11 日のビジネスフォーラムで、状況は「深刻」であり、小規模生産者は総ての生産物を失いかねないと述べた。

北ダバオ地域のカパロン、サントマス、アスンシオン、タグムの各地区及び南ダバオ地域の一部の地区では、多くのバナナ農園が放置され、非生産的な状態に陥っている。ダライオン氏は、キャベンディッシュバナナ生産量の 10～15% の減少を見込んでおり、その原因として、物流・輸送コストの増加に加えて、「パナマ病」として知られるフザリウム萎凋病の継続的な脅威を挙げている。

生産コストが 1 ヘクタール当たり 1 万 8 千米ドルに近づく中、生産者は収益が不確実なため、栽培をためらっている。最適な条件下でも、生産者の収益は最大 1 万 6 千米ドルで、利益率は最小限である。担保や信頼できる返済計画のない小規模生産者への融資に銀行が消極的であることが、財政的制約を悪化させている。

米国ではキャベンディッシュバナナの需要が高いが、フィリピンの輸出業者は世界的な需要を満たすのに苦労している。この果実の賞味期限が 40 日であることも、迅速な市場アクセスをサポートするインフラが整っているエクアドル等の南米諸国と比べて輸出を困難にしている。

農業投入コストの上昇は、生産者のさらなる負担となっている。アンモニウム系除草剤の価格は 5.40 米ドルから 12.60 米ドルに急騰し、尿素肥料は現在、1 袋 (50kg) 36 米ドルで、5 年前の 2 倍以上となっている。

Fedco は、これらの問題に対処するためにミンダナオ開発庁 (MinDA) と協議している。提案された解決策には、小規模生産者を 1 ヘクタール当たりの生産費用が約 1,440 米ドルのカルダババナナ (主に調理用) の生産に移行させることが含まれている。農業省 (DA) は、信用支援の追加と作物の栄養と病虫害防除を強化するための研究の強化を提唱している。提案されたバナナ産業活性化ロードマップは、政府の継続的な支援を確保するための法制上の裏付けを目的としている。

フィリピン・バナナ生産者輸出業者協会 (PBGEA) と植物産業局のデータは、日本と中国で市場シェアを失っていることを示している。この減少の原因は、病虫害の発生、輸出コストの上昇、及びベトナムやカンボジアなど他国との競争である。Fedco 及びその他の関係者は、この重要な産業を支援するための政府の介入を強く求めている。

出典: SunStar

26. 世界の生鮮ブルーベリーの見通し 2025-2030

EastFruit 2025年4月14日

EastFruitのアナリスト達は、世界のブルーベリーセクターは、2020年代後半に入りこれまでにないほどの生産能力と地理的に多様な供給基盤を有していると指摘している。様々な推計では、世界の栽培面積は毎年少なくとも10%増加しており、IBO(世界ブルーベリー機構)等の業界筋によると、総生産量は過去10年で2倍以上となり、2023年には178万トンに達し、2024年には史上初めて200万トンを超えた。

FAO(国連食糧農業機関)投資センターのエコノミストであるアンドリー・ヤルマック氏は、「(中略)当初、ブルーベリーの主要生産国のほとんどは、主に輸出市場に注力していた。しかし、今では状況が変わり始めている。リンゴとは異なり、ブルーベリーは幅広い気候で栽培することができ、より多くの国で生産することが可能である。その結果、主に国内市場を対象とする国々でのブルーベリー生産の急速な拡大は、世界レベルでは見過ごされがちで、将来的に大きな市場の混乱を引き起こす可能性がある」と述べている。

同氏はさらに、「これは、世界のブルーベリー生産の伸びの実際のペースが、実は現在の推計よりもさらに速い可能性があることを示唆している。EastFruitチームは今後、特に2025年及び長期的な見通しに焦点を当て、世界と地域の両方でのブルーベリーセクターの発展の可能性を探る一連の詳細な分析記事を発表する。我々は、この急速に進化する業界の中で注目に値するすべての国について詳細な洞察を提供することを目指す」としている。

ここ数十年の世界的な生産量の増加は、中南米諸国、ヨーロッパ、及び特に中国が主導するアジアでの栽培面積の急増によって推進されてきた。この急速な成長にもかかわらず、多くの市場で生鮮ブルーベリーの消費量が依然として増加していることから、業界の専門家達は需要の伸びの可能性は依然として高いとの見方を維持しており、国際的なブルーベリー市場の「潜在能力はまだまだ尽きない」としている。しかし、インフレ、物流コストの高騰、脱グローバリゼーション、労働力不足等のマクロ経済の逆風により、需要と供給のバランスをとる上での新たな課題が生じている。

世界の生産と貿易の動向(2025-2030)

世界のブルーベリーの栽培面積と生産量は、目覚ましい成長軌道を維持している。2023年の世界のブルーベリー栽培面積は26万7千ヘクタールに跳ね上がり(2022年から7.2%増加)、2019年の約20万1千ヘクタールから着実な増加を続けている。中南米地域は現在、ペルー、メキシコ、チリ等の国々での巨額の投資を反映して、最大のシェア(世界の面積の42%)を占めている。

アジア太平洋地域もそれに劣らず、中国の栽培面積の爆発的な増加により、同国は単一国として最大の生産量を誇っている。2023年の世界の生産量は178万トンに達し、中国、米国、ペルーが合わせて総生産量の88%を占めた。特に、中国は2021年に米国を抜いて最大の生産国となり、今や同国だけで世界のブルーベリーの約32%を生産している。

南半球での生産の拡大と温室栽培の普及により、生鮮ブルーベリーは1年のうち12カ月すべてで供給されており、一年中入手可能となったことで、ブルーベリーは世界的な商品として確固たる地位を築いた。

貿易面では、生鮮ブルーベリーの輸出量は生産量と同様に全般的な増加傾向にあり、2019年から2023年の間に年平均約10%(約6万トン/年以上)の成長を記録した。近年の物流の混乱とコストの上昇にもかかわらず、輸出業者達は新規市場及び既存の市場で高まる需要への対応策を見出し、貿易の成長が完全に止まることはなかった。

ただし、生産国(中国、米国等)の国内消費が急増しているため、国際貿易から遠のく果実が増える可能性がある。米国とヨーロッパは依然としてブルーベリーの大消費地であり、2023年には米国とオランダを合わせて世界の輸入量の48%を占めた(オランダはヨーロッパのハブとして機能)。しかし、生産量の伸びが輸出の伸びを上回っているため、価格と収益性が圧迫されている。

ブルーベリーの輸入価格は、豊富な供給量と激しい競争を反映して、2018年以降緩やかな下落傾向を示

している。業界のレポートでは、「競争の激化とコストの高騰」、及び需要と供給の不均衡が今後の主要な課題として指摘されている。買い手が手頃な価格を期待する中、世界中の生産者は、投入コスト(肥料、エネルギー、物流)の上昇と労働力不足により利益率の圧迫に直面している。この供給過剰の中で、品質を確保し、ブルーベリーの高級なイメージを維持することがますます重要になっている。

これらの課題にもかかわらず、長期的な需要の指標はプラスを維持している。ブルーベリーは、その利便性と健康上の利点から人気を集めており、流通量の増加により一年中入手しやすくなっている。実際、価格の下落や加工食品(ヨーグルト、ジュース、焼き菓子)への利用に支えられて、一部の地域では消費量が貿易量よりもさらに急速に成長しており、その結果、より多くの消費者がブルーベリーに親しむようになった。この好循環は、世界の生産が増加を続けるにつれて、新しい消費者と市場が出現してその果実を吸収することを示唆している。鍵となるのは、既存市場と新興市場の両方で需要を刺激し続けながら、短期的な経済の混乱を乗り越えることである。生鮮ブルーベリーは、既にリンゴ等の伝統的な果実から市場シェアを奪っており、この傾向は続くと思われる。

今後の記事では、主要な生鮮ブルーベリー輸出国の2030年までの見通しを掘り下げ、その後精力的な新興輸出国を取り上げる。また、マクロ経済的な要因が消費と生産のダイナミクスをどのように変える可能性があるかについて分析する。

(関連記事)ペルー 世界のブルーベリー市場でのリーダーシップの確立

[EastFruit 2025年4月16日](#)

EastFruitのアナリスト達は、ペルーが世界最大の生鮮ブルーベリー輸出国の王冠をチリから奪ったことを2020年に最初に報告し、これは大きな驚きとして受け止められた。5年後の現在、世界市場におけるペルーの優位は、数量と金額において完璧である。

ペルーは2024/25年度シーズンに、2024年の末までで前年比57%増の32万6千トンという最高記録の輸出量を達成した。ペルーの農業開発灌漑省によると、この数量(2025年4月までを含む)は、22億7千万ドル以上の輸出額に相当する。ペルーの公式情報筋は、「ペルーは世界最大のブルーベリー輸出国としての地位を固めた」と伝えた。

2024年に急増する前の2023年の収穫量はやや減少した。それがメキシコ等からの輸出量の減少と相まって世界のブルーベリー価格が上昇し、この年にはペルーの輸出量は減少したにもかかわらず、輸出額は23%急増したとEastFruitは伝えている。2023年終盤までに、ブルーベリーの平均価格は1kg当たり8.5〜8.9ドルに急騰し、2022年の約2倍の水準となった。この価格の反発は供給が逼迫する中でも需要が旺盛なことを示し、ペルーの生産者に恩恵をもたらした。

しかし、今シーズンにペルーから輸出された生鮮ブルーベリーの価格は1kg当たり4.5〜4.6ドルと推定され、2023/24年度に達成されたレベルの約半分に過ぎない。この価格の下落は、生産量の回復と継続的な拡大によるものである。

ペルーの成功は、周年供給の能力と栽培面積の急速な拡大によるものである。ペルーの出荷シーズンは従来の北米の夏の期間を超えて広がっており、ペルーはその海岸地方と高原地方の特有の気候を利用して、「チリや米国など他の国の最盛期以外にもブルーベリーを供給する」ことができる。ペルーの栽培面積は約2万ヘクタールであり(2016年のわずか2千ヘクタールから増加)、現代的な多収性品種のベリーに多額の投資を行っている。ペルーの平均収量は世界で最も高い部類に入る1ヘクタール当たり約13〜14トンで、これによりペルーは年間30万トン以上を出荷することができる。

FAO(国連食糧農業機関)投資センターのエコノミストであるアンドリー・ヤルマック氏は、ペルーは主要な輸入国から地理的に離れているにもかかわらず、この高い収量水準のおかげで世界市場で成功裏に競争できると指摘する。

同氏は、「新しい品種と生産技術、収穫後処理・選別・輸出のためのよく発達したインフラ、さらに豊富で手頃な賃金水準の労働力、これらすべての要素が徐々に蓄積したブルーベリー栽培と物流のノウハウと相まって、世界のブルーベリー輸出におけるペルーの長期的なリーダーシップの基盤を形成している」と強調する。

2025年以降について、ペルーの業界関係者は、重大な気象の影響がない限り、短期的には年間35万トンを超えると予測している。実際、気象条件が良ければ、ペルーはさらなる記録を更新する軌道に乗っている。ペルーの成長率は、初期の頃の年率50%以上の猛烈な急上昇からは安定したペースに減速するかも知れないが、年率5~10%の増加であっても他の輸出国よりもはるかに優位に立つだろう。ペルーのブルーベリー輸出量は2019年から2023年の間に年平均14.5%増加し、これは毎年約2万8千トンの増加に相当し、いかなる基準に当てはめても非常に大きな量である。

市場に関しては、ペルーの上位の輸出先は、世界的なサプライチェーンにおけるペルーの重要性を浮き彫りにしている。2024年には、ペルーの生鮮ブルーベリー輸出の約55%が世界最大の輸入国である米国向けであり、さらに21%がオランダ(EUへの玄関口)、9%が香港(多くの場合、中国に再輸出される)に輸出された。近年、ペルーだけで世界の生鮮ブルーベリー貿易の約30%を占めると推定される。

特に、中国はペルー産ブルーベリーの需要を大幅に増やした。輸出業者は、中国のほか、インド、シンガポール、湾岸諸国等、他のアジア市場からの注文も力強く伸びていると報告している。この多様化は、輸出量の増加に応じて複数の出荷先市場を確保するというペルーの戦略上の要である。ペルーは、年間を通じて安定的に高品質の果実を提供するその能力により、市場へのお荷期間の幅が広がっている。

天候の問題(エルニーニョ関連の混乱等)を除けば、ペルーは2030年まで引き続き主要輸出国であると予想される。同国は依然として新しい地域で栽培面積を拡大し、市場の嗜好に合わせて品種を微調整している。

現在、ペルーの輸出量の11%以上を有機ブルーベリーが占めており、プレミアムなニッチ市場の獲得にも重点が置かれている。すなわち、ペルーは2025年~2030年の期間の世界のブルーベリー供給のペースメーカーとしての役割を担い、その出荷量と、市場価格に対する影響力は、今後数年にわたり増大し続けると見られる。ブルーベリービジネスへの投資を計画している者は、ペルーとの競争を意識する必要がある。

27. 米国フロリダ州 グリーニング病対策で保護スクリーン下の栽培を拡大

[FreshPlaza 2025年4月17日](#)

保護スクリーン下の柑橘類栽培(CUPS)システムがより多くの品目に拡大

米国の生産者は、カンキツグリーニング病(HLB)の媒介昆虫であるミカンキジラミから果樹を保護するため、「保護スクリーン下の柑橘類栽培」(CUPS)システムを利用している。グレープフルーツは大部分がCUPSで栽培されているが、統計は他の柑橘類品目でのその可能性を示している。

フロリダ大学食品農業科学研究所のアーノルド・シューマン氏は、様々な柑橘類の品種について要件を定める必要性を強調する(以下「」は同氏の話)。「商業的にCUPSで栽培されているのはほとんどがグレープフルーツだ。それは非常に成功しているが、他の品目でも使いたいという願望がある。」CUPSで栽培される柑橘類の幅を広げ、品質を確保するための取り組みが進められている。

シューマン氏によると、バレンシアオレンジはCUPSの下で『優れた品質』を示している。「樹齢10年の成熟したバレンシアの園地がある。果実はバレンシアの典型的な収穫期である3月に収穫された。全可溶性固形物(TSS)はブリックス値13.9であった。酸は0.63%で、TSSと酸の比率は22であった。それは1箱当たり7.2ポンドの固形物に相当する。」バレンシアの若い園地は、TSSが8.5、酸が0.46%で、比率は19であった。

シューマン氏は、CUPSのもう一つの利点は、果皮が割れやすい品種でない限り、落果がないことだと指摘した。研究によると、シュガーベル、テンプル、ダンシー、アーリープライド等の品種では、果皮の割れの問題を除けば、肯定的な結果が得られている。

CUPSの導入を検討している生産者に対して、シューマン氏は実績のある品種に取組むことを勧めている。同氏は、「もし私がCUPSに投資するならば、赤肉系のグレープフルーツのように実証済みの信頼できる品種に大半、例えば75%を投資する」と述べ、残りを有望だがリスクのより高い品種に割り当てることを提案した。

出典: Citrus Industry

28. トルコ 厳しい霜害がリンゴ果汁の供給を脅かす

[FreshPlaza 2025年4月18日](#)

トルコで最近発生した深刻な降霜は、果樹園に甚大な被害をもたらした。市場参加者達は、最近の記憶の中で最悪の霜害の1つと表現している。政府当局は数週間かかると予想される被害の査定を実施するとともに、生産者を支援し国内価格の変動を緩和するための支援パッケージと市場介入の可能性を探っている。

霜は、アンズ、リンゴ、サクランボ、スモモ、ブドウ、モモ等、様々な果樹に影響を与えた。あるリンゴ果汁加工業者はExpana(情報サイト)に対し、状況は「悲惨」であると語り、霜が2025/26販売年度の濃縮果汁生産用のリンゴの作柄に影響を与えることを認めた。

トルコが世界の主要供給国である低酸度リンゴ濃縮果汁のExpanaベンチマーク価格(EBP)は、前年比で12.8%高い2,200ユーロ/トンとなっている。市場関係者は、作物の損失の程度によっては入手可能な濃縮果汁が不足する可能性があるとして予想している。

この霜害は、世界の貿易が不安定な中で発生した。米国と中国が貿易戦争状態にあり、米国が中国産リンゴ果汁に145%の関税を課したため、バイヤー達は代替の供給者を精力的に探し求めている。トルコは、行き場を失った米国の需要の一部を吸収する立場にあった。しかし、霜害は、すでに混乱している市場にさらなる不確実性をもたらすものである。

出典: Mintec/Expana

29. トルコ サクランボに深刻な降霜被害

FreshPlaza 2025年4月18日

「標高の高い園地の一部では潜在的なサクランボ収穫量の最大50～70%が失われた」

トルコのサクランボ輸出業者ポレクス社の輸出事業責任者であるエミルハン・シャヒノズ氏は、トルコ西部のサクランボとリンゴの果樹園について、次のように述べた(以下「」は同氏の話)。「この春は特に厳しかった。4月上旬から中旬にかけて、トルコ西部の多くの地域、特にサリフリ(マニサ県)、ウスパルタ県、アフイヨンカラヒサル県などの標高の高い地域で、突然の厳しい降霜があった。弊社のマニサ県のサクランボ園とテキルダー県のリンゴ園では、満開時の気温が-4℃から-7℃まで下がったが、これはどちらの作物にとっても非常に敏感な時期である。霜は異常に暖かい天候の後に降りたため、果樹の季節的な生育が進んでおり、低温に対してより脆弱であった。

シャヒノズ氏によると、サクランボの果樹園の一部は最大70%の損失を被った。「凍えるような天候は、早生と中生のサクランボ品種に大きな被害をもたらした。弊社の標高の高い園地の一部では、潜在的な収穫量の最大50～70%が失われた。標高が低く開花が遅い品種の園地は、無傷ではないものの影響が少なかった。花の褐変、着果不良、及び一部の地域では生育中の幼果の損傷が観察された。今年は果樹園の総収穫量が平均を大幅に下回ると予想している。」

同氏は、降霜のため収穫量が地域間で不均一になり、輸出を困難にすると指摘する。「この天候は今年のトルコのサクランボの輸出に間違いなく影響する。輸出品質のサクランボの出荷が優先されるため、全国レベルの輸出量は良好に見えるかも知れないが、低温のため地域が細分化され、収穫量が不均一になる。これにより、収穫計画が複雑になり、コストが増加し、出荷可能期間の幅が狭くなる可能性がある。生産者と輸出業者が最高の収益を追求するため、残りの産地で気象条件が安定しない限り、国外のバイヤーへの安定的な供給の約束を果たすことが困難になる可能性がある。」

生産量が少ないため、輸出業者は輸出先の範囲を縮小せざるを得なくなる可能性があると同氏は説明する。「弊社では主に、ドイツ、オランダ、スカンジナビア諸国等のヨーロッパ市場に輸出しており、英国への出荷も増えている。これらの市場では、日持ちが良く高品質で大玉の果実が求められている。現在の状況を考えると、輸出に値する量を集めるため他の生産者との協力を強化する必要があると思われ、また最も安定的で利益率の高いバイヤーを優先し、輸出先の範囲を縮小する可能性がある。数量が不足する場合は、国内の小売業者との連携を強化することを検討する。」

シャヒノズ氏は、サクランボの価格が上昇するとの予想は、国内市場でも非常に現実的であると述べている。「国内生産量が減少するため、サクランボの価格はほぼ間違いなく上がるだろう。輸出品質の果実はプレミアム価格になる可能性が高いが、2級品のサクランボでさえ引き合いが増えるだろう。とはいえ、物流コスト、品質の変動のほか、国内のスーパーマーケットや卸売市場の需要に対応する必要があるため、供給量の多くが国内市場にシフトするだろう。国内卸売市場での価格は、地域や品種によって30～50%上昇する可能性がある。」

「弊社では、より短く、より困難なサクランボシーズンを予想している。収量が低下し、品質の一貫性を確保するのが難しくなる。収穫時にはより選別的に作業する必要がある、労働生産性が低下する可能性がある。しかし、価格は堅調に推移するはずであり、慎重な計画を立てることで収益性を確保したいと考えている。弊社の今年の主な重点事項は、困難な条件の下で、廃棄を最小限に抑え、優先的な契約を履行し、果実の品質を維持することである。」 シャヒノズ氏は、「戦略的な柔軟性が鍵となるだろう」と結論付けた。

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

30. チリ ブルーベリー市場で競うための構造改革

EastFruit 2025年4月18日

世界のブルーベリー市場の第3報は、世界で初めて生鮮ブルーベリー輸出大国となったチリを取り上げる。

ペルーが台頭するまでの数十年間、世界最大のブルーベリー輸出国であったチリは、今でも業界の重鎮である。数年にわたる輸出の停滞または減少に直面した後、チリのブルーベリーセクターは適応と安定の兆しを見せている。チリは2023/24年度シーズンに、当初の予測を上回る8万6千トン以上の生鮮ブルーベリーを輸出し、前年までの減少傾向を逆転させた。これは前シーズン(2022/23年度)に比べて約7%の増加だが、それでも数年前のチリのピーク時の輸出量を約18%下回っている。チリ・ブルーベリー委員会は、輸出業者が世界的な供給の逼迫状況を利用して予想以上に多くの果実を出荷し、「(場合によっては)チリの供給が世界市場にとって重要であることを浮き彫りにした」と指摘した。

チリのシーズン序盤の生育条件は良好で、涼しい天候により成熟がわずかに遅れたものの、出荷シーズン前半は収穫ペースが安定し果実の品質が優れていた。しかし、シーズンが進むにつれて、大幅に延長されたペルーからの遅い出荷と重複し、市場に溢れたブルーベリーは「前のシーズンを上回り、結果的に価格に影響を与えた」。言い換えれば、かつてはチリにとって比較的競争のない輸出期間であった時期に、今ではペルー(及びメキシコ、モロッコ等他の国々)が世界のバイヤーに向けて供給しているため、チリの生産者の出荷時期は以前よりも混雑している。

これに対応するために、チリは構造改革とポジション調整の時期を迎えている。業界は、果実の硬さ、サイズ、収穫後の日持ちを向上させるために、新しい品種と改善された果樹園管理への迅速な移行の必要性を認識している。チリの輸出は何年もの間、日持ちのしない古い品種に苦しんでいた。これは、市場への長い海上輸送時間と相まって、品質問題とバイヤーからの苦情につながった。現在は品種の更新が加速化している。「チリには、技術や品種に関して最善の決定を下すための長年の経験とデータがあり、品種の更新は既に新たな品種構成を示し始めている。」競争力の低い果樹園の多くは、伐根されたり、冷凍用ベリーの生産に移行したりしている。

この品種の淘汰によって生鮮輸出のための純栽培面積(結果面積)は数年間縮小したが、新たに出荷が始まる園地は収量が多く、生鮮市場の基準への適合を目標としている。チリの業界は、優位性を取り戻すために、物流の改善と新技術にも投資している。例えば、長時間の輸送の後でも果実が最高の状態で到着するように、コールドチェーン管理の改善とCA輸送が追求されている。

チリの輸出業者は、多くの国で引き続き強力な市場プレゼンスの恩恵を受けている。チリ産ブルーベリーの主な輸出先は大陸ヨーロッパ(2025年序盤の輸出の41%)で、これに米国(35%)が続き、それには及ばないもののアジア(韓国が約8%)と英国(約7%)が一定のシェアを占めている。この多様な市場の広がり、チリが需要の変動を乗り切るのに有用である。特に、チリはヨーロッパの冬の期間の主要な供給国であり、ヨーロッパのバイヤー達は、モロッコ産やスペイン産と並んで、オフシーズンの果実をチリに頼るようになった。

ブルーベリー部門の世界市場におけるチリの主な優位性は多様な輸出市場にあり、これは業界の協調的な取り組みとチリ果実輸出業者協会(ASOEX)による積極的な販促活動の成果である。同協会は、ベトナム、インドネシア等の東南アジア市場に参入するための新しい戦略を含め、チリのブルーベリーを世界的に売り込むのに貢献してきた。

注目に値するトレンドの1つは、チリでの有機ブルーベリーの成長である。生産者達は市場のプレミアム部門に対応しており、有機は最近のチリの輸出の約12%を占めている。

経済的には、チリは2030年までの成長軌道に影響を与える可能性のある収益性への圧力に直面している。近年の人件費及び投入資材コストの上昇と市場価格の相対的な低下が相まって、利益が圧迫されている。労働力の確保が特に懸念事項であり、生産者達は労働者の不足と賃金の上昇が、収穫を難しくし、コストを増加させていると報告している。また、チリの金利の高さが、果樹園の新植や改植への資金調達を困難にし、

強く求められている品種の更新のペースを遅らせている。これらのマクロ経済的な要因は、「業界の慎重な考え方」を助長し、場合によっては対応を遅らせている。とは言え、統合が進行中であり、チリのブルーベリー輸出企業数は、2022/23年度までの5年間で190社から110社に減少し、効率性の向上と専門化が進んでいることを示している。

2025年から2030年までの期間、チリは引き続き世界第2位の輸出国の地位を保つと予想されており、条件が良ければ年間8万トンから10万トン以上のオーダーで出荷するものと見られる。成長は爆発的ではなく、漸進的なものになると見込まれる。チリの戦略的優位性は、その長い経験と取引先との確立された関係である。品質、品種の更新、供給の信頼性に焦点を当てた「ポジション調整」を成功裏に完了することができれば、輸出量の王座はペルーに譲るとしても、チリは依然として「世界のブルーベリー市場の主要メンバー」の地位に留まるだろう。

31. 世界のブルーベリー新興輸出国の見通し

[EastFruit 2025年4月21日](#)

EastFruitチームは、世界のブルーベリー市場の分析を続けている。世界のブルーベリーの一般的な傾向と、ペルーとチリの2つの巨大輸出国の状況に続き、我々は、小規模に見えるかもしれないが、実際には世界の供給マップを書き換えつつある、精力的な新興輸出国について調査することとした。

これらの「精力的な新興輸出国」は、数年前にはブルーベリー産業が極めて小さかったが、現在では多額の投資を行って指数関数的に成長している国であることが多い。特に、**コロンビア**、**ジョージア** (旧呼称グルジア)、**ウクライナ**及び**ジンバブエ**は、2025年から2030年の間に既存の輸出国に挑戦する準備が整っている有望株として際立っている。

コロンビア: コロンビアのブルーベリー産業は、初期の段階にあるものの極めて急速に拡大している。2024年現在、コロンビアは330万ドルに相当する約628トンの生鮮ブルーベリーしか輸出していない。しかし、栽培面積は急増している。コロンビア農業計画ユニット(UPRA(農業農村開発省の技術的付属機関))は、現在は約650ヘクタールのブルーベリー栽培面積が2026年までに669%増加し、3千〜5千ヘクタールに達する可能性があると推定している。コロンビアは、ブルーベリー市場でペルーの足跡をたどっている。その独特の赤道気候のおかげでコロンビアはブルーベリーを一年中生産することができ、これは北半球と南半球の両方でシーズンオフの市場に供給できる戦略的な優位性となっている。

コロンビア産ブルーベリーは既に米国、ヨーロッパ、アジアに一年を通してアクセスがあり、生産者は実績を上げるため品質を重視している。同国の生産量は、今後数年間で急激に増加すると予想されている。その予測が実現すれば、コロンビアは2030年までに数万トンを生産し、それらのベリーの大部分を輸出し、中南米における主要な供給国の一つとなる可能性がある。政府と業界は、ブルーベリーを有望な非伝統的輸作物と見なしており、この成長を積極的に支援している。

ジョージアは、その良好な気候と投資を活用して、東ヨーロッパで急成長中のブルーベリー輸出国となった。ジョージアのブルーベリー輸出量が2023年に2.5倍に急増して約2千トンに達したことで、同国は世界のトップ20のブルーベリー輸出国としてデビューすることとなった。わずか5年前にはジョージアは数百トンしか輸出していなかった。2019年から2023年までの年平均成長率は、55%という驚くべき数字であった。絶対量はまだまだ多くないが、ジョージアの傾向線は急上昇を示しており、EastFruitによると同国は輸出量を毎年平均約700トン増やしている。輸出量でイタリアやニュージーランド、さらにはオーストラリアといった国々を上回り、ジョージアはその可能性を証明した。

ジョージアのブルーベリーは初夏、時には5月末に成熟する。業界はオランダやポーランドの苗木業者とのパートナーシップ等により、国外からの投資や専門知識の恩恵を得ている。この成長が続けば、ジョージアの輸出量は2020年代後半までに5千〜6千トン以上に達し、さらに順位を上げる可能性がある。また、中東、EU等の価値の高い市場に近く、DCFTA(EUとの貿易協定)があることでも、物流上有利である。

ウクライナ: 2022年からの戦争と経済の混乱という大きな課題に直面しているにもかかわらず、ウクライナのブルーベリー産業は回復力と成長を示している。ウクライナは2020年以前に既に新興の輸出国であった。驚くべきことに、ロシアの侵攻にもかかわらず2022年と2023年には輸出が急激に加速した。ウクライナの輸出は、2019年から2023年までの期間に年率約21%（平均して毎年約530トン）で増加した。EastFruitの業界分析によると、2022年には輸出が1,100トン以上、2023年にはさらに940トン以上急増した。

ウクライナのブルーベリー栽培は、比較的安全な西部と中央部で拡大し、ウクライナ産ベリーのほとんどは貿易特惠の下でEU市場に販路を見出している。今後数年のうちに安定が回復すれば、ウクライナは主要生産国となるために必要な土地、気候、知識を備えており、長期的にはポーランドに匹敵するほどである。特に戦後の復興が農業を後押しすれば、ウクライナは2030年までにヨーロッパの主要な輸出国として浮上する可能性がある。

ジンバブエ: おそらく最も驚くべき新興輸出国は、急速にアフリカのブルーベリー輸出のサクセスストーリーとなったジンバブエであろう。5年前には事実上存在しなかったジンバブエのブルーベリー輸出は、現在、世界の輸出国の中で概ね13位にランクされている。実際、ジンバブエは2022年の輸出成長率で世界をリードし、過去5年間の平均でも輸出の成長は年率48%に達した。ジンバブエは毎年、前年に比べて平均1,300トン輸出を増やしている。

この爆発的な成長は、ジンバブエの出荷時期の早さを活用するために同国に農場を設置した多国籍ベリー企業からの投資によって推進されている。南アフリカよりも早く収穫が始まるのが、ジンバブエにとっての有利性である。ジンバブエの気候では、ちょうど北半球の出荷が終わり、南半球の他の供給国がピークを迎える前に市場に出荷することができ、これは非常に有利である。継続的な成長により、ジンバブエは輸出ランキングで上昇を続けると予測されており、現在の傾向が持続する場合、数年以内に輸出量でトップ10に入る可能性が高い。ジンバブエが2020年代の後半までに1万トン以上を輸出し、ブルーベリー貿易におけるアフリカの役割を強固なものにすることが予見できる。

モロッコは現在、輸出量で世界第5位に入っており、既に主要な輸出国である。ヨーロッパやその他の地域に供給し、着実に2桁の成長を遂げている。もはや「新興」ではないが、変化しつつある風景の一部である。

エジプトも新興輸出国で、多くの企業がブルーベリーの生産を試み、輸出を開始している。現在は少量だが、技術的な専門知識が向上するにつれて、その量は増えると予想される。実際、多くのブルーベリー市場参加者は、エジプトがイチゴの世界市場をどれほど素早く変化させたかを記憶しており、エジプトのブルーベリー市場への参入を非常に懸念している。

インドは国内でブルーベリーを栽培しており、中東や東南アジアに少量を輸出し始めているが、インドの輸出量は消費量に比べてまだ少量にとどまっている。また、**エクアドル**、**ケニア**等の国々もブルーベリーの輸出に参入し始めている。

全体的な傾向は明らかである。ブルーベリーの栽培は「グローバル化」しており、新たな生産国が供給の最もダイナミックな成長に貢献している。FAOのエコノミストであるアンドリー・ヤルマック氏は、「上位5カ国が最も注目されるが、最もダイナミックな成長は上位10カ国以外の国々で発生することが多く、今後数年のうちに新たな調達機会を提供するようになるだろう」と指摘している。

これらの新興輸出国は、グローバル市場にチャンスと課題の両方をもたらす。一方では、増大する需要に対応し、オフシーズンの果実の提供に役立つ新しい供給源を生み出す。例えば、コロンビアやジンバブエのような国からの通年供給が増えれば、輸入国の消費がさらに増加する可能性がある。一方、その急速な成長は、特に需要が同様の速さで拡大しない場合、供給過剰の懸念を悪化させ、価格に圧力をかける可能性がある。既存の輸出国は新たな競争に直面するだろう。例えば、南アフリカの生産者は、ジンバブエの台頭がシーズン序盤の優位性を浸食していると指摘し、ヨーロッパの生産者はウクライナとジョージアに注目している。結局のところ、これらの精力的な新興輸出国の参入は、拡大する供給量が確実に先行を見つげられるよう、世界的な需要の刺激と市場の開拓を継続することの重要性を浮き彫りにしている。

32. 米国 日本等のブルーベリー関税には楽観的

FreshFruitPortal 2025年4月21日

貿易政策の不確実性が増す中、北米ブルーベリー評議会(NABC)と米国ハイブッシュブルーベリー協議会(USHBC)の責任者は、安定性と年間を通じた提供が業界の長期的な成長の鍵であると述べている。

NABC、USHBC両団体の会長であるケイシー・クロンキスト氏は本サイト(FreshFruitPortal.com)に対し、「NABCは、ブルーベリー生産者、果実仲介業者、加工業者、食品製造業者、その他の関係者を一つに固く結びつけ、情報を提供し、擁護する役割を果たしている。我々の使命は、ハイブッシュブルーベリー業界の利益に貢献するため団結した声となり、擁護者となり、リソースとなることである」と述べた。(以下「」は同氏の話)

同氏は、NABCは1965年以来米国とカナダにおけるブルーベリー業界の声であり、米国農務省(USDA)の監督の下で独立して運営される連邦農業研究・振興プログラム(及びその実施機関)であるUSHBCの設立に重要な役割を果たしたと付け加えた。

米国とカナダは長年にわたり、両国におけるブルーベリーの安定供給のために協力してきた。現在、ドナルド・トランプ大統領が、本人が言うとおりの友人にも敵にも同様に、米国との関係に対する関税の設定に取り組んでいることは、長年のパートナーの間の共生関係に悪影響を与える可能性がある。

「米国はブルーベリーの純輸入国であり、季節が逆転する国からの輸入が年間を通じた消費者の需要を牽引している。一貫して小売の場に生鮮ブルーベリーを置くことは、ブルーベリーを家庭の定番にするために重要であり、米国の生産者の成功を支えている。」

米国はブルーベリーの主要な輸入国であり輸出国である。USDAによると、2024年の生鮮ブルーベリーの輸出量は前年比36%増の1億400万ポンド(約4万7千トン)で、初めて1億ポンドを超え、史上最高を記録した。カナダは米国からの輸出の最大の市場であり、近年では輸出量の94%を占めている

クロンキスト氏は、米国とカナダとの関係を通じて、まるで国境がないかのように物事が機能してきたと述べた。「米国産のベリーは、加工や低温貯蔵のためにカナダに輸送され、その後米国に送り返されて包装され、米国市場で販売される。」

関税が引き上げられた場合の損失を予測している人が多いが、まだ大きな変化が起こっていないため、クロンキスト氏は現在の状況について依然として楽観的である。「現在、ブルーベリーを含めUSMCA(米国・メキシコ・カナダ協定)準拠の製品の関税は0%である。これまでのところ、我々の輸出先の国はどれも相互関税に報復していない。実際、最大の貿易相手国の一部はトランプ政権との交渉のテーブルに着いている。」

今シーズンは相互関税の影響を受けないとも予想されている。「チリとペルーから輸入されるブルーベリーには、10%の相互関税が課されることとなっている。しかし、輸入シーズンは数カ月先であり、それまでに多くのことが変わる可能性がある。」

両団体は、現在米国産ブルーベリーに関税を課している日本、インド、ベトナム等の国々との交渉における関税の議論について楽観的である。「日本の場合、冷凍ブルーベリーが日米貿易協定から抜け落ちて以来、その関税(無糖6%、加糖9.6%)の撤廃を提唱してきた。ベトナムとインドは、米国のブルーベリー輸出の新興市場であるが、高い関税が輸出の伸びを制約している。ベトナムの関税は、生鮮が15%、冷凍と乾燥が30%である。インドはすべての形態で10%である。」

一方で、季節が逆転した国からの輸入が年間を通じた消費者の需要を牽引し、ブルーベリーを米国の家庭の必需品にするための主要な方策であるという信念は依然として最優先事項であるものの、両団体は引き続き「米国のブルーベリー業界の輸出市場での優先事項を主張し、米国の生産者が競争力を持つための公平な競争環境を求める」考えである。

「また、予定されているUSMCAの再評価にも取り組み、業界を支援し、米国の消費者が年間を通じてブルーベリーにアクセスできるようにするための公正で自由な貿易を提唱するつもりである。」

33. モロッコ 歴史的な貿易ミッションがシンガポール市場を勝ち取る

[EastFruit 2025年4月22日](#)

シンガポールへのモロッコ産果実・野菜の貿易ミッションが本日成功裏に終了し、いくつのモロッコ産プレミアム青果物が既にこのアジアの取引先に向けて出荷の準備中である。

FAO投資センターのエコノミストでプロジェクトリーダーであるアンドリー・ヤルマック氏は、「4月22日にシンガポールで、モロッコ産のブルーベリー、チェリートマト、有名なナドルコットマンダリン及びメロンを供給する最初の予備契約が締結された。さらなる詳細についてはモロッコの企業が買い手と調整中であり間もなく決まると見られるが、既に一部の出荷が準備中である。これらの迅速な成果は、FAOチーム、我々の国際コンサルタント達、それにモロッコのFOODEX(後述)による6カ月間の献身的な取組みの結果である」と述べた。

高品質で持続可能な農産物で東南アジアに目を向ける 安全、高品質で、持続可能な方法で栽培された果実や野菜の世界的な需要の高まりに応え、モロッコは戦略的に、シンガポール等の国が同じ価値観を共有する東南アジア地域への信頼できる供給国として自らを位置付けている。シンガポールとマレーシアへの果実・野菜貿易ミッションは、この方向への大きな一歩である。

国連食糧農業機関(FAO)と欧州復興開発銀行(EBRD)がモロッコの輸出促進機関であるFOODEXと連携して主催したこの貿易ミッションは、この地域における貿易関係を強化し、持続可能なパートナーシップを促進することを目的としている。

モロッコの輸出業者6社が、シンガポールの代表的青果物輸入業者12社とBtoBミーティングを行った。次の会合は、4月24日にマレーシアのクアラルンプールで予定されている。シンガポールに本社を置き、タイとマレーシアに事務所を置く大手輸入業者クラウンフルーツ社の営業販売スペシャリストであるナンディ・オデンドル氏は、「特に長期的で持続可能なパートナーシップの構築を目指す場合、対面での会合には本当の価値がある」と述べている。

この会議の高いレベルでの成功を確実にするため、モロッコの輸出業者達は慎重に選抜され、適格性を検証された。さらに、現地市場に関する詳しい情報を提供され、市場、貿易、ビジネス文化に関する2回の研修を受けた。主催者チームはまた、シンガポールの主要な青果物バイヤー12社を選び、構造化されたBtoB会合のフォーマットを開発した。FAO投資センターの園芸市場アナリストであるイエヴヘン・クジン氏は「完璧にマッチしたようだ。モロッコの輸出業者とシンガポールの輸入業者は、品質へのこだわり、多様でユニークな製品の提供、それに持続可能性という点で類似の価値観を共有している」と述べた。

主催者によると、輸入業者達からのフィードバックは大変肯定的で、モロッコ産のベリー類とマンダリンの購入を増やすことや、チェリートマトや場合によってはメロン、アボカドについてモロッコからシンガポールや地域内の他の国に供給する直接取引を行うことに熱心であった。FOODEXのイドリス・エル・ホンサリ氏は、「今日の対話の質に大変満足している。このミッションに備えるための我々の努力は明らかに報われた」と述べた。

モロッコの勢い ヤルマック氏はイベントの中で、最近のデータを用いて青果物部門におけるモロッコの印象的な実績と輸出の可能性を強調した。すなわちモロッコは：品質と持続可能性を重視しており、それはEU、カナダ、米国等への長年の輸出の成功、また最近の日本での成功(No.35参照)によって確認されている。/世界で最も急成長中の青果物輸出国トップ3に入っている。/世界のチェリートマトの輸出を主導し、生鮮トマトの純輸出国として第2位である。/プレミアムマンダリン輸出の世界的リーダーの一員である。/生鮮ブルーベリーの第3位の輸出国であり、既にシンガポールとマレーシアへの3大供給国の1つである。/季節に適したソフト柑橘類 - 旧正月市場に最適 - の供給国である。/価値の高い農産物の幅広い品揃えを提供している。

持続可能な貿易に向けた戦略的取組み 今回の貿易ミッションはBtoB会合にとどまらず、東南アジアにおける強靱な食品貿易、持続可能なサプライチェーン、及び多様な供給に向けた長期的なビジョンを反映している。モロッコ産農産物がシンガポールとマレーシアのスーパーの棚で目立つようになる中、この貿易ミッションは、より強く結びつき、持続可能で、確実な地域の食料システムを構築する上での重要な節目である。

34. 米国ワシントン州 生産者は関税による輸出リスクを警戒

[FreshPlaza 2025年4月23日](#)

ドナルド・トランプ大統領は、すべての国際的な輸入品に関税を課す計画を4月初旬に発表した。ワシントン州の議会代表団を含め、この動きは即座に反発を受けた。マリア・キャントウェル上院議員と超党派のグループは、特に米国内でも輸出が盛んなワシントン州の経済に悪影響を及ぼす可能性があるとして、将来的に同様の関税を防ぐための法案を提出した。

ジェイ・インスリー元知事はワシントン州ヤキマ市で開かれた集会(州の民主党が主催)で、過去の関税が同州の輸出量に与えた悪影響を強調し、特に報復関税によって苦しめられたインドのリンゴ市場に言及した。同市場の規模は2023年に関税が撤廃されるまでに、2019年の1億2千万ドルから2022年の300万ドル未満にまで激減した。インスリー元知事は、ワシントン州の産品に対する開かれた市場の必要性を強調した。

ワシントン州政府農業局のリアン・ハム氏は、中国からの報復関税が以前、ワシントン州産サクランボの市場を弱体化させたと指摘した。トランプ大統領が関税を課す前、中国は米国北西部産のサクランボの主要な輸出市場であった。この関税により、サクランボを含む米国産品に50%の関税が課せられ、輸出量が大幅に減少し、生産者の収益に影響を与えた。

ワシントン州立大学のジェフ・ラックステッド氏は、輸出市場が閉鎖されると、生産者は新しい市場を見つけるか国内で販売しなければならず、価格の低下と収入の減少につながると説明した。同氏また、報復関税の可能性に触れ、それが農業のような輸出の多い産業に一層の影響を与える可能性があるとした。

ワシントン大学のデブラ・グラスマン氏は、トランプ大統領の関税は、従来から米国と強い貿易関係を持つ国々に広範な影響を与えるものであり、異例であると指摘した。ハム氏(前出)は、反米感情の高まりは、信頼と協力を必要とする貿易関係を損なう可能性があるとした。

北西部園芸評議会のマーク・パワーズ氏は、トランプ氏の関税が貿易障壁を取り除く交渉につながるかも知れないという希望を表明した。しかし、同氏は現在の関税がワシントン州の果実市場に与える悪影響と、生産者が国際市場にアクセスする際に直面する課題があることを認めた。同氏は、他国が米国市場に対して持っているアクセスと同様に、貿易協定における公正な扱いを求めた。

出典: Cascade PBS

35. モロッコ産柑橘類が日本市場に上陸

[FreshPlaza 2025年4月23日](#)

モロッコのFOODEX(食品輸出管理調整機構)は、モロッコ産の柑橘類の最初のコンテナが日本で正式に荷降ろしされ、モロッコ王国は品質とトレーサビリティの点で世界で最も要求の厳しい市場の1つに参入したと木曜日(17日)に発表した。モロッコ産農水産物の輸出の促進と管理を担当する同機構は、この成功は「モロッコ産農産物の競争力と国際的に認められたノウハウ」を示すものであるとしている。

同機構は、日本はモロッコ産の農産食料品にとって13番目に大きな市場であり、その厳しい要件でよく知られているとして、「日本がモロッコ産の柑橘類、特に評価の高いナドルコット品種を受け入れたことは、これらの産品が最も厳格な衛生基準に適合することの証拠であり、市場の嗜好に応じた輸出品種の多様化への道を開くものである」と付け加えた。日本のある輸入業者は、「我々がモロッコ産の柑橘類を求めるのは、それが日本人に好まれるからだ」と述べ、モロッコ産の品質への日本の消費者の関心の高まりを強調した。

新鮮さと季節性に焦点を当てた食文化を持つ日本では生鮮果実の消費量が多く、モロッコ産柑橘類の重要な出荷先となる。日本のある輸入商社の購買部長は、「日本人はモロッコに対して良いイメージを持っている。モロッコ産柑橘類の日本での多くの成功と発展を願っている」と述べた。この進展をさらに強化するため、同機構は4月に訪日するモロッコの輸出業者10社の代表団に同行する。BtoBミーティング、東京市場への訪問及びコミュニケーションキャンペーンを通じてモロッコ側のオファーを宣伝し、主要な輸入業者との長期的なパートナーシップを築くことを目標としている。

出典: www.maroc.ma

36. ベルギー 地域農業大臣の訪日で洋ナシの輸出を推進

[FreshPlaza 2025年4月24日](#)

フランデレン地域農業大臣の実務訪問

VILT(ニュースサイト)によると、フランデレン地域のジョ・ブラウنز農業大臣(キリスト教民主党)は東京を実務訪問中に、ベルギー産洋ナシの長年の輸出案件にあらためて注意を促した。2012年から保留されているこの解禁要請は、日本の厳しい植物検疫要件もあって処理が遅れ、現在は5段階のうち第2段階にある。

ブラウنز大臣は、日本が本件を優先するという約束を得ており、夏までに具体的なフィードバックを得ることを目指している。同大臣は、輸出市場を多様化することの重要性を強調し、継続的な政治的支援への期待を表明した。ベルギーには、(フランデレン地域の)リンブルフ州を中心に約1千の洋ナシ生産者がおり、日本市場への供給体制は整っている。

同大臣はLinkedIn(ビジネス向けSNS)に、「今週、私は東京で日本の農林水産省を訪問し、再度リンブルフ州産洋ナシの輸出への関心を喚起した。日本は果実の輸入規制が特に厳しいが、当局は我々の洋ナシ案件を優先的に扱うことを示した。夏までに具体的な回答を得て、早く前進できることを願っている」と投稿した。

37. トルコ 今シーズンのサクランボ生産量は50～60%減少の予想

[FreshPlaza 2025年4月25日](#)

トルコの果実輸出業者デミルフレッシュフルーツ(DFF)社のオーナーであるアルパー・ケリム氏は、トルコのサクランボはシーズンが始まる前に、特に同国の中央地域で霜による被害を受けたとして、「中央地域のサクランボは、霜によってほぼ全滅した。この地域は、トルコのサクランボ総生産量の50%を占める。気温は3～4日連続で-15℃を下回り、サクランボの果樹園にとっては大惨事だ」と述べた。(以下「」は同氏の話)

ケリム氏によると、同社の果樹園はまだ満開ではなかったため、ほとんどの被害を免れた。「弊社の場合、自社のサクランボ果樹園は主に標高の高い山地にあるため、果樹はまだ開花前の休眠中であり、霜による被害を免れた。契約生産者の中には、残念ながら霜の影響を受けた人もいる。そのため、自社の果樹園の状況は良いものの弊社も影響を受ける。しかし、損失は数トンに過ぎず、霜が降りた後に最初に予想したほどは悪くない。」

トルコのサクランボ産業は厳しい状況に置かれているが、ケリム氏は来シーズンに向けて戦略を変更する予定はない。「弊社のサクランボの損失はそれほど大きくなく、約15%と予想されている。トルコの国全体では、サクランボの少なくとも50～60%が失われた。弊社では戦略を変えるつもりはなく、自力で輸出できるサクランボがまだあるため積極的に取り組む。弊社では契約済みの出荷数量は減らさずに履行した。弊社の生産・調達能力は強固であり、今シーズンはより良い価格とより良い売上げを期待している」

ケリム氏は、サクランボの入手が難しいため、価格の上昇を回避する術はないと強調する。「現在の状況を考えると、サクランボの価格が昨年よりも高いのは驚くことではない。しかし、トルコのサクランボの価格は最大で10～20%上昇するはずであり、これは外国為替にも関連している。通常より60%または70%も高い価格では市場でさばけないため、そのような価格でトルコ産のサクランボを販売することはできない。」

「事業を堅実に展開し、果樹園にまだ完璧な品質のサクランボがある企業には、自然と好機が訪れるものと期待している。弊社ではDeBaブランドとサクランボの品質に大変自信を持っており、トルコのサクランボの一般的な状況は悲惨であるが、我々自身が克服すべき課題はそれほど多くないと思う。厳しいシーズンではあるが、取引先が期待する良いサービスを提供しつつ、昨年よりも量を増やしていきたいと考えている。サクランボ業界は長期的な取組みを重視しており、毎年このような気象条件になると予想している人はいない。我々は、このような厳しい時期にしっかりと対処し、取引先を支援しなければならない。」

執筆者: ニック・ピーターズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

38. メキシコ ブルーベリーの輸出見通し

EastFruit 2025年4月28日

主に米国とカナダの市場を対象とし、メキシコは急速に世界有数のブルーベリー輸出国の1つとなった。メキシコの2022年の生鮮ブルーベリーの輸出量は前年比微減(-2%)の7万1,509トンにとどまった。米国農務省(USDA)の推計によると、メキシコの2023年の生産量は推定7万4,800トンに達した。これは新植と生産技術の革新による収量の向上によるものであり、前年比12%の増加となった。同省は、2024年の生産量が8万1千トン(8%増)に達したと推定しているが、メキシコは世界市場でペルーとの激しい競争に直面しており、拡大はやや鈍化している。実際、冬の期間のペルーからの輸出は、春先に高値で取引されていたメキシコの従来からの出荷期間を侵食している。そうは言っても、メキシコは特に米国産が入荷する前の冬と春の端境期の米国市場に生鮮ブルーベリーを提供する上で不可欠である。

メキシコのブルーベリー輸出の約97%は米国向けで、これは地理的な近さとUSMCA/NAFTA(米国・メキシコ・カナダ協定/北米自由貿易協定)の下での有利な貿易枠組みを反映している。メキシコ産のベリー類は、数日以内に(テキサス州やカリフォルニア州にトラックで運ぶ場合は数時間以内にも)米国の小売店の棚に並ぶことができるため、海上輸送が必要な南米産よりも鮮度が優れている。これによりメキシコは、主に1月から4月にかけてと、晩秋に再開する「シーズン中」の供給について、確固たる地位を築くことができた。

メキシコの輸出業者は近年、限定的ながら他の市場への多角化に着手し、ヨーロッパやアジアへの少量の輸出が試みられているが、米国は引き続き2030年までの主要な買い手となるだろう。米国の1人当たりブルーベリー消費量は増加を続けており、メキシコにとっての市場が拡大している。注目すべきは、メキシコからの生鮮ブルーベリーの輸入が米国市場で国内産を補完していることで、意外にも、冬の時期にはペルー産やチリ産が主体と見られる約2万トンのブルーベリーがメキシコに輸入されており、これはメキシコが輸出国であると同時に(米国向けの)中継地でもあることを示している。

メキシコの気候と生産システムにより、特定の地域(メキシコ中部の高地やバハカリフォルニア州など)では連作が可能である。業界は、極端な天候から保護し、出荷シーズンを延長するため、遮光ネット、トンネル等による保護された栽培や(土を使わない)基質栽培に投資してきた。一方、水利用の可能性が問題となる場合があり、一部の地域では干ばつにより生産者が苦境に立たされたが、2023/24年度は栽培の拡大に十分な水が供給された。これらの投資と恵まれた自然の結果として、メキシコの実産量は毎年緩やかに増加を続けると予想されている。予測によると、メキシコは2020年代後半までに年間生産量が9万~10万トンに達する可能性があり、国内消費量も多少増加するとすれば、これはおそらく7万~8万トンの輸出量に相当する。

メキシコにとっての逆風の1つは、世界的な価格環境である。ペルーの存在によりブルーベリーが豊富になったため、メキシコの輸出の成長率は鈍化している。それでも、技術革新と品質改善はメキシコの戦略の中心である。この業界では、多くの場合にドリスコルズ社のような世界的なベリー企業との提携を通じ、改良された品種を迅速に採用してサイズと風味の特性を改善している。収穫後の取り扱いも重点な分野であり、輸送時間が短いため、メキシコ産のベリー類は非常に新鮮なまま届くことが多く、品質が維持されている限りこれは競争上の有利性である。

要約すると、メキシコは、トランプ政権によって課された新たな関税にもかかわらず、引き続き世界の3大輸出国の1つであると見られ、米国の出荷シーズン以外における北米での供給の要である。メキシコのブルーベリーセクターは、ペルーの指数関数的な成長には及ばないかも知れないが、米国の旺盛な需要に支えられて2030年までの堅調で持続可能な成長軌道に乗っている。

(この文は、EastFruitの記事「メキシコとスペインの見通し: 異なる大陸のブルーベリーの双子達」の中のメキシコに関する記述の翻訳です。)

39. オーストラリア 日本との園芸製品の貿易を強化

FreshPlaza 2025年4月29日

ホートイノベーション(Hort Innovation: 園芸産業のための非営利研究開発法人)の戦略的目標の1つは、国内と世界の両方の需要を喚起し、オーストラリアの園芸セクターの収益性と持続可能性を確保することである。これには、オーストラリアの園芸製品の価値の高い輸出市場での宣伝と市場アクセスの改善が含まれる。最近では、オーストラリアの園芸製品の主要市場である日本との貿易関係の強化に力を入れている。

ホートイノベーションは、戦略的な取り組みとパートナーシップを通じて、日本での業界ネットワークの構築に取り組み、オーストラリアの園芸製品を紹介し、オーストラリアの生産者の評判を高めている。オーストラリアと日本のパートナーシップは逆転した季節性により補完的であり、両国が互いの市場をサポートすることが可能である。日本はオーストラリアにとって3番目に大きな園芸製品の貿易相手国であり、2025年の輸出額は1億7,560万豪ドル(約160億円)に達すると見られる。オレンジ、マカダミアナッツ、生食用ブドウが主要な輸出品であり、それぞれ輸出の42%、13%及び13%を占めている。日本はまた、メロンやアボカド、サクランボ等、様々な青果物を輸入している。

豪日園芸展示紹介事業の一環として3月11日に開催された「日が昇る国で味わう真南の国の味(Taste of the Land Down Under in the Land of the Rising Sun)イベント」と、4月9日に開催された「オーストラリアの魅力を味わう(Taste the Wonders of Australia)イベント」は、日本との関係強化の鍵であった。これらのイベントでは、輸出市場のチャンスと課題について業界や政府の関係者と話し合う円卓会議等が行なわれた。さらに、食品・ワインワークショップでは日本の業界の代表者にオーストラリアの料理とワインを紹介し、複数回の盛大なディナーでは100人以上の日本の参加者にオーストラリアの高級食材を紹介した。

豪日展示紹介事業は、ホートイノベーション、オーストラリア貿易投資促進庁(Austrade)及び農水林業省(DAFF)が主催し、ビクトリア州政府貿易投資局(Global Victoria)とタスマニア州政府の支援を受けていた。現在の事業は、ホートイノベーションのフロンティアズ(研究開発)事業とDAFFのオーストラリア園芸製品展示紹介助成金によって資金提供されている。オーストラリア食品ワイン協力グループの投資は、(DAFFの)農産物貿易・市場アクセス協力(ATMAC)事業の助成金によって支えられている。

日本市場の分析によると、青果物の価格が19%上昇し、日本の消費者はより価格意識が高くなっているが、依然として品質を重視している。オーストラリアの農産物は清浄で安全であると見なされており、市場での評判を高めている。世界的な不確実性の中で日本政府は安定したパートナーを求めており、季節が逆転しているオーストラリアは、日本の主要なパートナーと位置付けられている。日本では持続可能性の重要性が高まっており、オーストラリアがその持続可能性の取り組みを強調する好機となっている。「ブランドオーストラリア」のイメージを支援・強化することで、市場での製品の認知度を高めることができる。

出典: Hort Innovation

40. 南部アフリカ 柑橘類の輸出は課題はあるものの成長を予測

[FreshPlaza 2025年4月29日](#)

南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は、2025年の柑橘類輸出シーズンの見通しの概要に関する声明を発表し、いくつかの重要な課題はあるものの安定した成長を予測している。

南部アフリカの柑橘類産業は、2025年のシーズン中に合計1億7,110万箱(15kg/箱(特記した場合を除き以下同じ))の柑橘類を輸出するものと予測されている。この数字は、昨年の最終的な輸出数量と比較して3.6%の増加に相当する。

CGAのCEOであるボイチョコ・ンシャビリ博士は、「我々は今シーズンについて慎重ながらも楽観的である。業界がこれまで歩んできた堅調な成長軌道は今のところ維持されている。しかし、深刻な脅威は残っている。今シーズンの重要な要因の1つは、一部の生産者にとって米国市場を混乱させる可能性のある関税騒動である」と述べた。

ンシャビリ氏は、南アフリカと米国の政府間で、季節的な青果物についての貿易上の手打ちまたは免除を確保する緊急性を強調した。そのような合意がなければ、一時停止されている30%の関税が2カ月半後には発効する可能性がある。

晩生のマンダリンの改訂推計値が追加され、2025年の推計総輸出量がまとまった。リアンリ品種の輸出量は2024年の220万箱から微減の210万箱、オッリ品種は横ばいの210万箱と予想されている。ナドルコット/タンゴ品種は若い果樹の成本化に牽引されて力強い成長を示しており、昨年の2,330万箱から2,570万箱に増加すると予測されている。その他の晩生のマンダリン品種は、2024年の270万箱から320万箱に増加すると推定されている。

これらの晩生マンダリンの推計値は、CGAが3月に発表した今シーズンのレモン、オレンジ、グレープフルーツ及び早生マンダリンの推計値に続くものである。レモンの輸出量は、2024年から5%減の3,290万箱と予測されている。ネーブルオレンジは5%増の2,610万箱、バレンシアオレンジは6%増の5,200万箱と予測されている。グレープフルーツの輸出量は1,350万箱(17kg/箱)と推定され、これも6%の増加となる。早生のマンダリンについては、ウンシュウミカンの輸出量は180万箱で横ばい、ノヴァ品種は2%増の450万箱、クレメンタインは10%増の540万箱と予想されている。

ンシャビリ氏は、「これまでのところ、2025年シーズンに向けて好調なスタートを切っているようだ。シーズン序盤は、主にレモンとグレープフルーツの輸出が大部分を占めている。レモンは需要があり、価格が良いようだ。また、グレープフルーツの輸出量は昨年の同時期よりも55%多い」と述べた。

CGAの最高執行責任者(COO)であるポール・ハードマン氏は、柑橘類セクターの将来の成功は主要な課題の解決にかかっていると強調した。これには、港湾の物流の非効率性、迫り来る米国の関税の不確実性、その他の市場での既存の関税、厳格な植物検疫措置による欧州連合等主要地域へのアクセスの制限等が含まれる。ハードマン氏は、これらの問題が解決されれば、柑橘類産業は輸出をさらに拡大し、2032年までに南アフリカ経済にさらに10万人の新規雇用をもたらす可能性があると付け加えた。

訳注: 南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)は、南部アフリカ(南アフリカのほかジンバブエ、モザンビーク、ボツワナ、エスワティニ、ナミビアを含む)の輸出用柑橘類の生産者の利益を代表しています。(同協会のウェブサイトによる)

41. 中東地域のモモ・ネクタリン市場は成長が見込まれる

FreshFruitPortal 2025年4月30日

IndexBox(市場情報サイト)のレポートは、中東地域のモモとネクタリンの市場は、需要の増加に牽引され、今後10年間にわたって上昇傾向を維持するものと予想されると伝えている。業績は加速すると予想されており、2024年から2035年の期間の平均成長率(複利年率(以下同じ))は1.6%と予測されている。

この成長により、2035年末までに市場規模は210万トンに増加すると予測されている。取扱額の面では、市場は同期間に年率2.3%で成長し、2035年末までに推定24億ドル(名目卸売額)に達すると予想されている。

消費動向 中東地域のモモとネクタリンの消費量は、2年間の増加の後、2024年には2.6%減少し合計170万トンとなった。この減少にもかかわらず、消費パターンはこの期間中、概ね安定していた。2023年の消費量は180万トンに達してピークを記録し、2024年にはわずかに減少した。モモとネクタリンの2024年の市場販売額は、19億ドルで前年比2.6%減少した。この数値は、生産者と輸入業者の総販売額を表しており、物流と小売の費用は含まれていない。

国別の消費量 2024年に消費量が最も多かった国は、トルコ(78万1千トン)、イラン(59万3千トン)、サウジアラビア(7万3千トン)で、合わせて総消費量の83%を占めた。そのほか、イスラエル、ヨルダン、イラク、シリア及びレバノンが合わせて15%を占めた。2013年から2024年の期間のヨルダンの増加は年率18.5%で、最も顕著な成長を遂げた。他の主要国の成長率はそれよりも緩やかであった。金額ベースでは、イラン(7億4,800万ドル)、トルコ(6億6,700万ドル)、サウジアラビア(1億400万ドル)が最も市場販売額が大きく、合わせて地域市場全体の80%を占めた。

生産量 中東地域のモモとネクタリンの生産量は、2年間の増加の後、2024年には2.5%減少し合計190万トンであった。2013年から2024年までの生産量の成長率は年平均1.2%で、変動は小さく、比較的安定した傾向を示している。最も顕著な成長を示したのは2017年で、生産量が14%増加した。

生産量のピークは2023年の200万トンで、翌年にはわずかに減少した。全体的な成長は、収穫面積と収量の両方が徐々に増加したことに帰することができる。生産額では、2023年に22億ドル(輸出価格で推定)のピークに達し、2024年には21億ドルとわずかに減少した。

2024年には、トルコ(100万トン)、イラン(59万6千トン)、ヨルダン(10万3千トン)が上位の生産国であり、合わせて総生産量の89%を占めた。イスラエル、レバノン、シリア、サウジアラビアは合わせて9.6%であった。サウジアラビアは、2013年から2024年の期間に年率8.7%と生産量の大幅な増加を記録した。

収量と収穫面積 2024年のモモとネクタリンの平均収量は、やや減少したものの18トン/ヘクタールと2023年と同程度を維持した。2013年から2024年の期間の収量は、多少の変動はあるものの年率平均2.4%で増加した。2023年には最高収量の1ヘクタール当たり18トンを記録したが、翌年にはわずかに減少した。中東地域の2024年のモモとネクタリンの総収穫面積は、前年から横ばいの10万8千ヘクタールであった。収穫面積は全般的に減少傾向にあるが、2014年には最も顕著な増加(前年比12%増)が見られた。

貿易 モモとネクタリンの輸入量は、3年間の減少の後、2024年には46%急増して12万4千トンとなった。しかし、全般的な輸入量は概ね横ばいの傾向を示している。輸入額ベースでは、2024年のモモとネクタリンの輸入額は1億1,100万ドルに達した。時系列的に見ると、輸入額の最高は2021年に記録された1億6,500万ドルであった。2024年の主な輸入国はイラク(5万1千トン)とサウジアラビア(4万2千トン)で、合わせて総輸入量の74%を占めた。これに、アラブ首長国連邦(1万3千トン)とシリア(7,900トン)が続いた。

執筆者: カーラ・エスピノーザ・グティエレス

42. 米国カリフォルニア州 柑橘類の最近の状況

[FreshPlaza](#) 2025年5月1日

カリフォルニア州の柑橘類生産者達は、天候に恵まれた柑橘類シーズンを振り返っている。オレンジ、マンダリン、レモンの栽培、梱包、出荷業者であるヘブンリーシトラス社のダニエル・ロドリゲス氏は、「重大な天候問題は報告されていない。数日間雨が降り、収穫が遅れた。しかし、雨は果実に良い影響を与え、被害は何もなかった」と話す。(以下「」は同氏の話)

ネーブルオレンジ 5月の第1週時点で、ネーブルオレンジの供給量は非常に少なくなっている。「今シーズンの最後の収穫が今週の金曜日、5月2日に始まるため、出荷量は1カ月以内にほぼゼロになると予測している。」5月の最終週もしくは6月の第1週まで、限られた量の供給が続くと予想される。

バレンシアオレンジ 一方、バレンシアオレンジの供給量は豊富である。「しかし、糖度はまだ上がっていない。糖度が最適なレベルになるまでには、さらに約4週間かかるかも知れない。」果実のサイズは小さめで、入り数113~168の範囲が多い。

オレンジの引き合いは旺盛だが、これはネーブルオレンジの供給量の減少と、甘くてサイズの大きいバレンシアオレンジの出荷量が限られている結果である。このため価格が着実に上昇し、大幅な上昇傾向を示している。

マンダリン マンダリンの出荷量はさらに増えているが、品質が低下し始めており、その結果、需要は横ばいである。「適切な施肥を行った経験豊富な生産者は、5月末まで持ちこたえることができる。一方、経験の浅い生産者は、今後数週間で果実の減少を目にするだろう。」シーズン終了までの数週間、品質と出荷量の低下により、マンダリンの価格は徐々に上昇する。

レモン レモンに関する最新情報は、それほど楽観的ではない。ほとんどの果実は第1地区(セントラルバレー地域)から出荷されているが、品質は劇的に低下しており、価格は12月初旬から低迷している。「低価格は、市場価格に影響を与えている輸入品との競合の結果である。低品質と低価格の組み合わせにより、供給業者は損益分岐点以下の価格で販売している。そのため、多くの生産者は、果実を樹上に残して自然落果に任せるか、搾汁施設に送ることを選択している状況にある。」

他の地域との競争 この時期は、世界の他の柑橘類産地との競争が比較的少なくカリフォルニア州にとって有利な時期であるが、今年の初めには状況が異なった。「1月と2月にはモロッコ産との激しい競争に直面し、港湾市場が飽和状態になり、レモンとマンダリンの販売に影響を与えた。」同社は、カリフォルニア州だけで柑橘類を栽培し、同州から中西部、東海岸、中南部の地域にまたがる国内市場で流通させている。

夏の販促活動 ロドリゲス氏は、同社の夏の柑橘類販促キャンペーン『創造力を解き放とう』を発表できることを喜んでいる。この取組みは、夏の終わりの収穫物の鮮やかな風味で消費者の食体験を向上させるように仕組まれている。「今年の夏のシーズンには、プレミアムな晩夏のネーブルオレンジ、ジューシーなバレンシアオレンジ、それにレモンを自信を持って供給することとしており、その用途の多様性を披露できることを嬉しく思う。また、5月末まで高品質なマンダリンの提供を続ける。」同社はこのキャンペーンで、オンラインとパッケージを用いたブランド展開と物語性のある訴求を通じて、創造性を爆発的に解き放つことを目指している。「柑橘類は、夏の期間を通して、料理の探求と楽しい瞬間を得る触媒になると考えている。」

人工知能 同社の社内では、農作業の最適化から販売戦略の強化までの事業全体で、先進的な人工知能(AI)を戦略的に導入している。「消費者の関わりと技術革新において新たな時代を迎える中で、弊社はダイナミックなチームとして、柑橘類のブランド展開の最前線に身を置き、大きな違いを生み出すことに力を入れている。品質へのこだわりと、AIを活用した先を見越したアプローチにより、新しく有意義な方法で消費者との繋がりを築くことができると確信している。」

執筆者: マリーカ・ヘムス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

43. 北米 ブルーベリーのシーズンはメキシコ産から米国産へ

[FreshPlaza 2025年5月5日](#)

メキシコ産ブルーベリーの出荷シーズンは、今後4～6週間で終了に近づく。プロデュースラヴァーズ社のジェラルド・ロペス氏は、「一部の生産者はピークを過ぎた品種の剪定を既に開始しており、剪定は6月中旬まで行われる」と述べ、今シーズンはメキシコ産の果実が少なく、需要は非常に堅調であったと付け加えた。

これは、ブルーベリーの栽培条件が良好であったシーズンを受けたものである。天気が良く、冬は霜が降りず、春は涼しかった。このことが、果実が急速に成熟しないように成長を管理するのを助け、最終的にサイズが良く品質の優れた果実を生産することができた。メキシコでは一年中ブルーベリーが出荷されているが、輸出は通常6月末までに終了し、市場の状況によっては6月中旬にも終了する。メキシコからのブルーベリーの輸出は、9月上旬に再開される。

米国産ブルーベリーのシーズン開始 今後については、米国産ブルーベリーの出荷がジョージア州で進んでいる。ロペス氏は、「ジョージア州の生産者と同州産果実の販売業者が適切に対応すれば、ブルーベリーの販売を促進する堅調な需要を確保できたはずだ。しかし、ジョージア州では出荷の立ち上がりが緩慢であった」と話す。価格については、通常4月末に市場が軟化するが、今シーズンは5月の初めにそれが見られた。同氏は、「ジョージア州の供給がピークに達するため、市場価格は来週から下がると思う」と言う。

一方、メキシコの生産者達は、次のブルーベリーシーズンに向けて既に準備を進めている。ロペス氏は、「我々は、他の一部の品種からマデイラ、アズラ、ポップ等のプレミアム品種にシフトしている。他の品種も良いのだが、需要はこれらの品種にシフトしている」と話す。

執筆者：アストリッド・ファン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

44. エジプト 早生ブドウは早期出荷と消費者志向への対応に注力

[FreshPlaza 2025年5月6日](#)

エジプトでは生食用ブドウの早生品種の出荷シーズンは5月に始まる。アブデルカデル・ハボニー氏は、今シーズンは成功が約束されているとして、「生産者は、早期の供給と高い品質を確保する栽培方法と、消費者の嗜好への適応を組み合わせ、市場の状況をうまく活用することができた」と話す。(以下「」は同氏の話)

ハボニー氏によると、今シーズンのエジプトの生産者の品種選択は、消費者の嗜好を重視している。「エジプトには栽培可能な品種が数多くある。また、北半球産のブドウがあまりない早い時期に出荷シーズンが始まるという利点がある。必要なのは、早期出荷の成功と消費者の嗜好への対応のバランスが取れた品種に注力することであった。消費者は、何よりもしっかりとした感触で甘い味の種なし品種を好むことがわかった。」

「そのため、シーズンの初めには、アーリースイート、スぺリア、フレイムシードレスなどの品種に力を入れた。幸いなことに、今シーズンの品質は顧客の期待に応えられそうだ。天候要因による難しさもあったが、最適な灌漑や制御された環境での生産など、高度な農業を実践したおかげで、収量と品質、中でも消費者が求めるブドウの硬さと糖度の安定性を向上させることができた。」

ハボニー氏によると、シーズン後半には、既に市場のチャンピオンとなっている品種の出番となる。「晩生品種は、クリムゾンシードレスをはじめ、市場で最も人気の高い品種が多い。今シーズンは、レッドグローブ、キングルビー、ブラックマジックにも力を入れることとした。晩生品種は砂漠土壌の開拓農地で栽培されることが多く、その結果、強度、硬さと甘い風味のあるブドウになる。」

この生産者は次のように結論付けている：「生食用ブドウは間違いなく最も重要なエジプト産果実の1つであり、生産から梱包、物流サポートまで優先的に扱われる。弊社のグループでは、何十年にもわたって生産の経験を蓄積し、市場での高い評価を築き上げてきた。この評価は、最高の品質を追求し、透明性と互いの成功に基づく長期的なパートナーシップに焦点を当てることで獲得したものである。」

執筆者：ユーネス・ベンサイド(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

45. 米国農務省 1万5千人以上の職員が離職

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月7日

ロイターが確認した米国農務省(USDA)の議会スタッフ向け説明資料によると、トランプ政権が提示した2回の金銭的勧奨策のいずれかを利用して、同省の職員の約15%が離職した。大統領の辞職勧奨プログラムは、仕事を辞めた場合に数カ月分の給与と福利厚生を提供することによって、連邦政府の労働力を縮小することを目的としている。

金曜日の朝の説明資料によると、同省では、2月に行われた最初の「一定期間後の辞職」プログラムでは3,877人の職員が、4月の2次募集では1万1,305人の職員が契約に署名し、合計1万5,182人が離職したとロイター通信は報じている。同省は、ブルック・ロリンズ農務長官は同省の効率化に取り組んでいるとしている。

トランプ氏の2期目の任期開始以降、連邦政府の職員全体(軍人を除く)で26万人以上が解雇されるか、早期退職するか、解雇の対象として指名されるか、または手当付きの自主退職を受け入れるかした。これは、連邦政府の職員(同)の約10分の1に相当する。広報担当者は、ただし森林消防士、獣医師、食品安全検査官等の53の職種は、各機関の重要な機能の継続を確保するために免除されていると述べた。

職域別の離職者 離職者には、全米の農業サービス庁(FSA)の事務所で農業生産者を直接支援する郡職員674人や、生産者に技術支援を提供し、農地保全プログラムを管理する天然資源保全局の職員2,408人が含まれる。ロリンズ長官は、FSAのような最前線のスタッフは、今後は削減の影響を受けないと述べた。

全米の食肉、鶏肉、鶏卵の供給の安全を守る食品安全検査局の職員も555人離職する。動植物検疫局の1,377人のスタッフの離職の一部は、鳥インフルエンザへの対応に影響を与えると見られる。

連邦政府機関全体で、疲弊と解雇されるかどうかの不確実性を理由に、より多くの職員が2回目の辞職勧奨プログラムを選択した。

出典: Reuters

46. 台湾 日本の学校給食に7年連続でパイナップルを供給

[FreshPlaza](#) 2025年5月7日

農業部(MOA) (農業省に相当)は、5月5日に台南市で開催されたイベントで、日本の学校給食における台湾産パイナップルの使用が連続7年目にも継続すると発表した。

この取り組みは、2019年7月にMOAの農糧署(農業食料庁)と茨城県笠間市との間で締結された「食を通じた文化交流と発展的な連携強化に関する覚書」の一環である。それ以来、台湾はバナナ、マンゴー、パイナップル及びザボンを同地域の小中学校に提供してきた。MOAによると、台湾は今年、茨城県内の5つの市の92の学校に約3トンのパイナップルを届ける予定である。

MOAの胡忠^{フー・ジョンイー}一次長は、台湾産の果実は、その品質と独特の風味で世界的に認められていると述べ、台湾産のパイナップルは特に日本で好まれており、2021年以降輸出量が増加し、2024年には過去最高の1万9,373トンに達したと見られると指摘した。

胡氏はまた、学校向けの農産物提供プログラムが日本の若い世代の間での台湾産の果実に対する肯定的な認識に繋がり、将来の消費パターンに影響を与える可能性があるとして述べた。同氏は、地元の供給業者に地場の食材を使った革新的な取組みを促すとともに、MOAは台湾の農産物を振興するため日本の官民部門とさらに協力する意向であると述べた。

出典: Taiwan Today

47. 米国のブルーベリーシーズン 供給予測は微減だが堅調な見通し

FreshFruitPortal 2025年5月8日

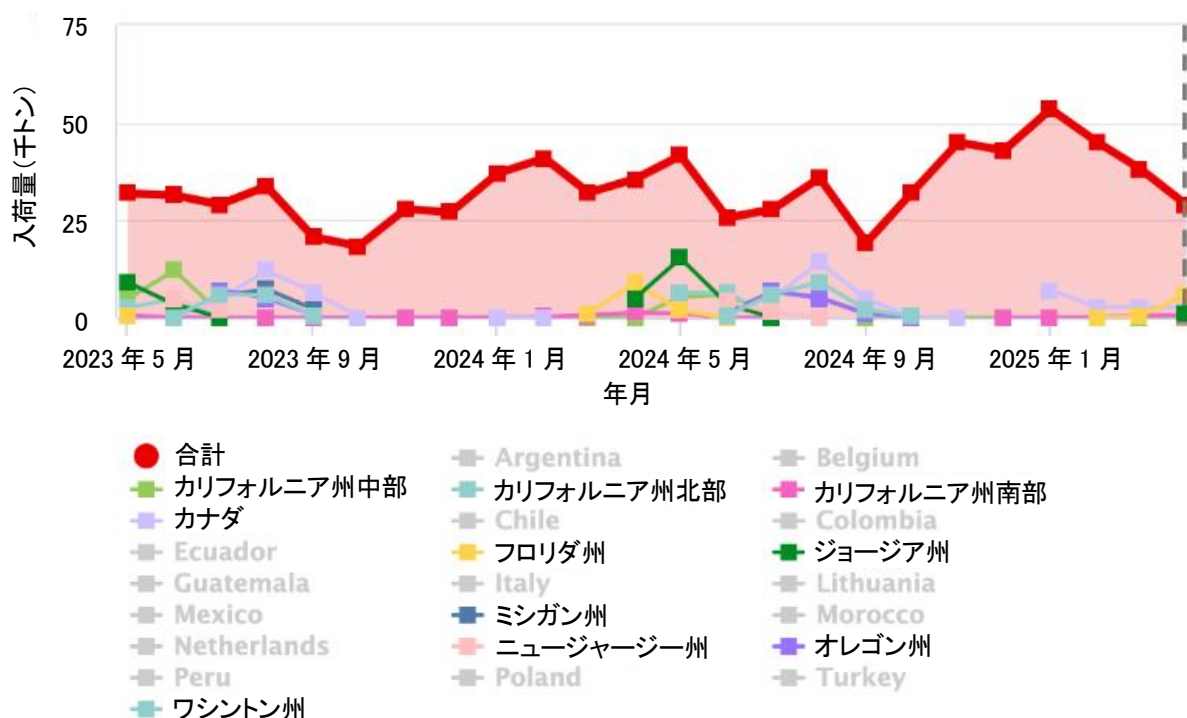
2025年の米国のブルーベリー出荷シーズンは、幸先の良いスタートを切った。予想出荷量は前年比でわずかに減少したものの、生産者や販売担当者は品質と消費者の需要について楽観的な見方をしている。米国ハイブッシュブルーベリー協議会(USHBC)によると、全米の生産量は、2024年の7億4,050万ポンドよりわずかに少ない7億2,100万ポンドと予測されている。ナチュライプファームズ社のマリオ・フローレス氏は、「理想的な天候と栽培条件のおかげで、最適なサイズとしっかりとした食感、さらに並外れた甘さを備えたプレミアムなベリーを提供している」と述べた。(1億ポンド=約4万5,360トン)

同社は、有機ブルーベリーに対する消費者の需要は高く、販売促進が可能な大量の出荷は、カリフォルニア州では5月5日から26日まで、フロリダ州とジョージア州では5月5日から21日までが最盛期であると見込んでいる。ジョージア州の有機栽培品は6月まで安定して出荷されると予想されるが、全体的な量が減少するため価格は上昇する可能性がある。カリフォルニアジャイアントベリーファームズ社は、オレゴン、ワシントン、ブリティッシュコロンビア(カナダ)、カリフォルニアの各州からの出荷により、最盛期は7月から8月と予想している。

ミシガン州トラバースシティに拠点を置くノースベイプロデュース社は、ジョージア、ノースカロライナ、ニュージャージー、ミシガン、ブリティッシュコロンビアの各州を含む幅広い地域からブルーベリーを調達している。フロリダ州とジョージア州では昨年のハリケーンと夜間の低温の影響が長引き序盤には課題があったものの、同社はベリー類全体で堅調な成長を期待している。夏の販促活動は、特に7月と8月のミシガン、オレゴン、ワシントン、ブリティッシュコロンビアの各州からの慣行栽培品の堅調な供給の恩恵を受けると見られる。

ノースベイプロデュース社とカリフォルニアジャイアント社はどちらも、小売業者のニーズを満たすために様々なパッケージサイズを用意し、大量出荷の週に備えている。2025年のブルーベリーシーズンは、シーズン序盤の悪天候や、南東部で長引く収穫量の問題にもかかわらず、消費者には豊富で高品質な果実を届け、小売業者には強力な販促のチャンスをもたらすものと見込まれる。

米国市場へのブルーベリー入荷量 産地別



出典: 米国農務省「マーケットニュース」のデータに基づき Agronomics が作成

48. 米国 ブルーベリー生産者はカナダとの関税問題に直面

[FreshPlaza](#) 2025年5月9日

ワシントン州フランクリン郡の大規模ブルーベリー農園では、茂みが地平線まで広がっている。この広大な農場を所有している一家のレイ・ビルン氏は、「この品種はドレイパーだ」と述べた。

同州は、米国のブルーベリー生産を主導している。しかし、その果実の多くは、米国の消費者に届く前に、梱包、加工、貯蔵のためにカナダに渡る。トランプ政権の関税は、米国とカナダの国境を跨ぐブルーベリー産業に1つの課題を投げかけている。

ビルン氏の農場では、収穫のために約800人の労働者を雇用する。ビルン氏は「我々の決定は他の人々に影響を与える」と述べ、関税の不確実性がある中での戦略的な意思決定の重要性を強調した。ビルン氏一家は、このほかにも米国とカナダの両方で大規模な農場を運営しており、ブルーベリー産業の国境を越えた相互依存性を際立たせている。

ビルン一家がワシントン州で生産するブルーベリーのほとんどはブリティッシュコロンビア州(カナダ)で調製・加工され、国産品のラベルを付けて米国に戻される。この過程で、果実はカナダへの出入国の2回、関税がかかる可能性があり、ビルン一家の将来の計画を難しくしている。ビルン氏は、「現在、国境の両側で一時的に停止している事業がある」と指摘した。

年間約4千万ポンド(約1万8千トン)のワシントン州産ブルーベリーが調製・加工のためにカナダに出荷されている。成熟がピークとなる夏の時期には、生鮮及び冷凍のベリーをタイムリーに販売することが重要である。関税により、加工処理や低温倉庫へのアクセスが妨げられる可能性があり、それは供給過剰につながる。

ワシントン州北部でベリーを栽培するポール・サンガ氏は、物流上の課題を予想し、8月には過剰なベリーがある一方で流通の選択肢が限られることを念頭に、「そんなに短い期間にどう取り扱えばよいのか」と問いかけた。

北米ブルーベリー評議会のディレクターであるアリッサ・ハウトビー氏は、ベトナム、日本、マレーシア、台湾等、大量の米国産ブルーベリーを輸入している国々での関税問題の解決を求めており、「我々は、ベトナム、日本、マレーシア、台湾の関税の問題が対処されることを望んでいる」と述べた。トランプ政権が好結果を出せば、米国内のブルーベリー業界の一部に利益をもたらす可能性がある。

出典: Marketplace

49. 南アフリカ 品薄の海外市場が早生の柑橘類を歓迎

[FreshPlaza 2025年5月12日](#)

リンポポ州ホドスブルート地域にあるソレイユグループは、同州内に柑橘類の農場と梱包施設を所有している。同社は、サプライチェーンが南半球に切り替わると、南アフリカで最も早く輸出を開始する企業の1つである。そのためトルコ、スペイン、エジプト、イスラエルからの最後の果実と市場で直接競合する。

サンフェッド社の創設者兼執行役員であるヤコブス・ファンスターデン氏は、今年は、収穫量が減少した中国をはじめ多くの北半球の生産国が早期に出荷を終了したため、その競合は最小限に抑えられており、新シーズンを開始するに当たって素晴らしい状況にあると話す。

同氏は、「特にヨーロッパからは、我々（リンポポ州）の約1カ月後に東ケープ州の収穫が始まるまでのシーズン初期のレモンについて多くの問い合わせがあった」として、ヨーロッパでは南アフリカ産のユーレカレモンがスペイン産のヴェルナ種よりも好まれていると述べた。

中東は従来からシーズン序盤のレモンの需要が強い市場であるが、供給過剰から数カ月で暴落して問題になったことが何度もある。同氏の意見では、レモンに関しては、市況はおそらく6月までに下がり始めると見られる。

同氏はまた、「ロシアは弊社の柑橘類の購入を毎年増やしている。ロシア市場は弊社にとってより大きく、より重要な市場になりつつあり、価格は安定してきている。我が国とロシアとの関係が、ロシアを将来に向けた重要な市場にしていると思う」と述べた。

グレープフルーツの消費への投資 グレープフルーツは、市場に過剰供給しないように生産者の間の慎重な調整が必要であり、柑橘類の中で管理が最も難しいものになっている。実際、グレープフルーツの生産者と輸出業者の間の協力は、おそらく南アフリカの果実輸出では他に例のないレベルのものである。

グレープフルーツに対する消費者の需要は多くの市場で低迷しており、柑橘類業界は、5月に予定されている販促キャンペーンが、多くの市場で、特に若い消費者のグレープフルーツ需要を喚起することを期待している。

何年か前には、南アフリカのグレープフルーツの最大の買い手の1つは日本であったが、去年は100万箱にも届かなかった。高齢化が進み、それに伴いグレープフルーツの需要が激減した。また、グレープフルーツは、従来型（ブレイクバルク）の船で日本へ輸送されており、これは最も費用のかかる海上輸送方法である。

この点で韓国が日本にとって代わった。ファンスターデン氏は、「韓国は日本よりある程度安定しているが、それでもアジアの市場は需給関係によって常に上下する。彼らは供給過剰に非常に敏感だ」と話す。（中略）

オレンジ果汁濃縮物の価格がグレープフルーツの栽培面積を侵食 南アフリカのグレープフルーツの出荷量は、生産者が果樹園を維持しているため、近年安定している。ファンスターデン氏は、去年の歴史的に高いオレンジ果汁濃縮物の価格に対応して、グレープフルーツ果樹園の廃止が加速すると予想している。

果汁濃縮物の世界的な入手可能性は高まっており、果汁濃縮物の価格は昨年の高値を繰り返すことはないと思われる。2024年に南アフリカが大きな恩恵を受けたこの利益を共有しようと、エジプトでは多くの輸出業者や生産者が既に果汁工場を設置しているか、設置を計画している。

ファンスターデン氏は、エジプトが果汁市場に関与するようになったことは悪いことではないと考えており、「2級品のオレンジを搾汁用に仕向けると言う選択肢があることで、多くの低い等級のエジプト産果実が市場から排除され、特に年の後半に向けて1級品の果実のチャンスが増える。」

ソレイユシトラス社の果実の大部分は、植物検疫上の理由からリスクの高い出荷先となる可能性があるヨーロッパ向けである。「弊社では、常に果樹園で何が起きているかを確実に把握している。我々は自分たちの園地をよく知っている。リスクを減らすため一部の園地の果実は決してヨーロッパ向けに梱包しないし、ヨーロ

ツパ向けの園地は精査している。毎週、調査レポートがまとめられ、病害虫の出現の兆候を少しでも見つけると、直ちに細心の注意を払っている。」

カンキツ黒星病の防除に長年使用してきた特定の殺菌剤など、危険と見なされる化学物質の使用許可が毎年減る中、業界の研究機関である柑橘類調査インターナショナルは、来シーズン使える代替品を見つけるために昼夜を問わず取り組んでいる。同氏は、「我々は年々、生物的防除がうまくなっている。これは、総合的病害虫管理の非常に重要な側面である。一瞬たりとも果樹園から目を離すことはできない。」

出荷に関して同氏は、インド洋側の隣国であるモザンビークでの最近の政情不安のため、中部・東部地域の柑橘類に関し、当面は同国のマプト港からの出荷を行わないことを決定したと述べた。(以下省略)

執筆者：キャロライズ・ヤンセン

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事) 中東市場は南アフリカ産オレンジの入荷に期待

[FreshPlaza 2025年5月8日](#)

スペインとエジプトからの供給が大幅に減ったことで、オレンジの不足が中東市場に影響を及ぼしている。

グローバルスターグループの調達責任者であるカシフ・シャハザード氏によると、今年は早生の南アフリカ産オレンジの到着が大いに待ち望まれている。この輸入業者は、「中東の柑橘類市場ではいくつかの要因が柑橘類の不足に繋がり、2025年は奇妙な状況になっている」と報告している。(以下「」は同氏の話)

「その主な理由の一つは、従来からこの地域の柑橘類産業に大きく貢献してきたエジプトからの供給の減少である。これは、エジプトにおける果汁工場の役割が拡大して需要の構図が変わり、さらに市場の動向に影響を与えているためである。エジプトからの供給の減少は、スペイン産ネーブルオレンジの不確かな状況によりシーズン後半の競争がエジプトにとって非常に有利になっているにもかかわらず発生している。」

「通常、スペインは第20週(5月中旬)まで中東市場への供給を続けるが、今年はスペインの天候状況と輸出用果実の品質が悪いため、出荷シーズンは第14週(4月初旬)で終了した。この予想外の異変により、エジプト産のネーブルオレンジとバレンシアオレンジは貿易条件が改善して需要が安定し、同国の出荷シーズンの終わりまで市場での強みを取り戻すことができた。」

この輸入業者によると、通常は、南アフリカ産の早生のオレンジが中東市場に参入することは難しいが、今年は状況が異なる。

「従来は、市場にかなり大量の柑橘類が投入され、早生の南アフリカ産オレンジにとって困難な状況となっていた。南アフリカ産のレモンが2025年には力強いスタートを切り、残りの柑橘類シーズンに前向きな状況を作り出しており、既に従来とは逆の傾向が見られる。柑橘類の回りの状況をめぐる世界的な傾向を踏まえると、南アフリカ産の柑橘類、特にオレンジは、安定的で繁栄する年を迎えるものと楽観視している。」

「このシナリオは、業界にとってはここ数年なかった大きな転換点である。その理由は様々であり、果汁工場の出現、気候変動、世界的な物流問題などにより不確実性が増し、柑橘類の貿易パターンが予想外の形で再定義される可能性がある。青果物業界はますます予測不能になり、これからのシーズンにどんな驚きがあるのかわからない。」

「今のところ、サウジアラビア市場、さらに言えば中東市場全体が、南アフリカ産ネーブルオレンジを強く待ち望んでいる。南アフリカ自身からの供給過剰が起きない限り、早生のネーブルオレンジだけでなく、その後の柑橘類品種にも良い収益を期待している。」

執筆者：ユーネス・ベンサイド

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

50. ブラジル 2025/26年度のオレンジ収穫量は前年比36%増加の予測

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月12日

ブラジルの柑橘類栽培保護財団(Fundecitrus)の執行役員(兼事務局長)であるジュリアーノ・アイレス氏は今朝、2025/26年度のブラジル産オレンジ作柄予測レポートの発表に当たり、「良い知らせがある。豊作になるだろう」と述べた。(以下「」は同氏の話)

同団体はオレンジの生産量を、昨年の2億3,087万箱(40.8kg/箱)より36%多く、過去10シーズンと比較して4.8%多い3億1,460万箱と予測している。

要素別では、オレンジの結果樹本数を1億8,200万本、果樹1本当たりの果実数を30%増の617、ヘクタール当たりの収量を昨年の687箱より多い869箱、1箱当たり果実数を258玉、果樹1本当たりの収量を平均1.72箱と予測している。

「収穫量は平均的な水準に戻ってくる。去年は暑くて乾燥した異例の天候により作柄が劇的に悪かったため、収穫量の回復はこのセクターに安堵をもたらしている。」

予測される増収の背後にある主な推進力は、施肥、灌漑、病虫害防除等の生産者が実施する栽培慣行及び恵まれた天候である。

同団体は、2、3年前に植えられた果樹の成木化による結果樹の7.5%の増加のほか、灌漑の減少等の栽培方法の改善と果樹当たりの果実数の増加を報告している。

ブラジルの柑橘類栽培面積のほぼ半分が灌漑されている。「気候が変化して、気温が上昇し、降雨量はより少なくなり、サンパウロ州やブラジル中の多くの柑橘類産地で灌漑がほぼ不可欠な手段になりつつある。」

2025/26年度のオレンジの作柄に影響を与える要因

アイレス氏によると、覚えておくべきことの1つは、オレンジの木には落果のタイミングが3回あるということである。それは、生理的落下、開花直後、及び開花後である。

8月中旬から9月下旬にかけて、同国では通常よりも気温が高く、灌漑によって促進された最初の開花に影響を与えた。「天候は、特に中部地域、南部地域、北部地域、及び(ミナスジェライス州の)三角地域に影響を与えた。」

「開花の特徴が変わった。果実数が多くなったが、それは2回目の開花に集中している。2回目の開花は、9月から11月頃の激しい降雨の後で見られた。」

2回目の開花は今年の実産量の約70%を占めており、これは収穫が遅くなり、したがって果実の出荷が遅くなることを意味する。

調査によると、成熟した果樹の51%がカンキツグリーニング病に感染している。「競争力を維持するためには、果樹園を健全に保つ必要がある。」ただし、防除と管理の強化により、新たな感染は減少し始めている。

「我々はカンキツグリーニング病を減らし始めている。5年後には、現在よりもカンキツグリーニング病が少なくなると考えている。」

ナタール、バレンシア、ハムリンの各品種は最も生産量が多く、1果樹当たりの平均果実数はそれぞれ753、695、692である。同団体は158グラムの果実重を期待している。

予測の次の更新は9月に発表される。

51. アジアのサクランボ市場は2025年も成長を続けるとの報告

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月12日

IndexBox(市場情報サイト)の最近のレポートは、アジアでのサクランボの需要が今後10年間増加すると予想されるとしている。アジアのサクランボ市場の拡大速度は鈍化すると予測されており、量的な年平均成長率(複利計算。以下同じ)は約2.3%で、2035年までに約210万トンに達すると推定されている。一方、金額ベースの市場価値は約4.5%で成長し、卸売価格は約116億ドルに達すると予想されている。

消費

2024年のアジアのサクランボ消費量は、前年比3.7%増の約170万トンであった。年による顕著な変動はあるものの、平均消費量は過去11年間で年率約3.9%増加した。

2014年以降、消費量は77%以上増加し、2024年にピークに達した。アジアでのサクランボの市場価値は2024年に約71億ドルに達し、前年比15%の増加を示した。

2024年の数量ベースでの主な消費国は、トルコ(63万トン)、中国(48万7千トン)、ウズベキスタン(18万6千トン)で、合わせて約78%を占めた。中国は2013年以降、年率約19.2%と最も急速な消費の伸びを記録した。金額ベースでは、推定37億ドルの中国が首位で、トルコ(18億ドル)とウズベキスタンがそれに続いた。

2024年の1人当たりのサクランボ消費量はトルコ(7.3kg)が最も多く、次いでウズベキスタン(5.2kg)、レバノン(4.7kg)の順であった。中国の消費量は長年にわたって大幅に増加し、高い成長率を維持している。

生産

アジアでは2024年に前年比5.4%減となる約130万トンのサクランボが生産された。2013年からの長期的なトレンドは、年率平均約1.8%の増加を示しているが、成長率の変動が見られる年もある。最も生産の伸びが大きかったのは2015年で、15%増加した。2024年の総生産額は約35億ドルで、年によって変動がある。

トルコの実産量は、アジア全体の半分以上に当たる69万6千トンで、突出して最大の生産国である。ウズベキスタン(21万8千トン)とイラン(12万5千トン)がこれに続く。トルコの実産量は緩やかに成長し(年率3.2%)、一方ウズベキスタンの実産量はより急速に増加(同10.9%)した。イランの実産量は減少した(同-7%)。

2024年のサクランボの平均収量は1ヘクタール当たり約7.3トンで、前年からわずかに低下した。2013年以降、収量は年率平均2%で増加しているが、多少の変動はある。アジアの収穫面積は2023年に過去最大の約18万2千ヘクタールに達し、2024年には前年をわずかに下回る約17万4千ヘクタールであった。

貿易

アジアの2024年のサクランボ輸入量は約53万7千トンで、2023年から23%急増した。総輸入額は約41億ドルで、中国が輸入量の約84%に当たる約45万1千トンを占め、最大の輸入国となっている。その他の主要な輸入国(地域)は、韓国、台湾、イラク等である。

2024年の輸入価格は、1トン当たり平均約7,576ドルで、前年比で約5.5%上昇した。価格水準は国によって異なり、韓国が最も高かった(1トン当たり約9,097ドル)。

アジアのサクランボ輸出量は2024年に大幅に減少した。約14万3千トンが他国向けに出荷され、前年比19.1%の減少となった。しかし、より長期的に見ると輸出は以前に比べて急激に増加しており、2020年には18万3千トンのピークに達した。2024年の輸出額は約3億3千万ドルであった。

トルコ(約6万7千トン)が主な輸出国で総輸出量の約47%を占め、ウズベキスタンとアゼルバイジャンがそれに続いた。2024年の輸出価格は1トン当たり平均約2,311ドルで、前年比20%上昇したが、その傾向は時間の経過とともにある程度の変動を示している。

52. 米国 2024年の有機青果物販売額は95億ドルに

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月13日

有機農産物ネットワーク(OPN)が発表した2024年の「有機農産物の現状」レポートは、小売業の取り組みの増加と若い世代の間での人気の高まりによる「有機青果物の勝利の年」について紹介している。このレポートによると、消費者はこれまで以上に有機栽培の果実や野菜を受け入れており、小売業者も対応を強化し、品揃えを拡充するとともに、アボカドやスナック用の農産物などの有機青果物を選択しやすくしている。

2024年の米国における有機青果物の販売額は5.7%増の95億ドルと力強い成長を遂げ、数量は6.1%増加した。レポートによると、慣行栽培の農産物の販売額は2.7%増、販売数量は2%増で、有機農産物はこれを上回った。有機農産物は現在、農産物全体の小売総販売額の12%及び同販売数量の7%を占めており、市場での影響力を一層拡大している。

米国内の地域別実績 米国南部地域の販売額は前年比7.2%増で33億ドルを超え、次いで西部地域が29億6千万ドルであった。北東部は有機農産物の販売額で3位にランクされており、中西部は販売額が15億ドルで最下位であった。

品目別販売額 ベリー類の販売額は前年比11.8%増の18億5千万ドルで、3年連続で販売額トップの品目となった。有機ベリーは、慣行栽培のベリーに対し66.6%の価格プレミアムを獲得し、消費者がこれらの人気の高い果実に対して引き続きより多くの支払いを行う意欲があることを明確に示した。

次に好調だったのは14億ドルのパック入りサラダで、リンゴは7億800万ドルと引き離されて第3位であった。有機リンゴは2024年に力強い成長を遂げ、販売額は前年比6.8%増で、4,500万ドル増加した。販売量では18.2%増の2億8,100万ポンドと大幅に増加し、消費者需要の増加を示した。(1億ポンド=約4万5千トン)

一方、量に関してはバナナが6億1,300万ポンドで引き続き有機青果物部門で最も売れた商品であり、リンゴは2億8,100万ポンドでベリーを僅差で上回った。慣行栽培のバナナに対する有機バナナの価格プレミアムは32.9%で、引き続きより手頃な価格の選択肢の1つであり、有機に価値を見出す予算重視の消費者にアピールした。バナナの販売額は16.1%増の4億9,200万ドルであった。柑橘類の販売数量は1億600万ポンドで、販売量で7位にランクインした。

有機ブドウとアボカド ブドウは有機農産物のトップ商品の一つで、2024年には8.5%増の2億8,800万ドルで、2023年に比べ2,260万ドル増加した。ディバインフレーバー社のカルロス・ボン副社長はレポートで、「より新しく、より早く、より甘い品種の発表が間近に迫っており、種無し赤ブドウの輸出は今後のシーズンに変化し始めるだろう。カリズマ (IFG FortySeven) とルビーラッシュ (Sugra53) の赤ブドウの2つの新品種は、将来に向けて有望な可能性を示している」と述べている。

同様に、アボカドは2024年の販売額が2023年よりも大幅に増加し、総販売額は8.4%増の2億7千万ドルであった。ただし、報告書によると、数量ベースではアボカドの販売量は6.1%減少し、前年の総販売量に比べて420万ポンド減少した。有機アボカドは、2024年に慣行栽培品に比べて54.7%の堅調な価格プレミアムを保持し、2023年に達成した56%の価格プレミアムをほぼ維持した。

ジュマラ社の事業開発ディレクターであるゲイリー・カロロソ氏は、アボカド生産者は果樹園への投入コストの高騰に直面しており、それが彼らの将来の有機栽培の成長の機会を妨げたと指摘し、「消費者は依然としてインフレと物価上昇の影響を感じているため、一時的に需要に影響を与えている」とOPNに語った。

小売業者の視点からは、インフレは2024年も引き続き主要な懸念事項であったが、販売額と販売数量への影響は2023年ほど顕著ではなかった。しかし、気候関連の天候不順によって引き起こされる供給上の問題は、入手可能性と価格に影響を与える課題として深刻化している。その他の最優先事項として、競争力のある価格設定と消費者教育がある。昨年、小売業者と卸売業者は同様に、創造性と回復力を備えた清浄で栄養価の高い農産物に対する消費者の需要の高まりに対応したと報告書は記している。

レポート全文はこちら(原文参照)

53. 米国フロリダ州 オレンジ出荷予測は前年比36%減

[FreshPlaza 2025年5月14日](#)

米国農務省(USDA)は、2024-25年度のフロリダ州の全オレンジの出荷量予測を発表した。それによると、出荷量は合計1,163万箱と推定されており、前回の予測からは1%未満の微増となったが、昨シーズンの最終出荷量からは36%の減少となっている。出荷予測は、バレンシア種以外のオレンジ(早生、中生及びネーブル種)458万箱とバレンシア種のオレンジ705万箱に区分されている。

バレンシア種以外のオレンジの予測は458万箱とわずかに下方修正された。ネーブルオレンジはバレンシア種以外の総出荷量の約2%に当たる10万箱を占めている。一方、バレンシア種のオレンジの予測出荷量は705万箱とわずかに上方修正された。2025年4月28日から29日にかけて実施された現地実測調査によると、バレンシア種の樹列の約99%が収穫されていた。この修正は、加工業者が4月30日に実施した既に加工した果実とこれから加工する予定の果実の数量を評価した調査によって裏付けられている。

グレープフルーツについては、USDAの予測は130万箱で変わらず、白肉種が14万箱、赤肉種が116万箱となっている。グレープフルーツの収穫は完了したと報告されている。レモンの予測は60万箱で変わらず、すべての認定品種を網羅したタンジェリンとマンダリンの予測も40万箱の据え置きである。

USDAのレポートには、「二乗平均平方根誤差」(RMSE)と呼ばれる予測信頼性の尺度も含まれている。5月のフロリダ州の全オレンジの出荷量予測では、この指標は2.2%(ハリケーンに襲われた4回の異常なシーズンを除外すると2.3%)であり、最終的な出荷量と予測の誤差が3回に2回はこの指標を超えないことを意味している。過去20年間で、実績が最終予測を下回ったのは13回、上回ったのは7回であった。

レポート全文はこちら(原文参照。レポートの中の統計表の翻訳を次ページに掲載しています。)

(関連記事)米国フロリダ州 柑橘類再活性化への希望

[FreshPlaza 2025年5月13日](#)

米国農務省(USDA)は、2024-25年度の(フロリダ州の)出荷量を、オレンジ1,163万箱、グレープフルーツ130万箱、タンジェリン及びタンジェロ40万箱とする2025年5月の柑橘類改訂出荷予測を発表した。

予測では、オレンジが3万箱上方修正されているが、グレープフルーツ、タンジェリン及びタンジェロの予測出荷量は、4月の出荷予測から変わっていない。先月の出荷予測では、オレンジが1,160万箱、グレープフルーツが130万箱、タンジェリン及びタンジェロが40万箱とされていた。

フロリダ州柑橘類協会(FCM)の執行副会長兼CEOであるマット・ジョイナー氏は、「フロリダ州の柑橘類生産者達からは、カンキツグリーニング病と戦い、ハリケーンの被害から回復するための対応策のおかげで、果樹が次第に健全になっているという話を日々耳にする。今月の上向きの勢いは、何世代にもわたって業界を支えてきた家族経営を維持し、作物を市場に出荷するための生産者達の絶え間ない努力を反映している。アルブリットン州上院議長のビジョンと、研究と改植の取り組みを進めるために議会から前例のない資金提供を得られる見込みのおかげで、フロリダ州の代表的作物の活性化に向けた希望が見られる」と述べた。

アルブリットン州上院議長は3月26日、2025-26年度の州財政予算でフロリダ州の柑橘類産業に2億ドルを割り当て、そのうち1億9千万ドルを樹園地の管理を支援するための野外試験、治療ツール、新植、既存の果樹のリハビリに充てる提案を発表した。1億9千万ドルのうち、少なくとも1億2,500万ドルは苗木の取得と植栽を支援する。さらに、この提案には、柑橘類梱包業者が機器の改修、新技術の採用、または新しい機器の購入を行う際に、フロリダ州農業消費者サービス局(FDACS)が資金の80%を提供するための1千万ドルが含まれている。

フロリダ州の上院と下院は、州の柑橘類産業に対して異なる予算配分案を提出している。両院は、7月1日に発効する州の2025-26会計年度の予算を承認するための交渉を行っている。その結果により、研究、果

樹園の管理、改植など、柑橘類関係の取組みのための資金が決定される。

合衆国上院のアシュリー・ムーディ議員は4月22日、「国産オレンジ果汁製造保護法案」の上院への提出を
発表した。この法案は、フロリダ州産オレンジ果汁の品質、味、栄養に影響を与えることなく国内供給を強化
するため、オレンジ果汁の標準的な基準を可溶性固形分の重量比(ブックス)10.5%から10%に改定するこ
とを提案している。

この法案が可決されれば、国内産オレンジをより柔軟に活用できるようになり、米国における外国産柑橘類
への輸入依存を減らし、業界に利益をもたらす可能性がある。

生産者がカンキツグリーニング病 - ミカンキジラミによって引き起こされ、2005年以来フロリダ州の商業的
果樹園に影響を与えている - と戦い続けている中、この法案は非常に重要である。

(関連記事)米国 柑橘類出荷予測 5月

米国農務省農業統計局 2025年5月12日
フロリダ州農業消費者サービス局との共同発表

柑橘類の品目別出荷量及び予測出荷量 - 州別及び米国計

品目及び州	出荷量 ¹		2024-2025 予測出荷量 ¹	
	2022-2023 (1,000 箱)	2023-2024 (1,000 箱)	4 月予測 (1,000 箱)	5 月予測 (1,000 箱)
バレンシア種以外のオレンジ ²				
フロリダ州	6,150	6,760	4,600	4,580
カリフォルニア州 ³	36,000	38,300	40,000	40,000
テキサス州 ³	570	690	530	530
米国計	42,720	45,750	45,130	45,110
バレンシア種のオレンジ				
フロリダ州	9,670	11,300	7,000	7,050
カリフォルニア州 ³	8,600	7,100	7,500	7,500
テキサス州 ³	560	490	350	350
米国計	18,830	18,890	14,850	14,900
オレンジ合計				
フロリダ州	15,820	18,060	11,600	11,630
カリフォルニア州 ³	44,600	45,400	47,500	47,500
テキサス州 ³	1,130	1,180	880	880
米国計	61,550	64,640	59,980	60,010
グレープフルーツ				
フロリダ州合計	1,810	1,790	1,300	1,300
赤肉系	1,560	1,550	1,160	1,160
白肉系	250	240	140	140
カリフォルニア州 ³	4,500	3,900	4,300	4,300
テキサス州 ³	2,250	2,400	2,300	2,300
米国計	8,560	8,090	7,900	7,900
レモン ³				
フロリダ州 ⁴	(NA)	(NA)	600	600
アリゾナ州	1,400	950	950	950
カリフォルニア州	25,800	24,500	27,000	27,000
米国計	27,200	25,450	28,550	28,550
タンジェリン及びマンダリン ⁵				
フロリダ州	480	450	400	400
カリフォルニア州 ³	23,500	27,200	26,000	26,000
米国計	23,980	27,650	26,400	26,400

¹ 1箱当たりの正味重量(ポンド) オレンジ: カリフォルニア州 80、フロリダ州 90、テキサス州 85。グレープフルーツ: カリフォルニア州及びテキサス州 80、フロリダ州 85。レモン: アリゾナ州及びカリフォルニア州 80、フロリダ州 90。タンジェリン及びマンダリン: カリフォルニア州 80、フロリダ州 95。
² カリフォルニア州ではネーブル種及びその他の品種。フロリダ州及びテキサス州では早生品種(ネーブル種を含む)及び中生品種。
³ 当月の推計値は以前の予測値を繰り越し。
⁴ 2024-25 年度産から推計を実施。(NA)はデータなし。
⁵ タンジェロ及びタンゴールを含む。

54. エジプト オレンジは早期の出荷終了を控え高値

[FreshPlaza 2025年5月14日](#)

エジプトではわずかに残った梱包施設も最後の出荷を終えるため、オレンジの出荷シーズンは早期の終了に近づいている。供給量の減少、急激な価格の上昇、長引く紅海の危機等、波乱に満ちたシーズンであったが、輸出業者への補助金の削減はこれらすべてに影響を与えた。

アルマンシ青果会社の輸出部長であるモハメド・シェイカー氏は、「ほとんどの梱包業者はオレンジの出荷をやめた。弊社では、アラブ諸国向けの今シーズン最後の発送を行っているが、ヨーロッパ向けの輸出は既に停止しており、処理能力を下回って稼働している。まだ出荷中の数少ない輸出業者も遅くとも5月中には出荷を終了すると思う。去年は6月末に終了したので、今シーズンは短い」と話す。(以下「」は同氏の話)

この短い出荷期間の背景には、供給量の減少とエジプトの国内需要の劇的な増加がある。すなわち、果汁濃縮工場が繁盛し、生産者にとって魅力的な支払い条件で大量の原料を引き取っている。「今シーズンの輸出量は、生産量の減少、国内需要の競合及び紅海危機の継続的な影響により15%減少した。」

オレンジの供給をめぐる競争は、4月初旬のイードアルフィトル(断食月終了の祝祭)休暇の直後に激化し、価格を新たな高値に押し上げた。「エジプト産オレンジの生産者価格は、休暇の直後に1トン当たり800米ドルに達した。これはこれまで見たことのない水準である。一部の梱包施設がオレンジの出荷をやめることを決定し、その後価格は落ち着いたが今でも高止まりしている。」

昨シーズン(2023/24年度)のエジプト産柑橘類の輸出量は、その前のシーズンに比べて21%増加して200万トンの大台を超え、そのうちオレンジは193万トンであった。1トン当たりの平均価格は、2022/23年度の497米ドルに対し、昨シーズンは474米ドルに下落した。

執筆者: ユーネス・ベンサイド(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

55. アルゼンチン 米国とブラジルの不作で早生オレンジの需要が増加

[FreshPlaza 2025年5月15日](#)

アルゼンチンは2025年の柑橘類シーズンに、サルスティアーナ、ネーブル、ミッドナイト、バレンシア等の伝統的な品種を出荷する。また、供給を多様化するため、ブラッドオレンジの試験も実施する。しかし、このセクターは、果実が市場に届くずっと前の段階で課題に直面している。高い内部コスト、限られたインフラ、さらに世界の物流システムの緊張が、生産者に直接影響を及ぼしている。

FAMA社のナウェル・ラビーノ代表は、「輸送が1時間遅れる毎に追加のコストが発生し、それが生産者に転嫁され、彼らは農場に投資できない」と話す(以下「」は同氏の話)。この国は良好な自然条件と輸出経験を有しており、同社は42年以上にわたり世界に果実を送ってきたが、南アフリカ、エジプト等の大国に対する競争力を維持するには不十分である。「アルゼンチンは、この2つの国が動かす量の1%も動かしていない。」

主なボトルネックは物流である。アルゼンチンは海上航路の末端にあり、輸送量が少ないことで海運会社の航路から除外されることも多い。「海運会社は、結局のところ我が国を航路から外し、代替の果実輸送手段を提供しない。」このセクターは、出荷の頻度と予測可能性が向上する可能性を求め、海運会社に対して地域として交渉する集団戦略を推進している。そのほか、植物検疫上の障壁と関税により、米国、ヨーロッパ等の重要な市場へのアクセスが制限されている。「その結果、甘い柑橘類を多くの市場に送ることができない。」

「しかし、特に米国とブラジルの生産量の低下によるオレンジの世界的な不足が、チャンスの窓口を開いた。これにより、アルゼンチンの出荷シーズンが始まると同時に、生鮮柑橘類、特に早生品種の需要が高まっている。全般的に非常に良い需要がある。」しかし、同氏は、前述の障害のために、輸出業者がこの状況を活用できない可能性があると明かした。このような中、焦点はアルゼンチン産品が際立つことができるニッチ市場であり、ラヴィーノ氏は、市場をめぐる戦いには量だけでなく、戦略的な情報も含まれると強調した。

執筆者: ダイアナ・サジャミ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

56. 世界のオレンジ市場(抜粋)

FreshPlaza 2025年5月16日

北米：南アフリカ産ネーブルが入荷する中、カリフォルニア州産柑橘類は品質を維持 カリフォルニア州産のネーブルオレンジとバレンシアオレンジの両方について、引き続き需要が供給を上回っており、生産者と出荷業者は安定した供給の維持に努めている。

カリフォルニア州の柑橘類シーズンは夏の気温が高く、果実の糖度の上昇と酸度の低下を促し、2024年と比較して高品質な果実が生産された。果実の品質の向上にもかかわらず、収量の向上と増加した収穫物を売りさばくための販売促進活動により、今シーズンの価格は昨年よりわずかに低くなっている。ここ最近はこの時期の典型的な傾向である価格の持ち直しが見られる。

カリフォルニア州のネーブルオレンジの供給量は、収穫の終了に伴って次第に減少している。これらのオレンジは、6月末まで市場に出回るものと予想される。南アフリカ産ネーブルオレンジの最初の入荷が同じ頃に予定されており、カリフォルニア州産から南半球産の供給へのスムーズな移行が確保される。

晩生の品種であるバレンシアオレンジについては、カリフォルニア州は豊富な供給量を維持しており、需要を支えると予想される今後の販促の取組みによって補完される。小売業者が夏の柑橘類品種の販促に力を入れることから、夏季の好調な価格設定環境が米国産柑橘類の販売をサポートすると予想される。

ブラジル：収量の増加と果樹園の拡大が生産量の伸びを牽引 柑橘類栽培保護財団(Fundecitrus)の最近の発表によると、世界最大のオレンジ果汁産地であるサンパウロ州及びミナスジェライス州(三角地域/南西地域)の柑橘類地帯の2025/26年度のオレンジ出荷量は、3億1,460万箱(40.8kg/箱)に達すると予測される。これは前シーズンの2億3,087万箱に比べて36.2%多く、過去10回の収穫の平均よりも4.8%多い。

予想される生産量増加の主な要因は、1果樹当たりの果実数の増加であり、これは2回目の開花期の良好な気象条件と園地管理の改善の結果である。さらに、同団体のこの地域の最新の果樹台帳データによって、結果樹本数が増加したことが確認された。

更新された台帳によると、柑橘類地帯には現在、1億8,270万本の結果樹があり、総面積は36万2千ヘクタールに上る。これは、2022年に実施された前回のセンサスと比較して、1,270万本(7.5%)及び1万8千ヘクタール(5.2%)の増加を示している。

スペイン：天候が品質に影響を与える一方、輸出はまちまちの結果に スペインのオレンジ価格は上昇を続けており、5月上旬の時点で過去5シーズンの平均を約17%上回る水準に達している。アンダルシア州では、果実の集出荷センターが、果皮の水染み等の問題を引き起こした最近の降雨による品質上の問題を注意深く監視し、管理している。さらに、ここ数週間の暖かい気温は、アンダルシア州の様々な柑橘類産地で早期の開花をもたらした。

バレンシア州では、レーンレイト品種のネーブルオレンジの取扱いが3月に終了し、4月の販売量は限定的であった。シーズン後半に入ってから、市場での柑橘類の引き合いが着実に強まり、4月を通じて高い水準を維持した。その結果、最も晩生の柑橘類品種の販売は急速に進み、4月末までに完了に近づいた。

輸出に関しては、アンダルシア州では2月までの輸出量が前シーズンの同時期と比較して11%増加した一方、輸出額は2%減少したと報告されている。バレンシア州でも、公式データによると9月までの輸出量が6.5%増加したが、輸出額は1.7%減少した。

南アフリカ：バレンシアオレンジの中東向け出荷が急増、ネーブルオレンジは減少 南アフリカ北部で続いた降雨により、当初、同国のオレンジ輸出シーズンの開始が遅れ、オレンジとレモンの両方に影響を及ぼした。それにもかかわらず、中東向けの出荷は進んでおり、これまでに出荷されたバレンシアオレンジ - 南アフリカの予想年間総出荷量5,200万箱(15kg/箱)のほんの一部 - の65%を占めている。

バレンシア種の予想輸出量は、昨年と比較して300万箱以上増加した。対照的に、多くの農場で減少したネーブル種の今年の出荷量は2,610万箱と予想されている。南アフリカの柑橘類業界では、ネーブル種の出荷量は減少を続け、最終的には約2,160万箱で落ち着くと予想している。

中東諸国では南アフリカ産オレンジに対する強い需要が示されており、インドもバレンシア種の非常に大きな市場とされている。ある輸出業者は、インドの需要は自社の供給可能量を超えていると説明した。しかし、南アフリカ全体としてこの需要を満たすことができるかどうかは不明である。

昨年は、オレンジ果汁の価格が少なくとも3年間は歴史的に高い水準にとどまるという楽観的な期待があった。しかし、価格は既に下落している。2024年には、果汁の価格が非常に高く、オレンジの輸出用の梱包を一切行わず、代わりに収穫した果実をすべて果汁工場に送ることを選んだ生産者もいた程であった。

エジプト：輸出よりも国内の需要と加工を優先 2024/25年度のエジプトのオレンジ出荷シーズンは、通常の前月末に対し4月上旬という異例の早さで終了した。同シーズンは、生産量の減少、大玉のオレンジの不足、現在も進行中の紅海の危機、輸出補助金の削減、及び同国内でのオレンジ果汁濃縮工場の出現など、いくつかの重要な展開が特徴的であった。これらの要因が相まって、国内市場の重要性を高め、価格を押し上げ、従来エジプト産オレンジに依存してきた海外市場での不足につながった。

バレンシアオレンジの出荷シーズンは、例年より早く1月に始まり、すぐに課題に直面した。生産量は、その前の年(2022/23年度)と比較して21%増加した前シーズンよりも約25%減少した。さらに、バレンシア種の生産物の90%は中玉(入数72、80及び88)の果実で構成されていた。グローバルGAPの基準が刷新されたため、エジプトの多くの輸出業者はヨーロッパ市場にアクセスできなくなり、他の輸出業者は輸出補助金の大幅な削減によりオレンジの輸出から撤退した。

エジプト政府は、8~10%であった輸出補助金を2024年11月からわずか2.4~3%に削減した。また、これらの補助金を獲得するためには、外貨をエジプトポンドに交換することが条件となり、以前は農産物の輸出によって外貨を入手していた輸出業者にとって魅力が減少した。この変化により、かつてはエジプト産オレンジを安価で大量に引き取っていたサウジアラビア等の主要市場への輸出量が減少した。

さらに、現在も進行中の紅海の危機により、2023年に危機が始まる前にはエジプトの輸出量の30%以上を占めていたアジア諸国向けの輸出が制限された。また、港湾の混雑等の物流上の問題により、ヨーロッパへの輸送時間が長くなった。例えば、オランダへの輸送には現在最大50日かかり、複数の荷が同時に到着した際の供給過剰と不足する期間が交互に発生している。

バレンシア種のオレンジ価格は、昨シーズンの水準の30%下から35%上まで大きく変動した。平均して、価格は昨シーズンよりも20%高かった。シーズンが進むと、ネーブルオレンジの状況はさらに困難になった。(国内の果汁向け需要の影響(No. 54参照)については省略)

モロッコ：干ばつと競争が輸出機会を制約 モロッコでは過去2シーズン、生産者と輸出業者がソフト柑橘類と国内のオレンジ市場に重点を置いたためオレンジの輸出が後回しにされた。この変化は主に、豊富な生産量が市場を飽和させているエジプトとの競争の激化により、オレンジの収益性が低下したためである。同時に、モロッコの深刻な干ばつにより生産コストが上昇し、オレンジ生産者の利益がさらに縮小した。

モロッコの輸出業者達は今年、エジプトが国際市場に残した予想外の品不足を活用するのに苦心している。ネーブルオレンジやマロクレートオレンジは、主に国内市場向けに生産され、量が少なく、輸出に必要な品質基準を満たさないことが多いため、4月以降はこれらの供給の確保が困難であることが明らかになった。

モロッコの柑橘類セクターは現在、慎重なアプローチを採用しており、生産者達は南アフリカ、トルコ等の他の主要生産国のこの輸出シーズンの動向を注意深く監視している。モロッコのオレンジ輸出が来シーズンに再び魅力を取り戻すかどうかは、まだわからない。

執筆者：ステファン・ヤンセン・ファン・ニューウェンハイゼン

57. ブラジル アボカド生産者が日本向けの輸出審査を受ける

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月19日

日本は2024年9月にブラジルからのハスアボカドの出荷を許可した。ブラジル果実生産者輸出業者協会 (Abrafrutas) はこの発表を歓迎し、日本にはブラジルのアボカドにとって有望なチャンスがあると強調した。

同協会のギリエルメ・コエーリョ会長はこのニュースを受けて、「我々は、その独特の品質と風味で知られるアボカドで日本人の味覚をつかむ絶好のチャンスを手に入れた。日本の厳しい植物検疫要件を継続的に満たし、その扉を開けておくことは、今や我々次第だ」と述べた。

日本は、ブラジルの輸出業者が満たさなければならない一連の要件を定めており、その中には、輸出を目的とした果実の調製・梱包施設を評価・認証するために、日本の検査官が毎年訪問することが含まれている。

ブラジル産アボカドの検査

日本の業界のリーダー達は4月末に技術専門家を伴ってブラジルを訪問し、ブラジルのハスアボカド生産者が行なっている手順と運営状況を審査した。

同協会は、代表団がブラジルの主要なアボカド産地であるサンパウロ州の生産現場を訪問したと報告している。この訪問では、従業員の研修記録、収穫管理、果実のトレーサビリティ及び保管・輸送条件等が審査された。

査察では問題は確認されず、同協会は「これは日本のような高い水準の市場の要求を満たせる生産者の能力を示している。日本の検査官は、ブラジルの生産・出荷過程の専門性の高さと、プロトコル遵守の厳格さを確認した」としている。

アボカドの生産と市場

ブラジルは世界最大のアボカド生産国の1つであり、2022年の生産量は33万8千トンを超えた。アボカドは主に、気候と土壌が国際市場で高い評価を得ているハス、ブレダ等の品種の生育に適したサンパウロ州、ミナスジェライス州、パラナ州、エスピリトサント州及びセアラ州で栽培されている。

ブラジルのハスアボカドの輸出は近年大幅に増加しており、2023年には前年比9.72%増の2万3千トンに達した。

主な輸出先はヨーロッパ(主にスペイン、オランダ、フランス及び英国)のほか、アルゼンチン、ボリビア、ウルグアイである。

58. カナダ ブリティッシュコロンビア州のサクランボに強い需要の予想

FreshPlaza 2025年5月19日

ブリティッシュコロンビア (BC) 州の生産者と梱包業者は、2024年の壊滅的なサクランボシーズンの後、今年は通常のシーズンになって欲しいと願っている。ワールドフレッシュエクスポート社のリッキー・チョン氏は「冬の間、穏やかな気象条件に恵まれ、最適な低温時間があった」と話す(以下「」は同氏の話)。冬の後、サクランボの品質の向上に繋がる涼しい春の気温が続いた。「その結果、2025年には記録的な収穫量になると予想しており、出荷量は20ポンド(約9kg)箱で500万箱と推定されている。エルニーニョとラニーニャによる異常な気象パターンが5年間続いた後、今年は待ち望んでいた平年並みのシーズンになりそうだ。」

BC州のサクランボ生産者達のカウントダウンは、南オカナガンバレー地域で最も早い品種が収穫されるまで4週間もない。「我々は、南部のオソヨース地域でティエトン、シルビア、サンティーナ及びクリスタリーナの各品種の収穫が6月10日に開始されると予測している。」収穫は、170キロメートル北のバーノン地域で終了する8月下旬または9月上旬まで続く。晩生のサクランボ品種は、スキーナ、ラパン、クートニー、レジーナ、スイートハート、ソブリン、センテニアル、スタッカート等である。

国内及び輸出向けの需要

カナダの小売業者達は、米国のトランプ大統領への反発により、BC州産のサクランボに対する異常に高い需要があると予測している。「カナダの消費者は、自国の生産者と『地産地消』運動を支持している。」今シーズンはさらに、特に米国から輸入されるサクランボに対する高い関税率のため、チョン氏は中国からの強い需要を目の当たりにしている。現在、米国産サクランボの関税率は約54%である。中国の多くの最大手輸入業者の代表団が来月BC州を訪問し、続いて韓国と日本からもやって来る。トルコとギリシャのサクランボの出荷量がこの春の寒さの影響を受けたため、ヨーロッパと中東では晩生のサクランボの供給が逼迫すると予想される。

昨年秋にBC果樹協同組合(BCTF)が解散したため、ワールドフレッシュ社は今シーズンのサクランボの取扱量を増やすことができた。「弊社では、多くの元BCTF組合員を支援し、潜在的な損失を避けたいと考えている。」同社はさらに、ポーチバッグ、クラムシェル及び1kg入り木製ギフトボックスを用意し、カナダでの国産サクランボの販売プログラムを強化した。「非常に高い需要を予想しているが、様々な包装形態の選択肢により、シーズンを通じて販売が安定し、供給過剰になった場合の対応に役立つ。」

周年供給

シーズンを延長し、着荷時の最適な品質を保証するために、同社はこの夏、MAコンテナを使った試験を実施する。「この技術により、サクランボを30〜60日間保存し、供給過剰を回避することで作物をより効率的に管理することができる。さらに、MA技術により、カナダ産サクランボのシーズンを延長し、海外での着荷を10月まで遅らせる。これは弊社にとって非常にエキサイティングな進歩であり、この技術を世界中で実装し、最終的には新鮮なサクランボを12カ月供給することを目指している。」

執筆者: マリーカ・ヘムス (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

59. ニュージーランド ゼスプリの2024/25年度の販売額は史上最高

[FreshPlaza 2025年5月21日](#)

ゼスプリは、2024/25年度シーズンに全世界で史上最高の51億4千万NZドルの営業収益を達成したとの決算を発表した。また、同社の全世界の果実販売額は50億3千万NZドルに達し、2025年までに45億NZドルを達成するという2015年に設定した目標を上回った。(1NZドル=約86円)

キウイフルーツ販売事業者であるゼスプリは同シーズン、2023/24年度の1億6,420万箱を上回る、史上最高の2億2,090万箱のキウイフルーツを販売した。ニュージーランド産果実とサービスに対するゼスプリからの支払い総額は31億NZドルに達し、国内産業への直接的な還元額が初めて30億NZドルの大台を超えた。これらの支払いは、バイオブプレんティ、ノースランド、イーストコースト、ネルソン、ワイカト等の主要な産地に配分された。

ゼスプリの税引き後純利益は1億5,520万NZドルで、前年の1億7,330万NZドルから減少した。この減少は、主に配分可能面積の減少に伴うライセンス収入の減少によるものであった。しかし、ライセンス収入を除くと、同社は2023/24年度の2,040万NZドルを上回る史上最高の7,980万NZドルの法人純利益を記録した。年間の予想純配当金額は、1株当たり0.77NZドルである。

ジェyson・テ・ブレイクCEOは、この結果は、主要な国際市場に記録的な収穫物を届け好調な売上を達成するための業界関係者による多大な集団的努力を反映していると述べた。同氏は、ゼスプリがこの分野の下押し圧力にもかかわらず、コアとなる市場で数量と金額の両方を増加させたことを指摘し、販売額が50億NZドルを超えたことは業界の誇りの源であると強調した。

同CEOによると、1ヘクタール当たりの生産者の収益は、幾度かの困難なシーズンの後の収量の増加に支えられ、グリーン、有機グリーン、スイートグリーンの各カテゴリーのキウイフルーツで記録的なレベルに達した。また、1箱当たりの平均収益も、すべてのカテゴリーで2月の予測を上回った。

ゼスプリの法人としての業績も改善し、ニュージーランド産供給部門は2024/25年度に5,640万NZドルの利益を上げ、2023/24年度の1,020万NZドルの損失から大きく逆転した。この改善は、収穫量の増加、市場価値の向上、及び間接費の効率化によるものである。

ゼスプリのニュージーランド以外の供給事業も好調で、2,650万箱を販売し、販売額は6億5,240万NZドルに達した。テ・ブレイク氏は、ニュージーランド産の販売シーズンの開始を支援する上でのゼスプリ世界供給(ZGS)事業の重要性を強調し、生産者投票でニュージーランド以外での生産拡大が認められたことを受けて、オフショアの生産量がさらに増加すると予想されると指摘した。

今後の見通しについて同氏は、2025/26年度シーズンに好調な結果を出し、引き続き生産者のために価値を高めるという同社のコミットメントを強調した。同氏は、軟調な市場環境にもかかわらず、欧州、米国、アジアでの販売が堅調にスタートしたことを報告し、ゼスプリが今後10年間でブランド主導の需要開拓、サプライチェーンの変革、及び製品のイノベーションに注力することを強調した。

60. トルコ サクランボの主産地で甚大な霜の影響

[FreshPlaza 2025年5月21日](#)

「トルコのサクランボ主産地であるアフィオン県で甚大な霜の影響」

トルコの青果物輸出業者アラナール社の商業コーディネーターであるイギット・ギョキギット氏は、トルコのサクランボ生産者が忍耐を強いられた(今年これまでの)降霜は、今シーズンに大きな影響を与えるだろうと述べている。同氏は、「今年の降霜は、トルコではここ数年で最悪の農業災害だ。ほぼ全国に影響を及ぼし、産地に衝撃を与え、一度ならず、2月、3月、4月と合計3回発生した。一部の地域では、被害が指数関数的に拡大した。農業上の最初の降霜被害は、2月にアダナ、メルスィン及びハタイの各県で発生し、その後3月にはエーゲ海地方が被害を受けた。4月中旬には、全国規模の降霜がこれらすべての地域で2回目かつ一層深刻な被害を引き起こした」と語る。(以下「」は同氏の話)

同氏は今シーズン、トルコのサクランボ輸出がすべてなくなるとは考えていない。「輸出可能な品質のサクランボが、特にイズミルとマニサの両県(エーゲ海地方)で入手可能である。残念ながら、我が国のサクランボの主産地であるアフィオン県(同)は深刻な影響を受けたため、そこから輸出できるサクランボの量は非常に限られるだろう。輸出に関してトルコ政府が介入するという話は何も聞いていないので、輸出可能なサクランボがある人はそれを輸出することができるだろう。」

状況は来週収穫が始まるZ-900品種の価格に大きく左右されるとして、同氏は次のように説明する。「トルコのサクランボの出荷シーズンは既に早生品種から始まっている。現在は入手できる量が限られているため、生産者価格は極めて高い。今から1週間後には、トルコの主要品種であるZ-900の出荷も始まる。シーズンの成功にとってZ-900品種の価格は非常に重要だが、これまでにない高値になる可能性が高そうだ。」

トルコ産の出荷量の不足が生み出す品薄を、スペイン産が埋める可能性がある。「スペインはヨーロッパ市場におけるトルコの主要なライバルであり、ヨーロッパで失われたトルコ産の穴を埋められるかも知れない。ロシア市場では、今シーズンのトルコ産の不足のため、ウズベキスタン産のチャンスとなる可能性がある。今シーズンは例年に比べて輸出量が限られると思う。出荷シーズンは短くなり、おそらく6月末に終わるだろう。イズミル、マニサ両県のサクランボが終了した後は輸出できる量はそれほど多くないだろう。」

執筆者: ニック・ピーターズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

61. 米国 生鮮リンゴの貯蔵量が5月の5年平均を19%上回る

[FreshFruitPortal 2025年5月22日](#)

USApple Tracker のレポート(米国リンゴ協会)によると、5月の生鮮市場向けリンゴの貯蔵量は5,230万ブッシェルで、これは昨年2024年5月に報告された在庫より2%少ないが、5月の5年平均より19%多い。(米国リンゴ協会のレポートでは 1ブッシェル=42ポンド(約19kg))

同レポートはまた、加工用リンゴの貯蔵量は2,010万ブッシェルで、前年同月に報告された在庫量より12%少なく、5月の5年平均より9%多いことを示している。

ワシントン州は最も貯蔵量が多く、合計1,459万9,396ブッシェルのリンゴが通常大気貯蔵庫で保管されており、4,687万5,842ブッシェルがCA貯蔵庫で保管されている。ニューヨーク州は第2位で、通常大気貯蔵庫で合計157万9,597ブッシェルが保管され、389万1,644ブッシェルがCA貯蔵庫で保管されている。ミシガン州とペンシルベニア州がこれに次ぐ。

貯蔵されている主な品種は、レッドデリシャス 1,043万4,547ブッシェル、ガラ 1,036万3,435ブッシェル、グラニースミス 856万2,985ブッシェルである。これら上位3品種に、ピンクレディー/クリップスピンク、コズミッククリップ及びふじが僅差で続いている。

同レポートは、全米のリンゴ貯蔵容量(ブッシェル)の95%以上を捕捉している。

62. ベトナム産ライチの収穫が始まり日本で関心が高まる

[FreshPlaza 2025年5月22日](#)

駐日ベトナム貿易事務所の貿易顧問であるター・ドゥック・ミン氏は、トゥオイチュエ新聞社（ホーチミン共産青年団機関紙）本社を訪問した際、ベトナムからのライチの輸入について多くの日本企業が同事務所に問い合わせっていると述べた。同氏は、「彼らはライチの成熟具合と、日本への出荷可能時期について尋ねている」と述べ、ベトナム産農産物への関心が高まっていることを強調した。

日本市場では安定した品質と日本人好みのパッケージが求められ、重要でありながら挑戦的な輸出先である。2025年の最初の5カ月間は、安定した政治的関係と両国国民の強い絆に支えられて、ベトナムと日本の二国間貿易はプラスの成長を示した。

農林水産物等ベトナムの主要品目の輸出は好調であるものの、ミン氏は製品によって性質が異なると指摘した。農産物や水産物の輸出は、より安定した木材製品の輸出とは異なり、季節や気象条件の影響を大きく受ける可能性がある。例えば、ライチは昨年、低い収量と高い価格のために輸出上の課題に直面した。しかし、今年には有望な需要の兆候が見えている。多くの日本企業が積極的に情報交換を行い、早期に輸入計画を準備している。

他のベトナム産果実も目を向けるに値する可能性があり、果皮が緑色でない品種のザボン（Zabon）は日本でさらに市場に浸透する可能性がある。日本の消費者は、すでに地元のスーパーマーケットで目にするカッチュー（Cat Chu）種のマンゴー等の熱帯果実を好んでいる。さらに、ドライマンゴー等の付加価値のある加工品を拡大することは、年間を通じた需要への対応に役立つ可能性がある。

日本の高度な保冷技術は、果実の鮮度を収穫後6カ月から9カ月の間保つための解決策を提供しており、ベトナムでの利用の可能性が問われている。ミン氏は、多額の投資が必要ではあるものの、ベトナムの農家や企業が収穫後の物流への投資に動く必要性を強調した。

ベトナムがライチ収穫の最盛期に入中、総生産量は30万3千トンを超えると推定されており、生産量の増加に合わせた輸出の準備が行なわれている。日本等の市場に輸出する産地と梱包施設は、定期的な監督の下で認可を受けている。ミン氏は、要求の厳しい市場で競争力を維持するため、品質、ブランディング、テクノロジーにもっと投資するようベトナムの企業にアドバイスしている。

出典: tuoi tre news

63. 米国 カリフォルニア州のサクランボは大幅減収、ワシントン州は順調

[FreshPlaza 2025年5月22日](#)

カリフォルニア州の2025年のサクランボの出荷シーズンは、収穫量が大幅に減少すると予測される中で始まる。専門家は、異常な降水パターンと高い気温が開花のサイクルを乱したことにより、2024年と比較して収量が50%減少すると予想している。

サクランボの主要な産地であるサンホアキン郡では、潜在的な経済損失が1億ドルに達すると予測している。これを受けて、地元の農業委員会は、影響を受けた生産者を支援することを目的として、緊急支援を確保するための州当局による災害宣言を求めている。

このような宣言は、米国のサクランボの主産地であるワシントン州で2024年に出されており、その際には米国農務省が約1,500の生産施設に対して最大50万ドルの低利融資を行った。

カリフォルニア州では、サクランボの収穫は通常5月に始まり、6月上旬まで続くが、開花時期の変動により収穫が7月にずれ込むこともある。一方、今年の天候条件は最適なスケジュールに即していない可能性があり、カリフォルニア州の作柄は、コーラル、ビング等の品種で不調である。

対照的に、太平洋岸北西部の生産者は引き続き楽観的である。ワシントン州とオレゴン州の果樹園では、安定した降水量と長期間の寒波の恩恵を受け、成長に適した条件が醸成されている。

カリフォルニア大学農業天然資源学部専門家は、甘果アウトウの生育における、気温が華氏46度(摂氏7.8度)から凍結温度(摂氏0度)をわずかに上回る範囲にある「低温時間」の役割を強調している。この低温時間が不足すると、果実の品質と収量を損ない、カリフォルニア州の産地に影響を与える可能性がある。

サクランボは収穫後の品質保持期間が限られており、夏以降は出荷量と需要が大幅に減少することから、市場への迅速な輸送が重要である。

米国農務省によると、ワシントン州が引き続き米国のサクランボ生産をリードしており、カリフォルニア州とオレゴン州がそれに続いている。

生産者はまた、特にヨーロッパやアジアの主要市場において価格や需要に影響を与える可能性のある関税に関連する貿易上の不確実性に直面している。

出典: Fox Weather

64. 世界のブルーベリー市場(抜粋)

FreshPlaza 2025年5月23日

スペイン：不安定な供給が英国向けブルーベリー供給の課題 スペインのウエルバ県(アンダルシア州)は英国向けブルーベリーの主要産地であるが、今年は困難な状況となった。小売業者が販売促進のために期待している通常の出荷のピークはなかった。モロッコは出荷量が多いとしているが、英国市場では反映されていない。ただし、モロッコ産ブルーベリーの品質は依然として良好である。

スペインとポルトガルは、150年ぶりに最も雨の多い年明けを経験した。ある業者は、「今、興味深い状況の変化がある。シーズン前には誰も出荷量にコミットしようとしなかった。現在はブルーベリーを販売しており、東ヨーロッパからの供給に移行している」と述べた。

ポーランドは10日ほど前に非常に寒い天候に見舞われ、ルーマニアでも同様の状況が報告された。その結果、ブルーベリーの十分な供給を確保するためには、セルビア、ブルガリア、ジョージア、さらにはウクライナ等、他の国から調達する必要がある。ブルーベリーは量産型の商品となり、スナックとして広く消費されているため、その需要は年間を通じて安定している。

英国では、消費者の需要は存在するが、小売業者は販促を行うに当たって適切な価格を設定する必要がある。生産者は現在、低価格で大量に出荷する必要がない。

ポーランド：霜が降りてもブルーベリーの供給は安定 ブルーベリーの栽培面積はもはや速いペースでは拡大しなくなったが、既存の農園では品種の切り替えが盛んに行なわれている。オフシーズンの果実に対する需要が高まっているため、多くの出荷業者や輸出業者は年間を通じた供給を確保するため、ベリーの輸入を始めている。この入手可能性の高まりにより、消費者は年間を通じて常にベリー類を食べる習慣を容易に身につけるようになり、需要がさらに高まっている。

2024年シーズンの主な課題は、生育のサイクルが非常に早く急速に始まったことで、一部の農場では5月の降霜が開花ではなく幼果に影響を与えた。幼果は霜害に対してはるかに脆弱であるため、これは大きな損失につながった。ただし、降霜は局地的であり、生産者に与えた影響の程度は様々であった。ポーランド国内のほぼ全域に農園が広く分布しているおかげで、全体として見れば、ブルーベリーの総収穫量は2023年に比べてわずかに減少したに過ぎない。

Agronometrics のデータによると、ブルーベリーの輸出量は2023年の輸出量を17%上回り、約2万6千トンに達した。また、ウクライナからのブルーベリーの輸入、ひいてはポーランドからのウクライナ産果実の再輸出は、しばしば想像されているよりも大幅に少ないことも注目に値する。ポーランド国立植物衛生・種子検査局は、ウクライナとポーランドの国境を越えたブルーベリーは2023年には1,700トンであったが、2024年にはその数字が3,100トンに増加したと報告している。

近年植えられた株が本格的な生産に達することで、霜による潜在的な損失が打ち消されるため、2025年のブルーベリーの収穫量は現時点では2024年と同程度と予想されている。生鮮市場向けの他のベリー類の収穫量は、栽培面積の増加と、現在ではそれらの果実のほとんどが施設で栽培されているという事実により、昨年よりも多くなると予想される。

オランダ：モロッコ産ブルーベリーの価格と品質は堅調、数量は不足 オランダのある輸入業者は、「現在、モロッコ産ブルーベリーのシーズンは急速に終わりに近づいている。品質と価格の両方の観点から素晴らしいシーズンであったが、入荷量は期待したよりも少なかった。農場の収量は予想を大幅に下回った。一方、消費者の需要は非常に強い。荷動きは早く、滞留や余剰はなかった。市場全体が生鮮販売のみに焦点を当てており、それが最終的に消費者に利益をもたらした」と説明した。

「対照的に、スペイン産のブルーベリーシーズンは勢いを得ることができず、既にシーズンがかなり進んでいるため、今から勢いを増す可能性は低い。スペインの生産者にとってこれは大変残念なことである。」

「今後、第24週(6月上中旬)頃にセルビアが収穫を開始すると予想されている。収穫が始まると、7～10日以内にかなりの量が出荷されるはずである。セルビア産の大部分を占めるデューク品種は、急速に出荷量を増やすだろう。その約3週間後には、ルーマニア、ドイツ、オランダ、さらにポーランドからも慎重に、ブルーベリーが市場に入荷し始める。第25週(6月中旬)から第32/33週(8月前半)までは、より大きなパックサイズと販促活動に焦点を当てるのに理想的な時期である。消費者には高品質のブルーベリーを味わうチャンスがある」とこのベリー業者は付け加えた。

ドイツ：冬の旺盛な需要が春の供給へスムーズに移行 ある卸売業者は、ブルーベリーの需要が冬の間ずっと好調だったと述べている。「ペルー産かチリ産かにかかわらず、海外製品の品質も納得のいくもので、安定していた。2月末にモロッコ産のシーズンが始まり、3月中旬からはスペイン産が始まったが、この時も海外産の余剰があまりなかったため、今年はかなり円滑な産地の移行となった。」

ドイツとオランダの産地からの最初の入荷は、6月中旬から下旬に予定されている。「しかし、自由市場、つまり卸売市場で入手できるドイツ産ブルーベリーは全般的に少ないと言わざるを得ない。」

北米：シーズン序盤は供給が逼迫し堅調な需要 ブルーベリーの出荷量は南東部で増加している。フロリダ州では、ハリケーンミルトンやその他の悪天候により収穫量が約30～50%減少し、その限られた作物の出荷を終了しつつある。

ハリケーンヘレンと受粉の問題も、ジョージア州産ブルーベリーの収穫の前半に影響を与えた。推定によると、シーズン前半には収穫量が30～40%減少しており、また収穫の進捗も遅れている。しかし、最近の雨が助けとなっており、収穫シーズンの残りの期間は従来に近い量になると予想されている。「ノースカロライナ州では来週収穫が始まり、平均以上ないしはかなりの多い収穫量が予想されている。」

メキシコでは出荷が終了しつつあり、そのため出荷量は限られている。さらに、カリフォルニア州のブルーベリーシーズンは約2週間前に始まり、今後3週間のうちに出荷量のピークに達すると予測されているが、当初の予想よりわずかに遅れている。供給量が限られる中で需要が旺盛なため、価格は通常よりも高くなっている。

今後は、ニュージャージー州(6月15日)、ミシガン州(7月第1週)、ブリティッシュコロンビア州(カナダ)を含む太平洋岸北西部(6月末から7月上旬)等、他の地域でも間もなく出荷が開始される。ペルーからの輸入は8月中旬に始まると見られる。

南アフリカ：生産者は世界的な競争に注目 ジンバブエのブルーベリーの収穫は勢いを増している。南アフリカの業界は、南アフリカから2万5千トンが輸出された昨シーズンと比較して大きな変化を見込んでいない。昨年は、7月の厳しい霜害により約2千トンが失われた。6月中旬までに、リンポポ州の収穫が本格化する。

業界は新シーズンが近づいても楽観的だが、ある内部関係者はペルーから目が離せないことを彼らは認識していると言う。すなわち、この南米の国では大量の収穫が予想されており、南アフリカの輸出業者が自分達の果実の良い価格を確保するためには「非常に鋭く戦略的なマーケティング」が必要になる。

確立されたブルーベリーブランドは、主にヨーロッパと英国の小売業者に焦点を当てているが、新しい事業者はジンバブエ産と南アフリカ産のブルーベリーを中東と極東に供給している。極東では、ヨーロッパよりもはるかに大きなサイズのベリーの需要が増加しており、特にチューブ包装の場合に当てはまる。

南アフリカ市場では現在ジンバブエ産ベリーを消費しており、これまでのところ近年に比べて量が多い。価格は2023年よりも下がっており、卸売市場で約9.80～10.80ユーロ/kgで取引されている。

執筆者：ステファン・ヤンセン・ファン・ニューウェンハイゼン

65. 米国 子供の健康レポートが不適切な食生活を指摘

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月26日

MAHA(米国を再び健康に)委員会の報告書は、小児慢性疾患の2つの主な原因として、不適切な食生活と化学物質を強調

ホワイトハウスは5月22日、ロバート・F・ケネディ保健福祉長官の「子供達を再び健康に (Making Our Children Healthy Again)」報告書を発表した。この報告書は、子供の慢性疾患の主要因に焦点を当てている。

米国疾病予防管理センター(CDC)の調査によれば、米国の0歳から17歳までの約7,300万人の子供のうち40%が少なくとも1つの慢性的な不健康状態にあると同報告書は述べている。これには、喘息、アレルギー、肥満、自己免疫疾患、行動障害等が含まれる。

この文書は、子供の健康悪化の背後にある2つの主要因として、不適切な食事と環境化学物質を強調しており、米国の農業・食品業界の注目を集めている。報告書が挙げた他の2つの要因は、身体活動の欠如と慢性的なストレス、及び過度の医療依存である。

米国農務省のブルック・ロリンズ長官は、政府は「子供達や家族の健康状態を改善するためにもっと努力しなければならない。トランプ大統領は、農業が解決策の中心にあることを知っている。アメリカの農業生産者や牧場主は、自国と世界を養うという崇高な目的に人生を捧げ、そうすることで、世界で最も安全で、最も豊富で、手頃な価格の食料の供給を実現してきた。我々は、その生産する最も健康的な食品を子供達や家庭が消費できるように取り組んでいる」と述べた。

米国保健社会福祉省はプレスリリースで、報告書の調査結果に基づいて、82日以内に「子供達を再び健康に」戦略を策定するとしている。

報告書は、子供たちがますます多くの合成化学物質や高度に加工された食品にさらされており、それが「栄養素の不足、カロリー摂取量の増加、有害な添加物への曝露、発達上の問題、及び慢性疾患」につながっていると明確に述べている。

この報告書は、米国の農業生産者の役割を強調し、健康と農業の革新が1900年以降に米国の平均寿命を30年以上延ばすのに役立ったことを指摘している。報告書はしかし、それでも主要な科学・医療機関の多くが自己満足に陥り、組織の利益に大きく影響され過ぎていると主張している。

報告書は、その目的が「徹底的な透明性の確保と米国の健康に対する考え方の中心に米国の農業生産者が置かれる世界を構築すること、そして病気が管理されるだけでなく予防され改善することで米国の医療制度が繁栄し、偉大な米国の復活を成し遂げ、今後10年間で生活水準と繁栄に革命をもたらすこと」であると述べている。

報告書は、米国の平均的な子供の摂取カロリーの70%が現在、高度に加工された食品に由来していることを強調し、この過度の依存を危機と表現している。また、子どもが発達の重要な段階で化学物質への曝露に対して特に脆弱であると指摘し、米国で使用が登録されている4万以上の化学物質を挙げている。

報告書によると、目標は「米国の農業生産者や牧場主が生産するホールフード(自然な状態の植物性食品)を医療の中心に置く」ことであるが、それらは可能な限り元の形に近いものであるべきである。高度に加工された穀物、砂糖、脂肪が問題の中心にある。報告書は病気の要因として、高果糖シロップ(異性化糖)、添加糖、ケーキ、クッキー、精製パン、キャンディー、スナック、精製油を挙げている。

業界の懸念

一部の農業生産者や共和党の指導者達は、報告書が広く使用されている除草剤であるグリホサートに言及していることに懸念を表明している。チャック・グラスリー上院議員(共和党、アイオワ州選出)は水曜日に、同報告書の潜在的な影響について心配している農民の声を耳にすると述べた。

ケネディ保健福祉長官は、報告書がそれらの人々に害を及ぼすことはない述べ、文書が米国の農業と農業生産者の重要性を繰り返し訴えていることを強調した。

報告書はまた、農薬や化学分野の研究における企業の影響力についても論じており、産業界が資金提供していない研究の50%が一般的な農薬が有害であるとしているのに対し、化学業界が資金提供した2005年以前の研究の100%がビスフェノールA (BPA)を安全と見なしていたと指摘している。産業界が関わらない研究の90%以上はこの物質が低用量でも有害であると特定していた。

この文書はグリホサートに言及し、農薬、除草剤、殺虫剤と健康への悪影響との間の潜在的な関連性について懸念を提起する研究を引用している。すなわち、いくつかの研究が、グリホサートを生殖・発達障害、癌、肝炎及び代謝異常と関連付けていると指摘している。しかし、この文書は「最も一般的な除草剤の疫学データに対する連邦政府のレビューでは、ラベルの指示に従った薬剤の使用と健康への悪影響との間に直接的な関連性は確認されなかった」ことを明確にしておき、米国政府は2026年に一般的な除草剤に関する最新の健康評価を発表する予定である。

(関連記事) 米国 青果物団体が子供の健康レポートに反応

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月26日

国際青果物協会 (IFPA) は、5月22日に「米国を再び健康に (MAHA: Make America Healthy Again)」委員会がホワイトハウスで発表した報告書を受けて、以下の声明を発表した。

「IFPAは、トランプ大統領がMAHA委員会を通じて米国の食生活関連の健康危機に取り組む姿勢を高く評価する。本日の子どもに焦点を当てた報告書は、我々の食料システムの栄養の質を改善するためにやるべきことがあるとの認識を示している。また、この報告書が、米国人と彼らに食料を提供する農業経済にとっての果実、野菜、その他の特産農作物の重要性を具体的に認識していることも評価する。」

「米国人の10人に9人が果実と野菜の消費目標を達成しておらず、5歳未満の子供の最大半数が日常的に野菜を摂取していない状況で、MAHA委員会は、果実と野菜の消費を増やすためのエビデンスに基づく介入に焦点を当て、新鮮で豊富な果実と野菜を日々忠実に米国人に提供している米国の生産者の繁栄を確保する政策を支持するべきである。」

「MAHA委員会が政策の策定に進む中、当協会は今年これまで(3月)に同委員会に送付した[提言](#)を維持し、青果物セクターがすべての米国人の健康状態を改善する政策の形成に関与する機会を得ることを待ち望んでいる。青果物セクターは長い間、栄養政策の改善を求めてきたが、我々はまた、同委員会がこれまでの成功について認識するよう促したい。報告書で認められているように、WICプログラム(妊娠・授乳中の母親と乳幼児を対象とした栄養補助制度)は、主に果実と野菜の利点によって健康状態の改善に効果的であることが証明されている。また、全米学校給食プログラムは、この事業による食事を頼って参加している3千万人の生徒に毎日果実と野菜を提供している。その結果、社会経済的状況に関係なく、学校給食はほとんどの子供達にとって1日に食べる中で最も健康的な食事となっている。」

「この報告書は、食料生産の実践と規模に焦点を当て、多くの意見を含んでいるが、その中にはいくつかの疑わしい主張、連邦規制当局の調査結果に反するもの、及び食品の安全性について国民を混乱させる可能性のある矛盾した主張が含まれている。次回の報告書では、委員会が農業生産者や出荷業者とより緊密に協力し、透明性、官民研究及び技術革新に基づいたリスクベースでデータ主導型の科学的意思決定において、米国が引き続き輝かしい世界標準であることを裏付けるような提言を行うことを願っている。」

「食生活関連の疾病は、我々が共に対処できる、そして対処しなければならない危機である。果実と野菜へのアクセスと消費を拡大し、エビデンスに基づく栄養政策を支持し、生産者を支援し力付けることで、我々は有意義で持続的な方法によって公衆の健康を増進させることができる。米国の農産物業界は、より健康な国を築くという大統領のビジョンに基づき、トランプ政権と積極的に連携する用意がある。」

66. ニュージーランド ユズ生産者は需要を満たせない

[FreshPlaza 2025年5月26日](#)

ウェリントン市の生産者であるネヴィル・チュン氏は、ニュージーランド国内で増え続けるユズの需要に応えることができない。刺激的な酸味が特徴のこの果実は、古代中国の高地に由来するが、中国、日本、韓国で広く消費されている。チュン氏はこの地域で最初の商業的なユズ栽培者として認知されており、レビン地域（ウェリントン市の北約95km）で400本の果樹を有するユズ園を管理している。

ユズの外観についてチュン氏は、大きくてゴツゴツした黄色いマンダリンに似ていると説明する。同氏は、この果樹には通常の手袋を貫通できる攻撃的なトゲがあるため、保護具が必要であると強調する。果樹園の管理には、作業を監督する従業員のサポートを受けながら、細心の注意を払っている。ローワーハット市（ウェリントン首都圏）でフィンガーライム、キンカン等の他の植物も栽培しているチュン氏は、ユズとの出会いは亡き妻が日本から持ってきた種から始まったと振り返る。

種子からユズを育てる最初の試みはうまく行かず、チュン氏は種苗業者から苗木を入手することとなった。初期にはウサギによる食害等の問題があったものの、同氏は園地を首尾よく運営する体制を整えることができた。同氏はまた、梅干しや梅酒製造の原料として醸造家や蒸留業者に人気のあるウメも栽培し、商品化している。

ニュージーランドのユズの収穫は5月中旬に始まり、天候条件にもよるが最長で7月まで続くこともある。それにもかかわらず、市場の需要が高いため、6月末までに売り切れることも多い。ニュージーランド全土の料理人達は、その独特の爽やかさと風味を求めて料理の創作にユズを取り入れている。その一例が、自身のレストランのメニューにユズを取り入れているヘレン・ターンプル氏である。同氏の料理は、様々な方法でユズを紹介し、料理の場におけるその可能性を際立たせている。

チュン氏の観察によれば、多様で革新的な味への欲求に駆り立てられたニュージーランド料理のダイナミックな成長が明らかに見られる。ユズ産業が発展を続ける中、契約果樹園によるさらなる拡大が期待されている。チュン氏は現在の進展に満足していると言うが、ニュージーランドでのユズ生産の将来の成長の可能性に対しても引き続き前向きである。

出典: The Press

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

67. オーストラリア 柑橘類の輸出が回復する見込み

[FreshPlaza 2025年5月27日](#)

オーストラリアの柑橘類生産者は過去の輸出シーズンに、気象条件、労働問題、在庫不足等、様々な課題に直面してきた。しかし、予測では、今年は記録的な輸出の成果が達成され、業界にとっての転機となる可能性があることが示唆されている。

パース市（西オーストラリア州）の北東約170キロメートルに位置するムーラ地区では、生産者達は近年の厳しいシーズンから貴重な洞察を得た。西オーストラリア州最大の柑橘類生産者であるムーラシトラス社は、中西部の3つの果樹園から約1万トンの収穫を見込んでいる。同社CEOのシェーン・ケイ氏は、2024年は「特に不作の年」であり、同社の通常の年平均収穫量である8千トンを下回ったと述べた。

同氏は、レモン、マンダリン、グレープフルーツに注力し、特にオレンジの成績に注目しており、「現在、非常に暖かい秋を迎えている。果実の着色と適切な成熟が進むよう、昼は晴れて夜は寒い日を待ち望んでいる」と述べた。果実の色が緑からオレンジ色に移行することは、市場出荷の準備が整った証として非常に重要である。

収穫後の果実は梱包小屋で、目に見える傷の程度に基づいて等級に分けられる。傷のある果実は低価格で取引される一方、1級品の果実は、高品質の果実が好まれる小売市場や輸出市場に届く。シトラスオースト

ラリア社のCEOであるネイサン・ハンコック氏は、「特にオーストラリアでは、果実の外皮に傷があつてはならないとある意味信じ込まされてきた」と述べた。

2025年に向けて、ハンコック氏は十分な出荷量と堅調な国際需要を予想している。なお、オーストラリアは2019年に輸出量30万4千トン、輸出額5億4,100万豪ドル(当時は1豪ドル=70~80円)の記録を樹立している。主な輸入国は、中国、日本、タイ等のアジア市場及び米国、カナダ、アラブ首長国連邦等である。

このようなチャンスがあるにもかかわらず、生産者は人件費をはじめとする継続的な諸課題に直面している。ケイ氏は、「賃金コストは上昇し続けており、それは我々が得る収益と一致している訳ではない」と指摘した。これらの課題に対処するため、同氏は風の影響と水の使用量を減らすことを目的として3ヘクタールの防護ネットを備えた試験ブロックでテストを実施している。同氏は、「この取り組みの費用は安くはないので、我々は今、費用と便益の分析を行っている」と述べ、節水の重要性を強調した。

出典: ABC News

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

68. 米国カリフォルニア州 今シーズンの核果類は増収の予想

[FreshPlaza 2025年5月27日](#)

カリフォルニア州の早生品種の核果類の収穫が進行中である。マウンテンビュー果実販売会社のクリスタ・ベックステッド氏は、「最初の大振りな黄肉のモモの収穫が2週間前に始まった」と話す。黄肉のモモが特に若い果樹園で当初の予測を上回る収穫量を示しており、シーズンの見通しは良好である。白肉のモモは少量から始まり、先週は収穫量が増加した。ベックステッド氏は、「これらの経過は、出荷シーズンの通常のスタートを示している」と説明した。(以下「」は同氏の話)

黄肉と白肉のモモに続くのは、ネクタリン、アンズ、スモモである。これらの核果類では、収穫量が増えている。黄肉のネクタリンの収穫量は増加し、白肉のネクタリンでは最初の品種であるスプリングパールの収穫が先週始まり、この品目の収穫の開始を告げた。アンズの収穫は2週間前に開始され、収穫量は非常に良い見通しである。最初のスモモは5月下旬に収穫される見込みである。収穫量は5月と6月を通じて増加し、シーズンを通じて安定した出荷が見込まれる。

高品質の収穫物

出荷量は、すべての品目で有望と見られる。出荷量の増加は、良好な生育条件の結果である。暖かく穏やかな気温が続いたことが、旺盛な果実の発育を支えた。2週間ほど前には短期間の低温と小雨があったが、気温は80度台(27~32℃)に回復し、生育の継続と成熟に理想的な条件を作り出した。量の多さに加えて、初期の指標は、果実が強く、健全で、高品質であることも示している。「一部の園地で天候に恵まれ、予想よりも出荷量が多いことは、特に早生の黄肉のモモやアンズで果実の品質が良いことを示唆している。」

十分な量と高い品質は、夏の期間におけるカリフォルニア州産核果類の競争力を高めるはずである。「これまで、シーズン序盤の需要は旺盛なことが多かったが、今年も同じパターンになると予想している。シーズンを通して品質が徐々に向上する傾向があるので、楽しみである。」

有機プログラム

マウンテンビュー社の核果類事業の大部分は慣行栽培品であるが、同社の有機プログラムは毎年着実に成長を続けている。「それはまだ弊社のビジネス全体の中の小さな部分であるが、我々は成長を促進することを目指しており、最近、有機栽培品のラベルを単に『マウンテンビューオーガニック』に変更した。今シーズン、刷新されたロゴとパッケージを市場に紹介することを楽しみにしている。」

さらに、同社は最近、パッケージと小売用の陳列箱を刷新し、ウェブサイトのリニューアルした。夏を祝して、ソーシャルプラットフォーム上では夏の季節に関連するあらゆることを紹介し、家族や友人との核果類の消費を祝福する「サマーライブテーブルシリーズ」が展開されている。

執筆者: マリーカ・ヘムス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

69. 南半球の2024/25年度のブルーベリー輸出量は28%増加

[FreshPlaza](#) 2025年5月27日

アイコンサルティング社が作成した2025年ブルーベリー国際市場年鑑によると、南半球は2024/25年度シーズンに、前のシーズンより28%多い43万6,431トンのブルーベリーを輸出した。

ペルーは生鮮ブルーベリーの最大の輸出国であり、前のシーズンより42%多い31万7,847トンで輸出した。チリは9万647トン(+5%)で2位にランクされた。

北米は南半球産ブルーベリーの最大の輸出先で、21万7,986トン(+26%)を輸入した。ヨーロッパの輸入量も26%増加し、15万1,653トンであった。

チリ輸出業者協会(ブランド名 Frutas de Chile)とチリ果実生産者連盟(Fedefruta)が資金を提供しているこの年鑑は、輸出と価格に関する最新のデータを提供する無料の出版物である。

価格は、天候に関連してペルーの供給量が減少した2023/24年度シーズンに上昇した後、2024/25年度シーズンには下方修正された。ペルー産の収穫が遅れたおかげで、メキシコ産は10月に米国市場で最高価格の28ドル/kgを達成した。チリ産は4ドル/kgで出荷を開始し、4月には12ドル/kgに上昇した。

ヨーロッパでは、ペルー産が9月と10月に最高の19.5ユーロ/kgを達成し、モロッコ産は3月に14.3ユーロ/kgをつけた。チリ産ブルーベリーは、1月に6ユーロ/kgから始まり、3月には12.3ユーロ/kgに上昇した。

ペルー、チリ、モロッコ、メキシコでは、競争力を高め、様々な市場の需要を満たすために、果実の硬さ、収穫後の貯蔵期間の長さ、風味の良さ及び収量の高さに焦点を当て、品種の置き換えが進んでいる。

出典: frutasdechile.cl (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

70. 米国フロリダ州 果汁用に潜在的な代替オレンジ品種

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月28日

オレンジ果汁向けハムリン品種の潜在的な代替品としてドナルドソンオレンジが有望

米国農務省農業研究局(ARS)のフロリダ州フォートピアス(米国園芸研究所)の科学者たちは、ドナルドソンオレンジ品種がオレンジ果汁向けとして、カンキツグリーニング病で大きな被害を受けたハムリン品種を代替する可能性を評価している。

研究者達は、ハムリンオレンジとドナルドソンオレンジを使用したブレンドオレンジ果汁の違いを調べるため味覚テストを実施し、被験者達が2つの果汁の間の違いに気付くことを見出した。しかし、ARSの遺伝学研究者であるマット・マッティア氏は、「この違いは、若いハムリンの木から採った果実は酸性度が低いことで説明できるかもしれない」と述べた。

ドナルドソン品種は、ARSの科学者がオレンジ果汁の商業生産に使用できる可能性のあるオレンジを見つけるため柑橘類の果樹を評価していた時に発見された。この品種は、ARSが100年以上にわたり研究している品種コレクションから見出されたものである。記録によると、この木が最初に植えられたのは30年以上前、ハムリン品種が植えられた頃である。両品種は、12月～1月に成熟する早生品種である等の特徴が似ている。

マッティア氏は、ドナルドソン品種が優れた代替品である可能性を示唆しつつ、今後の研究ではドナルドソン品種が果汁用としてハムリン品種の代替となり得るかを検討するため、同じ樹齢の木から採れた果実を比較する必要があると言う。

ARSの研究者達は、研究協力者や業界パートナーと連携して、ほ場試験でドナルドソン品種のカンキツグリーニング病に対する耐性を評価することとしており、耐性の原因となり得る根本的な遺伝的メカニズムを研究することも計画している。

71. ペルー 次期のブルーベリー輸出は20%の成長を予測

FreshPlaza 2025年5月28日

2024/25年度のペルーのブルーベリーシーズンは4月に終了し、31万8千トン以上が輸出された。これは、悪天候の影響を受けた前回の出荷シーズンからの回復を示している。結果は良好であったが、このセクターは構造調整を行うための商業上及び物流上の戦略が求められる新たな課題に直面している。

このセクターの主要な生産者と輸出業者を代表するブルーベリー協会 (ProArándanos) のゼネラルマネージャーであるルイス・ミゲル・ベガス氏は、「今年のほとんどの期間、数量も価格も良好で良いシーズンであった。しかし、物流面で大きなストレスがあった」と述べた。同氏は、果実の60%以上が年度の最終四半期に輸出され、価格、物流、保管施設を圧迫したと説明し、「このような供給の集中は、商業的な観点からも物流的な観点からも、大きな課題である」と語った。

ベガス氏はまた、この期間中、カヤオ港、フィラデルフィア港等の港湾が深刻な混雑に見舞われ、パナマ運河でも遅延が発生し、それらはブドウ等他の品目の輸出シーズンとの重複によって悪化したと述べた。このような中、同協会は次のシーズンで20%の成長を予測していることから、事前に対策を講じる必要がある。

こうした背景から、ペルー輸出観光促進委員会 (PromPerú) は、ペルー産ブルーベリーの国際流通を促進するための積極的な戦略を打ち出した。同委員会とは、業界団体やこの分野の企業と緊密に協力してこれを実施している。この取組みは、市場の多様化、特定の期間の物流の混雑解消、及び成長の可能性の高い輸出先での製品の存在感の強化を目的としている。

取組みのリストには、新規市場の開放を促進し、供給を拡大するための貿易使節団の編成と主要な見本市への参加が含まれる。この一環として、ペルーは最近、4月8日から11日までモントリオールで開催されたカナダ農産物マーケティング協会主催の見本市であるCPMA2025に参加した。

同委員会が主導し、トロント駐在のペルー商務事務所の支援を受けたこの貿易使節団には、主要なブルーベリー生産者を含む11の青果物輸出業者が参加した。日程は、カナダの輸入業者とのビジネスミーティング、小売バイヤーとの交流セッション、棚に並ぶペルー産品の販売状況を確認するためのスーパーマーケットへの訪問等であった。

同委員会は、「主催者や参加企業からは、大変満足のいくものだ」と評価された。1,290万ドル以上の売上が確保され、1,180万ドル相当の商談の見通しが創出された。これらの数字は我が国の産品に対するカナダ市場の関心の高まりを反映したものだ」としている。

米国は現在、ペルーのブルーベリー輸出の55%を占めている。これに次いで主要な輸出先としてランクされるのは、オランダ、香港、英国、中国である。この文脈でベガス氏は、「輸出先、物流、出荷期間を多様化することが重要である。カヤオ港や、米国等の単一の市場に過度に依存すべきではない」と強調した。

同委員会は、カナダに加えて、香港のアジアフルーツロジスティカやスペインのフルーツアトラクションへの出展、さらに日本、ベルギー、ポーランド等の戦略的市場への貿易使節団の派遣によってペルーのプレゼンスを強化しようとしている。収穫後の貯蔵寿命で中国で高く評価されているセコイアブランドの品種は、従来品種のベンチュラやビロクシとともに、これらの輸出先で積極的に宣伝されている。有機ブルーベリーは、今シーズンの輸出量の10%を占め、これはペルーの持続可能な農法への取組みを浮き彫りにしている。

ベガス氏は「米国の関税問題は、主要な課題から我々の気をそらした。我々は消費の増加と物流問題の回避に関心を持つべきである。関税を課しても、消費を奨励する助けにはならない」と述べている。このことから、官民両セクターが国際的なプロモーション、品種の開発及び業務実施効率の向上に取り組んでいる。

同委員会が推進する販売促進キャンペーンは、この共通のビジョンに沿ったものである。ベガス氏は「未来は我々の手の中にある」と締めくくった。

執筆者: ダイアナ・サジャミ

72. 米国北西部 中国の関税一時停止はサクランボの出荷時期と一致

[Good Fruit Grower 2025年5月28日](#)

関税論争がサクランボ産業の貿易の風向きをかき乱す

北西部のサクランボ産業は、皆が安堵の溜め息をつきながら輸出シーズンに向けて準備を進めている。

米国と中国は5月中旬に、激化する貿易戦争の一時停止を発表した。この措置が維持されれば、サクランボ(甘果アウトウ)も他の地域へより自由に流通することになる。

オーヴィルフルーツ社の輸出販売マネージャーであるブライアン・ノーウッド氏は、「市場は間違いなくよりオープンで、より活発になっている」と語った。

1月に就任して以来、トランプ大統領は世界中に関税を課したり撤回したりしながらより有利な駆け引きを求め、国際貿易はジェットコースターのようになっていた。2,140万箱のサクランボの収穫に向けて準備を進めている果実出荷業者達も、それに巻き込まれてきた。

5月14日に発効した90日間の一時的停止措置により、彼らの動悸は少し収まった。

トランプ大統領は中国に対して特に厳しい対応をとり、一方中国は、果実の出荷に事実上門戸を閉ざすほどの自国の関税引き上げで報復した。輸出業者達は、北西部にとってカナダに次いで2番目に大きな輸出市場である中国抜きに1年に向けて準備を始めた。

中国は2024年に100万箱のサクランボを輸入したが、これは米国の収穫量が少なく、どこの国向けであっても輸出量が減少した年であった。

懸念されたのは、通常は中国が受け取るサクランボがすべて東アジアの近隣の港に殺到し、誰にとっても価格が下がることであった。

米国と中国は、トランプ大統領の1期目の2018年にさかのぼる貿易紛争とそれに関連する関税を抱えている。今年5月まで、生鮮果実に対する中国の関税率は少なくとも160%に達し、特別な免除を受けていない出荷業者に対してはそれ以上の関税率であった。

暫定的な合意により、関税率は45%に低下した。関税に加えて適用される付加価値税を合わせると、中国のバイヤーは合計58%の税金を支払うことになる。

ノーザンフルーツ社のハビエル・サンチェス氏は、ワシントン州サクランボマーケティング委員会の会合で、これは昨年の関税率よりもわずかに高いだけだと述べた。同氏は中国の輸入業者について、「彼らはゲームに戻ってきた」と語った。

だからといって、物事が簡単になるわけではない。どちらの国の指導者も心変わりして、再び関税を引き上げる可能性がある。中国は供給過剰と低価格に見舞われたチリ産のサクランボシーズンを終えたばかりであり、中国の輸入業者達は米国北西部の出荷シーズンに慎重になる可能性がある。

関税の一時停止が続くのは8月中旬までと予想されており、サクランボ出荷シーズンの大部分が対象となるものの全部ではない。もし双方の業者が関税の一時停止を利用するために追加の出荷を急いだ場合、貨物運賃が急騰する可能性がある。

取引関係

販売担当部署は、長年にわたって培ってきた海外バイヤーとの関係を維持することで、この不確実性を乗り越えている。出荷業者達は当初、米国に拠点を置く輸出業者と取引した。次に輸出先の輸入業者と取引し、さらには小売業者と直接取引するようになった。今日では、一部の出荷業者は輸出市場に自社の現地法人を設立している。

ワシントン州のシェランフレッシュ社の輸出販売マネージャーであるブライアン・ピーブルズ氏は、「これらの関係の多くは何十年もかけて築かれてきた。我々はその関係から離れることはない」と述べた。

同氏は、この業界は中国のほかに約20の市場に出荷しており、ほとんどの国はある程度の関税に対応できると言い、出荷業者達が同じ港を標的にしない限り、計算上は他の20カ国は中国の100万箱を吸収できたと述べている。

リスクは市場の氾濫だけではなかった。米国が中国市場から1年離れると、アジアへの輸送コストが安いトルコ、スペイン、ウズベキスタン等の他の北半球諸国にこれまで以上の商品棚スペースを与えることになるだろう。

ピーブルズ氏は、「我々は大きな枠組みの中の小さなプレーヤーに過ぎない」と述べた。

関税がまだ125%だった4月に、タイの果実輸入業者のグループがワシントン州中部の果樹園と梱包施設を訪問した。一般的に取扱量が増えることは値下げ交渉に役立つが、バンコク近郊のセントラルフードリテール社の輸入担当者であるワッサモン・モラワン氏は、100万箱の追加は多すぎただろう、最近の自国の政治的不安の中ではなおさらそうだと言い、「ある程度以上に供給量が多すぎると、誰も儲けなくなる」と述べた。タイの2024年のサクランボ輸入量は12万4千箱であった。

シェランフレッシュ社は、今度は中国に供給するため、台湾と香港に出荷する予定だった果実の一部を振り替えるつもりである。ピーブルズ氏は、いずれにせよ、それらの果実の大部分は中国本土にたどり着いただろうと述べた。

長期の取組み

連邦政策と国際貿易に関して果樹生産者を代表する北西部園芸評議会のマーク・パワーズ会長は、第2次世界大戦後の歴史と経済的手段としての貿易自由化の結果、果実輸出業者にはサクランボに対するタイの40%の税率のような「不公平な」関税が今でも残されていると述べた。これらの関税の見直しには時間がかかると見られる。各国は当然、関税率を引き下げる見返りに何かを求めるが、米国に譲歩することは、他の貿易相手国との交渉の前例となる可能性がある。

これは関税についてだけの話であって、植物検疫上の規制等の非関税障壁は克服するのが一層難しい場合があると、パワーズ会長は最近のサクランボ業界の会合で語った。

同会長はまた、「(これまでの)制度を理解すればそれは理にかなったものであるが、トランプ大統領が疑問視しているのはまさにその制度だと思う」と述べた。

果実産業の2つの委員会であるワシントン州果実委員会とワシントン州リンゴ委員会はこの春、北西部園芸評議会に予備費から50万ドルの追加資金を割り当て、必要に応じてさらに資金を追加する予定である。同評議会はこの資金を使い、世界の貿易交渉官、外交官及び植物検疫当局者が交渉を妥結させる際に、果樹について少なくとも考慮するよう、首都ワシントンや海外での働きかけを強化することとしている。

パワーズ会長は、「関税の引き下げとアクセスの改善に取り組み実現するための、またとないチャンスが到来している」と述べた。

73. 南アフリカ 南半球のリンゴ輸出をリード

[FreshPlaza 2025年5月28日](#)

園芸業界団体ホルトグロ(Hortgro)のデータによると、南アフリカは南半球の主要なリンゴ輸出国としてチリを上回っている。第22週(5月末)までで、南アフリカの輸出量はチリを260万箱(16%)上回った。

南アフリカの有利性において、地理は戦略的な意味を持っている。同団体の農業エコノミストであるピーター・ステイン・デウェット氏は、「南アフリカは、チリに比べてヨーロッパ、中東、アフリカに近い」と述べている。この近接性により、輸送時間が短縮され、輸送中の損耗のリスクが最小限に抑えられる。さらに、強力な植物検疫措置により、南アフリカは収益性の高い市場を維持し、拡大することができる。また、同国の多様な品種の選択肢は、その市場サービスの効率性を高めている。

南アフリカでの投資の増加と、天候に起因するチリでの収量の低下が同時に起っている。2008年以降、南アフリカでは投資が増加し、栽培面積の拡大、品種の改善、密植栽培や保護ネットの利用等の生産技術の進歩が促進されている。この投資により、過去8年間でリンゴの生産量は30%増加し、輸出量を押し上げた。一方、世界リンゴ・ナシ協会のデータによると、2025年のチリのリンゴの収穫量は2016年より44%少なく、輸出量は32%減少すると予測されている。

潜在的な課題にもかかわらず、デウェット氏は楽観主義を指摘し、「首位の地位が保証された訳ではないが、中期的に生産量と輸出量がさらに成長しており、南アフリカはリンゴ産業について非常に楽観的である」と話す。南アフリカは、首位に立つ果実供給国としての評判を築いている。

依然として、気候変動が収量の差に影響を与えているなどの課題はある。また、ケープタウン港の物流上の問題もあるが、港湾の管理と設備の改善により、ストレスの程度が軽減されることが期待されている。

出典: Freight News

74. 米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大

[米国農務省動植物検疫局通知 DA-2025-17 2025年5月29日\(30日送信\)](#)

件名: APHISはカリフォルニア州のカンキツグリーニング病(HLB)検疫規制地域を拡大

宛先: 州、部族及び準州の農業規制当局担当官

米国農務省動植物検疫局(APHIS)は、カリフォルニア州食品農業局(CDFA)と協力し、*Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病(黄龍病; HLB)の同州内の検疫規制地域を拡大し、これは直ちに発効する。拡大される地域は、オレンジ郡フットヒルランチ地域とミッションビエホ地域の合わせて26.69平方マイル、リバーサイド郡リバーサイド地域の11.30平方マイル及びサンディエゴ郡バレーセンター地域の85.19平方マイルである。

これらの措置は、CDFAが2025年3月24日(オレンジ郡)、4月18日(サンディエゴ郡)及び4月22日(リバーサイド郡)に定めた州内の検疫と並行して実施される。APHISは、オレンジ郡、リバーサイド郡及びサンディエゴ郡の住宅地から採取された植物組織サンプルからカンキツグリーニング病が検出されたため、この措置を講じるものである。この拡大は、2,761.85エーカーの商業的柑橘類園地に影響する。

APHISは、カリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動について、連邦規則集第7編第301.76条及び連邦命令に概説されている保護措置を適用している。これは、HLBが米国内の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、[APHISカンキツグリーニング病ウェブサイト](#)に掲載されている。APHISは、おってこの変更を連邦官報に掲載する。(連絡先等省略)

(訳注: 1平方マイル=約2.59平方キロメートル、1エーカー=約0.405ヘクタール)

75. 米国北西部 サクランボは国内販売に十分な量が準備完了

[FreshFruitPortal](#) 2025年5月30日

慣行栽培及び有機栽培のリンゴ、ナシ、サクランボの栽培、販売、品種開発を行うハニーベアブランド社は、北西部(ワシントン州等)の果樹園のサクランボを米国内のスーパーマーケットで販売する準備ができていると発表した。同社はリリースで、この生育シーズンには人気の高いこの果実が豊富に生産されており、小売業者は消費者に甘くて健康的な旬の果実の販売促進を行う絶好の立場にあるとしている。

産地では、最も早い収穫から最も遅い収穫まで十分な広がりが見られ、これによって北西部のサクランボの収穫はうまく均一に分散する。

同社は、「梱包処理能力を強化したおかげで、小売業者の注文に応じた梱包形態に対応し、可能な限り新鮮な果実を大量に提供できる」としている。

同社の営業販売担当副社長であるチャック・シンクス氏は、「弊社は今シーズンも、強力な販促キャンペーンに支えられ、約束どおり最高級のサクランボの食体験をお届けする。ワシントン州パテロス市にある弊社のサクランボ出荷ラインに新たに提携したスターランチ社のウェナチー市の施設が加わって処理能力が向上し、これによって小売パートナーが消費者に最高級のサクランボの食体験を提供することが可能になる」と話す。

同氏は、「サクランボの販売は、夏の青果物の販売を成功させる上で重要である。我々は、小売業者が夏のサクランボの販売で利益を上げ、青果物売り場が確実に成功するよう可能な限り努力する」と付け加えた。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

76. 米国カリフォルニア州 生食用ブドウ委員会が収穫開始を発表

[The Grape Reporter](#) 2025年5月30日

カリフォルニア州南部のコーチェラバレー地域で5月中旬に収穫が始まり、2025-26年度のカリフォルニア州の生食用ブドウの出荷シーズンが正式に進行中である。カリフォルニア州生食用ブドウ委員会(CTGC)は、コーチェラバレー地域でのブドウの収穫は7月中旬まで続き、その後、北部のサンホアキンバレー地域に移動して12月まで収穫を行うと発表した。

同委員会はこの出荷シーズンを支援するため、戦略的に開発された世界的な販売促進キャンペーンを開始した。これは、業界に対してカリフォルニア州産生食用ブドウの貯蔵と販売促進を促し、米国及び21の輸出市場の消費者がより頻繁にカリフォルニア州産のブドウを選択するよう啓発することを目的としている。

このキャンペーンでは小売業者の参加を促進するため、包括的な販促ツールと特典を提供している。これには、デジタルプロモーション、登録栄養士(RD)による小売プログラム、コンテスト、店頭広告(POP)用素材、店頭での試食、目標達成時の追加報酬等である。消費者向けには、複数の小売業者に対応した消費者用アプリへの広告掲出、デジタルクーポンと特典、インフルエンサーとRDのコラボ、及びターゲットを絞ったソーシャルメディア広告(カリフォルニア州産の新鮮なブドウを使ったレシピやスナックのアイデア及び健康上の利点を強調)を取り入れている。

同委員会のイアン・ルメイ会長は、「カリフォルニア州産のブドウは出荷シーズンが長く、夏の祝賀行事から秋の集いまでプロモーションの機会が多くある。世界に通用する魅力と強い需要があり、専任のチームによって実施される戦略的な販促キャンペーンにより、当委員会は今回もまた世界中の市場でカリフォルニア州産生食用ブドウの宣伝を続ける準備が整っている」と述べた。

シーズン中、同委員会の販促チームは商談会や展示会に参加して、業界の関係者との交流を深める。今週は、西海岸農産物展示会に出展している。(出展の詳細省略)

77. エジプト ブドウの輸出シーズンが高値で始まる

FreshPlaza 2025年5月30日

アルオマール社の輸出マネージャーであるモハメド・ムザイエン氏の報告によれば、エジプト産ブドウの出荷シーズンは5月初旬に始まり、持続的な需要と昨シーズンよりも高い価格で大変順調に進んでいる。

同氏は、「需要はヨーロッパ、特にオランダ、ドイツ、アイルランドで高い。アジア（マレーシア及びシンガポール）も有望な成長を見せている。湾岸諸国の市場は堅調だが、国内市場の競争とラマダンの時期が再び冬に近づいている影響で予想より成長が鈍く、特にアラブ首長国連邦とカタールでその傾向が強い」と話す。

エジプト産のオファーは、業界関係者達が商業的に有利な時期を狙って初期の出荷に賭けたため、幅広い品種をカバーしている。前出の輸出業者は、「現在、従来からの早生品種であるフレームシードレス、トンブソンシードレス、クリムゾンシードレス、レッドグローブ、スペリオール、オータムロイヤル、ティムコに加えて、新興品種のアイボリー、アリソン、ファイアスター、オータムパールなど、多様な品種を輸出している」と語る。

市場での良好なポジションは、出荷シーズンの最初の月の価格上昇に反映された。同氏は、「輸出価格は2024年と比較して約3.5%上昇し、2025年5月の平均FOB価格は2,850ドル/トンであった。国内の卸売価格も、生産コストと輸送コストの上昇により約8%上昇している」と述べた。

同氏は、「エジプトの早生ブドウの良好な実績の背後にある理由は、間違いなく品質の向上である」と結論付け、「糖度のレベルが向上しており、品質は明らかに高い。出荷が早く開始されたため、ヨーロッパ産が出回る前に良い価格を獲得することができた。オータムロイヤルやファイアスターなどの特定の品種が際立っており、市場で強い関心を集めている。主な課題は引き続き物流コストの増加である」と述べた。

執筆者： ユーネス・ベンサイド（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

78. フィリピン バランゴンバナナの輸出を拡大

FreshPlaza 2025年5月30日

フィリピン農務省は、バランゴンバナナの世界市場への販路を拡大してルソン島北部の産業を強化するため、植物産業局(BPI)を通じてオルタートレードフィリピン社と協力している。

バランゴン品種のバナナを栽培する7つの地域のうちの1つであるヌエバビスカヤ州(カガヤンバレー地方)は、毎週162箱を韓国に輸出している。各箱の重量は13.5kgで、カシブ地域のコンコン村とマラビン村から調達されている。バランゴンバナナは2016年に初めて日本に紹介され、その後、地域の提携を通じて韓国が加わった。政府の目標は、輸出を隔週で324箱に増やす(原文のまま)ことを目指している。

フランシスコ・ティウ・ローレル・ジュニア農業長官は、貿易障壁と関税の削減を支持し、バナナ産業の経済的価値を強調している。シェリル・マリー・ナティビダッドカバレロ次官とローズ・メアリー・G・アキノ地方局長が主導する取り組みは、カガヤンバレー地方における生産、加工、流通の強化に注力している。

アキノ氏は地域協議において、イサベラ州のブルゴス町、オーロラ町とイラガン市を小規模農園の候補地として特定し、気候変動に対する適応力を強調した。「我々は、地域内の供給を強化し、農家を支援し、気候関連の問題に対する適応力を構築するため、これらの地域での小規模農園の普及を奨励している」と述べた。

高価値作物開発プログラムのキャロル P. アルベイ氏は、肥料と灌漑を通じた農家への支援を再確認している。ヌエバビスカヤ州のバナナ生産者を支援するジュリエット・ワシット氏は、梱包と輸出の円滑化に対する継続的な支援を約束した。

BPI傘下のカガヤンバレー植物検疫所のレデン・ベラルデ所長は、国際市場の基準に合わせた輸出プロトコルと品質保証の精緻化に取り組んでいる。

出典: PIA

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

79. 世界のアボカド市場(要約部分抜粋)

FreshPlaza 2025年5月30日

ペルー等の中南米の生産国からの供給が急増し主要な地域で価格が圧迫されており、世界のアボカド市場では状況の変化が見られる。ヨーロッパと北米を中心に需要は堅調に推移しているが、一方、貿易の流れと価格水準を形成する上で、品質、物流及び市場アクセスがますます重要な役割を果たしている。

イタリアのアボカド市場は、急増するペルー産ハス種の圧力に直面しており、価格の下落による価格競争に繋がっている。これとは対照的に、ピンカートン品種のアボカドの需要は旺盛で、近年に比べて販売額が大幅に伸びている。

スペインでは2025年第1四半期にアボカドの輸出と輸入の両方が堅調に増加し、フランス、オランダ、ドイツが主な購入国であった。モロッコからの輸入が急増しており、夏場はペルー産を中心に供給量の急激な増加が予想される。

ドイツでは、EU向けのアボカドの量が前年比で37%増加したが、大玉が大半を占めており、スポット市場を圧迫している。スエズ運河経由の海上輸送の再開が見込まれることから、今後数カ月で供給がさらに増加する可能性が高い。

フランス市場では、主にペルーから供給される慣行栽培のハスアボカドに対する強い需要が見られる。しかし、量の多さが価格を押し下げており、シーズンは通常より約1カ月早く終了する可能性がある。

北米のアボカド需要は、シンコ・デ・マヨの行事の後も安定しており、夏の期間を通じて一貫した消費が見込まれる。カリフォルニア州、メキシコ、ペルー、コロンビアからの供給量の増加が、価格に下押し圧力をかけている。

世界最大のアボカド生産国であるメキシコは、来シーズンの生産量が5%、すなわち約15万トン増加すると予想されている。米国は引き続き輸出量の90%以上を吸収するものと見られる。

ペルーではシーズンの開始が昨年より遅れたが、生産量は昨年より多く、ヨーロッパ市場を圧迫している。生産者価格は下落し、輸出業者達は供給過剰を緩和するためにアジアや米国の市場に目を向けている。

チリは13万5千トンのアボカドを輸出し、ペルーからの輸入を補うため10万トンを国内市場に割り当てた。ヨーロッパでは、チリ産の夏場の価格が1箱当たり6〜8ユーロで、品質の重要性が強調されている。

コロンビアは、周年出荷と戦略的な立地に支えられて、世界のアボカド市場での役割を拡大している。今後のアンティオキア港の立ち上げにより、物流の制約が緩和され、輸出効率が向上することが期待されている。

中国では、ペルー産アボカドの出荷の遅れと着荷の減少により、価格が急騰している。チリの出荷は終わりに近づいているが、最近入荷しているものは品質が良い。

南アフリカの国内市場では、雨による収穫の遅れと供給の減少により、アボカドの価格が昨年より34%上昇している。輸出量は4kg箱で2,250万箱と予測されており、中国とインドで関心が高まっている。

モロッコでは今シーズン10万〜11万トンのアボカドを輸出し、初めて10万トンの大台を超えたが、価格は低かった。

執筆者: ステファン・ヤンセン・ファン・ニューウェンハイゼン

80. 米国から台湾への生鮮果実輸出が2024年に34%増加

[FreshPlaza 2025年5月30日](#)

2024年時点で台湾は米国産農産物の8番目に大きな輸出市場にランクされ、貿易額は5年前と比較して16%増の38億ドルに達する。農産物輸出の中で、生鮮果実は5番目に大きなカテゴリーとなっており、出荷額は2億6,200万ドルで、2020年の水準から34%増加した。

米国は依然として台湾への生鮮果実の最大の供給国であり、ニュージーランド(2億5,500万ドル)、日本(2億2,200万ドル)等の競合国を上回っている。台湾市場への輸出量が多い米国産生鮮果実は、リンゴ、サクランボ、ブドウ、モモ、スモモ、オレンジ等で、慣行栽培と有機栽培の両方を網羅している。

リンゴは台湾が最も多く輸入する果実として際立っており、2024年の総輸入量は15万6,419トンに達する。中でも米国は市場シェアを取り戻し、6万3,637トンを輸出して台湾のリンゴ輸入量の41%を占めた。この回復は、2023年5月に南アフリカ産のリンゴからの蛾の検出によって貿易が停止され、台湾への輸出が急激に減少したのを受けたものである。南アフリカのリンゴ輸出量はわずか7,021トンに減少し、需要を満たすために米国の供給業者が介入することを許した。

リンゴは、常に多種多様な果実が消費されている台湾で、引き続き文化的及び食生活上の重要性を保持している。米国の輸出の強さは、市場の需要だけでなく、米国産青果物の品質と安全性に対する台湾の信頼も反映している。

米国と台湾の貿易関係は、2024年12月に「21世紀の貿易のための米台イニシアチブ」に基づく合意が施行されたことでさらに強化された。この合意は現在、貿易円滑化、税関手続き、汚職防止の取り組み、中小企業支援等の分野をカバーしており、農業については将来の段階に向けて引き続き交渉中である。

台湾が高品質な生鮮果実の供給元の多様化を続ける中、消費者の嗜好、供給の信頼性、及び二国間貿易の枠組みの拡大により、米国は引き続き主要な貿易相手となっている。

レポート全文はこちら(原文参照)

81. アジア域内コンテナ指数は安定

[FreshPlaza 2025年6月2日](#)

コンテナ運賃は40フィートコンテナ当たり655ドルで安定

ドリュエリー社のアジア域内コンテナ指数(IACI)は5月の後半も安定しており、40フィートコンテナ当たりわずか1ドルの小幅な下落で655ドルに落ち着いた。ただし、全体の小幅な落ち込みにもかかわらず、その基礎となる航路別指数の一部では、個々の航路内で継続している変化を反映して2桁の変動が見られた。

IACIは、アジアの主要18航路のスポットコンテナ運賃の加重平均であり、依然として前年に比べて11%高い。ドリュエリー社は、地域全体の運賃は来月も概ね安定し、短期的には大きな変化は見込まれないものと予想している。

この指数は、実際のスポット市場の運賃を捉え、隔週で更新される。これには、釜山、上海、ホーチミン、ジャカルタ、高雄、レムチャパン、マニラ、シンガポール、タンジュンペレパス、横浜、ジャワハルラールネルーポート等の都市間の主要な輸送航路が含まれている。これらの航路は、アジア域内の貿易の包括的なネットワークをカバーしており、輸送の大部分について上海が中心的なハブとして機能している。

個々の航路の運賃の動向と複合的な平均値に関する洞察を提供することで、IACIはこの地域のダイナミックな物流環境を乗り切ろうとする出荷業者、輸送仲介業者及び運送業者にとっての貴重なベンチマークとして機能する。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

82. 米国北西部 サクランボ出荷シーズンの状況

[FreshPlaza 2025年6月3日](#)

今年の北西部のサクランボは、豊富な収穫量が予想されている。CMIオーチャード社のジョエル・ヒューイト氏は、「ザダレス市(オレゴン州北部)からオカノガンバレー地域(ワシントン州北部)まで、すべての産地で着果状態が素晴らしい。初期の予測では、2025年の北西部のサクランボの出荷量は昨年よりも多く、現在のところ昨シーズンより約9%多い2,140万箱が見込まれている」と述べた。

今シーズン、同社はパシフィックコーストチェリーパッカーズ社及びレジェンダリーフルーツ社(旧シェランフルーツ社)と提携することで、梱包能力を拡大した。同氏は、「両社の追加により、弊社の出荷能力が大幅に向上し、高品質なサクランボを最高の鮮度で国内外の市場に届ける能力が向上する」と話す。

同社が北西部で扱うサクランボは、慣行栽培及び有機栽培のレイニア品種といわゆるダークスイートレッド系のほか、ストロベリーチェリーと呼ばれるものやスカイラーレイ®ブランドなどである。同社のロシェル・ボーム氏は、「スカイラーレイは今年、出荷量の顕著な増加が見られ、高級なサクランボのカテゴリーで引き続き人気を獲得している。このサクランボは、その特別に高い糖度、歯触りの良い食感、鮮やかな赤黄2色の外観で、際立った食体験を提供する。また、そのユニークな逸話(自然交配と命名の背景)と入手が限られることにより、夏のサクランボの品揃えの向上と差別化を目指す小売業者にとって理想的な製品となっている。北半球と南半球の提携生産者のおかげで、弊社の取引先は強力なマルチシーズンの販売計画を構築する機会が拡大する。スカイラーレイは、世界中で入手可能な唯一のブランドサクランボになる可能性がある」と語る。

なお、有機栽培の出荷量も昨年の2倍に増加した。

早期の収穫開始

米国北西部の今年のサクランボの収穫は今始まっており、来週には出荷量が急速に増加すると予想されている。6月の第2週には販促が可能な数量が出回り、出荷のピークは6月中旬から7月になる。ヒューイト氏は、「特に7月は、重要な7月4日(独立記念日)の米国の休日に向けた強力な取組みなど、小売業者にとって主要な販売促進のチャンスがある。一定のサイズ、品質、供給量が期待されるため、この需要の高い期間を中心に自信を持ってサクランボの販売計画を構築することができる」と述べている。

一方、レイニア品種の収穫も6月上旬に始まり、7月中旬から下旬にかけて販売促進できる量が予想されるため、小売業者には夏の売上を増やす追加のチャンスを提供することとなる。

これらすべては、北西部のサクランボ出荷シーズンがスムーズで安定した果実の流れで始まり、大きな供給不足が予想されないことを意味する。ヒューイト氏は「良好な気象条件と戦略的な果樹園管理により、我々はバランスの取れたシーズンを迎えることができた」と述べ、カリフォルニア州の収穫量が予測を大きく下回ったため、世界のサクランボ市場にかなりの量を供給する北西部の出荷シーズンの開始に向け、市場では準備が整っていると付け加えた。

これはすべて、極端な寒波や熱波がなく比較的穏やかであった太平洋岸北西部の春の天候など、今年の生育条件によるものである。春先は暖かく乾燥した天候で、地域全体で確実な受粉と十分な着果を促進するのに役立った。過去のシーズンとは異なり、2025年は霜が大きな問題にならず、遅い低温が生育を妨げることもなく、収穫はスムーズかつ着実に進行している。ヒューイト氏は、「これらのバランスの取れた条件、つまり一定の気温、適度な雨量、十分な日照により、並外れた収穫に向けた準備が整った。生産者達は、理想的なサイズ、硬さ、糖度を備えた優れた果実の成長を目の当たりにしている。すべての兆候は、これから高品質なサクランボの収穫シーズンがやって来ることを示している」と言う。

需要の推移

サクランボの需要に関しては伸びが続いており、この傾向は健康志向の消費者、プレミアムな果実品種の人気、市場の拡大等、さまざまな要因の組み合わせによって推進されている。ボーム氏は、「小売業者は、特にプレミアム品種と特産品種に焦点を当ててサクランボの品揃えを拡大することで需要の高まりに対応して

いる。ネイチャーズキャンディ®、アメリカンドリーム®、XXL™ チェリーズ等のブランドが人気を集めており、消費者に独特の風味と視覚的な魅力を提供している」と述べ、CMI社はバラ売り、グラムシェル、ポーチバッグ、トップシールパッケージ等、いくつかの形態でサクランボを提供していると付け加えた。グラムシェルは100% PETのプラスチックパッケージで提供するが、トップシールはPETプラスチックを30%削減する。同社のポーチバッグは、リサイクル性を高めるためすべて低密度ポリエチレン製になった。

今シーズンの見通しが楽観的であることは間違いないが、いくつかの課題もある。同社は既存の国際的顧客基盤の中での関係強化に注力しているため、関税の課題や進展する世界貿易のダイナミクスにより、主要市場、特にアジアで不確実性が生じている。スコット・アグニュー氏は、「最近の関税の導入は、特定の国での価格設定と米国のサクランボ輸出業者の競争力に影響を与えており、今年の国際的な成長に対してより慎重かつ戦略的なアプローチを促している。弊社は、事業を拡大する代わりに、長年の輸出パートナーに対して安定した品質、信頼できる数量、及び先方に合わせた販売サポートを提供することに注力している」と話す。これには、翻訳された店頭(POS) 宣伝素材、デジタル素材、アジアやカナダなど需要の高い地域での主要な販促プロモーションの期間中にサクランボが最高の鮮度で到着するためのタイミングの調整等、市場ごとに固有のサポートが含まれる。

コストに対する継続的な懸念

一方で、労働力需要の増加と労働法規の厳格化が進む中、労働コストの上昇はサクランボ生産者にとって依然として重要な課題となっている。ヒューイト氏は、「賃金の調整から、住宅、交通、食事の提供に関する要件の拡大まで、生産者は複雑で費用のかかる規制環境を乗り越えようとしている。これらの追加費用により、労働力はサクランボ生産における最も大きなコスト要因の1つになっている」と話す。

このため、ピークシーズンに一貫した品質と量のサクランボを供給するという目標を念頭に、同社は在庫切れを回避し、収穫後の廃棄を最小限に抑えるための多層的なアプローチを取り入れた。これは、様々な標高と地域の果樹園に戦略的に植栽することで、収穫のタイミングをずらし、出荷期間を延長し、圧倒的な量を一度に動かすのではなく安定した果実の流れを作り出す。また、最盛期における広告計画と価格設定を支援するため、リアルタイムの収穫情報も提供している。

次に、外部との連携についてである。ボーム氏は、「弊社は、国内外の市場でインパクトのある販促プロモーションを行うため、小売パートナー、輸出取引先及び品目別の委員会と協力し、出荷のタイミング、数量及びメッセージ発信を調整している」と述べ、さらにカスタマイズされた販促プログラム、店内宣伝素材、デジタル素材及びソーシャルコンテンツ、消費者教育を通じて小売業者をサポートしていると付け加えた。

つまり、同社は小売業者に対して、独立記念日(7月4日)の特売を含む7月の販促の好機を活用するよう促すとともに、地域の天候情報を監視してシーズン後半の変化に積極的に対応し、供給業者と連絡を取り合い、タイミング、販売数量及び店舗戦略を調整することを推奨している。ボーム氏は、「また、北西部サクランボ生産者協会のような団体と協力して、品目カテゴリー全体の販促キャンペーンの影響範囲を拡大している」と述べ、これらの連携協力には、広告の共同実施、広報活動の展開、インフルエンサーの起用、小売業者との共同マーケティングの取組み等が含まれることが多いと付け加えた。

執筆者: アストリッド・ファン・デン・ブローク

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

83. ペルー 2025年産ハスアボカドの輸出見通しを下方修正

[FreshPlaza](#) 2025年6月3日

ペルーのハスアボカド生産者輸出業者協会(ProHass)は、2025年シーズンの輸出見通しを3月の予測から20%削減すると発表した。ProHassのホセ・アントニオ・カストロ会長の声明によると、新しい出荷予測は当初の予想よりも少ない65万5千トンである。

出荷予測の下方修正にもかかわらず、前年比30%の増収が予測されることから、このセクターは引き続き楽観的である。ProHassのマネージャーであるアルトゥーロ・メディーナ氏は、この出荷予測の削減は生産量に対するより現実的な見方を反映しているとして、「3月の成長予測は37%増であったが、現在は30%の成長を目指している。低くなったとはいえ、それでも大幅な増加である」と述べた。

ProHassは、この増加は慎重に分析する必要があるとしている。

メディーナ氏は、「今シーズンの30%の成長は非常に前向きに聞こえるかも知れないが、これは2024年の実績をベースに計算されたものであり、同年は2023年の冬と春の温暖な天候によって、特にハスアボカドの主要な生産者がいる北部海岸地域で生産性が深刻な影響を受けた非典型的な年であることを頭に入れておく必要がある。これらの見通しを2023年のようなより代表的な年と比較すると、成長率ははるかに低い約17%と推定される。したがって、このセクターのパフォーマンスをより正確に読み取るためには、こうした文脈を念頭に置くことが重要である」と語った。

ヨーロッパ市場は依然としてペルー産アボカドの主な輸出先であり、同市場向けの輸出量は24%増加して総輸出量の42%を占めるものと予測されている。米国向けの輸出量は、10%の関税とより高い輸送費用にもかかわらず、2024年と比較して75%増加し、総輸出量の18%を占めると予測されている。

メディーナ氏は、物流上の困難や予測の下方修正にもかかわらず、業務効率の高さと市場の多様化のおかげで拡大を続けているこのセクターの強さを強調した。同氏は、「生産者、輸出業者と関係当局の共同の取り組みが競争力を維持する鍵となっている」と述べた。

ProHassが収集する情報は、ペルーの主要な輸出業者からのデータに基づいている。メディーナ氏は、同協会は輸出量だけではなく、シーズン全体の予測に関するデータも収集していると述べ、「我々は現在、輸出業者に対し、国際市場の価格に直接影響を与える果実のサイズに関する情報を共有するよう要請している」と語った。

このセクターが直面している困難についてメディーナ氏は、適切なサイズの果実を輸出することの重要性を指摘し、「海外では中玉が最も需要がある。大玉や小玉が大量に輸出されると、価格は下がる傾向がある」と述べた。

ProHassは、ペルーの輸出の持続可能性を保証するため、引き続き市場を監視し、戦略を調整する。メディーナ氏によると、作物中のカドミウムに関連する問題等の他の困難に取り組む上で、農業省の支援が不可欠なものとなっている。

執筆者: ダイアナ・サジャミ

84. ブラジル オレンジは契約がないまま5月が終了

[Cepea 2025年6月3日](#)

2025年6月3日、セペア - Fundecitrus (柑橘類生産保護財団) が5月にオレンジの出荷量予測 - 関係機関の予想を上回る3億1,460万箱(40.8kg箱) - を発表した後、関係者らは2025/26年度産の果実の出荷に向けて加工業者と生産者の間でより良い契約が締結されるのを待っていた。しかし、契約の締結は6月中旬以降になると見られる。

生産量が2回目の開花による果実に集中すると見られ、収穫が本格化するのは7月以降となる可能性がある。したがって、今のところ、加工業者が既に受け取っている、または今後数週間以内に受け取る可能性のある少量の果実は、以前の契約に基づくか、またはスポット市場で取引された果実である。このような状況下で、5月に加工業者に納入されたオレンジの価格に大きな変化は見られなかった。

加工業者に既に届けられた果実について、関係者らは品質が向上したと言っている。これは、果汁を生産するために必要なオレンジの量が少なく済んだことを意味する。この前向きな状況は、一般的には、生産に有利な気象条件に関連している。

セペア/Cepea (サンパウロ大学応用経済高等研究センター)

85. ニュージーランド キウイフルーツの収穫はここ数年で最も順調

[FreshPlaza 2025年6月3日](#)

キウイフルーツ生産者協会(NZKGI)の最高経営責任者であるコリン・ボンド氏によると、最近のニュージーランドの果実収穫シーズンは、悪天候による混乱が最小限で、非常に平穏であった。同氏は、例年に比べて大きな気象災害がなかったことについて、これは収穫シーズンの始まりが早かったため、雨が降る前にかんりの果実が収穫できたことも一因であると述べた。

ボンド氏は、生産者は何度かの降雨に見舞われたが、主にタイムリーな収穫によって影響は限定的だったと述べ、Hort News (園芸ニュースサイト) に対し、「良いシーズンが訪れた時には、それを祝うべきだ。収穫については確かに比較的スムーズに進んでおり、生産者達は果実の品質と収量の高さに満足している」と語った。同氏は今シーズンを10点満点中8点と評価した。

以前の何回かのシーズンに影響を与えた労働力の課題は緩和されたようである。収穫プロセスは、レッドキウイの品種から始まり、グリーン、ゴールドという予想どおりの順序をたどる。この一貫性は、収穫後処理の自動化の進展と相まって、労働需要を一部軽減した。ボンド氏は、「ありがたいことに、労働力の状況は、近年に比べてはるかに良い」とコメントした。

しかし、依然として課題は残っており、特にホークスベイ、ギズボーン両地方の生産者達にとっては、サイクロン・ガブリエルの影響からの復旧や蔓の健康状態の問題がある。ボンド氏は、「これらの生産者の多くは最適な生産体制には戻っていないが、大多数は収益が改善するだろう。これは重要なことだ」と述べた。

キウイフルーツを園地から収穫後処理施設や港に輸送する上で、物流は非常に重要である。交通渋滞が輸送効率に影響を与えることもあるが、ボンド氏は、サプライチェーンは引き続き機能していると指摘した。タウランガ港への依存に対する懸念は根強く残っているが、今シーズンは高い運用レベルを維持している。

ボンド氏は、果実の効果的なマーケティングにおいてゼスプリが担っている役割を肯定した。ゼスプリが持つ長期の海運契約とチャーター船の使用は有益である。同氏は、市場の課題とマクロ経済的な圧力はあるが、ゼスプリは引き続き主要な市場への浸透に成功していると強調した。同氏は「これは、我々が提供する製品が健康的であるという長期的な評価を裏付けており、消費者の食のトレンドもまさにその方向へ進んでいる。」と述べた。

出典: HortNews

86. ペルー 生食用ブドウの記録的なシーズン

[The Grape Reporter 2025年6月4日](#)

ペルーの生食用ブドウの記録的なシーズン：業界は重要な節目を迎える

ペルーが20億ドル以上の生食用ブドウを輸出した2024-25年度シーズンは、歴史に刻まれるものとなった。これは業界にとって重要な節目であり、現在と未来を分析するのに丁度よい機会である。

この文脈で、フラクチュアンテ社はコルテバ社と共同で、ペルーのブドウ出荷シーズンに関するウェビナーを開催する。このイベントは、6月6日(金)18:00(ペルー時間)に開催される。

Freshfruitportal.com(本サイトの関連サイト)は、フラクチュアンテ社のCEOであるダビド・サンドバル氏に話を伺った。同氏は生食用ブドウがペルーで最も重要な作物の1つであることを忘れてはならないと強調し、「昨年のブドウの輸出量は、ブルーベリーに次いで第2位であった」と指摘した。(以下「」は同氏の話)

同氏は、過去数年間、生食用ブドウは一貫してペルーの農産物輸出の上位に位置してきたと付け加えた。直近のシーズンには、ブルーベリーの急成長と、北部地域が被った気候変動の影響で2023年と2024年初頭のブドウの生育が妨げられたことにより、2位となった。

ペルーの生食用ブドウ：多様で適応力のある産業

ペルーの生食用ブドウ産業の重要な側面の1つは、その品種の多様性である。サンドバル氏は、ペルーは現在56以上のブドウ品種を誇っていると指摘した。「我々はもはや伝統的な品種だけに頼っているわけではない。現在、ブドウの75%が特許を取得したプレミアム品種であり、種なし品種に重点を置いている。」

同氏は、ペルーの主要な強みである市場ニーズへの迅速な適応力を強調した。「そのおかげで、我々はそれらの要求に耳を傾け、理解し、製品を迅速に需要に合わせることができる。」

今回のウェビナーは、このセクターの進歩を紹介することを目的としている。

「今シーズンはブドウ生産が回復しており、純増している。北部地域が異常な状況に直面した昨シーズンとは対照的である。」

サンドバル氏は、新興市場をはじめとして、生食用ブドウの可能性は大きいと考えている。「我々はアジア諸国をターゲットにしており、チャンカイ港の整備もその一因である。」

全国レベルの話として同氏は、「我々は主要な果実生産者になるだけでなく、南太平洋の主要な物流ハブになることを目指している。これは、ペルーのより広範な輸出の可能性を支えるものである」と述べた。

業界の課題

主な課題についてサンドバル氏は明快であった。「間違いなく、最大の課題はブルーベリーやアボカドなどの他の作物との競合である。これにより、水資源と貨物の物流が圧迫されている。」

主な生食用ブドウ産地

サンドバル氏は、南のイカ県と北のピウラ県という2つの主要な輸出の原動力を特定した。

イカ県は今シーズンの総輸出量の49%を占め、これは8.2kg箱で4,200万箱に相当し、前シーズンに比べて18%増加した。

2番目に重要な産地であるピウラ県は、総輸出量の36%、すなわち3千万箱の貢献で、これは回復と成長を合わせて合計50%の増加を反映している。

悪天候とそれに伴う生産量減少の影響を最も受けたのは、ピウラ、ランバイエケ、ラリベルタの各県であった。

価格動向

価格について、サンドバル氏は次のように指摘した。「今回は供給が安定している。生産量の水準は回復し

たが、価格は若干下がっている。総合的な価格は、シーズン全体で約4%低下した。」

他の作物と比較して、ブドウは価格の低下が最も小さいものの1つであり、シーズン全体を通じた平均価格は2.97ドル/kgであった。

サンドバル氏は、業界は高級果実にお金を払う意思のある国々、特にアジアと中東、に市場を多様化すべきだと提案した。

「我々は既に期待に応える適切な品種を手に入れているが、プレミアム価格を支払う意思のある市場にはまだ到達していない。」

輸出市場

米国は今シーズン、輸出の52%を占め、最大の買い手であった。

サンドバル氏は、物流への投資の必要性を強調した。「北部と南部の地域にはブドウ生産に適した土地があるが、物流の問題、特に港への迅速なアクセスの欠如が、新規の生産者にとって大きな障害となっている。」

ペルーは現在、日本への輸出シーズンを2年連続で完了したところであり、サンドバル氏はこの市場を「興味深い市場であり、ペルー産ブドウの需要が高まっている」と描写する。同氏は、日本市場の開放には15～20年かかっており、業界は現在そこでの拡大に取り組んでいると指摘した。

同氏は、ペルー産ブドウの振興を助けるために、日本政府はペルーへの代表団の派遣さえ行った(原文のまま)と強調した。

これまでの反応は肯定的であり、サンドバル氏は「結果はすぐには出ないが、将来の成長のための戦略的な基盤が築かれている。来シーズンの日本への輸出がさらに増えることを期待している」と述べた。

ウェビナーと戦略的展望

サンドバル氏は、ウェビナーの基調講演者の1人がカンボソル社元CEOのホセ・アントニオ・バサン氏であり、ペルー産ブドウの輸出環境における米国の役割等、戦略的なビジネスの展望について述べる予定であると紹介した。

このイベントでは、高級なブドウ品種が本当に投資に見合うのか、それとも従来品種が依然として競争上の優位性を提供するののかについても検討する。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事)ペルー 輸出用に認定された生食用ブドウは2万3,320ヘクタール

agraria.pe 2025年6月4日

(Agraria.pe)ペルー生食用ブドウ生産者協会(Provid)のマヌエル・イザガ会長は、ペルーでは2万3,320ヘクタールの生食用ブドウの園地が輸出用として認定されていると述べた。

同会長は、イカ県は輸出用に認定された生食用ブドウの栽培面積が1万1,577ヘクタールと最も多い地域であり、全体の49.64%が集中していると指摘した。

次いで、ピウラ県が7,955ヘクタール(34.11%)、ランバイエケ県が1,590ヘクタール(6.8%)、ラリベルタ県が1,055ヘクタール(4.5%)、アレキバ県が877ヘクタール、アンカシュ県が106ヘクタールで、その他の県が合計119ヘクタールとなっている。

同会長は、ペルーは50品種以上の生食用ブドウを輸出しており、国際市場で最も需要が高いのは、スイートグローブ、オータムクリスプ、アリソン、スイートセレブレーション、シージーン2(商標名ティンプソン)、レッドグローブ、スイートグローブ、シュガークリスプ及びアイボリーであると付言した。

87. チリ アジアと米国がブドウ、キウイ、サクランボの需要を押し上げ

[FreshPlaza](#) 2025年6月5日

ヴェルフフルーツヨーロッパ社のマネージャーであるマリア・エレナ・ヴィジャブランカ氏は、「今年は我々にとって非常に良い年であった」と話す(以下「」は同氏の話)。今シーズンは、コンテナの不足と高い関税のほか、同社が扱う主要果実であるキウイフルーツ、サクランボ、ブドウの品質と市場の拡大も特徴的であった。

キウイフルーツ：新しい市場の拡大と安定した価格

「チリ産キウイフルーツはヨーロッパで安定した市場を持ち、中南米市場とインド市場で成長している。今は出荷シーズンの真っ只中にあり、価格は非常に良い。現在、ヨーロッパでは、26～27ユーロ/箱で販売されている。ギリシャとイタリアからの供給量が少ないことは、チリ産グリーンキウイフルーツにとって有利であり、英国のスーパーマーケットとの契約締結や、インドとブラジルでの取組みの開始を促進した。弊社は、需要の増加と輸出先の多様化により、2～3年後に200万箱の輸出を達成すると予想している。」

サクランボ：物流への影響と教訓

ヴェルフフルーツ社のチリ産サクランボは、同社のコンテナを輸送していたマースク社の貨物船サルトロ号の漂流事故という、前例のない物流上の課題に直面した。「果実の大部分は事故の前に市場に出荷されていたため、実際の影響は懸念されたほど深刻ではなかった。来シーズン(2025-26年度)は、中国と米国を主な輸出先とし、日本、韓国、台湾への多様化にも改めて焦点を当て、500万箱に到達する見込みである。」

サクランボ委員会と同社の戦略は、「多様化と適切なサイズと品質の提供」、単一市場への依存の低減、及び新しい物流要件への適応を重視している。

ブドウ：プレミアムな品質と戦略的市場

「ブドウはヴェルフフルーツ社のペルーでの事業の中核であり、今シーズンは前シーズンよりも多い760万箱が輸出された。しかし、序盤には水不足と港湾の混雑により状況が厳しかった。コンテナの問題は我々に大きな打撃を与えた。コンテナはチリ産のサクランボの輸送に振り向けられ、その結果、ピウラ港(ペルー)でのコンテナの確保が一層制限された。」

「スイートグローブ、オータムクリスプ、キャンディハーツ、アリソンなどの種なし品種は、アジアと米国で際立っており、平均価格は2.9～3ドル/kgで、レッドグローブの2.2ドルを大きく上回っている。一方、チリでは3月に出荷シーズンを終了したが、他の作物への転換により総出荷量に占める割合は減少した。」

物流は依然として大きな課題である。「関税は下がらず、輸送時間も改善されないだろう。」それでも、同社は垂直統合モデルとスーパーマーケットとの直接的な関係に依存することで困難を克服し、プレミアム果実の供給を保証している。「アジアは、弊社にとって今後もずっとプレミアム市場であるだろう。」

執筆者：ダイアナ・サジャミ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

88. チリ 生食用ブドウの現状と課題

[The Grape Reporter 2025年6月6日](#)

5月下旬にチリで開催された国際青果物協会 (IFPA) 主催の朝食イベントの一環として、輸出業者であるスブソレ社のアンドロ・ヴィダル商務マネージャーがこのセクターの強みと課題に光を当てながら、チリの生食用ブドウの生産と輸出の現状について詳細なプレゼンテーションを行った。

このIFPAの会合では、果実・野菜業界の様々な関係者が集まり、青果物の輸出の将来、セクターの持続可能性、及び国際市場の主要プレーヤーとしてのチリの位置付けを維持するチャンスについて話し合った。

プレゼンテーションの中でヴィダル氏は、地域別の生産について分析を行い、チリの果樹栽培はコピアポバレー地域からクリコバレー地域まで1,200キロメートルに及ぶことを強調した。出荷シーズンは11月 (第45週) に始まり、翌年の第20週頃 (5月) まで続く。

量の面では、ヴィダル氏は、今シーズンは、主にバルパライソ、メロポリタン、オイギンス、マウレの各州から6,800万箱が輸出されて終了したとしつつ、主に干ばつにより、一部の地域で減少傾向にあると指摘した。

ヴィダル氏は「コキンボ州では干ばつの問題により減少している」と述べ、アタカマ州等の一部の州では安定している一方で、他の州では輸出量が大幅に減少していると指摘した。

スブソレ社の幹部である同氏が提起した主な不確実性の1つは、チリの生食用ブドウの実際の栽培面積であった。農業省農業調査政策局 (Odepa) の公式記録によると、ブドウは4万3千ヘクタールで栽培されている。しかし、民間の推計によると、輸出用として積極的に栽培されているのは2万5千ヘクタールに過ぎない。

ヴィダル氏は、「これは課題である。我々が思っているよりも多く植えられている可能性があるため、実際にどれだけ生産されているかを知る必要がある」と述べた。

同氏のプレゼンテーションでは、特に米国市場に焦点を当てた主要な輸出先のより詳細な分析や、輸出されるブドウの種類、さらにその物流上及び商業上の課題についても紹介された。

物流上の課題が出荷予測に影響を与える

ヴィダル氏が言及したもう一つの話題は収穫のタイミングであり、今年は大きな前進や後退がなく、チリの通常の収穫時期の範囲にとどまった。第12週 (3月中下旬) には出荷のピークを迎え、700万箱以上が輸出された。「かつてチリが約1億箱を出荷していた時、そのピークは毎週1千万箱に近かった」と同氏は振り返る。

「週別予測の精度は、100%物流能力に依存する」と同氏は述べ、果実輸出業者の団体 (Frutas de Chile) が幅広い業界関係者が参加する複数の作業部会を通じて主導した共同作業を強調した。同氏は、「業界の80%が関与しているため、合計の数値は通常正確である。議論の余地があるのは週別の数値だ」と指摘した。

ヴィダル氏は、出荷量の推定値と実績を比較したグラフを示し、特に出荷シーズンの序盤と終盤の週に注意を引いた。同氏は「すべてが完璧であれば、推定値どおりに出荷される。しかし、シーズンの終盤には大きな乖離がある」と言い、一部の果実が遅れて出荷された可能性がある一方で、それだけでは不一致を完全に説明できないことを認めた。「我々はこれを改善する上で大きな課題に直面している」と同氏は強調した。

輸出業者と米国市場

ヴィダル氏は、10年前にはチリに350の生食用ブドウ輸出業者がいたが、今日では200に減少したとして、「上位15の輸出業者が全国の取扱量の70%近くを占め、市場は依然として非常に集中度が高い」と語った。

市場に関しては、米国が引き続き最大の輸出先であり、2022-23年度には、3千万箱が米国に輸出された。イカ県で発生したストライキは、今年と同様の米国市場の崩壊につながった。翌年度には、4千万箱近くに増加し、2024-25年度には出荷の動きが様々で3,600万箱に減少した。(以下、米国市場の状況について省略)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

89. 米国 サクランボはカリフォルニア州からワシントン州へ完璧な移行

[FreshPlaza 2025年6月9日](#)

カリフォルニア州のサクランボの出荷シーズンが今週末に向かって収束する一方、ワシントン州のシーズンがゆっくりと始まっている。ハニーベア社のセールス担当社長であるチャック・シンクス氏は、「弊社では今週末に最初のサクランボを梱包し、6月15日または16日までにフル稼働になるはずだ。カリフォルニア州の終了時にワシントン州がスタートするので、タイミングは非常に良い。2つの地域の間の重複はほとんどなく、店頭で品切れすることもない」と述べた。（以下「」は同氏の話）

もし、引き続き大自然の恵みにあずかれば、ワシントン州では今シーズン、サクランボの豊作が予想される。「7月4日の祝日（独立記念日）とそれ以降、販促プロモーションができるだけ十分な量のサクランボがある。」量が多いだけでなく、同州では高い品質と良好なサイズ分布も期待されている。「1列10.5粒かそれより大粒のサクランボが十分すぎるほど出てくるだろう。ただし、1列11粒のサイズを求める取引先にも対応できる。」

需要と供給のバランス 同社は、国内市場と輸出市場の両方で需要が堅調であると確信している。「今シーズンは、需要と供給のバランスをとることが重要になる。価格設定については、サクランボが小売レベルで動きが止まらないように十分魅力的である必要があるのと同時に、生産者の収益を確保する必要がある。」

同社は今シーズン、ワシントン州のサクランボの取扱量が2倍になるため、非常に期待している。「量が増え、果実の品質が高いので、事業の成長が待ちきれない。」シーズンは7月末に減速するまで全速力で進む。「8月の第1週か第2週まで出荷が喰いこむことを望んでいるが、天候次第である。」

執筆者： マリーカ・ヘムス （翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）

90. ベトナム 2025年これまでの米国産果実の輸入が約60%急増

[FreshPlaza 2025年6月9日](#)

ベトナムでは、高品質の輸入果実に対する強い需要が続いており、米国は2025年の最初の5カ月間の主要な供給国であった。農業環境省の統計によると、ベトナムはこの期間に米国から2億300万ドル相当の果実と野菜を輸入し、前年同期比で実質的に60%増加した。PetroTimes（ニュースサイト）は、米国は現在、ベトナムの輸入果実・野菜市場で26%の市場シェアを占めていると伝えている。

このブームは、ほとんどの農産物に対する輸入関税を0%に引き下げたベトナムの政令第73号を受けたものである。米国の果実輸出業者達は迅速に行動し、食品の品質と安全性の確保に対するベトナム国内の需要の高まりを活用するため一貫した供給を行った。

ベトナムのコショウの輸出は、量は減ったものの、堅調である。ベトナムは2025年上半期に9万8,600トンのコショウを出荷し、その輸出額は6億8,440万ドルであった。数量は前年同期比で13.6%減少したが、1トン当たり平均6,937ドルという史上最高の価格に支えられ、輸出額は39.2%増加した。

米国とベトナムの貿易の流れは引き続き活気にあふれており、生鮮果実は高い成長を示す品目の1つとなっている。米国の輸出業者とベトナムの流通業者はともに、高い需要、利益率の改善、2025年の両国間の農産物貿易の拡大見通しという最近の傾向を目の当たりにしている。

出典: PetroTimes

91. オーストラリア 生食用ブドウは甘いライセンス品種が伝統品種を追い越す

[FreshPlaza 2025年6月10日](#)

オーストラリアでは、甘みのより強い生食用ブドウ品種が登場し、トンプソンシードレス等の伝統的な品種が脇に追いやられ、スーパーマーケットの風景が一変している。コットンキャンディ、ファイアクラッシュ、ミッドナイトビューティー等の新しい競争相手が、長年の定番品種と並んで注目を集めている。

ビクトリア州北西部ミルデューラ市近郊のメルベイン地区にブドウ園を持つエンリケ・ロッシ氏は、クリムゾンシードレスからアリソン、アイボリー等のライセンス品種に移行している。これらのライセンス制のブドウは、個々の品種名ではなく、特定のブランドや名称によって定義されており、市場で広まりつつある。

ロッシ氏は、「この変化は、この数年間に兆候が見られていたものであり、今年は一気に本格化した」と述べ、現在栽培中のブドウの約70%が新しいライセンス品種に属していると指摘した。

同氏は、ライセンス制の生食用ブドウに移行することのハイリスク・ハイリターン¹の性質を強調しており、この動きが小規模な家族経営の農場に不釣り合いな影響を与えるのではないかと懸念し、「家族経営の生産者は減少し、中小規模の生産者は消滅または合併するだろう」と述べた。

オーストラリアは生食用ブドウの純輸出国の立場を維持しており、オーストラリア生食用ブドウ協会によると、13万2千トン以上が海外に出荷されている。ニューサウスウェールズ州ユーストン町のジョー・ガレファ氏のような生産者は、伝統的なトンプソン品種から離れることで消費者の要求に対応している。ガレファ氏はロビンベール及び周辺地区の生食用ブドウ生産者協会の会長として、「これらのライセンス品種に対する需要が高まっている。味が良く、それこそが今の消費者が追い求めているものだ」と説明した。

オーストラリア生食用ブドウ協会のジェフ・スコット会長は、伝統品種からのパラダイムシフトを認めている。同氏は、収量の高さと堅牢な輸送適性により、スーパーマーケットが新しい品種に軸足を移していることを観察しており、「スーパーマーケットは、トンプソンやメニンディーのような伝統的な品種よりも新しい品種を求める方向に進んでいる」と説明した。

出典: ABC News

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

92. 中国 雲南省に南部最大の高品質リンゴ産地が誕生

[FreshPlaza 2025年6月11日](#)

雲南省昭通市^{ジャオトン}は、伝統的な農業地域から中国南部最大の高品質リンゴの生産基地へと変貌を遂げ、50万人以上の住民を貧困から救い出した。

標高が高く、日射量が豊富で、気温の較差が大きいという理想的な気候を持つ昭通市は現在、6万6,700ヘクタールでリンゴを栽培し、昨年は130万トン²を収穫して、150億元(20億7千万ドル)の価値を生み出した。この業界は13万8千世帯に利益をもたらしており、昨年4月には宇宙船神舟18号に搭載する食料として、昭通市産のリンゴが採用された。

同市の昭陽区^{ジャオヤン}では、6,670ヘクタールの果樹園(中国最大の密植栽培リンゴ基地)が、世界最先端の技術を駆使して118品種のリンゴを栽培している。元タバコ農家のディン・カイウェン氏は現在、土地のリースと果樹園の仕事で年間最大8万元を稼いでいる。(1元=約20円)

「昭陽レッド」等の地元ブランドは、93の環境・有機認証を取得している。8~14元/kgで販売されるリンゴは、サムズクラブ(米国のスーパー)やヘマフレッシュ(中国のスーパー)等のプレミアム市場に届き、また東南アジアに輸出されている。果樹業界は、果樹園ツアーや果実狩りイベント等の観光も後押ししており、地域経済の多様化と生計の向上に貢献している。

出典: Chinadaily

93. アジア太平洋地域の物流 年央の状況報告

FreshPlaza 2025年6月11日

2025年が後半に向かう中、アジア太平洋地域の物流業界では、貿易に関する慎重な楽観主義、サプライチェーンにおける連携の変化及び規制監視の強化により、海路、空路、陸路での需要パターンが再編成されている。主要経路における輸送能力の調整、通関要件の変更及びインフラの制約により、運用上の困難が増大している。以下の要約では、海上、航空、内陸の輸送及び通関の各物流市場における最近の動向と、この移行期を通じて荷主を支援するために実施されている措置について紹介する。

海上輸送市場

米国と中国の間の90日間の関税猶予措置が5月中旬に発効した後、4月に最大40%減少した中国-米国間の太平洋横断航路の予約が急速に回復した。多くの輸入業者がスペースを確保するために季節商品の輸送を前倒した。一方、東南アジアでの消費の増加や、シンガポール等のハブを経由する海上・航空複合輸送と保税倉庫の需要増に支えられ、アジア域内の取扱量は堅調に推移している。太平洋横断需要の増加に対応するため、大型船の投入と増便により主要航路の輸送能力が回復しつつある。また、シンガポールに建設中のワールドゲートウェイ2(大規模物流施設)の今後の竣工により、この地域の倉庫の保管能力と貨物の積替え能力が拡大する。

航空貨物市場

世界の3月の航空貨物取扱量はアジア太平洋地域が牽引し、前年同月比4.3%増となった。4月には輸送能力が7%増加し、アジア-欧州路線及び太平洋横断路線では積載率が上昇した。控えめな世界のGDP予測と軟調な輸出受注にもかかわらずスポット運賃は安定しており、最近の米国の関税の変更が一部で経路の変更を促進したものの、スペースは依然として余裕がある。需要の高い路線では輸送能力が拡充されており、第3四半期の序盤まで安定したサービスを維持するため、通関計画と輸送経路に関する顧客別の案内が提供されている。

内陸輸送市場

全体としては内陸部の輸送の接続性は安定しているが、ベトナム南部、インド東部及び中国の一部では都市部の混雑と貨物の急増によりインフラが逼迫している。中華圏(中国大陆、香港、マカオ、台湾)における道路、鉄道、内水面による輸送は引き続き確実に機能しており、一方、東南アジアの国境を越えるトラック輸送は、通関手続きの合理化の恩恵を受けている。中国と中央アジアの間の鉄道輸送も、時間に敏感な商品にとっての航空輸送に代わる費用対効果の高い手段として拡大している。コンテナ追跡ツールの強化により可視性が向上しており、季節的なボトルネックを緩和するため、事前の書類作成と正確な予測が推奨されている。

税関市場

5月14日以降、IEEPA(米国の国際緊急経済権限法)に基づく課税や低額輸入品への54%の軽減税率等、米国の関税が改定され、中国本土、香港特別行政区及びマカオ特別行政区から出荷される商品の最終到着地までのコスト構造が変わった。同時に、米英間の新たな貿易協定が欧州から米国への輸入にも影響を与えている。これに対応するため、評価-遵守-最適化という構造化された枠組みを用いて、関税の影響の評価、関税分類の確認、及び関税軽減戦略(調達先国の変更や還付制度の活用等)の検討が行なわれている。シナリオ計画ツールとリアルタイムの関税の追跡は、企業が確定した政策変更と憶測を区別し、それに応じてコストモデルを調整するのに役立っている。

この年央の概要報告は、アジア太平洋地域のますます変化する貿易環境を乗り切る中で、複数の輸送手段や通関プロセスの全般について、先を見越した計画を立てることの重要性を強調している。

詳細についてはマースク社へ(原文参照)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

94. 米国フロリダ州 オレンジの出荷予測は前年比34%減

FreshFruitPortal 2025年6月12日

米国農務省が2025年6月12日に発表した柑橘類の出荷予測によると、フロリダ州の全オレンジの予測出荷量は1,200万箱で、5月の予測から3%増加したものの、2023-24年度シーズンに比べて34%少ない。

更新された見通しは、バレンシア種以外のオレンジ460万箱とバレンシア種740万箱から成っている。バレンシア種以外のオレンジは微減だった先月の予測を逆転させ、バレンシア種の予測も増加した。

グレープフルーツの予測出荷量は130万箱の横ばいで、赤肉系が116万箱、白肉系が14万箱となっている。レモンとタンジェリン/マンダリンの予測出荷量も、それぞれ60万箱及び40万箱の横ばいとなっている。

(関連記事)米国 柑橘類出荷予測 6月

米国農務省農業統計局 2025年6月12日

フロリダ州農業消費者サービス局との共同発表

柑橘類の品目別出荷量及び予測出荷量 - 州別及び米国計

品目及び州	出荷量 ¹		2024-2025 予測出荷量 ¹	
	2022-2023 (1,000 箱)	2023-2024 (1,000 箱)	5 月予測 (1,000 箱)	6 月予測 (1,000 箱)
バレンシア種以外のオレンジ ²				
フロリダ州	6,150	6,760	4,580	4,600
カリフォルニア州 ³	36,000	38,300	40,000	40,000
テキサス州 ³	570	690	530	530
米国計	42,720	45,750	45,110	45,130
バレンシア種のオレンジ				
フロリダ州	9,670	11,300	7,050	7,400
カリフォルニア州 ³	8,600	7,100	7,500	7,500
テキサス州 ³	560	490	350	350
米国計	18,830	18,890	14,900	15,250
オレンジ合計				
フロリダ州	15,820	18,060	11,630	12,000
カリフォルニア州 ³	44,600	45,400	47,500	47,500
テキサス州 ³	1,130	1,180	880	880
米国計	61,550	64,640	60,010	60,380
グレープフルーツ				
フロリダ州合計	1,810	1,790	1,300	1,300
赤肉系	1,560	1,550	1,160	1,160
白肉系	250	240	140	140
カリフォルニア州 ³	4,500	3,900	4,300	4,300
テキサス州 ³	2,250	2,400	2,300	2,300
米国計	8,560	8,090	7,900	7,900
タンジェリン及びマンダリン ⁴				
フロリダ州	480	450	400	400
カリフォルニア州 ³	23,500	27,200	26,000	26,000
米国計	23,980	27,650	26,400	26,400
レモン ³				
フロリダ州	(NA)	(NA)	600	600
アリゾナ州	1,400	950	950	950
カリフォルニア州	25,800	24,500	27,000	27,000
米国計	27,200	25,450	28,550	28,550

¹ 1箱当たりの正味重量(ポンド) オレンジ: カリフォルニア州 80、フロリダ州 90、テキサス州 85。グレープフルーツ: カリフォルニア州及びテキサス州 80、フロリダ州 85。レモン: 80。タンジェリン及びマンダリン: カリフォルニア州 80、フロリダ州 95。
² フロリダ州では早生の非バレンシア品種(ネーブル種を含む)及び中生の非バレンシア品種。カリフォルニア州ではネーブル種及びその他の品種。テキサス州では早生品種及び中生品種。
³ 当月の推計値は以前の予測値を繰り越し。
⁴ タンジェロ及びタンゴールを含む。
(NA)はデータなし。

95. トルコ 今シーズンのサクランボの70～80%に被害

[FreshPlaza 2025年6月12日](#)

トルコの果実輸出業者デミルフレッシュフルーツ(DFR)社のオーナーであるアルペル・ケリム氏は、損失は甚大であり、トルコのサクランボシーズンの困難な状況の中に前向きな点を見つけるのは難しいとして、「現在のトルコの状況を見ると、今の時点で十分な生産物が無いことは明らかである。総生産量については、今シーズンのトルコ産サクランボの70～80%が被害を受けた」と述べている。(以下「」は同氏の話)

ケリム氏は、果実の入手が極めて難しくなるため、サクランボの価格は天井を突き抜けると予想している。「当然のことながら、これらの被害の結果として、今シーズンの輸出可能量は減少する。実際に販売できるサクランボがある地域は、非常に高い価格を要求するだろう。これは、複数の市場で供給不足の影響(価格の上昇)が現れるため、輸出業者は適切な価格が提示されるのを待つしかないことを意味している。」

これまでのところ、国内市場はまだ好調であるため、入手可能なサクランボの販売に関しての制限はないと同氏は説明する。「国内市場では買い手は入手可能な限られた量を購入しており、依然として非常に堅調であるため、トルコ政府は介入していない。このサクランボシーズンは、大変静かで落ち着いた形で過ぎていくと思う。今シーズンに期待していた人達にとっては残念なことである。弊社の場合、自社の果樹園にはサクランボがあるが、そこでの収穫も限られている。」

全体として、トルコのサクランボ関係者は、このシーズンをできるだけ早く忘れたいようである。そのため、同社は、それほどダメージを受けていない他の果実に移行する。「弊社では現在、モモのほかアンズなどの他の核果類に力を入れている。これらの品目はどちらもサクランボに比べて被害ははるかに少ない。核果類の出荷シーズンが終わったら、再び視点を切り替えてリンゴの新シーズンに備える。」

執筆者: ニック・ピーターズ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

96. 米国 農業労働力不足を緩和する大統領令を計画

[FreshFruitPortal 2025年6月13日](#)

ロイター通信が伝えるところによれば、ドナルド・トランプ大統領は木曜日(12日)、同氏の政権の移民に対する積極的な法執行によって引き起こされた米国の農業とホスピタリティ産業(ホテル、レストラン、レジャー業界)の労働力不足に対処することを目的とした大統領令に「かなり近いうちに」署名する予定であると述べた。

トランプ大統領は、農場やホテルから強制送還されている不法就労者の多くについて代替が難しいことを認め、彼らを「経験豊富」と呼び、雇用主の負担を指摘した。この発言は、労働力の混乱をめぐる業界団体からの圧力の高まりに政権が直面している中で著しいトーンの変化を表している。

ブルック・ロリンズ農務長官は、大統領は生産者を支援するため、工具箱の中の利用可能なあらゆる道具を探していると述べたが、長期的な解決策には議会の対応が必要となる可能性が高いと付け加えた。

同長官は大統領の発表を受け、CNBC(ビジネスニュース専門チャンネル)のインタビューで、「大統領は、労働力なしには我が国や世界の食料を賄えないことを理解しており、そのことについて生産者の声に耳を傾けている」と語った。

全米農業連盟(AFBF)等の農業団体は、強制送還の増加がコロナ禍の際に見られたようなサプライチェーンの混乱につながる可能性があるかと警告している。米国内の200万人の農業労働者の約半分は、不法滞在者であると推定されている。

ありうる大統領令の詳細については依然として不明であるが、政権がそのような動きを公に検討していることは、移民政策と主要産業における不法就労への経済的依存との間の緊張関係を浮き彫りにしている。

(訳注: 続報によると、国土安全保障省は6月17日までに、強制送還措置が一時的にほぼ停止していると認めました。)

97. 米国北西部 サクランボのシーズンは早期に力強く開始

[FreshFruitPort](#) 2025年6月13日

北西部サクランボ生産者協会 (Northwest Cherry Growers) のサクランボ生産者向けの最新情報は、米国のサクランボ業界にとって良いニュースが詰まっている。

現在、この地域では早生品種のサクランボが収穫されており、予想よりも暖かい天候のために出荷シーズンが早く始まったにもかかわらず、果実のサイズと品質は抜群に良い。

これまでのところ、北西部は1日に25万箱(20ポンド/箱)以上を出荷しており、これまでに100万箱を出荷した。来週初めまでに出荷量は1日当たり35万箱を超えると予想されており、同協会は引き続き今シーズンの総出荷量を2,200万〜2,250万箱と推計している。(1ポンド=約0.4536kg)

カリフォルニア州のサクランボの収穫シーズンが終わりに近づく一方、北西部のサクランボのシーズンは既に始まっており、8月下旬または9月上旬まで続くと言われている。同協会は、カリフォルニア州は1日当たり5万箱(18ポンド/箱換算)未満を出荷しており、合計出荷量は約470万箱と予測されていると付け加えた。

(関連記事)米国ワシントン州 労働力不足がサクランボの収穫を直撃

[FreshPlaza](#) 2025年6月16日

赤と黄色の甘いワシントン州産サクランボの収穫は月の初めに始まったが、労働市場の予想外の逼迫に直面した。この季節労働のシナリオは、カリフォルニア州から始まり、収穫パターンに従ってワシントン州、オレゴン州、及び北西部のその他の州まで移動する移民労働者に大きく依存している。

専門家達は、いくつかの要因が今年の労働者確保の困難さに影響していると指摘している。サクランボの収穫はカリフォルニア州でより早く始まるが、収穫量が前年に比べて少ないものと見られ、カリフォルニア州と北西部のサクランボの収穫シーズンとの間にはほとんど重複がない。多くの労働者はまだカリフォルニア州の収穫で忙しく、ワシントン州への移動が最大2週間遅れる可能性がある。

さらに、連邦機関による職場の強制捜査や拘留の噂に集約される移民法執行に対する懸念が、不法滞在の農場労働者に恐怖を植え付けている。capitalpress.com によると、労働者農民労働組合のエンリケ・ガステルムCEOは、サクランボの収穫開始時にこれらの噂がワシントン州の労働供給に与えた影響を指摘した。

家族がカリフォルニア州の高校を卒業するなどの社会的関わりも、労働者の移動の遅れの一因となっている。影響を受ける労働者の総数は不明であるが、一部の生産者は、今年の夏の労働市場は予想よりも逼迫していると報告している。

1997年からケネウィック、パスコ、ベントンシティ等の地域でフィンリーサクランボ園を運営する生産者のジョン・ゲイ氏は、過去2週間の労働者の流入が遅く、その数はもう少しでやっとピークに達しそうだと言った。同氏の事業では、H-2Aビザ(季節農業労働者ビザ)の労働者を含め年間約50人を雇用している。同氏は、フィンリーサクランボ園での収穫において、移民労働者と地域の国内労働者の両方が重要な役割を果たしており、その中には25年以上前の農場設立以来関わっている人もいることを強調した。北西部では、前年と比較して約10%の生鮮サクランボの収穫量の増加を予測している。

ゲイ氏によると、労働力の確保に関する懸念に加えて、ワシントン州の果樹栽培者達は依然として、最低賃金の上昇、残業代の支払い、投入資材費の増加等、財政的な負担に直面している。これらの課題にもかかわらず、北西部のサクランボの約70〜80%は全米に流通しており、果実が倉庫に届いた時点で価格の決定権は倉庫側に移る。ゲイ氏は、今年の費用がどれだけ回収できたかを11月に評価する予定である。

ワシントン州果樹協会のジョン・デバニー会長は、ヘラルド紙が引用したように、消費者にとっての農産物価格の上昇と生産者の収入の減少との間の不釣り合いについて述べた。

出典: Tri-City Herald

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

98. ベトナム、タイ向け米国産果実のアクセスが改善

[FreshFruitPortal](#) 2025年6月16日

米国の果実輸出業者は、新たな貿易協定でベトナム、タイへのアクセスを改善

米国のリンゴ、柑橘類、核果類の生産者達は、月曜日に米国農務省(USDA)が発表した貿易措置により、東南アジアの主要市場への一層のアクセスを確保した。

同省はプレスリリースで、「米国農務省が講じた措置の結果として、米国の乳製品生産者はブラジル市場へのアクセスを維持し、柑橘類とリンゴの生産者はより多くの製品をタイに販売できるようになり、核果類の生産者はベトナムでの非関税貿易障壁が低下する」としている。

ブルック・ロリンズ国務長官は、「米国の農業生産者や牧場主は、世界で最も安全な食料を最も豊富に供給している。トランプ大統領の指導の下、私は生産者達の世界中の市場への一層のアクセス拡大に取り組んできた。ブラジル、タイ、ベトナムへのアクセスの拡大は、数百万ドルの貿易の増加を米国にもたらす。我々が引き続き米国を新たな繁栄の黄金時代へと導く中で、我が国の農業生産者や牧場主にとって最高のことはまだこれからである」と述べた。

以下は、3カ国それぞれへの農業アクセスに関するUSDAの最近の動向の要約である。

タイ: タイ農業省(DOA)は2025年6月4日に、米国東部のミシガン、ニューヨーク、ペンシルベニア、バージニアの各州からのリンゴの輸入の再開を承認した。この決定以前には、米国産のリンゴはカリフォルニア、アイダホ、オレゴン、ワシントンの各州からのみタイへの輸出が承認されていた。動植物検疫局(APHIS)は、米国東部の州からタイへのリンゴ輸出を再開するための要請とそれに必要な情報を2024年2月に正式に提出した。米国産リンゴのタイ向け輸出額は、西部産が年間約2千万ドルであり、東部産は年間約500万ドルと見込まれている。

タイのDOAは米国のリンゴ生産者の市場アクセスの拡大に加え、2025年6月4日にアリゾナ州からの柑橘類の輸入要件を改正した。この改正により、アリゾナ州で生産され、カリフォルニア州で梱包・出荷される柑橘類の輸出が許可される。これは、APHISの要請の成果であり、アリゾナ州で生産された柑橘類を同じ州内で梱包する必要があった以前の要件からの大きな変更である。アリゾナ州からタイに輸出される柑橘類の出荷額は、年間約38万5千ドルと予想される。

ベトナム: ベトナム農業農村開発省の植物生産保護局(PPPD)は、カリフォルニア州からベトナムへの生鮮モモとネクタリンの科学的根拠に基づく所定のアプローチ(システムアプローチ)による輸出を2025年6月6日に承認した。これは、APHISとPPPDとの交渉の結果であり、米国の核果類生産者が採用しているシステムアプローチが安全で効果的であることを認めている。カリフォルニア州産のモモ及びネクタリンのベトナム向けの輸出額は、年間約250万ドルである。

ブラジル: ブラジル農業畜産省(MAPA)は6月9日、米国の乳製品企業であるアグロピュア社によるホエイタンパク質濃縮粉末のブラジルへの輸出の一時停止を正式に解除した。MAPAは、米国内の1つの工場で製造される製品のタンパク質含有量が80%未満であることを示す検査結果に基づき、当該工場からブラジルへの製品の輸出を2025年5月22日に停止した。米国農務省海外農業局(FAS)と同農業マーケティング局(AMS)が不適切な状況に迅速に対処したことを受けて、MAPAは輸出の停止から3週間も経たないうちにそれを解除することに同意した。昨年、米国は8,300万ドルのホエイタンパク質濃縮粉末をブラジルに輸出した。

99. 米国 移民への強制捜査は農場を混乱させ、農産物の供給を脅かす

[FreshFruitPort 2025年6月16日](#)

トランプ政権の移民税関捜査局 (ICE) による職場への強制捜査は、米国の多くの産業に不安をもたらしており、農業部門もその1つである。

国際青果物協会 (IFPA) は、青果物業界を代表して発出した取締りに関する声明で、農業労働者を対象とした執行措置は、消費者が依存する農場の運営と農産物のサプライチェーンを混乱させるとしている。

声明はまた、強制捜査は何十年にもわたる政策立案者の無策と機能していない労働制度が導いた結果であるが、それは既に脆弱な労働状況をさらに悪化させ、米国農業の長期的な存続を脅かし、梱包業者や卸売業者から小売業者や輸送業者に至るまで、より広範なサプライチェーンに影響を与えているとしている。

同団体はまた、トランプ大統領が農業、ホテル、レジャー業界全体に広がる不満を認め、変化が訪れるとソーシャルプラットフォーム上で発表したことを称賛し、食料供給を保護するための計画の作成に同団体が協力すること及び議会に対し国の農業労働者制度に恒久的な改革を求めることを提案した。

米国農務省によると、米国の労働力は、主に自営の農場経営者とその家族及び雇用労働者で構成されていた。しかし、農業部門では1990年代を通じて自営や家族労働が急速に減少し、雇用労働者が増加した。データによると、自営とその家族の農業労働者の数は、40年間で760万人から201万人へと74%減少した。また、雇用された農業労働力は、農業部門の他の労働者や米国の雇用 (賃金・給与) 労働力全体よりも米国市民である割合が低くなっている。

IFPAはまた、同団体は、執行措置が青果物や花のサプライチェーンを混乱させないようにトランプ政権と常に連絡を取り合っており、現在も農業労働者を保護するために政権や議員と調整しているとしている。

(関連記事) 米国 外国人農場労働者等の強制捜査を一時停止

[FreshFruitPortal 2025年6月17日](#)

国土安全保障省はABCニュースとニューヨークタイムズ紙に対し、トランプ政権が農業、ホテル、レストランにおけるすべての大量強制送還措置をほぼ一時停止していることを認めた。この決定は、トランプ氏の大規模な強制送還が上記の3つの業界を混乱させたことに端を発して反発が高まったことを受けて行われた。

同大統領は先週、農業、ホテル、レジャー業界全体の不満を認め、変化が訪れると自身のソーシャルプラットフォームに発表していた。ニューヨークタイムズ紙によると、指示は移民税関捜査局 (ICE) の高官であるテイタム・キング氏から、犯罪捜査や現場の業務を担う同局国土安全保障調査部の地域リーダー達に電子メールで送られた。

キング氏はメッセージの中で、「農業(水産養殖場と食肉加工施設を含む)、レストラン、営業中のホテルに関し、職場におけるすべての捜査と摘発を保留する」とし、「これらの業界における人身売買、マネーロンダリング及び麻薬密輸の場合を除き」、「犯罪性のない巻き添え者」を逮捕しないよう指示した。

同省の広報担当官であるトリシア・マクラフリン氏は声明で、同省は大統領の指示に従い、「最も悪質な不法滞在の外国人犯罪者を米国の街から追放するための取り組みを継続する」と述べた。

一方、ICEの強制捜査に関する「トゥルースソーシャル」(ソーシャルプラットフォーム) 上のトランプ大統領の最新の投稿は、全米の移民取締官を称賛し、「この『トゥルース』の通知をもって命令とし、史上最大規模の強制送還プログラムを実施するという非常に重要な目標を達成するために全力を尽くす」よう指示した。

同大統領はまた、国外追放の取り組みに可能な限りのリソースを投入するよう政権内全体に指示したと述べ、「我が国の連邦政府は、外国人を出身地に送還すること、そして誰であれ米国国内の平穏を損なう者の入国を防ぐことに引き続き注力する」と付け加えた。

100. スペイン 1万本以上の違法マンダリンを排除

[FreshPlaza 2025年6月17日](#)

ORCは2024-25年度シーズン中に1万本以上の違法なオッリマンダリンを排除

オッリ(Orri)品種運営委員会(ORC)は、2024-25年度シーズン中にバレンシア、カステリオン(以上バレンシア州)、ムルシア(ムルシア州)、セビリア(アンダルシア州)の各県の農場に存在した10,285本の違法なオッリマンダリンの木を排除した。これと並行して、ORCは、モンコファ(カステリオン県)、ロリギージャ(バレンシア県)、ボルーリヨスデラミタシオン(セビリア県)及びムルシア(ムルシア県)の各町にある5千本以上の無許可の果樹に対して新たな法的措置を開始した。

同委員会はその創設以来、市場で数少ない限定的で管理されたライセンス制度の対象品種の1つであるオッリマンダリンの法的保護と厳格な管理にしっかりと取り組んでいる。

産業財産権を監視及び擁護するため、ORCは農業食品セクターでは先駆的な管理制度を採用している。これは、現場の疑わしい園地をリアルタイムで特定でき、高解像度の衛星画像を取得できる同委員会が開発したアプリケーション(OrriApp)や、違法な果樹園の空中からの検出を可能にするマルチスペクトルカメラを搭載したドローンなど、最先端の技術ツールを組み合わせている。

ORCのギジェルモ・ソレル事務局長は、「この技術により、スペインとポルトガルで無許可のオッリ品種が植えられた果樹園をほぼすべて特定することができた。これは、合法で公正かつ持続可能な農業モデルを保護するために、革新的な技術をいかに活用できるかを示す一例である」と述べた。

また、スペインとポルトガルにおけるオッリ品種のマスターライセンシーであるTEO社(The Enforcement Organization, S.L.)は、同品種を市場で流通する他の品種と区別するための独自の分子マーカーを持っている。これは、主要な研究センターと共同開発したものである。

ORCの管理モデル

昨シーズンは、マドリッド、バルセロナ、バレンシア、ビルバオ、サラゴサの各都市の販売店で1千件以上の検査が実施された。ほとんどの場合、見出された不備は軽微で、掲示の誤りに関連しており、法的な表示の義務には抵触していなかった。

ソレル事務局長は、「他の管理会社は、管理対象である品種の生産を制限しておらず、食品の安全性と持続可能性の基準がスペインの生産者に要求されるよりもはるかに低いモロッコ、トルコ、エジプトなどの第三国での拡大を推進している」と述べた。

同事務局長は「対照的に、オッリは保護された品種であり、生産量は限定され、厳格で信頼性の高い管理が行われている」と強調し、「当委員会は生産者にしっかりとコミットしており、彼らが公正な収益を得られるようにその利益を守っている。我々は、バリューチェーン全体に悪影響を及ぼし、将来に向けたより良い新品種への投資を阻害する植物の権利侵害や不公正な競争と闘っている」と述べた。

TEOは近年、合わせて9万8千本以上の木を無断で植えた生産者達に対して、合計150件の法的措置に着手した。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

101. インド 柑橘類の研究で日本との協力を探る

[FreshPlaza 2025年6月17日](#)

在ムンバイ日本国総領事館の八木浩治総領事は先頃、インド農業研究会議(ICAR)の中央柑橘類研究所(CCRI)を訪問し、柑橘類研究と持続可能な農業におけるインドと日本の協力を促進する1歩を踏み出した。この訪問の目的は、農業研究、特に気候変動対応型農業や精密農業、及び日本を拠点とするスタートアップ企業とのビジネス関係における2国間協力を模索することであった。

ICAR-CCRIの所長であるディリッパ・ゴーシュ博士は、この訪問がインドの柑橘類栽培における日本の先進技術の導入につながる可能性があるとして、「それにより(ICAR-CCRIが所在する)ヴィダルバ地域のオレンジ生産者にとって、生産性の向上、病害虫管理の改善、輸出の可能性の向上など、新たな機会が開かれる」と述べた。総領事の訪問中、ゴーシュ博士は、柑橘類の成長と衰退の管理における研究所の役割を紹介し、耐病性、気候変動への耐性、技術の導入等、柑橘類生産者が直面する課題に対処するための世界的な連携の重要性を強調した。また、この地域における柑橘類栽培の社会経済的影響や、科学的介入を通じて農民の生活を改善する同研究所の役割についても議論した。

柑橘類生産者及び同研究所の科学者と八木総領事による交流セッションでは、柑橘類の生産における新たな技術と共通の課題に焦点が当てられた。総領事は、苗木の生産施設を見学し、柑橘類の精密栽培のためのセンサー付き点滴灌漑と地下灌漑の実験ほ場を視察した。それは持続可能な柑橘類栽培におけるインドと日本の協力の可能性を象徴するものであった。

関連するニュースとして、ゴーシュ博士はインド農業科学アカデミー(NAAS)から作物保護部門のフェロウシップ賞を受賞した。ニューデリーで開催された授賞式では、柑橘類研究における疾病診断と病害虫管理の発展におけるゴーシュ博士の功績が認められた。同博士の業績は、柑橘類栽培と持続可能な園芸農業の理解の深化に貢献するものである。同博士は、「この成果は、私の学術的な歩みに多大な影響を与えてくださった恩師や先輩方の励ましやご指導なしには成し得なかったものである」と述べた。

出典: Times of India

102. インド 湾岸諸国への高級サクランボの輸出を開始

[FreshPlaza 2025年6月17日](#)

インドの農産物輸出の枠組みの強化を目的とした動きの中で、ピユシュ・ゴヤル連邦商工大臣は、ジャンムー・カシミール地域からサウジアラビアとアラブ首長国連邦への高級サクランボの最初の商業的出荷を発表した。ゴヤル大臣はソーシャルメディアの「X」で、「お祝い申し上げる。ジャンムー・カシミール地域からの最初の商業的な荷は、サウジアラビアとアラブ首長国連邦に向かっている。我が国のサクランボ生産者に巨大な市場が開かれ、彼らは今、その農産物に対してより良い価格を手にすることができる」と述べた。

同大臣は、物流の課題を橋渡しし、高品質な農産物の世界的な供給国としてのインドの地位を高めるためのこれまでの政府の取り組みを強調し、「#VocalForLocal(地元産品振興の取組み)にとっての大勝利だ」と述べた。商工省は、2024-25会計年度(4~3月)のインドの累積輸出額が前年比5.50%増の8,209億3千万米ドルに達すると予想している。

農産物・加工食品輸出振興機構(APEDA)のデータによると、インドは2023-24年度に、18億1,458万米ドル相当の生鮮青果物を輸出した。ブドウ、ザクロ、マンゴー、バナナ、オレンジが果実の輸出をリードし、タマネギ、ジャガイモ、トマト、ミックスベジタブル、青唐辛子が野菜の輸出をリードした。

これらの品目に高級サクランボを加えることで、地域の園芸セクターに市場開拓の道と財政的成果の向上の可能性がもたらされ、それによって世界的な農産物輸出におけるインドの地位が強化される。

出典: Greater Kashmir

103. 世界の2025年のサクランボ供給量は減少

[FreshPlaza 2025年6月17日](#)

サクランボ市場は、ハイテク温室の運営を変えるような大きな変化に直面している。複数の報告は、低温被害と貿易の不確実性によって引き起こされた困難な状況が、2025年のサクランボ部門の動向に影響を与えていることを示している。

ヨーロッパでは、天候関連の混乱により、収穫量の損失が30%から80%に上っている。エクスパナ社(農産物情報会社)のある関係者は、「こうしたヨーロッパの不作により、世界的なサクランボの出回り量が逼迫すると見られ、不足分を埋めるために北米の生産者に圧力がかかるだろう」と述べている。

米国の業界関係者らは、サクランボの見通しは注意を要すると説明している。(酸果オウトウの)主産地であるミシガン州では、2025年の収穫量は9,500万ポンドから1億1千万ポンドと予測されており、2024年の1億8千万ポンド弱を下回っている。ある市場参加者はエクスパナ社に対し、「世界と国内の供給が両方とも縮小しているため、価格への上昇圧力は避けられない」と述べている。(1億ポンド=約4万5千トン)

甘果オウトウについては、ヨーロッパとカリフォルニア州の生産者らは大幅な減収を報告しており、2025年のカリフォルニア州の収穫量は昨年のわずか25~50%となっている。これとは対照的に、ワシントン州では今シーズン、ダークチェリーの収穫量が平均以上になると予想されており、供給の問題を緩和する可能性がある。ミシガン州では、甘果オウトウの収量にばらつきがあり、特定の地域では平均的な予想を満たす一方で、他の地域では最大50%の減収が見られる可能性がある。

出典: Mintec/Expana

104. ニュージーランド ゼスプリはキウイ生産者の好調な収益を予測

[FreshPlaza 2025年6月17日](#)

ゼスプリは、2025/26年度シーズンについての6月時点での参考予測を発表した。好調なスタートを切ったことを反映して3月の当初予測よりも予測値の幅が狭まった。この見通しでは、グリーン、スイートグリーン、有機グリーン、有機サンゴールドの各キウイフルーツの1ヘクタール当たりの平均収益が引き続き増加し、前シーズンの記録的な水準を上回ることが示唆されている。CEOのジェイソン・テ・ブレイク氏によると、これらの前向きな予想は、収量の増加、果実のサイズ分布の改善(特にグリーンとルビーレッドの両品種)、さらにサンゴールドとルビーレッドの新植園地からの生産量の追加によるものである。

ニュージーランドは今シーズン、2億箱以上のキウイフルーツを生産すると予想されている。販売は順調に始まり、欧州や北米での需要が堅調であると報じられている。しかし、同社は、アジア市場で続いている課題、特に日本のインフレ圧力が価格と需要に影響を与える可能性があることを認識している。

ゼスプリは現在までに、1億1千万箱以上のキウイフルーツを出荷しており、これは今シーズンの予想総出荷量の半分以上に当たる。ルビーレッドの販売は終了し、同社の運営チームは、販売の勢いを維持し、市場全体で価格を維持することに注力している。

ゼスプリの2025/26年度の税引き後純利益(ライセンス収入を含む)は、2億4,800万~2億5,800万NZドル(1億5,100万~1億5,700万米ドル)と予測されている(前年度は1億5,520万NZドル(9,500万米ドル))。

同CEOはまた、生産者による株式保有の増加など、業界全体の戦略的な取組みの進展も指摘した。最近の株式保有の調整の取組みにより、生産者のゼスプリ株保有率が48%から60%以上に増加すると予想されている。これは、91%が国外での生産拡大の取組みを支持した2024年の生産者投票に続くものである。

業界は現在、2035年に向けた戦略を策定しており、商業的利益の整合と長期的な価値創造の計画に重点を置いている。ゼスプリによると、特にニュージーランド産キウイフルーツに対する需要が世界市場で依然として強い中、生産者と株主の利害を一致させることが将来の取組みの中心となる。

105. ブラジル 果実の輸出拡大を目指す

FreshPlaza 2025年6月17日

ブラジルは果実生産国として中国とインドに次ぐ世界第3位に浮上しており、また農産物貿易で引き続き重要な役割を果たしている。しかし、高付加価値の果実の輸出では23位にランクされている。ブラジル果実生産者輸出業者協会(Abrafrutas)のデータによると、同国を上回っているのは、少ない順にスペイン、中国、オランダ等の国々である。2023年のブラジルの果実輸出額は13億米ドル、主要品目はマンゴー、メロン、ブドウ、レモンで、輸出量は約110万トンと総生産量の1%に満たなかった。

この状況にはいくつかの根本的な要因が関係しており、ブラジルが国際市場でのシェア拡大のために埋める必要のある溝を明らかにしている。同協会のギリエルメ・コエーリョ会長は、二国間協定の推進、灌漑プロジェクトへの投資、物流の改善、小規模生産者の協同組合化の奨励等、必要な措置を強調している。

同会長は、「ブラジルよりも大幅に大量の果実を輸出している多くの、特に中南米の国々では、それは人口が少ないためである」と指摘し、さらに、2億1千万人以上の人口を抱えるブラジル特有の市場力学があると指摘し、輸出増加の可能性を強調する。

ブラジルの果樹農業は、綿密に管理された剪定と収穫のスケジュールにより、年間を通じた継続的な出荷の恩恵を受けている。対照的に、チリ、南アフリカ等の競争相手には、季節的な制約がある。ブラジルの多様な気候と土壌は、リオグランデドスル州とサンタカタリーナ州で産出されるリンゴや、主にパラ州とアマゾナス州から供給されるアサイー(アサイヤシの実)等の様々な果実を支えている。さらに、ブラジルは果実を輸出するために必要な種々の国際認証基準を満たしている。

貿易交渉と新市場の開拓は、果実輸出の成長を促進した。例えば、ブラジル産のブドウやメロンを中国に輸出するための議論は、最終的に適切な海上輸送サービスの確立に繋がり、輸送時間が大幅に短縮された。コエーリョ会長はまた、輸出の拡大における農業畜産省とブラジル貿易投資促進庁(Apex-Brasil)をはじめとする政府と関係機関の功績を評価している。輸出の伸びは明らかで、2024年には前年比4.6%増加した。

生産・輸出能力を強化するための取り組みとしては、特に北東部での公的な灌漑への投資がある。セルタンペルナンブカーノ運河のプロジェクトは大幅な拡張を想定しているが、それを実施するための政府の支援を待っている。コエーリョ会長は、その良好な気候と水資源から、北東部の半乾燥地域が持つ可能性を強調する。さらに、物流の改善と協同組合モデルの育成により、輸出の取り組みを前進させることができる。業界内で相当の部分を占めている小規模生産者達は、輸出に伴う困難を軽減するために協同組合的な戦略の恩恵を受けられる可能性がある。

出典: DatamarNews

106. 米国 農場、レストラン、ホテルはもはや強制捜査から免除されない

[FreshFruitPortal](#) 2025年6月18日

ドナルド・トランプ大統領は、ホスピタリティ業界と農業関連企業を移民税関捜査局 (ICE) の強制捜査から免除するという決定を覆したと報じられている。

国土安全保障省及び(その傘下の)ICEの複数の職員はワシントンポスト紙に対し、ガイダンスを撤回し、農業関連企業、ホテル、レストランにおける移民の強制捜査を継続していると語った。

大統領は農業団体やホスピタリティ団体が提起した懸念に同情を示したが、国土安全保障省の次官補は月曜日、「凶悪な犯罪者をかくまったり、意図的にICEの取り組みを損なおうとしたりする業界に安全な場所はない」と述べ、「職場での取り締まりは引き続き、公共の安全、国家安全保障、及び経済の安定を守るための我々の取り組みの基盤である」と付言した。

トランプ大統領は、その政権がICEによる身柄の拘束を増やして以来、3つの業界すべてから労働力の混乱を理由に大きな圧力を受けてきた。反発に直面した大統領は、農業、ホテル、レジャー業界全体の不満を認め、変化が訪れるだろうと自身のソーシャルプラットフォームに発表した。その直後、ICEの高官から、犯罪捜査と職場の調査を実行する国土安全保障調査局の地域リーダーに対し、メールで指示が送られていた。

107. 南半球のブルーベリー輸出が増加

[FreshPlaza](#) 2025年6月18日

アイコンサルティング社が発行した2025年市場年鑑は、南半球の生鮮ブルーベリーの生産、輸入、輸出の変動に関する貴重な統計を提示している。同報告書は、総輸出量に占める原産国別のシェア等、成長に関する主要な数値と今後数年間の予測を概説している。

その分析によると、ペルーの生鮮ブルーベリー輸出量は31万7,847トンで、南半球の総輸出量の72.8%を占めて全体をリードしている。チリは20.8%、すなわち9万647トンでこれに続き、南アフリカは5.2%のシェアを占め、4,993トンである。

2024/25年度シーズンの輸出先では、北米が最大のシェアを占め、南半球からの総輸出量の50.2%、すなわち21万8,963トンを吸収した。これに続いて、ヨーロッパが34.9% (15万2,117トン)、極東が12.6% (5万4,830トン)であった。

2024/25年度の輸出先別出荷量を2023/24年度と比較すると、中南米向けが63.5%増と最も大きな伸びを示した。増加量は2,010トンと控えめながら顕著な増加を表しており、これは南米大陸南部(サザンコーン)の生産者による市場の多様化と競争力のある物流戦略によるものである。これらの戦略により、輸送時間が短縮され、着荷時の果実の品質が向上した。

北米向けは26.7%増の4万6,137トン、欧州向けは26.3%増の3万1,633トンであった。これらの傾向は、需要の増加と南半球の輸出能力の向上を反映している。

これらの結果は、戦略的な市場開拓、サプライチェーンの改善、及び生産環境の成熟に支えられて、世界のブルーベリー貿易における南半球の役割が拡大していることを強調している。

出典: Blueberry Consulting

108. 米国フロリダ州 柑橘類産業支援に1億4千万ドルの予算を承認

[FreshPlaza 2025年6月18日](#)

フロリダ州議会は、州の柑橘類産業のための約1億4千万ドルの資金提供を、2025-26年度の予算案どおり承認した。この割り当ては、植物の病害への対処、販売強化、梱包施設のインフラ整備、検査プロセスの改善等、同セクターにとって重要な様々な側面を対象としている。

1億3,967万ドルのパッケージのうち1億450万ドルは、柑橘類研究開発基金(CRDF)と共同で実施する柑橘類研究ほ場試験に割り当てられている。フロリダ州柑橘類協会のリリースによると、この取組みは、「柑橘類の生産量の増加及びCRDFを通じた研究の推進を目的として、果樹園の管理と病害対策及び治療、耐病性品種の開発、園地の設計、病虫害防除、植栽後の管理」に焦点を当てた大規模なほ場試験を支援するものである。

このほかの予算配分には、フロリダ州柑橘類局への1千万ドルが含まれ、これは収穫された柑橘類のマーケティング活動の強化に使用される。さらに1千万ドルは、フロリダ州農業消費者サービス局(FDACS)が所管し、梱包施設を改修するための機器の購入を支援する柑橘類梱包機材コストシェア事業に配分される。

FDACSの監督下で新しい果樹品種を開発し、柑橘類の生産量を増やし、カンキツグリーニング病に対抗する技術を進歩させるための柑橘類病害対策プログラムは、652万ドルを受け取る。残りの資金は、柑橘類の検査、回復プログラム等の取り組みに充てられる。

出典: Florida Politics

109. アジア域内のコンテナ運賃は6月前半に8%上昇

[FreshPlaza 2025年6月18日](#)

アジアの主要18航路のスポットコンテナ運賃の加重平均であるドリュエリー社のアジア域内コンテナ指数(IACI)は、2025年6月前半に8%上昇し、40フィートコンテナ当たり707ドルに達した。この上昇は、地域別の輸送コストの顕著な変化を反映しており、アジア域内の物流全体に圧力が高まっていることを示唆している。

直近の上昇にもかかわらず、指数は依然として2024年6月の水準よりも27%低く、過去1年間の運賃の変動のより広範な傾向を浮き彫りにしている。IACIは、発地と着地のターミナル手数料を除外し、40フィートコンテナ当たりの米ドル換算で示される。

ドリュエリー社のサプライチェーンアドバイザーらによると、いくつかの重要な要因が現在の運賃の上昇傾向に影響している。これには、アジア全域の港湾混雑の深刻化、最近米国により導入された関税の影響、地域の流れに影響し始めている貿易パターンの変化等が含まれる。

アジア域内コンテナ指数は隔週で更新され、上海、釜山、ジャカルタ、ホーチミン、レムチャバン、高雄、ジャワハルラールネルーポート、シンガポール、マニラ、タンジュンペレパス、横浜、ジェベルアリ等の主要港を結ぶ航路の実際のスポット運賃を捉えている。

ドリュエリー社がこれらの動きを引き続き監視・報告する中、この指標は、世界で最も繁忙かつ複雑な地域貿易ネットワークの1つについて、変化し続ける動向を追跡する出荷業者、輸送仲介業者及びアナリストにとっての重要なベンチマークとして機能する。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

110. 米国カリフォルニア州 生食用ブドウは豊富な量と安定した市場を期待

[FreshFruitPortal](#) 2025年6月18日

出荷の中心がメキシコからカリフォルニア州サンホアキンバレーに移る中、フロニスインターナショナルセー
ルス社のデビッド・エスピノーザ氏は、変わりやすい天候が依然として主な変動要因ではあるものの、生食用
ブドウの生産者達は今後数週間の大量の出荷と安定した市場を期待していると述べた。(以下「」は同氏の話)

同氏は、地域間の差、天候の影響及び市場の動向を理解することの重要性を特に強調し、メキシコからの
供給は全体で推定2,400万箱のうちこれまでに約890万箱が収穫されており、「シーズンはまだ半ばだ」と指
摘した。「天候の影響でこれまでに約500万箱の損失があったことを踏まえ、今後4週間でさらに900万箱が
国境を越えるものと予想している。」

カリフォルニア州では、シーズンの進行はサンホアキンバレー、中でもアービン地域での収穫開始と密接
に関連しており、デルタバレーとコーチェラバレーに続く同地域での収穫は、最初の主要産地でのシーズ
ンの幕開けを告げるものである。

なお、エスピノーザ氏によると、コーチェラバレーの出荷量は、今年は大幅に少ない。同氏は、「コーチェラ
は従来約1千万箱を出荷してきたが、現在は250万箱程度だ」と説明し、同地域の出荷シーズンはメキシコと
重なっているものの、カリフォルニア州全体として求められる出荷量に貢献できていないと述べた。

「アービン地域からの出荷が始まるとすぐに、小売業者達はカリフォルニア州に注意を向ける。なぜなら、こ
れが約1億箱に達するかも知れないシーズンの始まりであることを知っているからだ。」2025年のカリフォル
ニア州の出荷量は、当初の推定では前年よりわずかに多い約9,500万箱と予測されている。

市況

今後について、エスピノーザ氏は、これまでに観察されたブドウの房数の増加に基づき、今シーズンは生
産量が増える可能性があるかと予想していた。しかし、気象現象、特に7月と8月の熱波が収穫量に大きな影響
を与える可能性があると同氏は警告している。

「熱波は植物にストレスを与え、落果につながり、場合によっては大きな損失につながる可能性がある。」
広大なカリフォルニア州全体での極端な気温や降雨などの天候要因は、予測できないような収穫量をもたら
すことが多く、当初の予測から5～6%程度減少する可能性がある。

エスピノーザ氏はまた、カリフォルニア州の輸出と収穫の予定が緊密に調整されていることを強調した。「11
月下旬までに、カリフォルニア州の収穫の90%が完了し、生産者達は貯蔵寿命を12月、できれば1月まで延
長するために低温貯蔵を計画している。これにより、小売業者への継続的な供給がサポートされる。」カリ
フォルニア州からのコンテナ出荷は通常、西海岸市場に向けられ、ペルー、チリ、その他の原産地からの輸入
が12月までの供給を補う。

今年の市況はかなり安定している。「メキシコには余剰在庫がなく、供給過剰でないため価格はかなり安定
している。」同氏は、メキシコからの出荷は比較的期間が短く、約8～10週間継続し、合計で約2,400万箱
になると付け加えた。「季節的な需要パターンは、ピーク時にはメキシコからの余剰な果実がアリゾナ州ノガ
レスの貯蔵庫に一時的に入る可能性があることを意味しているが、全体としては価格が維持されている。」

物流と需要の要因に関してエスピノーザ氏は、ノガレスの輸入業者とブローカー達が取引量の急増を精力
的に管理していると指摘し、カリフォルニア州の出荷量が予想どおりに増加し続ける場合、6月下旬に供給過
剰が発生する可能性があるかと予想している。同氏は、カリフォルニア州からの出荷量の増加は、特にブロー
カーや輸入業者が余剰在庫の販売を強行する場合、一時的な価格下落につながる可能性があるかと述べた。

市場の課題について、エスピノーザ氏は、関税は現在の懸念事項ではないと述べた。「メキシコ、カナダ、
米国間の既存の貿易協定のおかげで、カリフォルニア州のブドウの輸出に関税の問題は見られない。」

消費に関しては、業界の動向は生食用ブドウの需要が高まっていることを示しているが、米国内の小売の販売プロモーションではまだトップレベルの位置付けになっていない。

「ブドウは現在、宣伝されている果実のトップ5に入っていない。」エスピノーザ氏は、ブドウを積極的に宣伝している店舗数は、昨年の早い時期の約1万8千と比較して、今年は約1万であると指摘する。価格が安定しているか、わずかに上昇しているにもかかわらず、シーズンのこの段階では消費者向けの販促活動は緩やかなものにとどまっている。

「アービン地域では、昨年に比べておそらく5～7日ほど早く収穫が始まるだろう。農務省の糖度の報告書はまだ手にしていない。通常、房数が多い場合、糖度は期待されるほど高くない。我々は、例年どおり夏のシーズンの出荷量と品質に大きな期待を寄せており、今年は天候がどうであろうとすべてに対処し、管理する準備ができています。」

執筆者： カーラ・エスピノーザ・グティエレス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事) 米国カリフォルニア州 ブドウは高値で始まる可能性

[FreshPlaza 2025年6月19日](#)

「セントラルバレーのブドウシーズンは高価格で始まる可能性が高い」

カリフォルニア州の生食用ブドウの主産地であるセントラルバレー地域での収穫は、まだ数週間先である。ブドウ園プリティレディのニック・ダルシッチ氏は「現時点では、収穫がいつ始まるのかを正確に判断するのは難しい」と言い、「7月1日から7月10日の間に開始されると見られるが、大多数の生産者は4日以降に収穫を始めると思う。果実は味が良くなければならないので、適切な糖度になるのを待つということだ。酸っぱいブドウを摘むなどは、父がよく言っていたことだ」と語った。(以下「」は同氏の話)

これまでのところ、天候は理想的である。開花は良好で、好条件のためにいくつかの品種では着果量が多かったが、房を間引いたことで状態は大きく改善された。「その結果、作物の負荷が過大にも過少にもならず、高品質の果実と高い収量が期待される。シーズンがどのように展開するかを判断するのは時期尚早であるが、現在の状況を見ると、果実の品質は大変良い。最善の結果を願っている。」

需要が供給を上回る シーズンの初めには需要が高く、価格も高くなると予想される。メキシコ産のブドウの出荷量は当初の予測を下回っており、その結果、カリフォルニア州のセントラルバレーからの出荷が始まる時には、流通在庫は比較的少なくなると予想されている。カリフォルニア州産のブドウが市場に入荷する時には、需要が供給を上回る状況である可能性が高い。「そのため、流通在庫が積み上がって市場が安定するまでは、高価格の過熱した市場が予想される。」流通在庫が少ないことに加えて、今年の予想ではセントラルバレーのブドウの出荷量も減少する。「その上、我々の農場は早生産地のマリコパ市にあるので、価格の高騰は3週間続く可能性があると考えている。」

同ブドウ園の出荷シーズンは、早生の緑、赤、黒の品種で始まる。それはそれぞれシュガードロップ™、ルビーラッシュ®、ミッドナイトビューティー®である。「これらが我々のシーズン開始時の品種であり、7月下旬ないしは8月上旬まで収穫され、その後にシーズンの第2段階に移行する。」

執筆者： マリーカ・ヘムス (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

訳注： 関連記事中のセントラルバレーは広大な地域であり、最初の記事のサンホアキンバレー、デルタバレー及びコーチェラバレーを含みます。

111. 香港 輸出者向けガイド(抜粋)

米国農務省GAINレポート 2025年6月18日

これは米国農務省海外農業局香港農業貿易事務所が作成した「輸出者向けガイド年次報告書」の要旨及びファクトシートを翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

2024年の香港の経済成長率は2.5%で、大方の予想の下限の水準であった。香港政府(HKG)の当局者らは、観光、投資、経済活動を促進するために多くの対策を講じているが、高い金利や低迷する住宅市場等の逆風に引き続き直面しており、輸入飲食料品の需要に影響を与えている。これらの課題にもかかわらず、香港の輸入規制の透明性、自由港及びアジア地域の他の市場への中継ハブとしての地位、さらに所得の高い消費者の集中により、香港は米国産農産物にとって魅力的かつ競争の激しい市場となっている。米国から輸入される主要な消費者向け農水産物は、牛肉、鶏肉、魚介類、ナッツ類、生鮮果実、ワイン及びスピリッツ並びに様々な調製品(調理済み食品)やスナック食品等である。

ファクトシート

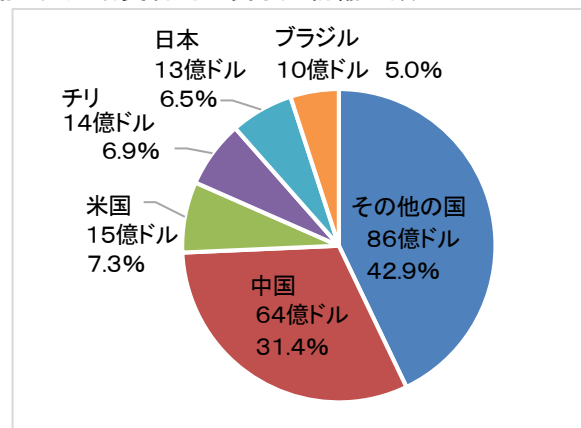
要約

香港の人口は750万人である。2024年の1人当たりGDPは5万4,079ドルで、アジアで最も高い部類に入る。香港は活気に満ちた都市であり、アジアへの主要な玄関口である。消費者は洗練されており、国際人としての生活様式を楽しんでいる。耕作地が限られているため、香港の食料の約95%は輸入されている。2024年の香港の農産物及び関連製品の輸入総額は、2023年と比較して1.0%減の241億ドルであった。

消費者向け農水産物の輸入

2024年の香港の消費者向け農水産物の輸入額は1.1%減の202億ドルで、全農水産物輸入額の84%を占めた。輸入品の上位10品目は、魚介類、生鮮果実、調製品、牛肉、ノンアルコール飲料、乳製品、ワイン、鶏肉、豚肉、ベーカリー製品であった。輸入先上位5カ国は中国、米国、チリ、日本、ブラジルであった。

輸入先別消費者向け農水産物輸入額・シェア 2024年



食品小売業

2024年の香港の食品小売販売額は2.8%減の118億ドルであった。香港の食品小売市場は、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、及び伝統的な市場で構成されている。スーパーマーケットは、食品小売販売額の60%以上を占めている。香港には700以上のスーパーマーケット、1,300のコンビニエンスストア及び100近くの伝統的な市場がある。

食品加工業

香港の食品加工部門は規模が小さい。2024年の世界からのバルク農産物の輸入は7.2%増の3億7,200万ドルで、全農産物輸入額の1.8%であった。中間加工農産物の輸入額は27億ドルであった。

フードサービス

香港には、広範で、影響力があり、活力に満ちたホテル、レストラン及び施設・団体向け(HRI)のフードサービス部門がある。2024年の香港のレストランの収益は2.4%減の141億ドルであった。香港には1万7,154軒のレストランがある。¹

クイックファクト 2024暦年

消費者向け農産物の輸入額 202億ドル(前年比1.1パーセント減) 伸び率の大きい消費者向け輸入農産物上位品目 1)生鮮果実 2)鶏肉 3)畜肉 4)ナッツ類 5)蒸留酒 6)調製品(調理済み食品) 7)乳製品 8)香辛料 9)チョコレート 10)コーヒー	流通経路別食品産業 消費者向け農産物 - 総輸入額 (a) 202億ドル - 再輸出額 (b) 80億ドル - 実質輸入額 (a-b) 122億ドル - 食品小売販売額 118億ドル - レストランの売上高 141億ドル GDP/人口 人口: 750万人 1人当たりGDP: 5万4,079ドル
--	--

SWOT分析

強み - 裕福な消費者のいる開かれた輸入依存市場 - 米国産品は品質が高いと認識されている。	弱み - 参入障壁が低く、競争の激しい市場 - 比較的小さい地場市場 小口の注文と包装への対応が求められる。
機会 - 健康食品とハラル食品のニッチ市場の拡大 - 香港は、他のアジア諸国への貿易/再輸出の主要なハブである。	脅威 - 米ドル高、米国産品の貨物運賃の上昇と輸送日数の増加 - 地元の住民が中国本土で食事や買い物を行う消費形態の流行

データ及び情報の出典: 米国センサス局貿易データ、貿易データモニター、ユーロモニターインターナショナル、香港政府統計処及び香港貿易発展局。特記されていない限り、金額は米ドル。

1 香港食物環境衛生署による2025年4月現在の認可レストラン数

112. 米国北西部 サクランボの出荷量は13%増加の予想

[FreshFruitPortal](#) 2025年6月18日

北西部のサクランボのシーズンが到来し、生産者は豊作を期待している。北西部サクランボ生産者協会の国内販促ディレクターであるカーリー・ランゲ氏は、「20ポンド(約9kg)箱で少なくとも2,200万箱が収穫される可能性があり、昨年の収穫量と比較して13%の増加となる」と話す。

ワシントン、オレゴン、アイダホ、ユタ及びモンタナの各州の2,500以上の生産者が北西部産のサクランボ(甘果オウトウ)を収穫し、全米の生鮮サクランボ供給量の70%以上を占める。

同協会によると、北西部の今年のサクランボシーズンは早く始まる。ただし、この出荷時期の移動が果実の品質に影響を与えるとは予想されていない。シーズンは8月下旬または9月上旬まで続く予想されている。

先週、同協会は1日当たり25万箱以上の出荷を報告した。シーズンが本格化すると、日々のお荷量は35万箱を超えるものと予想される。

113. 南半球の生食用ブドウ輸出量は2024/25年度に11%増加

[FreshPlaza](#) 2025年6月19日

南半球諸国とメキシコ及びインドは、2024/25年度シーズンに合わせて240万トンの生食用ブドウを輸出した。これは8.2kg箱で2億8,900万箱に相当し、前シーズンよりも11%多い。この成長は、南半球の3つの主要輸出国であるペルー、チリ及び南アフリカの一層の活発化によって推進された。

ペルーは、前シーズンより33%多い69万トンで出荷をリードした。この反発は、エルニーニョによる被害からの回復と、前年比4%増で2万3,320ヘクタールに達した認定栽培面積の拡大によるものである。

チリも前向きな進展を記録し、5%の増の55万6千トン(6,780万箱)を輸出することができた。システムアプローチの下での米国への輸出が許可されているアタカマ、コキンボ、バルパライソの各州での良好な天候条件が、この実績を達成する上での鍵であった。南アフリカは、35万630トン(5%増の4,280万箱相当)の輸出を記録して歴史的なシーズンを終えた。

輸出先市場については、米国は前回とは対照的な状況であった。2023/24年度には、供給量の少なさ、インフレ、及び新品種の存在感の増大により、価格は記録的な水準に達した。しかし、2024/25年度には、ペルーでの生産の回復により過剰な供給が発生し、価格に下押し圧力がかかった。種なし白ブドウ部門では、第4週(1月下旬)から第9週(2月末)の期間に価格が1キロ当たり7.6ドルから1.9ドルに下落し、到着よりも遅い出庫ペースによって在庫が積み上がり、港湾の物流に影響を与えた。

中国市場は次第に自給率が高まり競争が激しくなっている。収穫後処理技術の向上により、国産品の出回り量が増加し、輸入の余地が減少した。こうした状況の中で、南半球産の種なし白ブドウの総供給量は27%減少したが、^{ジャナン}江南市場(広東省広州市)ではペルー産とオーストラリア産のみが良い価格を獲得し、対照的にチリ産、南アフリカ産、インド産の結果は好ましくなかった。

南アフリカは依然としてヨーロッパへの主要供給国である。種なし白ブドウ部門では1,300万箱(+8%)で首位にあり、次いでペルーが1,100万箱(+58%)、チリが290万箱(+85%)であった。南アフリカはまた、1,400万箱(+2%)で種なし赤ブドウ部門をリードし、次いでチリが440万箱(+47%)、ペルーが350万箱(+40%)であった。南半球の種なし赤ブドウの総供給量は14%増加した。

無料でアクセスできる2025年生食用ブドウ国際市場年鑑はこちら(原文参照)

出典: frutasdechile.cl

114. チリ 2024-25年度のサクランボと生食用ブドウ輸出シーズンの総括

[FreshPlaza 2025年6月19日](#)

「チリはブドウの輸出量が5%増加したが、ペルーは全世界への出荷量が32%増加した」

2024-25年度のチリのサクランボと生食用ブドウの輸出シーズンは、価格の急落、外部との激しい競争、及びそれに不利に働いた国際物流によって特徴づけられる。

(サクランボ)

ケレンフルーツ社の商務部長であるニコラス・ミケリーニ氏は、「チリはサクランボの輸出量を50%増加させたが、価格は33%近く下落した。FOB価格は、1箱当たり平均30ドルから20ドル未満に下落した。これは、特に収穫時期が遅い生産者の収入に直接影響した。さらに、中国に果実を輸送していたマースク社の船舶の事故により、積み荷が中国での販売を許可されず破棄せざるを得なかったため、大きな損失を引き起こした」と述べた。(以下「」は同氏の話)

中国市場(チリ産サクランボの90%の出荷先)への依存が明らかになった。業界は現在、米国、ブラジル、ヨーロッパをターゲットにして、市場の多様化を模索しているが、この移行には時間がかかる。「中国はチリのサクランボ産業の原動力である。製品の品質を確保し、糖度の低い柔らかい果実を避け、大玉(26mm以上)の出荷に焦点を当てることで、競争力を取り戻すために不可欠である。」

「この業界は、過去10年間のような年率25%の成長を続けることはないだろう。今年は成長が見込まれるが、そのような伸び率ではない。我々の輸出は、天候と生産物の品質によって左右される。」

(生食用ブドウ)

「終了したばかりの生食用ブドウのシーズンも厳しかった。チリはブドウの輸出量が5%増加したが、ペルーは全世界への出荷量を32%増加させた。チリ産ブドウの主な出荷先である米国は、昨年より47%多いペルー産ブドウを輸入した。このことで、チリ産の果実が輸出先で長期間貯蔵されていること、再包装の必要性、さらに滞留に伴う果実の損失についてある程度説明がつく。1月中旬の米国の港湾危機も在庫管理に関する憶測を呼び、それもこの状況の一因となった。」

「出回り量の多さ、前シーズンと比較した海上運賃の上昇、輸出先での貯蔵コストの上昇、及び米国への輸入に対する10%の関税によって価格圧力が増し、チリの生産者の収益はさらに減少した。」

「ブドウに関する弊社の戦略は、遅めの収穫時期を選ぶこと、オータムクリスプやスイートグローブなどの需要の高い品種を使用すること、消費者向けの最終形態での包装(小型のクラムシェルやバッグなど)を原産地で実施する能力への投資を増やして再包装コストを削減するとともに米国とヨーロッパの小売店へのアクセスを改善すること等である。」

「弊社のより幅広い戦略は、既存の取扱品目(サクランボ、ブドウ、柑橘類、ナッツ類)にペルーの400ヘクタールの土地で栽培しているブルーベリーなどの新製品を加えて品揃えを拡大することである。我々は、現在200ヘクタールで進行中の初めての収穫から3千トンの輸出を計画している。」

近い将来、戦略的な調整が必要である。同社は、チリの輸出業者との国内競争や地域内での競争に直面しており、一方ペルーは厳しい圧力をかけている。「安定性は、市場への適応にかかっている。適切な品種を選択し、生産性を向上させ、最終消費者に直接アクセスできる形で進歩を遂げることだ。」

執筆者: ダイアナ・サジャミ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

115. ペルー 2025年にチリを抜いて南米最大の果実輸出国に

[FreshPlaza](#) 2025年6月19日

ペルー農業開発灌漑省 (Midagri) 農業政策総局の報告書によると、同国は2025年に、歴史的にチリが占めてきた南米最大の果実輸出国の座を奪う見込みである。

2012年から2022年までの農産物輸出データに基づくこの予測では、2025年の輸出額をチリの推定99億7,900万ドルに対し、ペルーは推定101億9,400万ドルとしている。

「チリとペルーの2024年までの農産物輸出の進展」と題されたこの調査結果は、チリの農産物貿易が年平均6.1%で成長したのに対し、ペルーは同11%で成長したことを強調している。この成長率の差により、格差は急速に縮小し、2024年のペルーの農産物輸出額は91億8,500万ドルで、チリの94億300万ドルに迫っている。

ペルーの輸出セクターの力強い勢いは、2010年から2024年の間に海外向けの販売額が年率19.6%で増加した果実の伸びによるところが大きい。対照的に、チリの伸び率は6.8%であった。もしこの傾向が続けば、ペルーの果実輸出額は2027年に110億6,400万ドルに達し、チリの果実輸出額を9%上回ることになる。

ペルーの輸出品目の中で最も際立っているのはブルーベリーとアボカドで、その輸出は南の隣国であるチリを大きく上回っている。ブドウでは差が小さいが、天候条件が許せば、ペルーは2025年に世界最大の輸出国になる可能性がある。

野菜では、両国の格差はさらに広がっている。このカテゴリーの両国の合計輸出額に占めるペルーの割合が83%であるのに対し、チリは17%である。その年間成長率は果実よりも緩やかであるが、チリの1.5%と比較してペルーは3.9%と南の隣国を大きく上回っている。

世界的に見ると、ペルーは2025年にチリを上回り、オランダに次ぐ世界第5位の果実輸出国になると報告書は予測している。現在、中南米の主な輸出国はメキシコ、チリ、ペルー、エクアドル、コスタリカであるが、南米地域におけるリーダーシップは近くペルーの手に渡ると見られる。

こうした競争にもかかわらず、国際市場がもたらす課題に共同で対処することを可能にするため、両国の企業は戦略的提携の確立に関心があることを報告書は強調している。この連携は、物流コストの削減、販売促進活動の共同実施、収穫の季節性を活用した輸出可能な品目の拡充につながる可能性がある。

ペルーの農業セクターのダイナミズムは、米国等の主要市場への特恵的なアクセス、悪天候への耐性、及び生鮮果実・野菜に対する世界的な需要の高まりの恩恵を受けてきた。

しかし、同報告書は、貿易政策の変更、厳しい異常気象、インフラや国際関係の脆弱性等、この成長を鈍化させる可能性のある潜在的なリスクについて警告している。

国連統計部によると、2022年の世界の果実輸出額は史上最高の1,370億ドルに達した。このような中、ペルーの台頭は世界の地図を書き換え、国際果実貿易における南米の主導的な役割を強化するものである。

出典: infobae.com

116. 世界のリンゴ市場(要約部分抜粋)

FreshPlaza 2025年6月20日

世界のリンゴ市場では、安定した需要、地域的な供給上の課題及び価格の変動が混在している。主要な生産国及び輸入国の全体的な状況は、天候の影響、消費者の嗜好の変化及び国際貿易のパターンによって形作られている。

イタリアでは、リンゴの在庫量が前年に比べて微減の25万トンとなり、中でもゴールデンデリシャスは25%減少した。販売が堅調である一方、生産者達は植物防疫上の規制強化の圧力に直面している。

ドイツでは、他のヨーロッパの国からの供給が減少したため、国産のリンゴが市場をリードし、また南半球からの輸入品が存在感を高めた。旺盛な需要と販路の選択肢の拡大に支えられ、価格は概ね安定していた。

ポーランドでは、開花期の降霜がその後の収穫量に影響を与え、コロナ禍以来最も急激な価格上昇を引き起こした。近代化の取組みが園地の拡大よりも効率化に重点を置いていること及び供給量が限られていることから、引き合いは依然として強い。

スペインではサイズが小さく、在庫量が少ない中で出荷シーズンが終了する。ジローナ地方の生産者達は次のシーズンにはゴールデン品種の収量が少なくなると予想している。

オランダのリンゴ市場では依然として価格が堅調であるが、減速の兆しを見せている。取引業者はほとんどの品種でバランスの取れた供給を報告しているが、一部の品種では品質上の懸念が浮上している。

フランスでは、暑い天候及び核果類との激しい競争により、リンゴの需要が鈍化している。ゴールデン系の品種が低迷している一方、クラブ品種とグラニースミスの販売はより安定している。

スイスでは、有機リンゴの在庫量が5月に931トン減少したものの、依然として高い水準にある。慣行栽培の品種の価格は様々であり、ガラは11%下落し、ジャズは5%上昇した。

北米では、ワシントン州のリンゴの供給はハニークリスピの在庫量が少ないことを除けば安定しているが、ペンシルベニア州は供給不足に直面している。価格は保たれるものと予想され、ハニークリスピ等の一部の品種では高値を維持し、他の品種も堅調と見られる。

中国では、贈答用化粧箱入りのクイーン(皇后苹果 NZ Queen)をはじめとして、需要の高まりにより価格が上昇している。高品質品の入荷が限られているため、クイーンとガラの両品種の価格が毎週上昇している。

インドでは、国内の生産不足により輸入品の需要が増加しており、レッドデリシャスが依然としてトップの選択肢である。チリ産のレッドデリシャスとガラは、その品質と競争力のある価格設定で特に人気が高い。

南アフリカのリンゴ輸出業者達は、アジア・アフリカ市場の変化に対応しようと取組んでおり、そこでは様々な需要パターンと物流上の制約が現在の貿易の流れを形成している。

南米のリンゴ生産者達は、横ばいの生産量、変化する需要及び生産コストの上昇が混在する状況に取り組んでいる。アルゼンチンとチリはコスト圧力の下で輸出の勢いを維持しており、ブラジルでは国内生産量の少なさと品質の高さが堅調な国内価格を支えているが、(アルゼンチンやチリからの)輸入を招く可能性もある。

117. ペルー 冷凍果実の輸出が2020～2024年に年4%の成長

FreshPlaza 2025年6月20日

ペルー輸出観光促進庁(PromPerú)の分析によると、ペルーの冷凍アボカドと冷凍ブルーベリーの輸出は、ヨーロッパ市場での躍進により2020年から2024年の間に持続的な成長を遂げ、輸出額で年率2%、輸出量で同4%増加した。この好調な業績は、今年のペルー産冷凍果実全般の輸出量が世界全体で3%、米国市場で7%減少したこととは対照的である。

冷凍イチゴの輸出は、輸出額と輸出量とも年平均8%のペースで着実に成長した。パッションフルーツの冷凍果肉は、輸出額が26%、輸出量が14%増加して、1kg当たりの価格では51%上昇し(原文のまま)、このことはこの製品の再評価の証しである。さらに、新しい製品としてザクロの仮種皮(可食部)、ルクマの果肉、サワーソップ、チェリモヤ、アグアイマント(食用ホオズキ)等の各冷凍品でチャンスの扉が開き始めている。

世界を目指すルクマとチェリモヤ

マリポサアンディーナ社の執行役員であるグラシエラ・トルヒーヨ氏は、「ペルー原産の果実であるルクマとチェリモヤは、その郷愁を誘う価値により国際的に高い需要がある。これらの製品のチリと米国での消費は安定している」と述べた。

チェリモヤは、アジア、特に日本と韓国で関心が高まっており、焼き菓子へ利用の可能性が評価されている。トルヒーヨ氏は、「サンプルを送ったところであり、彼らは新しい風味を開発中である。取組みの進み方はゆっくりとしているが、大きな可能性を秘めている」と語った。

同社はこれら2品目のほか、イチゴ、マンゴー、ブルーベリー、有機パイナップル、パッションフルーツの半割冷凍果肉で製品の品揃えを多様化している。同氏は、「弊社の取引先は、ペルー産パッションフルーツの濃厚な風味を重視している。アジア産との競合があるが、風味の面でこちらに優位性がある」と述べた。

同社は米国、ヨーロッパ、アジアに拠点を置き、業務用の円筒型容器入りから100グラム入りの包装まで、あらゆるカスタマイズされたパッケージとオーダーメイドの対応に取り組んでいる。物流や気候関連の課題はあるが、今年は輸出が30%増加すると予測している。

有機オレンジとパイナップル果汁

セルバインダストリアル社はペルーの熱帯雨林で、熱帯果実に特化した唯一の個別急速冷凍(IQF)加工施設を運営している。同社のレンゾ・ゴメス代表は、濃縮オレンジ果汁、パッションフルーツ、有機MD2パイナップル、及び欧州では依然として新規食品として規制されているカムカム等の製品への取組みを強調した。

同氏は、「有機ビジネスは変動が少なく安定している。そのため、弊社はこの分野で成長しており、中でもMD2品種のパイナップルに力を入れ、果汁、ピューレ、IQF製品の形で提供している」と述べた。同社は12品目以上の果実を扱っており、製品の65%を欧州に、残りを米国に輸出している。

ゴメス氏は、アジアとオセアニアへの多角化戦略と、地域の生産者のネットワークの統合について強調した。同氏はまた、構造的な障壁として物流コストと気候関連のコストが過大であるとしつつ、「弊社は、熱帯雨林の小規模生産者に近いこととトレーサビリティで差別化を図っている。それが弊社の強みである」と述べた。

輸出観光促進庁(PromPerú)が国際ビジネスを後押しするバイヤー招聘事業を開始

貿易促進戦略の一環として、PromPerú は、ペルーの高価値商品・サービスのサプライヤーと国際的なバイヤーをつなぐ取組みとしてバイヤー招待事業を開始した。この事業は、ペルー南部展示会2025(アレキパ市、8月26～27日)、小売週間2025(リマ市、9月17～23日)及びペルー・中国展示会2025(リマ市、10月30日)の枠組みの中で実施される。

執筆者: ダイアナ・サジャミ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

118. 台湾 輸出者向けガイド(抜粋)

米国農務省GAINレポート 2025年6月20日

これは米国農務省海外農業局台北農業貿易事務所(台湾)が作成した「輸出者向けガイド年次報告書」の要旨及びファクトシートを翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

台湾では農地が限られているため、農産物の輸入に大きく依存している。2024年には38億ドル相当の食品と農産物を輸入し、米国の農産物の貿易相手として8位にランクされた。この好調な実績は、台湾の高い可処分所得と米国産飲食物品に対する消費者の好意的な認識に支えられている。このレポートは、台湾市場について検討する米国の食品輸出業者にとって実用的なガイドとなるものである。

ファクトシート

要約

台湾は、8,040億ドルのGDPを有する高所得経済圏である。耕作可能地が限られ農業部門が小規模であるため、食品と農産物を輸入に大きく依存しており、世界の農産物市場における主要な輸入者である。米国産農産物の貿易相手として第8位にランクされる台湾は、2024年に米国から38億ドルの農産物及び関連製品を輸入し、これは台湾の総輸入市場の20.94パーセントを占めている。

消費者向け農産物の輸入

台湾は2024年に21億ドルの消費者向け農産物を米国から輸入し、これは消費者向け農産物の輸入額全体の22.72%を占めた。上位の品目は、牛肉、果実、鶏肉、乳製品、ナッツ類等であった。

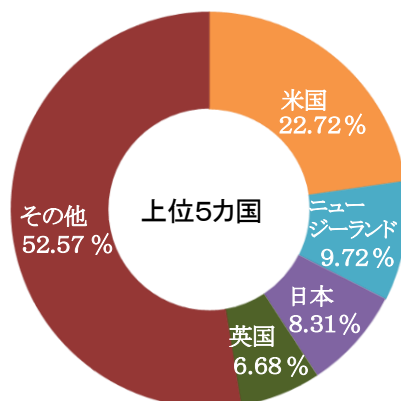


図1: 台湾への消費者向け農産物上位輸出国

食品小売業

台湾の2024年の飲食物品小売販売額は89億ドルであった。この数字は、コンビニエンスストアの密度が世界第2位であり、台湾全体で1万店舗を超えていることによって達成された。電子小売商取引は活況を呈しており、スーパーマーケットは生鮮食品や農産物を提供するためにウーバーイーツ等のフードデリバリーサービスと協力することが増えている。

食品加工業

台湾の食品加工業は2024年に305億ドルの加工飲食物品を製造し、これは製造業全体の付加価値の4.9%を占めた。消費者の利便性に対する志向と、健康的で安全な食品への関心の高まりの影響を受け、業界は簡単に調理できる食品や健康的なオプション及びクリーンラベルの開発に力を入れている。

フードサービス

台湾の外食産業の2024年の収益は315億ドルに達した。この業界では、着席式のレストランよりもテイクアウト方式の施設の方が成長している。

クイックファクト 2024暦年

消費者向け農産物の輸入額 21億米ドル 伸び率の大きい消費者向け輸入農産物上位品目 牛肉 家禽 ミルク及びチーズ 生鮮果実 ナッツ類 生鮮野菜 魚介類 ペットフード 植物性タンパク質 コーヒー(焙煎したもの) 流通経路別食品産業の構成 食品小売業 89億ドル フードサービス(HRI) 315億ドル 食品加工業 345億ドル 食品・農産物の輸出額 58億ドル	台湾の小売業者上位10社 セブンイレブン ファミリーマート PXマート 新光三越 コストコ 遠東百貨(ファーイースタン) モモ 崇光百貨(そごう) カルフルー PCホーム GDP/人口 人口: 2,340万人 GDP: 8,048億9千万ドル 1人当たりGDP: 3万4,430ドル 出典: 台湾統計庁、台湾經濟部、台湾農業部、国際通貨基金(IMF)
---	--

SWOT分析

強み 米国は依然として消費者向け農産物の主要供給国であり、引き続き堅調な成長の可能性を示している。	弱み 多くの米国企業は、高価値製品の少量出荷や混載貨物の利用に消極的であり、小規模な輸入業者の市場アクセスを制限している。
機会 ファーストフードチェーンやカジュアルダイニングレストランの成長が進んでおり、食品原材料の消費が増加している。	脅威 台湾との自由貿易協定(FTA)締結国がより低コストで製品を提供できることが、輸入業者の米国製品購入意欲を削いでいる。

119. トルコ 果実の収穫量は厳しい春霜のため24%減少

[FreshPlaza](#) 2025年6月23日

トルコは、4月の季節外れの霜と寒さにより、多くの主要産地で果実の収穫量が壊滅的な打撃を受け、この数十年で最も深刻な部類の農業災害への対応に追われている。過去30年間で最も被害が大きいと言われるこの降霜では、全国で10℃もの急激な気温低下が起こり、開花中の果樹に深刻な影響を与えた。議会は、被害を評価して緊急措置を勧告するための委員会を設置した。

サクランボ部門は特に大きな打撃を受けた。イズミル、マニサ、デニズリ、キュタヒヤ等の主要な生産県では広範囲にわたる被害が発生し、一部の地域では収量が80%も減少したと推定される。いくつかの地域で収穫が完了しつつあるが、市場への供給量は依然として少なく、価格は高い。現在、品質の低いものが150～300トルコリラ(4.3～8.7ユーロ)/kgで販売されている一方、ナポレオン、サリフリ等の品質の高い品種は、もし出回ってさえいれば、600～700リラ(17.3～20.2ユーロ)/kgで取引されている。

収穫が遅い産地であるコンヤ県のハドゥム郡は、まだ収穫の準備をしている数少ない地域の1つである。しかし、そこでもサクランボの生産量は75%以上減少した。出荷開始時の価格は約400リラ(11.5ユーロ)/kgであるが、生産者は(収穫量の減少のために)財政的な困難に直面している。このセクターの代表であるデフィク・アテシュ氏は、多くの人が品不足を利用して価格を吊り上げているが、現在「良い品質」だとされている果実であっても通常の基準を下回っていると警告した。他の地域では、デニズリ県ホナズ郡の特産品種はうまく生育せず、アマスヤ県では長年開催されてきたサクランボ祭りが不作のためにキャンセルされた。

霜の影響はサクランボだけにとどまらない。農業当局によると、全国の果実生産量は当初予想された2,800万トンからわずか2,100万トンに減少した。アンズは特に影響を受けた。マラティヤ県商品取引所のラマザン・オズジャン会長は、近年は年間収穫量が17万トンから7万トンに減少し、トルコの生鮮アンズ生産量の世界シェアが大幅に減少したと指摘した。被害を受けた果樹園の維持費は2倍になった。

マニサ県のブドウ生産者も大きな被害を受け、2回の降霜の後、予想収量が半分以下に減少した。商品取引所のサドック・オズカサップ会長は、30万トンからわずか12万5千～15万トンにまで減少したと報告した。

農業界のリーダー達は、緊急の支援を求めている。農業技術者会議所のバキ・レムズィ・スイチメズ氏は、剪定、灌漑、施肥、病虫害防除を含む復旧計画の重要性を強調し、融資の返済期限の延期と新たな支援パッケージの必要性を訴えた。財政的な救済がなければ、トルコの農業経済はダメージが長引く可能性がある。

トルコ統計局の公式な予測では、2025年の果実生産量は24.4%減少すると予想されており、中央銀行は霜害を主な要因として食料のインフレ率の予測を26.5%に引き上げた。

出典: Daily News, TMMOB

120. 中国 リンゴの包装侵害訴訟で原告が勝訴

[FreshPlaza 2025年6月25日](#)

世界的な法律事務所であるベーカーマッケンジーと、中国の法律事務所である奮迅^{フエンシュン}(奮迅)との共同事業プラットフォーム(通称: ベーカーマッケンジー・フエンシュン)は、中国におけるトレードドレス(全体的な外観や視覚的特徴)侵害訴訟において、ロキットグローバル社(以下「ロキット社」)に重要な法的勝利をもたらした。

この訴訟は、ロキット社の特徴的な円筒形のデザインによく似たパッケージでリンゴを販売したとして告発された中国企業に関するものであった。浙江省高級人民法院は、被告がロキット社のパッケージと商標を悪意を持って模倣したと認定し、ロキット社に有利な判決を下した。同法院は、この行為がロキット社のトレードドレス及び商標権を侵害していると判断した。

ロキット社のパッケージは、同社のスナックサイズのリンゴが収まるように作られた透明な円筒形の容器で知られている。デザインには、赤いリンゴの図柄、ロケットもしくは葉のようなモチーフ、その他の特徴的な視覚要素が含まれている。同法院によると、このパッケージは中国の消費者に広く認識されており、ロキット社のブランドと強く結びついている。この判決は、中国の不正競争防止法に基づく保護の妥当性を認めている。同法院はさらに、パッケージは更新されたものの、全体的なデザインは一貫性を保っており、ロキット社のブランドに結び付いた視覚的特徴を維持していると指摘した。

この判決は、中国の食品業界におけるトレードドレスと知的財産の保護に関する重要な前例となる。ベーカーマッケンジー・フエンシュンのチームは、知財担当パートナーのアンドリュー・シム氏が率い、同プラットフォームのパートナーであるジェン・デウ氏とアソシエイトのジャクリン・ワン氏がサポートした。ロキット社の商業部門総括マネージャー兼法務顧問であるトム・レーン氏は、この決定を歓迎し、グローバルな成長戦略の一環として知的財産を保護するという同ブランドの取り組みを強調した。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

121. ベトナム 冷凍果実・野菜の人気の日本が高まる

[FreshPlaza 2025年6月26日](#)

日本はベトナム産果物・野菜の輸入を増やし、冷凍品が勢いを増す

ベトナムの輸出業者は、需要の高い日本の食品市場への進出を果たしており、冷凍果実と冷凍野菜が主要な成長分野として浮上している。ZNewsの報道によれば、イオントップバリュベトナムの塩谷雄一郎代表取締役社長は、日本の冷凍技術により、マンゴー等の農産物の品質を維持し、貯蔵寿命を延ばすことができるようになり、年間約450トンの冷凍マンゴーの輸出を可能にしていると指摘した。

その他の注目すべき出荷の事例としては、アンザン省からの62.5トンのミニオクラ、ラムドン省からの150トン以上の焼きナス及び12万パッケージ以上のピーマンとサツマイモが挙げられる。これらの製品は、日本の厳しい基準と消費者の嗜好に合わせてベトナムで加工・冷凍されている。

イオンは先日、日本で「ベトナムフェア」を開催し、生鮮果実や花を紹介して好評を博した。このイベントは、日本、香港、カンボジアに広がるイオンのネットワークを活用し、ベトナムの広範な輸出戦略を支援するものである。

日本では、特に国内での生産が限られる熱帯果実、コーヒー、カシューナッツに対する需要が引き続き堅調である。また、約63万5千人に上る在日ベトナム人コミュニティも、ベトナム産品の需要を後押ししている。

ベトナムの収穫後処理技術は依然として遅れをとっているものの、冷凍技術はこのギャップを埋めるのに役立っている。輸出業者が規模を拡大し、加工技術が洗練されるにつれて、日本は高品質で保存状態の良いベトナム産農産物の有望な市場であることが明らかになってきている。

出典: Znews

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

122. タイ 輸出者向けガイド(抜粋)

米国農務省GAINレポート 2025年6月27日

これは米国農務省海外農業局バンコク事務所(タイ)が作成した「輸出者向けガイド年次報告書」の要旨及びファクトシートを翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

タイは、米国の農産物輸出に大きな可能性を秘めており、2024年の輸出額は14億ドルであった。米国は、タイの消費者向け農産物の供給国として第9位にランクされ、輸出額は4億2,900万ドルであった。このレポートは、市場の概要、輸出機会、現地のビジネス慣行、消費者嗜好のレビュー、市場セクターの構造と傾向に関する情報等、米国の農産物輸出業者がタイでビジネスを行う方法に関する実践的なヒントを提供する。

ファクトシート

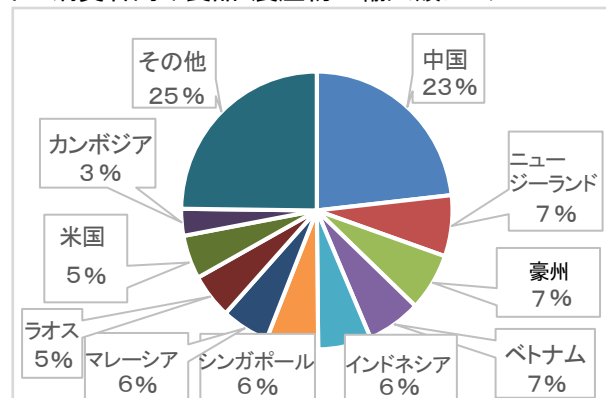
要約

ASEANで2番目の経済大国であるタイは、中間層と消費市場の成長に牽引され、貿易と投資に関して大きな可能性を提供している。タイは、2024年に50億ドル相当の農産物を米国に輸出するとともに14億ドル相当を輸入し、米国にとって23番目の輸出市場であり、15番目の供給国であった。2025年には、2023年よりわずかに多い人口の53.5%が都市部に住み、この率は2030年までに58.4%に達すると予想されており、インフラ、サービス及び消費者向け製品の市場として引き続きチャンスがあることを示している。

消費者向け農産物の輸入

米国は、2024年に4億2,900万ドルの消費者向け農産物をタイに輸出し、9番目に大きな供給国であった。タイの2024年の消費者向け農産物の総輸入額は84億ドルで、2023年から10%増加した。

タイの消費者向け食品・農産物の輸入額シェア 2024年



食品小売業

2024年のタイの食品小売販売額は前年比6%増の79億ドルで、同国の小売総販売額1,320億ドルの6%を占めた。生活費や家計債務の増加といった経済的な課題を背景に、消費者は必需品の購入や価格重視の購入にシフトしており、節約を最大化するため複数の購入経路を利用することが増えている。

食品加工業

タイは、食品加工部門がよく発達した主要な食品・農産物輸出国である。加工食品に対する世界的な需要が高まる中、タイの食品加工業者は国内で入手できない原材料を大量に輸入する必要がある。2024年にタイは280億ドルの加工食品を輸出し、86億ドル相当を輸入した。そのうち米国からの輸入は、2023年より8%多い3億5,700万ドル相当であった。

フードサービス

フードサービスの2024年の売上高は、名目で7%増加し51億ドルとなった。2024年のフードサービスの市場規模は328億ドルと推定される。タイのフルサービスレストランは、主に生活費の高騰に加えて、既存の老舗業者とより広範なフードサービス産業への新規参入者との激しい競争により深刻な課題に直面した。

クイックファクト 2024暦年

消費者向け農産物の輸入額: 84億3千万ドル		タイの上位小売業者	
伸び率の大きい消費者向け輸入農産物上位品目		スーパーマーケット	ハイパーマーケット
1) 乳製品 2) 調製品(調理済み食品) 3) 生鮮果実 4) ナッツ類 5) 野菜の加工品 6) チョコレート及びココア 7) ワイン及び関連製品 8) 果実の加工品 9) 牛肉及び牛肉製品 10) ドッグフード及びキャットフード		1) セントラルフードリテール 2) グルメマーケット 3) ヴィラマーケット 5) フードランド 6) マックスバリュ 7) CJスーパーマーケット	1) ロータス 2) ビッグC <u>コンビニ</u> 1) セブンイレブン 2) ローソン108 3) CJエクスプレス
流通経路別食品産業の構成		キャッシュ&キャリア(業務用卸)	
食品小売業	79億ドル	1) マクロ 2) Goホールセール	
フードサービス(HRI)	328億ドル	GDP/人口 人口: 6,595万人 GDP: 5,510億ドル(2025年5月18日現在) 1人当たりGDP: 7,830ドル(同上)	
食品加工業	360億ドル	出典: 貿易データモニター、ユーロモニター、国家経済社会開発委員会、クルンシイリサーチ、スタティスタ、ロイター、バンコクポスト、スコティッシュインターナショナル	
食品・農産物の輸出額	509億ドル		

SWOT分析

強み 近代的な流通チャネルを持つよく整備された市場	弱み 国内生産者を保護するための輸入食品・飲料に対する貿易障壁
機会 都市人口の増加と多くの外国人観光客	脅威 タイと自由貿易協定を結んでいる国の製品と比較して、米国製品に対する関税が高い。

123. 世界のサクランボ市場(要約部分抜粋)

[FreshPlaza 2025年6月27日](#)

2025年の世界のサクランボ出荷シーズンは、主要な生産国と輸出国で、生産量、品質、市場状況が様々に異なることが特徴である。以下は、国別の主な動向の概要である。

英国では、良好な天候と新品種の出荷開始により、サクランボの出荷シーズンが通常より早く始まった。総生産量は7,850トンと推定されており、品質が高く、収穫期間は短い。

イタリア北部では果粒が大きく、価格が高く、史上最高のサクランボシーズンの1つであると報告されている。南部では悪天候による損失が発生したが、良好な品質と旺盛な需要により、全体的な収益は維持された。

スペインでは、涼しく雨の多い天候のため、サクランボの出荷シーズンが例年より遅く始まった。嵐や雹が大きな損失をもたらし、地中海沿岸地方からの供給が減少する中、価格の高騰が続いている。

ドイツでは、特にギリシャ、トルコ、イタリアからの輸入果実の価格が上昇し、国内産のサクランボが市場シェアを獲得した。ドイツの主要産地では収穫期の条件が安定しており、品質と香りが向上した。

フランスのサクランボ生産量は、2024年に比べて5%増加し、5年間の平均を12%上回り、果樹園の潜在能力の80%まで回復した。好天と安定した供給が、好調な販売の勢いを支えている。

オーストリアは引き続きトルコ、スペイン、イタリアからの輸入に依存している。シュタイアーマルク州では近年の不安定な天候の影響を受けており、品質を確保するため、保護資材を用いた栽培が増加している。

オランダでは、サクランボの収穫量は申し分なく、需要は高く、輸入品との競争は限定的である。価格は堅調に推移している。

ギリシャでは、増収の予測が、悪天候による70%を超える損失で覆された。依然として供給が不足しているため、小売価格は400%以上急騰している。

スイスでは、晴天が続いた後のタイムリーな降雨に支えられて、2,500トンの力強いサクランボの収穫を期待している。7月末まで、十分な量の品質の高いサクランボの供給が見込まれている。

北米では、カリフォルニア州と太平洋岸北西部からのサクランボの出荷が好調で、供給量が増加した。しかし、貿易関税が輸出を制限しており、小売価格は圧迫されている。

南アフリカでは、栽培面積の拡大と英国への輸出の増加により、サクランボの出荷量は9%増の3,086トンとなった。低温要求の少ない品種と良好な休眠条件に支えられて、現在、収穫量の3分の1が北部地域で生産されている。

チリでは、輸出量は大きく増加したが、その代償として収益が低下し、品質への懸念が高まった。

アルゼンチンは今シーズン、パタゴニア地方の原産地呼称を取得したサクランボに重点を置いており、安定的な輸出量が報告された。

中国では、6月上旬に米国産のサクランボが昨年より15~20%安い価格で入荷し始めた。入荷量が限られ、価格がまだ高く、需要が弱いことから、販売は低調である。

トルコでは深刻な霜害を受け、サクランボの収穫量の70~80%が影響を受け、輸出可能量が大幅に減少した。国内の需要が依然として強いいため、輸出業者はより良い価格が提示されるのを待っている。

124. オーストラリア オレンジ市場は輸出で成長

FreshPlaza 2025年6月30日

オーストラリアのオレンジ市場は、健康意識の高まりと栄養豊富な食品に対する需要の増加により、2025年から2034年の間に年率(複利)2.20%で成長すると予測されている。ビタミンCと抗酸化物質が豊富なオレンジは、自然で機能性のある食品を求める健康志向の消費者の間で高い需要がある。これによって、生鮮オレンジとオレンジを原料とする製品の両方で消費が増加した。有機農法や持続可能な方法で栽培された農産物を好む傾向の高まりは、オーストラリアの生産者が環境に優しい農法を採用することをさらに後押しした。

オーストラリアは、中国、日本、韓国及び東南アジア諸国に大量のオレンジを出荷しており、輸出は市場の成長に重要な役割を果たしている。オーストラリア産オレンジは、その優れた品質と安全基準で高く評価されている。CPTPP(環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定)、RCEP(地域的な包括的経済連携)等の自由貿易協定は、関税の90%以上を撤廃することで市場アクセスを改善し、オーストラリア産オレンジの世界的な競争力を高めた。

農業技術の進歩により、オレンジの生産が増加している。精密農業、近代的な灌漑、及び病虫害防除システムにより、収量と果実の品質が向上した。研究によって、より優れた耐病性と高い栄養価を持つ新品種が導入され、この分野の長期的な持続可能性を支えている。

オレンジ果汁は、依然として市場で有力な分野である。オーストラリアの消費者は、加工度が最小限で人工添加物を含まない、コールドプレスされた新鮮な果汁を選択することがますます増えている。一方、オレンジ抽出物とエッセンシャルオイルは、食品、化粧品及び製薬業界での果実の用途を拡大している。

地元調達の傾向も市場に利益をもたらしている。消費者は環境への意識を高めており、オーストラリア産の農産物に対する需要が高まっている。小売業者やフードサービスの提供者には、その新鮮さと品質から、国内産のオレンジが好まれている。オンラインプラットフォームを通じた消費者への直接販売や「農場から食卓まで」の取組みにより、生産者はより広範な市場に手が届くようになっている。

政府と業界の支援は、市場の発展に役立ってきた。研究、イノベーション、輸出機会及び持続可能な農法を促進する取組みは、オーストラリア産柑橘類の競争力を維持するのに役立っている。強固なバイオセキュリティと国際基準の遵守は、同国の世界的な評判を強化するものである。

前向きな見通しにもかかわらず、課題は残っている。干ばつや猛暑などの気象リスクは、収量を減らし、果実の品質に影響を与える可能性がある。また、生産コストの上昇、労働力不足、サプライチェーンの混乱も障害をもたらす。しかし、技術革新と持続可能性への継続的な投資により、これらの問題が軽減され、オレンジ業界が逆境から回復する力が強化されることが期待されている。

健康志向、輸出需要、持続可能性への関心がそれぞれ高まる中、オーストラリアのオレンジ市場はこれからの10年間で安定した成長が期待される。

出典: Research and Markets

125. シンガポール 輸出者向けガイド(抜粋)

米国農務省GAINレポート 2025年6月30日

これは米国農務省海外農業局シンガポール事務所が作成した「輸出者向けガイド年次報告書」の要旨及びファクトシートを翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

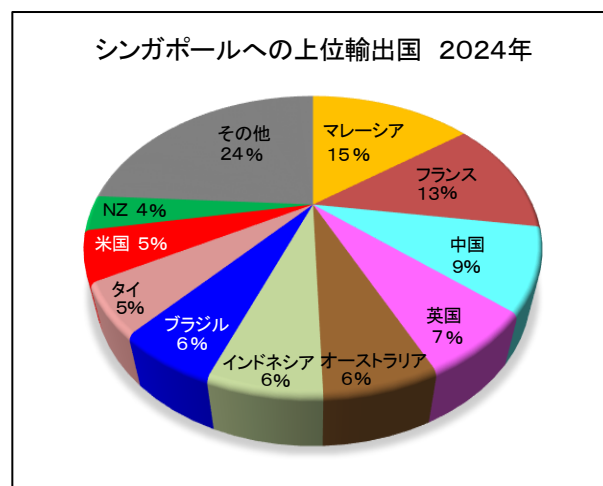
シンガポール経済は2024年に4.4%拡大したが、2025年には世界的な不確実性と貿易摩擦により減速すると予想されている。この都市国家は、食料、エネルギー及び資源の安定した供給を確保するため、世界の合計187カ国からの輸入に大きく依存している。その多様で、競争が激しく、非常にダイナミックな小売食品セクターは、主に国際的な観光と消費者支出によって支えられている。シンガポールの2024年の農産物及び関連製品の総輸入額は182億米ドルに達し、米国は6%の市場シェアを占めた。

ファクトシート

要約

シンガポールの食品産業は、数十億ドル規模で、輸入依存度が高く、堅調な個人消費、高い可処分所得、及び高度な都市化によって牽引されている。同国の貿易政策及び規制政策は、安全で高品質な食品及び農産物の海外からの安定的な供給を確保することに焦点を当てている。シンガポールの2024年の農産物及び関連製品の総輸入額は182億米ドルに達し、そのうち約6%が米国产であった。

消費者向け農産物の輸入



食品小売業

シンガポールの食品小売セクターは高度に発展しており、非常に競争が激しく、2024年の消費者向け食品の総輸入額は110億米ドルに達した。パンデミック後には正常な状態に戻っている。このセクターを主導しているのは、フェアプライス協同組合(全国労働組合会議(NTUC)が設立)、デリーファームインターナショナル(DFI)※、シェンション(昇菘)スーパーマーケットチェーンの3つの事業者である。(※次ページの訳注参照)

食品加工業

シンガポールの食品加工産業は比較的小規模である。しかし、加工業界で使用される原材料は、ほとんどすべて輸入されている。

フードサービス

シンガポールには、高度に発達し、競争力のあるホテル、レストラン及び施設・団体向け(HRI)のフードサービス部門がある。同国は2024年に1,650万人の訪問者を受け入れ、その支払いによる収益は230億米ドルに達した。観光は、主要な国際会議や招待制または会員限定のコンサートの開催及び国内需要の増加に伴い回復した。HRI部門は、2025年に大幅に成長すると予想されている。

クイックファクト 2024暦年

消費者向け農産物の輸入額: 110億ドル 伸び率の大きい消費者向け輸入農産物上位品目 (1) 調製品(調理済み食品) (2) 乳製品 (3) ベーカリー、シリアル、パスタ (4) 生鮮果実 (5) 家禽、肉、肉製品 (6) チョコレート及びココア製品 (7) ワイン及びビール (8) 野菜加工品 (9) ナッツ類 (10) 魚介類 流通経路別食品産業の構成 <table border="1"> <tr> <td>食品小売業</td> <td>120億ドル</td> </tr> <tr> <td>フードサービス(HRI)</td> <td>100億ドル</td> </tr> <tr> <td>食品加工業*</td> <td>90億ドル</td> </tr> <tr> <td>食品・農産物の輸出額</td> <td>150億ドル</td> </tr> </table> *主にソーダ原料の製造	食品小売業	120億ドル	フードサービス(HRI)	100億ドル	食品加工業*	90億ドル	食品・農産物の輸出額	150億ドル	シンガポールの上位小売業者 NTUC協同組合 マクロバリュー※ シェンシヨンスーパーマーケットチェーン (※訳注: 本報告書の本文及びその他の情報によると、マクロバリューは2025年3月に、DFIからコールドストレージリテールグループを買収することを発表しました。) GDP/人口 人口: 600万人 GDP: 5,473億9千万ドル 1人当たりGDP: 90,689ドル 出典: シンガポール統計庁、貿易データモニター、世界銀行、ユーロモニター
食品小売業	120億ドル								
フードサービス(HRI)	100億ドル								
食品加工業*	90億ドル								
食品・農産物の輸出額	150億ドル								

SWOT分析

機会 - シンガポールの小売、食品加工、HRIセクターは、幅広い輸入食品や原材料に大きく依存している。 - 高い可処分所得が、プレミアム製品の需要を喚起している。 - シンガポールは流行の発信地であり、飲食料品のコンセプトの発信拠点として理想的である。	脅威 - シンガポール市場は非常に競争が激しく、特定の製品に関してはかなり価格に敏感なことがある。 - 中国及びこの地域のその他のサプライヤーが、大きな市場シェアを獲得している。
強み - 米国産の食品・農産物は信頼されており、高品質であると認識されている。 - 米国のトップブランドは人気が高く、強い需要がある。	弱み - 米国の多くの輸出業者はこの市場に精通していないため、特定の要件や発注量に対応できない場合がある。 - ブランド構築のためには時間をかけた取組みが重要になる可能性がある。

126. 世界のブルーベリー輸出の未来

[Blueberries Consulting Magazine 2025年6月30日](#)

2030年及び2050年の主要国の予測

ブルーベリー輸出のリーダーシップは、2030年までに、気候変動、耐性品種の開発、及び新興市場の拡大の影響を受けるだろう。2050年までには、気候変動、農業の自動化、持続可能性、及び水資源へのアクセスが、この見通しに大きく影響するだろう。

ブルーベリーは、その栄養と抗酸化特性、さらに種子と皮を取らなくてよい消費のしやすさから、世界で最も人気の高い果実の1つとなった。この数十年で、主に健康的な食事への関心の高まりに牽引され、ブルーベリーの需要は指数関数的に高まった。このブームは市場を一変させ、いくつかの国がブルーベリーの生産と輸出のリーダーとして位置付けられた。しかし、気候変動、技術革新、新興市場の需要、生産システムの持続可能性、最も効果的な管理等の要因が、どの国が将来この市場を主導するかを決定するだろう。

総生産量は2030年までに300万トンを超えると予測されており、2050年に達するであろう驚異的な数字について敢えて予測する人は誰もいないが、傾向に照らせば明らかに500万トンを超えると見られる。これは、近年の現実と比較して、大幅かつ急速な成長となる。この生産量の急増は、新しい無土壌栽培システムと精密農業の採用、新しい改良品種の出現、さらに従来からの産地と日々追加されている新興産地の両方における栽培面積の拡大によるものである。また、栽培管理の技術革新、遺伝的改良、栽培に関して得られた新しい知識の応用により、果実の品質は絶えず向上している。

未来予測

世界市場へのブルーベリー輸出の将来のリーダーについては、現在の傾向は明確であり、特定の国々のこの作物を取り巻く土壌条件や気候条件、新しい品種、技術者や専門家が持つ技術や農業知識の効果的な使用、メキシコやモロッコなどに見られるように場合によっては重要な市場に対する地理的な立地に依存する。

ブルーベリー輸出の現在の世界的リーダー

ペルーは、(北半球の)オフシーズン中の出荷能力、望ましい気候、技術と適合品種への投資により、現在、疑いの余地のない市場のリーダーである。

チリは、過去10年間の多くの新しい品種と改良された技術ツールの提供と時を同じくして、ブルーベリー輸出の世界で従来の主導的な地位から追い落された。しかし、南半球におけるブルーベリー輸出の先駆者であり、現在は競争とコストの課題に直面しているものの、市場では依然として最高の地位の1つを占めている。

米国は何十年にもわたって主要なプレーヤーであるが、国内消費により重点を置いており、その輸出はカナダ等の近隣市場に集中している。

メキシコは近年、その品種の多様性と、主に米国市場からわずか数時間という恵まれた立地のおかげで、上位に躍り出ている。

スペインと、そして特にモロッコの2カ国は、ヨーロッパへの戦略的供給国であり、これは地理的に近く、また需要の高い時期に出荷できるためである。

最後に、中国は、現在のところ国内消費向けの大生産国であるが、輸出に向けた農業インフラが急速に整備されている。

これらの国々は、土地の利用可能性、農業知識と技術への投資、国際市場へのアクセス等の要因の恩恵により市場で主導的な立場にある。

2030年の主なブルーベリー輸出国

ブルーベリー輸出のリーダーシップは2030年までに、気候変動、耐性品種の開発及び新興市場の拡大の影響を受けると見られる。これらの傾向に基づくと、次の国々が主な輸出国になる可能性がある。

ペルーは、(北半球と)季節が逆転した出荷の競争上の優位性と乾燥して安定した気候により、引き続き市場をリードすると見られる。ペルーの企業は、灌漑技術、多収性品種、及び国際認証の取得に投資しており、これによってリーダーシップを維持することが可能になるだろう。さらに、米国、ヨーロッパ等の主要市場に近いことで、その地位が強化されている。

中国は、生産だけでなく、輸出でも主要なプレーヤーになると見られる。現在、世界最大のブルーベリー消費国であるが、生産能力が急速に拡大している。物流インフラの改善と先進技術の採用により、中国は国際市場での競争が可能になるだろう。

モロッコは、地理的な近接性と低い生産コストにより、ヨーロッパへの戦略的輸出国として成長するだろう。さらに、ヨーロッパ市場にとって重要な時期に出荷する能力と有利な貿易協定により、同国は主要なプレーヤーとしての地位を確立すると見られる。

南アフリカは、その多様な気候と、ヨーロッパ市場及びアジア市場への供給能力を活用して、重要な役割を果たすだろう。水ストレスに強い品種と高度な港湾インフラへの投資により、競争力が強化される。

衰退するどころか消費が増加する可能性のある市場(北米)に絶対的に近接しているメキシコは、この予測に含める必要があるだろう。

2050年：変貌を遂げた世界のブルーベリーの巨人達

2050年までには、気候変動、農業の自動化、持続可能性及び水資源へのアクセスによって、世界の状況は大きな影響を受けるだろう。以下の予測では、世界的なリーダーになり得る国々に焦点を当てる。

カナダは、特に気候変動によって生産条件がブルーベリーにより適したものとなるとの文脈において、世界のリーダーとして浮上する可能性がある。北部地域での耕作地の拡大と高度な温室栽培技術の組合せにより、カナダは世界的に競争することができるようになるだろう。

中国は、2050年までに最大のブルーベリー輸出国としての地位を固める可能性がある。その技術力は、政府の支援政策と高度に発達したインフラと相まって、生産と輸出の両方で主導することを可能にするだろう。

ブラジルは、広大な国土と多様な気候を有し、ブルーベリーの主要な生産国になる可能性がある。先進的な農業技術の採用と非伝統的な地域での生産拡大により、中南米、ヨーロッパ、アジアの市場への供給が可能となるだろう。

サハラ以南のアフリカ諸国は、耕作地が豊富で、農業の技術革新を牽引する若年層がおり、ブルーベリー生産の新たなハブとなる可能性がある。ケニア、ザンビア等の国は、インフラや市場アクセスの課題を克服できれば、主要な輸出国として浮上する可能性がある。

この記事は、Blue Magazine の次号に掲載されるレポートと詳細な分析からの抜粋である。

出典：Blueberries Consulting

127. ベトナム ライチ等の日本向け果実輸出が増加

[FreshPlaza 2025年6月30日](#)

ベトナムの日本向け生鮮果実輸出は、清浄で安全な農産物への需要の高まりにより、急速な成長を遂げている。ベトナムの駐日貿易参事官であるのター・ドゥック・ミン氏によると、日本はベトナムの農林水産物輸出市場として第3位にランクされており、2024年のそれらの品目の輸出額は40億ドルを超えている。

ベトナムの果実、特にライチ、マンゴー、ドラゴンフルーツ、リュウガンは、日本の消費者の間で人気を得ている。2025年のライチシーズンは、早期に輸出量100トンの大台を超え、総輸出量は200トンと予測されている。ベトナム産のライチは、日本のスーパーマーケットやオンラインプラットフォームで広く入手できる。

日本では品質や食品の安全性に厳しい基準があり、高級品だけが市場に浸透している。消費者の約70%は、透明なパッケージに入った認定商品により多くのお金を払うことをいとわない。ベトナムの果実は、これらの基準を満たすことで次第に信頼を得ている。

CPTPP(環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定)、RCEP(地域的な包括的経済連携)、VJEPA(ベトナム・日本経済連携協定)等の自由貿易協定により、90%以上の関税が削減または撤廃され、ベトナム産果実の競争力が向上している。その恩恵を受けるためには、生産者は生産チェーンを改善し、貯蔵に投資し、日本の輸入業者の95%にとって必要不可欠とされるタイムリーな配送を確保する必要がある。

在日ベトナム貿易事務所は、ブース出展、交流行事、東京で開催されるベトナムフェスティバル等の主要イベントへの出展等、貿易促進活動を通じて輸出業者を支援している。ライチについては、円滑な市場参入を確保するため、輸入業者との調整を早期に開始する。

高品質な輸入果実に対する需要が高まる中、今はベトナムの輸出業者にとって「黄金の時」であると同参事官は助言する。パートナーシップの構築には、加工、適切なパッケージング及び見本市への参加に注力することが不可欠である。品質と技術への投資により、日本での安定したプレゼンスを確保することができる。

出典: Nhan Dan

(2024年度3月分)

422. 米国 21世紀に入ってから果実消費量が減少

[FreshFruitPortal](#) 2025年3月3日

果実が栄養素の豊富な供給源であることを示す多くの研究がある。「米国人の食事ガイドライン(DGA) 2020-2025」によると、果実によって提供される栄養素の一部が不足していることは、公衆衛生上の懸念事項であると考えられている。

この米国農務省と保健福祉省の食事ガイドラインは、栄養的に適切な食事に推奨される果実の量が2005年以来変わっていないことを示している。両省によると、米国の人口の約80%は果実消費が推奨量よりも少ない。

農務省経済調査局(ERS)の最近の調査では、21世紀に入ってから米国の消費者が平均的に食べたり飲んだりする果実(果汁)の量が、減少していることが示された。

報告書は、ERSの損耗調整済み食料供給データに基づく推計では、米国の1人1日当たりの果実供給量は、2003年の0.95カップ相当から、2021年には14%減に当たる同0.82カップ相当に減少したことを示している。

さらに、個人レベルで収集された国民健康栄養調査(NHANES)のデータも同様に、米国における果実の総摂取量が2003-04年度の1人1日当たり1カップ相当から2017-18年度には同0.93カップ相当へと7%減少したことを示している。

果実の消費量は、生鮮、缶詰、冷凍、乾燥、及び100%果汁について計測されている。

ERSの損耗調整済み食料供給データと国民健康栄養調査はどちらも、時間の経過とともに米国の消費者の平均果汁摂取量が減少したことを示している。

子供たちは学校で食べる果実が増加、高齢者は総じて果実を食べる量が減少

子供の食事の「果実密度」は、2003-04年度の1キロカロリー当たり平均0.55カップ相当から、2017-18年度には同0.74カップ相当に増加した。

学校給食が子どもたちの消費量増加に貢献している。子供が学校で食事をする場合の果実密度は、2003-04年度の1キロカロリー当たり1カップ相当から、2017-18年度には同1.36カップ相当に増加した。

しかし、高齢者や労働年齢の大人は、食事における果実のガイドラインを子供ほどうまく満たせていない。高齢者は、2017-18年度に1キロカロリー当たり0.59カップ相当の果実を消費したが、これは2003-04年度よりも同0.16カップ相当少ない。

いずれにせよ、子供も高齢者を含む大人も、一貫して連邦政府のガイドラインを下回っている。2017年から2020年3月までの期間に、DGAの年齢・性別グループごとの果実摂取の推奨量を満たしたのは、子供で23.2%、成人で14.7%にすぎなかった。

健康行動や健康意識と結びついた果実の消費レベル

ERSの研究者達は、個人的及び社会的要因が、消費量の少ないグループまたは多いグループとどのように関連しているかを理解しようとした。彼らは、消費量の多さを予測する上で最も重要な要素は、健康行動(身体活動を行い喫煙しない等)と、健康知識(健康的な食事の推奨事項を視覚化するために使用されるツールである農務省のMyPlateを知っていることで取得される)であることを発見した。

一方、これらの健康的な活動を行い健康知識を持っている人々は、果実摂取量が少ない消費者である可能性が低かった。研究者達はまた、収入と果実の価格は消費の多寡と強く関連していないことを見出した。

出典: Amber Waves(ERS広報誌)

423. チリ 生産者と輸出業者は高品質な生食用ブドウに満足

[The Grape Reporter 2025年3月3日](#)

ウヴァノーヴァ(ブドウに特化した民間の研究開発機関)のラファエル・ロドリゲス会長によると、チリのブドウの開花期の最適な春の天候が、高品質な果実の生産につながっている。

同会長は Freshfruitportal.com(本サイトの関連サイト)に対し、「果実は非常に健全で、品質もサイズも良い。我々は満足している」と語った。(以下「」は同会長の話)

生食用ブドウ市場

ロドリゲス氏は、チリの生食用ブドウの主要な輸出先は引き続き米国であり、米国はペルーからもかなりの量を受け入れていると述べた。1月と2月上旬には出荷数量が市場の吸収能力を超えていた。「そのため、米国には多くの果実が溢れている。」

同氏は、ペルーのイカ県はすでに出荷を終了しつつあると述べた。「米国に送る果実は、事実上ほとんど残っていない。」同氏は、先週かなりの雨が降り、これが出荷シーズンを終わらせているが、市場にはまだかなりの量があると付け加えた。冷蔵施設にある場合もあれば、まだ輸送中の場合もある。

同氏は、チリの輸出業者は、他の市場への出荷を多様化することにより、責任あるアプローチを取っていると説明した。

「我々は急いでいないので、3月と4月にかなりの量を問題なく出荷でき、米国への着荷が週に350万箱を超えることはない。」

南アフリカについて、ロドリゲス氏は、輸送の遅延などの物流上の問題により、出荷シーズンは早期に終了するだろうと述べた。同氏は、チリは4月に(南アフリカとの競合がなくなるため)ヨーロッパ市場で好調になると考えている。

一方、インドは、輸送コストの上昇と輸送の遅延、及び国内市場の拡大により、現在、ヨーロッパへの輸送量が減少している。

極東に関してロドリゲス氏は、一部の品種のみが出荷され、最小限の量しか供給されていないと指摘した。「中国は4、5年前とは違い、今では市場が小さくなっている。韓国は非常に順調で、市場が機能しており、韓国での販売プログラムは確立されている。」

同氏はまた、日本は引き続き特別な販売プログラムの対象であると付け加えた。

「全体的には、悪いシーズンではない。現在、米国での供給過剰に対処しているが、サイズが大きく品質の良い果実は需要があるので、我々は楽観的である。」

システムアプローチ

米国市場向けのシステムアプローチの実績について同氏は、それを大きな改善と前向きな経験と呼んだ。

同氏は、このシステムの下での出荷数量が来年増加すると予想している。「我々は、保管スペース、検査、ロット管理など、多くの物流上の詳細を解決した。そのため、今シーズンはコストが高くなったので、今後はより効率的にしなければならない。」

「システムアプローチに関して進歩が見られた素晴らしいシーズンであり、果実は非常に良好な状態で市場に入荷した。我々はシステムアプローチのさらなる拡大について楽観的であり、それはメキシコ向けについてもうまく機能している。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

424. 米国 2023-24年度の柑橘類の生産量は6%増加

[FreshPlaza 2025年3月3日](#)

2023-24年度シーズンの米国の柑橘類の出荷量は合計524万ショートトンで、2022-23年度シーズンに比べて6%増加した。カリフォルニア州は米国の柑橘類の総生産量の79%を占め、フロリダ州は合計17%、テキサス州とアリゾナ州が残りの4%を生産した。(1ショートトン(米トン)はメートル法の約907.18kg)

2023-24年度フロリダ州の出荷量は2,020万箱で、前シーズンの1,810万箱から12%増加した。フロリダ州のオレンジ出荷量は1,800万箱で、前シーズンから14%増加した。フロリダ州のグレープフルーツの出荷量は179万箱で、前シーズンに比べて1%減少した。2023-24年度のタンジェリンとタンジェロの出荷量は、前シーズンから6%減少した。(郡別の記述省略)

2023-24年度の米国の柑橘類の出荷額は、昨シーズンから16%増加し、29億8千万ドル(梱包施設出荷額換算)となった。オレンジの出荷額は昨シーズンから2%増加し、グレープフルーツの出荷額は4%増加した。タンジェリンとマンダリンの出荷額は昨シーズンより34%多く、レモンの出荷額は22%増加した。

輸出

生鮮果実の輸出量は4/5ブッシェル箱(通常、約40ポンド(約18kg入り))で合計39万5千箱であった。ベルギーはフロリダ州産グレープフルーツの輸出量のほとんどを受け取った。カナダはフロリダ州産のオレンジとタンジェリンの輸出の大部分を占めた。詳細は報告書の26~27ページに記載されている。2023-24年度シーズンには、合計175万ガロンの冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)が輸出された。(1ガロンは約3.785リットル)

報告書(フロリダ州柑橘類統計2023-2024)の全文はこちら(原文参照)

425. ブラジル 低品質と果汁の国際価格下落で加工用オレンジが安値

[Cepea 2025年3月5日](#)

Cepea(サンパウロ大学応用経済高等研究センター)、2025年3月5日 - 果実の品質が低いこととオレンジ果汁の国際価格の低下により、加工用オレンジの価格が2月下旬に大幅に下落した。例えば、2月24日から27日までの平均価格は40.8kg箱当たり74.29リアルで、前の週に比べて6.55%低く、2月中に16%下落した。(1ブラジルリアル=約26円)

Cepeaが調査した関係者らは、オレンジの品質が年初から低下し、糖酸比が加工に望ましい水準よりも低くなり、これがオレンジ果汁の品質に影響を与えていると述べた。

この低品質の状況は、2024/25年度には複数回の開花が記録されたという事実に関連しており、その結果、成熟度の異なる果実(成熟したものと未熟なもの)が収穫され、加工用に仕向けられるオレンジの平準化に影響を与えた。

輸出への影響 - オレンジの供給量の減少と果実の品質上の制約により、オレンジ果汁の出荷が制限されている。Comex Stat(ブラジルの貿易統計)のデータによると、非濃縮(NFC)オレンジ果汁(NCM(メルコスール共通関税分類コード)20091200)の輸出は、前のシーズンの確定値に比べて振るわない。ブラジルの2024/25年度これまで(2024年7月~2025年1月)の果汁の出荷量は合計109万トンで、前シーズンの同時期に比べて3.4%少ない。

タヒチライムの出荷 - ブラジルのタヒチライムの輸出は、2024年に記録的な量に達した後も順調に推移している。ブラジルは今年1月に、2024年1月と比較して18.1%増となる1万7,150トンのタヒチライムを出荷し、1月の最高を記録した(経済省貿易局(Secex)のデータによる)。同じ月の輸出額は1,482万6千米ドルで、同13.4%増加した。

426. 米国 カナダとメキシコからの農産物に25%の関税

[FreshPlaza 2025年3月4日](#)

中国に対する追加関税も

昨日の午後、トランプ大統領は、メキシコとカナダからの輸入品に25%の関税を課し、中国製品にもさらに10%の関税を課するという決定を確認した。この3カ国は、米国にとって最大の農産物貿易相手国である。関税は本日の東部標準時深夜(午前0時1分)に発効し、輸入業者がこれらの関税引き上げのコストの一部を転嫁することが予想されるため、米国の消費者価格を上昇させる可能性が非常に高い。トランプ氏は、関税を課すことで、これら2つの隣国に対し、不法移民を制止し、フェンタニル等の薬物が米国内に流入するのを防ぐよう迫る必要があると述べている。同時に、米国の貿易不均衡を解消し、国内の農業生産者を支援したいとも述べている。

メキシコは農産物の最大の供給源

農産物への影響は大きいと予想される。メキシコは、単一の国として、米国にとって最大の園芸作物の供給源である。米国農務省によると、メキシコは2023年に、米国の野菜輸入の63%、米国の果実とナッツの輸入の47%を供給した。2000年から2023年の間に、米国はメキシコの年間園芸作物総輸出の平均91%を占める輸出先であった。米国で消費されるアボカドの約90%はメキシコ産であるが、この南の隣国はさらに多くの農産物の供給国である。カリフォルニア大学デービス校によると、メキシコで栽培されるアスパラガス、ブロッコリー、キュウリの最大75%が米国に輸出されている。さらに、メキシコ産のトマト、スイカ、レタス、イチゴの約半分以上が米国に輸入されている。メキシコから輸入されるその他の主要な農産物には、バナナ、ブルーベリー、ピーマン、マンゴー、カボチャ等がある。

メキシコのクラウディア・シェインバウム大統領は、同国には対応策に関する計画があると発表した。詳細は明らかにされていない。同国は、トランプ氏が実際に行動に移すかどうかを見極めてから対応するものと見られる。

カナダは報復

一方、カナダでは、ジャスティン・トルドー首相が声明で、米国からの300億カナダドルの輸入品に対する報復関税が本日午前0時1分(東部標準時)に発効すると述べていた。この関税は、米国がカナダに対する関税を撤廃するまで継続される。この対抗措置は、すでに輸送中の物品には適用されない。300億カナダドルは報復の第1弾であり、果実と野菜は含まれていないが、フロリダ州のオレンジ果汁が含まれている。トランプ大統領の関税が維持されれば、カナダは21日後にさらに1,250億カナダドルの米国製品に関税を課すこととしている。報復関税の第2弾には、果実と野菜が含まれる。(1カナダドル=約104円)

カナダは、トマト、キュウリ、ピーマン等、主に温室栽培の野菜を米国に輸出している。長年にわたり、この輸出市場は非常に安定しており、カナダが輸出する温室栽培農産物の99.5%が米国向けである。

中国は関税と非関税措置

中国も累計20%の関税に対する対抗策を策定している。中国国務院の関税税制委員会によると、同国は3月10日から米国から輸入される一部の製品に追加関税を課す。米国から輸入される鶏肉、小麦、トウモロコシ、綿花には、15%の追加関税が適用される。また、中国は、TCOM社等の米国企業10社を信頼性の低い事業体リストに追加し、これらの企業に対する関連措置を講じることを決定した。本日から、これらの企業は中国に関連する輸出入活動を行うことが禁止され、また、中国国内で新たな投資を行うことも禁止される。

(記事の内容は、原文記事掲載時点のもので、状況の変化にご注意ください。)

427. ウズベキスタン マイヤーレモンを日本に初出荷

[FreshPlaza](#) 2025年3月4日

EastFruit(ウクライナの情報サイト)のチームは、ウズベキスタンの企業であるフルーツヴォヤージュ社が、ウズベキスタン産生鮮マイヤーレモンの初の日本向け商業出荷を行ったと報告している。2025年2月に最初の荷が届けられたことで、1つの節目となった。同社は、ウズベキスタン・フェルガナ州のクバ地区に拠点を置くエクシムアグログループの一部である。

ウズベキスタンがその独特の外観と味で知られるマイヤーレモンに注力していることから、この輸出が促進された。日本市場は、ユニークでニッチな果実に関心があることで知られており、ウズベキスタンの生産者にチャンスを提供している。

日本市場への参入は、その厳しい品質・安全基準のために困難を伴った。日本の輸入業者は通常、新しい取引相手に慎重な対応を行うため、この最初の出荷は特筆すべき出来事である。

この出荷は試験的なものであり、空輸で実施された。同社は、将来の協力関係を維持するために、パッケージングを強化し、新しい物流ソリューションを模索することとしている。同社は現在さらに、ウズベキスタン産のレモン、メロン、種なしブドウ、ザクロ、カキの日本への輸出について交渉している。

マイヤーレモンは、中国原産と考えられている天然の交雑種で、マイルドで甘い味が通常のレモンとは異なる。1908年に中国でこのレモンを目にしたフランク・ニコラス・マイヤー氏によって西洋社会に紹介された。マイヤーレモンは果皮が薄く、カンキツトリステザウイルス(CTV)に感染するため、その独特の風味にもかかわらず、商業的な栽培には制約がある。

1950年代にカリフォルニア大学がウイルスフリー株の「改良型マイヤーレモン」を開発し、この品種への関心を復活させた。特に12月から3月までの旬の時期に料理に使用することで、シェフや家庭で料理をする人々の間で人気を得た。

日本は、主に米国とニュージーランドから年間7万5千トン以上の生鮮レモンを輸入している。マイヤーレモンを含め代替供給源への需要は高まっている。フルーツヴォヤージュ社は、ウズベキスタンがその農業面での気候条件を活かして、日本にとって信頼できる供給国になる可能性を見出している。

ウズベキスタンは2023年に12万トン以上のレモンを収穫したが、輸出されたのはそのうち約4%にとどまった。マイヤーレモンは、その独特の特性により主要な輸出品となり、ウズベキスタンを世界のレモン市場におけるユニークな参加者の地位に付ける可能性がある。

出典: EastFruit

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

428. フランス「ノウハウ、時間、お金の不足」が若い消費者を遠ざける

[FreshPlaza 2025年3月4日](#)

「ノウハウ、時間、お金の不足」がフランスの若い消費者を青果物から遠ざけている

カンター社(調査分析会社)は、今年のパリ国際農業展示会の機会を利用して、フランスにおける消費の傾向と変化及び果実と野菜が果たす役割について発表した。

同社は、「最近の一連の危機により、食料主権の問題が再び議論の中心に戻ってきており、農業生産者との関係がかつてないほど高まっているフランスの消費者にとって懸念事項となっている。消費者の75%が生産者を信頼しているのに対し、食品ブランドは45%、スーパーマーケットは55%にとどまっている。65%は、小規模生産者のより公正な報酬のためにもっと支払ってもよいとさえ言っている」としている。

果実と野菜は「店頭で売上を生み出す」

伝統的な生鮮農産物は、総合消費財のうち食品小売部門(FMCG-FLS)のすべての販売チャンネルを通じた総支出額の37%を占めており、フランスの消費者の買い物かごに欠かせない品目となっている。

- 買い物客の60%が生鮮農産物を購入する。
- 各家庭は月に7〜8回生鮮農産物を購入する。
- 最も人気のある料理には大抵、生鮮農産物が使われている。

生鮮農産物、特に青果物(果実と野菜)は店頭で売上を生み出す。

- スーパーマーケットの売り上げは、依然としてフランスの家計支出の約4分の3を占めている。
- 生鮮農産物を中心に扱う大型スーパーが伸びており、従来型の小規模店舗を置き換えている。
- 現在、伝統的な生鮮農産物ビジネスの50%は、60歳以上の顧客に頼っている。
- 伝統的な生鮮農産物は、2022年以降、インフレの影響をいち早く受けている。
- 消費者は、卵、パスタ、米等の栄養価の高い食品を好む。
- グランフレ社(生鮮食品専門スーパー)等の一部のチェーン店は好調である：21.7%の世帯がこのチェーンで伝統的な生鮮農産物を購入しており(2024年1〜11月の累積データ)、これは2023年に比べて34万4千人多く、来店頻度は年間10.3回で、1回の来店の購入額は25ユーロ(26.3米ドル)である。

生鮮農産物：家計配分の「調整変数」

伝統的な生鮮農産物の購入額は、2024年に1.5%減少した。これは、生鮮農産物が価格の変動のために家計の配分の中で調整されていることを示している。

- 伝統的な生鮮農産物の購入量は、少なくとも過去5年間で減少している。ただし、世代間でかなりの相違がある。
- 高齢者は、子供の頃から知っている生鮮農産物の最大の消費者である。彼らは調理の方法を知っている。彼らにはより多くの時間があり、より大きな購買力を有している。
- 一方、若い人達は、料理のノウハウ、時間、お金が不足している。
- 伝統的な生鮮農産物の購入量はコロナ禍の期間中に急激に増加したため、コロナ禍の後の減少は一層深刻であった。コロナ禍の間、人々は基本に戻り、料理をする時間が増え、食品に費やす予算が増えた。しかし、コロナ禍の後、最も裕福な世帯がレストランに戻り、このことも自宅での食事のための生鮮農産物の購入が減少した理由を説明している。

調査方法：フランスの世帯を代表する1万2千世帯のパネルにより、すべての販売チャネル(一般小売業者、コンビニエンスストア、電子商取引、ディスカウントストア、伝統的な専門店(スーパーマーケット、市場、見本市等)及びその他の専門店(有機農産物専門店等))を通じた自宅で消費するための伝統的な生鮮農産物の購入について調査した。

出典：kantarc.com/fr

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

429. 南アフリカ リンゴ・ナシ産業の2025年シーズンの展望

[FreshFruitPortal](#) 2025年3月6日

南アフリカのリンゴ・ナシ産業の見通しは明るい

南アフリカのリンゴとナシの出荷シーズンが進行中である。主に西ケープ州で栽培されているナシは、2月から8月までが出荷シーズンで、生産物のほとんどが輸出用に指定されている。リンゴの収穫シーズンは少し早く、1月に始まって5月まで続き、出荷は6月に最盛期を迎える。(訳注: リンゴはCA貯蔵により周年出荷される)

業界団体のHortgroは2025年1月に、同国が今シーズン、前年比4%増となる2,110万箱のナシを輸出すると予測した。リンゴの輸出量は、前年比5%増の5,130万箱に達すると予想されている。

同協会によると、ナシの生産と輸出の増加は主に、涼しい夜などの良好な気候条件に帰することができる。リンゴについては、近年設置された果樹園での生産量の増加、多収性品種の採用、及び天候の回復により、その拡大が促進されている。

Freshfruitportal.com(本サイト)は、同団体の貿易・市場統括マネージャーであるジャック・デュプリーズ氏に、南アフリカのリンゴとナシの今シーズンの現状について話を聞いた。(以下「」は同氏の話)

「2025年のナシとリンゴの収穫と輸出はゆっくりと始まったが、今は本格的になっている。」

2024年はナシの出荷シーズンが例年より早くスタートしたが、今年は予想より7～14日遅く始まった。今年はシーズンが通常のスケジュールに戻っているようである。予想されたとおり生育条件は良好である。「果実は良好な着色が予想され、外観が良く、成熟が進んでいるため、梱包もうまくいくと期待している。」

リンゴの収穫も始まりは遅かったが、業界は今、最初のピークに向かっている。

「輸出検査に合格するリンゴは5,134万箱(+6%)、ナシは2,125万箱(+5%)に増加すると予想している。これまでの生育条件が素晴らしいので、この予想は控えめかも知れない。」

デュプリーズ氏は、1月の欧州連合(EU)のリンゴの在庫量は前年比5%減で、ナシの在庫量は昨年に比べて4%増加したと指摘する。「これは、南アフリカのリンゴとナシの輸出業者にとってチャンスとなる可能性が高い。」

輸出市場

これまでに84万2千個以上のリンゴが出荷され、輸出の83%がアフリカ向け、残りが主にアジアと中東向けとなっている。ナシについては、268万個が出荷され、32%が中東諸国、28%が欧州連合、16%がロシア、10%が極東とアジア、5%が米国とカナダ、4%が英国、3%がアフリカ諸国に送られた。

デュプリーズ氏は、将来のリンゴとナシの市場について楽観的な見方を示した。

「南アフリカは今や、南半球最大のリンゴ生産国としての地位を確固たるものにしており、また上向きの軌道に乗っている唯一の国である。ナシに関しては、南アフリカは2番目に大きな生産国であり上昇傾向にあるが、南半球の他の生産国は横ばいか、または減少している。」

「我々は、南アフリカがこの上向きの軌道を維持すると予想している。近い将来、南半球で最大のナシ生産国になるかも知れない。南アフリカはいくつもの課題に直面しているが、それは我々だけではない。北半球と南半球の多くの国は、地政学、収益性、農薬規制などの課題に直面している。状況(生産、栽培品種から新市場への物流、既存市場からの需要増加)を考慮すると、南アフリカのリンゴ・ナシ産業の未来は明るい。」

430. 中国 2024年の生食用ブドウ輸出量が史上最高を記録

[PRODUCE REPORT 2025年3月6日](#)

中国税関総署のデータによると、中国の2024年の生食用ブドウの輸出量が59万3,562トン、輸出額が9億2,780万ドルに達し、2023年と比較してそれぞれ22.80%及び14.04%増加し、輸出量は史上最高を記録した。ただし、1kg当たりの輸出価格は1.56ドルで、前年比7.14%低下した。

東南アジアは中国の生食用ブドウの主な輸出先であり、ベトナム、タイ、インドネシア、フィリピン、マレーシアが上位の輸入国にランクされている。2024年にベトナムは15万1,525トン(2億5,955万ドル相当)、タイは12万8,114トン(1億9,778万ドル相当)を輸入した。両国とも、中国産生食用ブドウへの需要が高い。これらの国では、大規模な人口と広範な消費者市場が大きな消費を牽引している一方、国内のブドウ産業は比較的發展が遅れていて国内の需要を満たすことができず、このことが市場のギャップを埋めるための輸入への依存を助長している。

輸出先の中で10位にランクインした香港は、その輸出データがやや独特であった。輸入量がわずかに1万2,868トンと比較的少ないにもかかわらず、輸入額は2,996万ドルに達し、輸出単価は2.33ドル/kgで、他の主要な輸出先よりも大幅に高くなっている。これは、香港に送られる生食用ブドウの品質が高いためであり、プレミアム果実に対する香港の消費者の需要と一致し、他よりも高い価格で販売することを可能にしている。

輸出実績の面では、雲南省が際立っており、輸出量15万2,600トン、輸出額2億5,373万ドルで、量と金額の両方で上位にランクされている。雲南省は、豊富な日照、ブドウ栽培に適した温度と湿度、根の成長と栄養素の吸収を促進する土壌など、その独特な自然条件の恩恵を受けており、ブドウ栽培に理想的な環境を作り出している。さらに、雲南省のブドウ産業は高度に発達しており、植え付けから収穫、調製、輸出までの一連の確立された産業により、高品質な生食用ブドウの安定供給を確保している。

雲南省のほか、福建、山東等の他の省でもかなりの輸出量があった。福建省は輸出量6万1,427トン、輸出額9,536万ドル、山東省は5万7,193トン及び8,932万ドルであった。これらの省は、国際市場の要件をよりよく満たすブドウ品種の育種に多額の投資を行うなど、ブドウ産業の発展において特徴的な強みを有している。さらに、広範な販売ネットワークを確立し、国際市場の積極的な開拓に成功したことが、これらの省の輸出実績の重要な要因となっている。

中国の生食用ブドウの輸出の伸びは、いくつかの要因に帰することができる。第1に、継続的な生産の増加が輸出の強固な基礎を築いた。第2に、貿易関係の深化により、生食用ブドウの輸出のための幅広い基盤が生まれた。中国は、地域的な包括的経済連携(RCEP)協定を始めとして、複数の国と貿易協力を積極的に確立しており、関税と貿易障壁を引き下げることで、中国とASEAN加盟国との間の生食用ブドウの貿易にとってより有利な政策環境を作り出した。最後に、オフシーズンの供給の利点も、中国の生食用ブドウの輸出の成長に貢献している。中国の広大な領土は複数の気候帯にまたがっており、地域によってブドウの収穫時期が異なる。さらに、高度な農業技術とコールドチェーンによる物流の発展により、オフシーズンのブドウの生産と供給が容易になった。南半球のブドウ生産がオフシーズンに入る時、中国産のブドウは市場の品不足を効果的に埋めることができる。

執筆者: ジン・ザン

この英文記事は中国語からの翻訳である。元の記事はこちら(原文参照)

431. 遺伝子編集で非褐変、貯蔵寿命延長、TR4耐性の各バナナを作出

[FreshPlaza 2025年3月7日](#)

非褐変バナナはカットフルーツ業界のゲームチェンジャーか TR4耐性バナナは2027年までの製品化へ

バナナは多くの人々の買い物の定番であり、毎年1千億個が販売され、青果物業界で最も重要な品目の1つである。群を抜いて最も人気のある品種はキャベンディッシュで、1903年に初めて商業生産されたが、その50年後にグロミッシュ品種がパナマ病によって深刻な打撃を受けるまで目立つことはなかった。

キャベンディッシュバナナは、長年にわたり、パナマ病による同様の課題に直面してきた。また、バナナは輸送や利用（ランチのフルーツサラダに入れる）が最も簡単な果実であるとは言えないため、消費者も課題に直面している。すなわち、バナナは青いまま出荷して到着時に熟成させる必要があるため、世界中への出荷が高額になる可能性が有り、輸送時間もバナナがその条件の下で日持ちする期間に制限される。

英国を拠点とするバイオテクノロジー企業のトロピック社は、3月に褐変しないバナナ品種を発表することでバナナ部門の状況を変えようとしており、同社はまた、年末に向けて貯蔵寿命を延長したバナナをリリースする。同社のもう一つの革新的な成果は、パナマ病（TR4）に耐性のあるキャベンディッシュバナナである。

同社の、ギラド・ガーシオンCEO氏は、「我々が目にするほとんどの果実には様々な品種があるが、バナナの場合は大部分がキャベンディッシュである。バナナは無性繁殖するので種子を作らず、そのため品種改良が困難である。しかし、世界は変化しており、生産者は病害虫の増加など気候変動による脅威の増大に対処しなければならない。他の果実は新しい条件に合うよう育種されてきたが、バナナはそうではない。弊社ではCRISPR遺伝子編集技術を使用して、褐変しないバナナを作り出した」と説明する。（以下「」は同氏の話）

褐変しないバナナ これは、カット青果物の業界にとってゲームチェンジャーになる可能性がある。「弊社では、果実の褐変を制御する遺伝子を編集し、バナナの風味や食感を変えることなく褐変を遅らせた。カット青果物の業界はかなり以前から成長しているセクターであり、この褐変しないバナナは、この業界をバナナ生産者に完全に開放する。カットフルーツの盛り合わせばかりでなく、生鮮果実のスムージーやジュースにも使用できる。皮をむいてから24時間以内の褐変が30%少ないため、このバナナは標準的なバナナよりも視覚的な魅力を長く保つことができる。」

同社は、まだEU等一部の国や地域から承認を得る必要があるが、このバナナは既にカナダ、米国、コロンビア、ホンジュラス、フィリピンで認可されている。

貯蔵寿命の延長 貯蔵寿命が延長された品種は非褐変バナナとは別のものであり、遺伝子編集は同様の方法で行われるが、標的とされる遺伝子が異なる。バナナは成熟が早いいため、これまではまだ緑色のうちに収穫し、輸送中は冷蔵してエチレンの放出を抑えて熟成プロセスを遅らせ、輸出先国到着後に熟成させている。

「バナナの貯蔵寿命の延長では、バナナのエチレン生成メカニズムをオフにする。現状では緑色で出荷するため、バナナがフルサイズに達する前に収穫しているが、これ（エチレン生成の停止）により、生産者はバナナを樹上に長く置いておくことができる。すなわち、エチレン生成メカニズムが取り除かれると、バナナはより長く樹上にとどまることができ、生産者にとっては収量が向上する。バナナは、市場に着いた時にエチレンを吸収させて熟成させることができる。果実の賞味期限が約10日長くなるため、よりゆっくりと、より低コストで輸送することができる。また、バナナの商業的な到達範囲を拡大することもできる。」

パナマ病（TR4） パナマ病はバナナ産地での大きな問題である。原因は土壌を汚染する真菌であり、一度侵入すると、バナナが栽培されているかどうかに関係なく最大50年間土壌中に残ることができ、生産者や産地全体に壊滅的な打撃を与える可能性がある。今日まで、この病害を根絶するのに十分有効な解決策はなかった。フィリピンと東南アジア諸国は、この病害でひどく苦しんでいる。

「弊社では2022年にTR4耐性バナナのテストを開始し、ここ数年で膨大な数の結果を得ている。我々は温室とほ場で試験を行い、その結果について非常に肯定的である。規制当局の承認を条件に、2027年までの

製品化を計画している。弊社のプロセスはどれも遺伝子組換えではないため、製品の発売に間に合うように承認が得られることを期待している。」

これらの進展に対する反応 「生産者は間違いなくこれらの技術革新を高く評価している。危険にさらされているのは彼らの生活だ。弊社は生産者や多国籍企業と協力してきた。消費者を1つのグループとして見ることはできず、世の中には多くの異なる意見がある。過去6〜7年で会話の性質が大きく変わり、もはや遺伝子組換え体(GMO)について語るよりも、環境に良いかどうかについて語っている。人々は温室効果ガスの削減、食品廃棄物の削減、化学物質の使用の削減に注目している。」

「我々は弊社が行っていることを大変誇りに思っている。160人を超える素晴らしいチームがあり、その多くがこの研究にキャリアを捧げている。」

執筆者: ニコラ・マクレガー

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

432. 中国 米国産果実とナッツ類に10%の追加関税

[PRODUCE REPORT 2025年3月7日](#)

中国国務院関税税則委員会は2025年3月4日、米国から輸入される一部の商品に追加関税を課すと発表した。通知によると、新しい関税政策は、関連する中国の法律と規制、及び国際法の基本原則に則って、3月10日に発効する。

この決定により、米国産の鶏肉、小麦、トウモロコシ、綿花等に15%、米国産のソルガム、大豆、豚肉、牛肉、魚介類、果実、野菜、乳製品等に10%の追加関税が課される。

追加関税は、主に米国産の農産物に焦点を当てている。中国は米国の農産物の最大の海外市場であり、米国の農産物輸出総額の約5分の1を占めている。中国税関のデータによると、米国は2024年に中国にとって2番目に大きな農産物供給国であり、その輸出額は275億3千万ドルと評価されている。

現在、中国への輸入が認められている米国産果実は、スモモ、サクランボ、生食用ブドウ、リンゴ、柑橘類、ナシ、イチゴ、ネクタリン、アボカド、ブルーベリー等であり、これらはすべて10%の追加関税の対象となる。ペカン、アーモンド、ブラジルナッツ、クルミ、ピスタチオ、マカダミアナッツ、ヘーゼルナッツ、ピーナッツ等の種々のナッツ類にも同じ関税が適用される。

中国はこれらの関税以外にも、特定の企業を輸出管理・ブラック企業リストに登録したり、特定の米国製品に対する調査を開始したり、世界貿易機関(WTO)に提訴したりするなど、米国企業に対する追加の措置を実施している。

中国海関(税関)総署は3月4日、中国に輸入された米国産大豆から、種子コーティング剤で処理された大豆と麦角(麦角菌が作り出す塊)が検出されたと発表した。消費者の健康を保護し、食品の安全性を確保するため、中国はCHS社、ルイドレフュス社の穀物商社部門及びEGT社の輸出資格を停止した。

これらの動きは、米国と中国の間で進行中の貿易摩擦のエスカレーションの一部であり、両国は世界の貿易力学に広範な影響をもたらす可能性のある措置をとっている。

執筆者: ジン・ザン

この英文記事は中国語からの翻訳である。元の記事はこちら(原文参照)

433. 米国 農務長官がカリの関税引き下げで大統領を称賛

[FreshFruitPortal](#) 2025年3月10日

ブルック・ロリンズ米国農務長官は声明で、ドナルド・トランプ大統領のカナダとメキシコからの輸入品に対する関税の調整、特に「生産者が依存する肥料の主要成分」であるカリの関税引き下げを称賛すると述べた。

ロリンズ長官は「USMCA(米国、メキシコ、カナダの貿易協定)でまだカバーされていないカリの関税を25%から10%に引き下げるというトランプ大統領の発表は、農業生産者の植え付けシーズンの最盛期に主要な投入資材を確保し、そのコストのやりくりを助けるとともに、長期的な農産物貿易関係を強化するための重要なステップである」と述べた。(以下「」は同長官の声明での発言)

米国政府はホワイトハウスのプレスリリースで、現在(3月6日時点)適用される関税率は、USMCAの原産地規則を満たさない物品に対しては25%、USMCAの優遇措置外のカナダ産エネルギー製品は10%の低い関税率、USMCAの優遇措置外でカナダとメキシコから輸入されるカリに対しては10%の低い関税率、USMCAの優遇措置を申請し適格と認められたカナダとメキシコからの輸入品は無税であるとしている。

『カリ』はカリウムを主成分とする一群の鉱物を指す。それらは植物の成長に不可欠な成分であり、主に肥料として使用される。カナダは世界最大のカリの生産・輸出国であり、基礎埋蔵量は110億トンとされている。

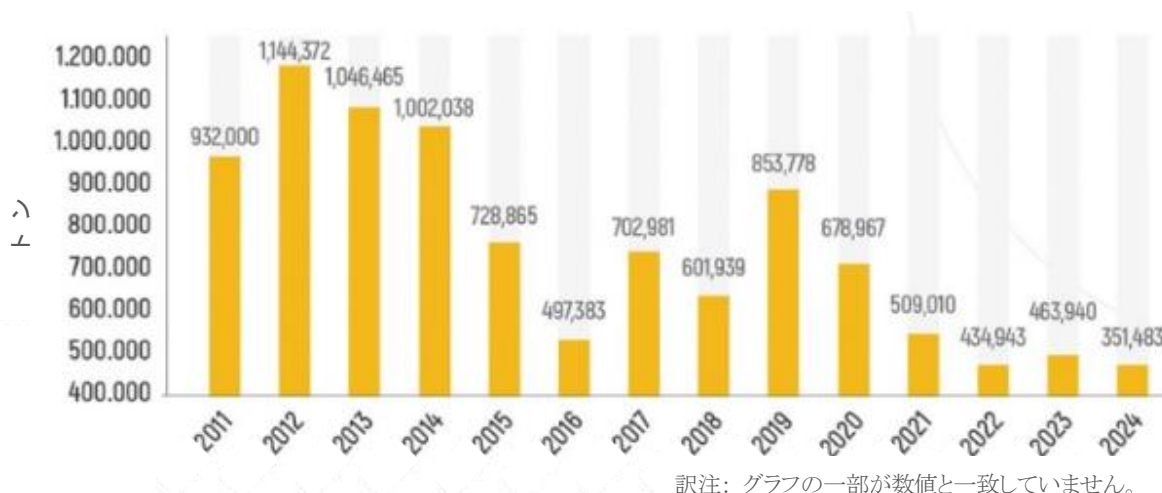
「カナダとメキシコからの一時的な関税免除は、米国の農業に真の成果をもたらしながら、貿易交渉を進める賢明で戦略的な動きである。カナダは、乳製品、卵、家禽等の公正な取引慣行にコミットすべきであり、メキシコは開かれた市場を維持しなければならない。大統領のリーダーシップは、米国の生産者が、公正な取引、コストの低減、市場アクセスの強化のために戦いながら、最前線に立ち続けることを保証するものである。」

434. ブラジル オレンジ果汁の在庫が24%減少し史上最低に

[FreshPlaza](#) 2025年3月10日

CitrusBR(オレンジ果汁業者の団体)の会員各社の独立監査法人が実施し、その後外部監査法人によって内密に統合された調査の結果により、2024年12月31日にCitrusBRの会員企業が世界中に保有していたブラジル産オレンジ果汁(FCOJ換算)の在庫量は35万1,483トンで、前シーズンの46万3,940トンと比較して24.2%減少したことがわかった。この数字は、歴史的に最も低い数字である。果実の最終加工データと工業的歩留りは、2025年後半にCitrusBRによって開示される。

CitrusBR会員企業が世界中に保有する
ブラジル産オレンジ果汁在庫量の推移 - 各歴年末
ブリックス値66のFCOJ換算トン数(FCOJ+NFC)



435. メキシコ アボカドの関税は誰が代償を払うのか？

[FreshPlaza 2025年3月11日](#)

メキシコのアボカド市場は、米国政府による25%の関税の発表後、不確実な状況に直面している。この措置は2回延期され、現在は4月2日に施行される予定である。この状況は、米国市場に大きく依存している生産者と輸出業者の間で懸念を引き起こしている。

グルーポエノルマ社のディレクターであるルイス・エンリケ・オルティス・マドリガル氏は、同社は輸出用のアボカドの栽培と収穫に専念していると話す。直接の貿易を行っていないにもかかわらず、このセクターのバリューチェーン全体がこの関税措置の影響を受けている。

同氏によると、2024-25年度シーズンの果実のサイズは前年よりも小さく、これにより産地での価格にばらつきが生じている。同氏は、「入数48のような大玉の価格は、今シーズン主流の入数70のような小玉の価格よりも高い」と言う。(以下「」は同氏の話)

この状況には、気候変動が決定的な役割を果たしている。アボカドの開花は干ばつの影響を受けており、これが生育の遅れと古い果樹園での収量の低下につながっている。「以前は2倍収穫できていたのに、今では1ヘクタール当たり9トンしかとれない果樹園もある。」

メキシコからの農産物輸入に25%の関税が課せられるとの発表は、このセクターに不確実性を生じさせている。この措置はまだ施行されていないが、その実施は生産者に深刻な打撃を与えると見られる。「問題は、それによって誰が最も影響を受けるかである。いつものように、生産者は鎖の最初の輪であり、最も打撃を受ける者の一人である。」

この関税は、米国内の価格に直接影響を与える可能性がある。アボカドは現在、産地から3ドル/kgで出荷されているが、テキサス州のマッカレン等米国の市場では6ドル/kgに達する。関税の適用により、価格は約1.50ドル/kg上昇する可能性があり、最終消費者にとってより高価になる一方、メキシコの実産者が必ずしもその恩恵を受けるわけではない。

さらに、近年は『ペソ高』が生産者の収益性に打撃を与えている。「為替レートが下落(ドル安・ペソ高)した時、アボカドのドル建ての価格は同じままだったが、メキシコペソでは25%の損失となった。」

不確実性はあるものの、同氏は関税が恒久的な措置になるとは考えていない。「これは米国にとって諸刃の剣である。なぜなら、メキシコのように365日市場に供給できる国は他にないからである。」

他の生産国がこの状況にチャンスを見出す可能性がある一方で、メキシコの米国への近さは依然として競争上の主な利点である。「メキシコ産のアボカドは24時間でテキサス州の市場に出回ることができるが、南米産の果実の場合、そのプロセスははるかに遅くなる。」

市場の将来は、メキシコ政府と米国政府の交渉と、消費者の反応にかかっている。メキシコのアボカド業界としては、輸出戦略の見直しを要する経済的打撃の可能性に直面しており、警戒を続けている。

執筆者: ダイアナ・サジャミ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事)メキシコ産アボカドは1994年以来関税を支払ったことがない

[FreshPlaza 2025年3月11日](#)

「メキシコ産アボカドは1994年以来関税を支払ったことがなく、2020年のUSMCAの更新によって保護されている」

メキシコの農産物に対する25%の関税をめぐる最近の混乱は、輸出部門、特にアボカド産業に懸念と混乱を引き起こしている。

メキシコ州アボカド生産者・輸出業者協会(Apeamex)のマヌエル・セルダ会長は、「1994年の自由貿易協定の締結以来、アボカドは関税を支払ったことがなく、2020年のUSMCA(米国・メキシコ・カナダ協定)の更新のおかげで保護されている。それは今も変わっていない。ただし、2026年に予定されている協定の再交渉を、新しい貿易条件を確立したい米国政府が2025年に前倒ししようとしている兆候があることから、アボカド業界はこれを注視している」と述べている。(以下「」は同会長の話)

アボカドは関税が免除されているにもかかわらず、輸入関税に関する発表によって生じた不確実性により、米国への出荷が急激に減少した。

「関税の最初の発表は非常に大きな不安を引き起こし、ミッション社、ウエストパック社などの主要な輸入企業がアボカドの調製や出荷を完全に停止した。この状況により、国境での物流が崩壊し、アボカドの出荷量が最大90%減少して通関業者や輸送業者の業務に影響を与えた。」

さらに、措置が停止される前に25%の関税を支払った一部の輸出業者は、現在、払い戻しを要求している。「状況が不確実な時期に通関した貨物の多くは、25%の関税を払った。その直後に米国がこれらの関税の適用に関する決定を変更したため、現在彼らはその支払いを回収するための法的な仕組みを探している。」

この状況に直面して、アボカドの輸出業者達は米国市場への依存を減らそうとしている。「何年もの間、我々は他の市場をペルーやコロンビアなど他国の手に委ねてきたが、今やそれらを取り返す時が来た。」戦略的な輸出先として同会長は、ヨーロッパ、日本、韓国、アラブ首長国連邦、カナダ等を挙げた。

現在、米国で消費されるアボカドの91%はメキシコ産であり、貿易の制限は両国の経済に強い衝撃を与えることを意味する。他方、メキシコのアボカド業界は、新しい市場での存在感の強化に注力している。

「輸出業者は、あらゆる政治的变化が貿易を危険にさらすような状況を許すわけにはいかない。我々は30年間、米国に無税でアクセスできたが、彼らがゲームのルールを毎月変えたいと考えるのは公平ではない。我々は自分たちの利益を守るために合法的に行動している。」

メキシコ政府は慎重な立場を崩さず、貿易に関する報復を行う前に米国からのさらなる声明を待っているが、これは過去の関税紛争におけるカナダの対応と同様である。

「それは日替わりの不確実性である。ある日1つのことを言われ、次の日にはすべてが変わる。今のところ、今月の期間を利用して、他の国の取引先との関係を強化し、あらゆる状況に備えている。」

執筆者: ダイアナ・サジャミ

436. 米国フロリダ州 オレンジの予測は上方修正するも昨季より35%少ない

[FreshPlaza 2025年3月12日](#)

米国農務省農業統計局が発表した2024-25年度シーズンの出荷量予測は、フロリダ州の全オレンジの出荷量を2月の予測より10万箱多い1,160万箱と推定している。わずかに上方修正されたものの、この数字は昨シーズンの最終出荷量よりも35%少ない。予測は、バレンシア種以外のオレンジ(早生、中生、ネーブル種)が460万箱、バレンシア種のオレンジが700万箱となっている。

比較のため8年間の回帰を使用した、平均値はハリケーンの影響を受けた2017-18年度と2022-23年度を除外している。果樹当たりの平均果実数は、通常の開花と遅咲きの最初の開花の両方を対象としている。

バレンシア種以外のオレンジの出荷量は、前回の予測より10万箱多い460万箱となった。2025年2月26日~27日に実施された樹列実地調査では、バレンシア種以外の早生品種及び中生品種(ネーブル種を除く)のほぼすべての樹列が収穫されたことが示された。このカテゴリーの内、ネーブル種の予測は10万箱の据え置きである。

バレンシア種のオレンジの予測出荷量は2月の予測から変わらず700万箱である。現在の果実のサイズは平均を下回っていて、収穫時にもそうなると予測されており、90ポンド箱当たり256個の果実が必要となる。落果率は過去の最大値を上回っており、収穫時にも高いままであると予想される。バレンシア種の収穫はまだ初期段階にある。

グレープフルーツの予測出荷量は、赤肉種が107万箱、白肉種が13万箱の計120万箱に引き上げられた。樹列調査では、グレープフルーツの樹列の93%が収穫されたことが示された。レモンの予測出荷量は60万箱で、2月の予測と変わらない。タンジェリンとタンジェロの予測も35万箱で変わらず、昨シーズンの45万箱から22%減少した。これには、タンジェリンとタンジェロのすべての認定品種が含まれる。(予測精度の説明省略)

この予測どおりであれば、生物学的課題と天候の影響の両方を反映したフロリダ州の柑橘類の大幅な減少の継続を示しており、果実のサイズ、落果、市場の不安定性に対する業界の懸念を浮き彫りにしている。

(関連記事)米国フロリダ州 3月の柑橘類出荷予測がほのかな希望に

[FreshFruitPortal 2025年3月11日](#)

米国農務省の2025年3月の出荷量予測では、フロリダ州のオレンジ出荷量は1,160万箱、グレープフルーツは120万箱と推定されており、2月の予測出荷量からわずかに増加した。

この前向きなニュースは、フロリダ州柑橘類協会のマット・ジョイナーCEOが「ほのかな希望」と呼んだものを提示しており、それは同州の業界がいくつものハリケーンやいつまでも続くカンキツグリーニング病などに苦しんだ挫折の後、生産が回復への道を歩んでいるかも知れないということだ。

同団体のプレスリリースでジョイナー氏は、「州及び連邦レベルからの継続的な財政支援により、フロリダ州の柑橘類生産者は、1世紀以上にわたって雇用を提供し我々の文化を形作ってきた柑橘類の伝統を、この州の象徴的なシンボルとして維持することができる」と付け加えた。声明はまた、柑橘類業界、学界及び政府に、業界を維持するための戦いに力を合わせるよう促し、解決策に投資することの重要性を強調した。

プレスリリースは、「ロン・デサンティス知事は今年の立法議会の会期に先立ち、2025-26年度の財政責任予算案を2月3日に発表した。これには、柑橘類の病害対策プログラムやその他の柑橘類の研究に2千万ドル以上が計上されている。2千万ドルのうち700万ドルは、果樹の生産量を増やし、カンキツグリーニング病に耐性のある果樹を生産する技術を進歩させるため、フロリダ州政府柑橘局を通じた広報と追加研究に充てられる」としている。

明るい話として、ジョイナー氏は、過去2年間で耐病性品種が登場し、生産者達に柑橘類の生産量増加への希望を与えていると述べた。

(関連記事) 米国 柑橘類出荷予測 3月

米国農務省農業統計局 2025年3月11日

フロリダ州農業消費者サービス局との共同発表

柑橘類の品目別出荷量及び予測出荷量 - 州別及び米国計

品目及び州	出荷量 ¹		2024-2025 予測出荷量 ¹	
	2022-2023	2023-2024	2 月予測	3 月予測
	(1,000 箱)	(1,000 箱)	(1,000 箱)	(1,000 箱)
バレンシア種以外のオレンジ ²				
フロリダ州	6,150	6,760	4,500	4,600
カリフォルニア州 ³	36,000	38,200	39,000	39,000
テキサス州 ³	570	690	600	600
米国計	42,720	45,650	44,100	44,200
バレンシア種のオレンジ				
フロリダ州	9,670	11,200	7,000	7,000
カリフォルニア州	8,600	9,300	8,400	7,500
テキサス州 ³	560	490	300	300
米国計	18,830	20,990	15,700	14,800
オレンジ合計				
フロリダ州	15,820	17,960	11,500	11,600
カリフォルニア州	44,600	47,500	47,400	46,500
テキサス州 ³	1,130	1,180	900	900
米国計	61,550	66,640	59,800	59,000
グレープフルーツ				
フロリダ州合計	1,810	1,790	1,100	1,200
赤肉系	1,560	1,550	1,000	1,070
白肉系	250	240	100	130
カリフォルニア州 ³	4,500	4,300	3,700	3,700
テキサス州 ³	2,250	2,400	2,500	2,500
米国計	8,560	8,490	7,300	7,400
レモン ³				
フロリダ州 ⁴	(NA)	(NA)	600	600
アリゾナ州	1,400	950	900	900
カリフォルニア州	25,800	24,600	26,000	26,000
米国計	27,200	25,550	27,500	27,500
タンジェリン及びマンダリン ⁵				
フロリダ州	480	450	350	350
カリフォルニア州 ³	23,500	27,400	25,000	25,000
米国計	23,980	27,850	25,350	25,350

¹ 1箱当たりの正味重量(ポンド) オレンジ: カリフォルニア 80、フロリダ 90、テキサス 85。グレープフルーツ: カリフォルニア及びテキサス 80、フロリダ 85。レモン 80。タンジェリン及びマンダリン: カリフォルニア 80、フロリダ 95。

² カリフォルニア州ではネーブル種及びその他の品種。フロリダ州とテキサス州では早生品種(ネーブル種を含む)及び中生品種。

³ 当月の推計値は以前の推計値を繰り越し。

⁴ 2024-25 年度産から推計を実施。(NA)はデータなし。

⁵ タンジェロ及びタンゴールを含む。

437. 南アフリカ 10年間の交渉の末に生食用ブドウをフィリピンに輸出

[The Grape Reporter 2025年3月12日](#)

2015年1月に始まった交渉プロセスが終了し、フィリピン市場は2025年2月26日に、正式に南アフリカの生食用ブドウに開放された。

南アフリカの青果物生産者は、新たな市場へのアクセスを積極的に求め、雇用を創出し、輸出先を多様化させてきた。

同国農業省広報官のジョイリーン・ヴァン・ワイク氏は Freshfruitportal.com(本サイトの関連サイト)に対し、生食用ブドウ産業が南アフリカの経済において重要な役割を果たしていると語った。同氏によると、2022-23年度の生食用ブドウシーズンには、6,300万箱が輸出された。(特記した場合を除き、以下「」は同氏の話)

「輸出は外貨収入を生み出し、雇用機会を創出し、農業部門の成長に貢献する。」同氏はまた、2022-23年度シーズン中に、この業界は8万6,870人の季節労働者と1万4,843人の正社員を雇用したと述べた。

市場の多様化

南アフリカは、世界のトップ5に入る生食用ブドウ輸出国である。しかし、ヴァン・ワイク氏は総輸出の約80%がヨーロッパと英国向けであることを強調した。

「したがって、業界が確実に多様化することが重要である。農業省は、雇用創出を促進し、経済を成長させ、地元の農産物を多様化するため、新しい市場へのアクセスを非常に真剣に受け止めている。これは、アクセスがまだ獲得できていない市場への一層の取り組みを励ますものである。」

市場アクセスの獲得プロセス

市場開放の合意締結に要した時間の長さについて同氏は、フィリピンや他の極東諸国等の貿易相手国は、1度に交渉するのは1品目に限ると言う原則に基づいて市場アクセスを許可していると説明した。

「柑橘類は優先リストの中で生食用ブドウよりも前にあり、柑橘類のプロトコルは2020年に最終決定された。さらに、植物検疫措置の遵守を確保するための技術情報の交換は、結論が出るまでに数年かかる。」

輸出の作業計画が確定され次第、南アフリカ初の生食用ブドウのフィリピンへの輸出量と出荷日に関する詳細が発表される。

南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)のメシア・ピーターセンCEOは、「我々は南アフリカ産生食用ブドウの市場アクセス拡大に取り組んできており、この結果に非常に満足している。フィリピン市場は、生産者と輸出業者にエキサイティングな機会を提供する」と述べ、「南アフリカの生食用ブドウ産業は、世界市場の需要に合った高品質な製品を提供することに引き続き取り組む。この新しい市場アクセスにより、フィリピンで南アフリカの生食用ブドウのブランドを構築することに期待している」と付言した。

南アフリカの生食用ブドウ業界は、今シーズンの出荷量を7,640万箱と予測しており、2月末までに梱包作業の94%を完了した。

同協会のマーケティング開発及びコミュニケーションの責任者であるデニーン・エラスムス氏は2024年12月に Freshfruitportal.com に対し、この数字は5年間の平均出荷量を6%上回っており、南アフリカは世界市場に十分な品質の製品を供給する上で良好な立場にあると述べていた。

2023-24年度シーズンに南アフリカが輸出した上位5品種は、クリムゾンシードレス、スイートグローブ、スイートセレブレーション、プライム及びオータムクリスプであった。

438. 中国 裁判所がリンゴ品種育成者の権利を支持

[FreshFruitPortal](#) 2025年3月12日

T&G社は、中華人民共和国最高人民法院が、同社のサイレート(Scilate)品種(登録商標 エンヴィ)のリンゴを権利侵害と無許可の増殖から保護するという以前の画期的な判決を支持すると決定をしたことを歓迎している。

甘粛省蘭州中級裁判所が2023年11月に下した当初の判決では、被告がサイレート品種の種苗を違法に栽培及び販売し、違法に植えられた種苗から収穫されたリンゴを販売することにより、T&Gの知的財産権を侵害したと認定した。

裁判所はT&Gに対する330万人民元(約7千万円)の損失賠償を命じ、侵害者に違法な種苗を取り除くよう要求した。

T&Gグローバル社のガレス・エッジコムCEOは、今回の決定は、新たに強化された種子法と知的財産権の保護に対する中国の取組みを補強するものだと述べ、「新しい植物品種を開発するには、何年もの研究開発投資に加えて広範な販売・マーケティング活動が必要である。中国の最高裁判所のこの判決により知的財産が中国で十分に保護されると知ること、弊社のような園芸ビジネスは投資に自信を持つことができる」と付け加えた。

中国国内では、フルーツテクノロジー企業であるジョイウィングマウ社が、すべてのサイレート品種のリンゴを栽培し、T&Gのプレミアムエンヴィ(愛妃)アップルのブランドで販売している。

同CEOはまた、「弊社は、品種管理子会社のベンチャーフルーツグローバル社とともに、リンゴ、ナシ、ベリー類の多数の新品種候補を持っており、中国でこれらの品種のライセンスを供与して栽培したいと考えている。今回の裁定の成功を受けて、我々の成長計画を進めていきたい」と述べた。

T&Gの子会社であるベンチャーフルーツ社はグループを代表し、植物品種の権利、植物育種の権利、植物特許、商標、著作権等、植物にかかる権利のすべての保護活動を主導している。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

439. 米国カリフォルニア州 カンキツグリーニング病検疫規制地域を拡大

[米国農務省動植物検疫局通知 DA-2025-09](#) 2025年3月12日

件名: APHISはカリフォルニア州のカンキツグリーニング病(HLB)検疫規制地域を拡大

宛先: 州、部族及び準州の農業規制当局担当官

米国農務省動植物検疫局(APHIS)は、カリフォルニア州食品農業局(CDFA)と協力し、*Candidatus Liberibacter asiaticus* によって引き起こされるカンキツグリーニング病(黄龍病; HLB)の同州内の検疫規制地域を拡大し、これは直ちに発効する。拡大される地域は、オレンジ郡ミッションビエホ地域の13.16平方マイルである。APHISは、オレンジ郡の住宅地から採取された植物組織のサンプルからカンキツグリーニング病が検出されたためにこの措置を講じるものである。この拡大の影響を受ける商業的柑橘類園地はない。

APHISは、カリフォルニア州の検疫規制地域からの規制対象物品の州間移動について、連邦規則集第7編第301.76条及び連邦命令に概説されている保護措置を適用している。これらの措置は、CDFAが2025年2月13日に定めた州内の検疫と並行して行われる。この措置は、HLBが米国内の非感染地域に広がるのを防ぐために必要なものである。

カリフォルニア州の検疫規制地域の具体的な変更内容は、[APHISカンキツグリーニング病ウェブサイト](#)に掲載されている。APHISは、おつてこの変更を連邦官報に掲載する。(連絡先等省略)

(訳注: 1平方マイル=約2.59平方キロメートル、1エーカー=約0.405ヘクタール)

440. ニュージーランド 赤肉系キウイフルーツの課題に取り組む

[FreshPlaza 2025年3月13日](#)

ルビーレッド・キウイフルーツは需要が増加する中で数量が2倍に

ニュージーランドでは赤肉系品種に対する消費者の関心が高まるにつれて、ルビーレッド(RubyRed)キウイフルーツの出荷量が倍増すると予測されている。ゼスプリとキウイフルーツ育種センターは、果実のサイズが小さい、収量が少ない、PSA(キウイフルーツかいよう病)にかかりやすいなどの生産者が直面している課題に取り組んでいる。20年以上にわたって開発が進められてきたこの品種は市場で好評を得ているが、保存期間が短いため、遠方地域への輸出に影響を及ぼしている。

テプケ町(バイオブレンティ地方)にあるキウイフルーツ育種センターは、植物・食品研究機構とゼスプリが共同で所有しており、これらの問題の克服に注力している。同センターの商業化の最高責任者であるバート・チャリス博士は、サンゴールド品種とは異なり、ルビーレッドは複数の栽培品種に進化する可能性がある」と指摘し、「我々は栽培品種の候補を常に持っており、さらに多くの赤肉系品種からの選抜によって段階的な改良を行っている」と述べた。

ゼスプリのCEOであるジェイソン・テ・ブレイキ氏は、11月にルビーレッドに対する同社のコミットメントを改めて表明し、サイズと貯蔵性の課題を認識していることを示した。同氏は進行中の新しい栽培品種 - 2年以内に商業的に利用できるようになって出荷と小売の期間を8週間以上延長する可能性がある - の試験について言及した。

チャリス氏は、2010年にPSAが発生したため、より強力なPSA耐性を組み込むために育種計画の見直しが必要となり、ルビーレッドのリリースが遅れたと説明した。ゼスプリの生産者・業界担当であるトレイシー・マッカーシー氏は、抵抗性の改善に当たって、ほ場や、日照や風から守られた区画が重要であると強調した。同氏は、「生産者達と協力して、Red19(ルビーレッド)でうまく機能する多くの管理ツールを開発した」と述べた。

ルビーレッドのPSA耐性は、競合品種よりも進歩していると報告されている。一方、ゼスプリは5年間の見通し計画の発表まで、新規の栽培面積ライセンスの発行を一時的に停止している。生産者、消費者、及び流通経路のニーズを満たすように品種のバランスをとることが、引き続き優先事項である。チャリス氏は、「流通経路の要素は、市場までの距離が長いニュージーランドに特徴的な問題である」と述べた。

CA貯蔵は収益性に影響を与えるが、ゼスプリの北半球におけるグローバル供給契約は、距離の課題を軽減する可能性がある。生産者は、サンゴールドやグリーンと比較してルビーレッドのサイズが小さいことに懸念を表明している。チャリス氏は、新しい品種の商業化前の試験により、サイズの可能性が明らかになると予想している。

ゼスプリと育種センターは、遺伝子組換えではなく精密育種技術を支援している。チャリス氏は、25年の育種サイクルを考えると、この技術は迅速な解決策ではないと指摘している。ルビーレッドが生産量の面で苦戦しているという主張もあるが、ファーマーズウィークリー誌は一部の生産者が1ヘクタール当たり1万3千箱以上を達成したと報告している。

世界的には、中国をはじめとして5万ヘクタール以上の赤肉のキウイフルーツが栽培されている。チャリス氏は、「ルビーレッドは世界的な競争にもかかわらず、非常に優れたプレミアムを獲得している」と述べた。

出典: Farmers Weekly

441. ニュージーランド 2025年最初のキウイフルーツ専用船が出航

[FreshFruitPortal](#) 2025年3月14日

ゼスプリの2025年ニュージーランド産キウイフルーツ輸出シーズンの最初のチャーター船が、タウランガ港から上海に向けて出航した。

2020年にゼスプリが命名したコーハイ号は、中国の取引先向けに120万箱(約5,400トン)のゼスプリ・サンゴールドキウイフルーツと16コンテナのゼスプリ・ルビーレッドキウイフルーツを運んでいる。

同船は3月末に上海に到着する予定である。シーズンが本格化する中、ゼスプリの今シーズン2隻目のチャーター船オリエンタルアイリス号も今週、東京に向けて出航する。

これらは、ゼスプリが今シーズン、ニュージーランドから合計2億箱、すなわち72万トンと予想される史上最大のゼスプリグリーン、サンゴールド、ルビーレッドキウイフルーツを世界中の50以上の市場に出荷するために使用する延べ61隻のチャーター船の最初の船である。

ゼスプリのチャーター船プログラムでは、船体内の貨物室に果実を保管するリーファー(冷蔵冷凍)船を使用する。これにより、途中で他の港に寄港することなく、目的の市場に直接航行することで、キウイフルーツの販売事業者であるゼスプリは、より多くの果実をより確実に運ぶことができる。

ゼスプリのジェイソン・テ・ブレイクCEOは、ゼスプリの最初のチャーター便の出発は、業界にとってエキサイティングな時であると述べている。(以下「」は同CEOの話)

「輸出シーズンが好調なスタートを切り、最初のチャーター船の出発は常に業界の話題になる。」

「業界内でこれほど強い信頼が寄せられているのは喜ばしいことだ。取引先と消費者がより多くの我々の果実を求めていることが、生産者のために良い価値を確保するのに役立っている。我々は、1億世帯以上に果実を届けるなどいくつかの重要な節目を達成してきたが、今シーズンは栽培と収穫に好ましい条件が整っていた。」

「我々の焦点は、この勢いを維持し、収穫を成功のうちに完了させ、シーズンを通じて高品質の果実を確実に提供することである。」

テ・ブレイクCEOは、生産者と収穫後の取扱業者とともにシーズン前に行った業界の包括的な計画の段階で、販売シーズンの早期開始に重点を置いていたと言う。

「ここ数カ月、ニュージーランド以外のゼスプリの産地で栽培された果実に対する強い需要が続いており、このことは、今後数週間でニュージーランド産の果実に移行する際、我々の立場を強くする。」

「市場に配置されたゼスプリの営業・販売チームは、今年も強力な販売キャンペーンを確実に展開するため連携企業と緊密に協力してきており、その多くは当社の象徴的キャラクターであるキウイブラザーズを取り上げている。今後1年間を通じたこれらの展開に期待している。」

今シーズンのチャーター船は、北ヨーロッパへ3便、地中海諸国へ14便、北米西海岸へ1便、アジア諸国へ43便を予定している。残りの輸出力はコンテナを使って出荷される。

442. アジア域内コンテナ指数は2%下落するも前年同期比では39%の上昇

[FreshPlaza 2025年3月14日](#)

ドリュエリー社のアジア域内コンテナ指数(IACI)は、アジア域内の主要な貿易ルートの実際のスポットコンテナ運賃を追跡している。この指数は隔週で更新され、地域の輸送コストの加重平均を提供し、コンテナ貨物業界における現在の市場動向の全体像を示している。この指数は、個々の航路の運賃を反映する18の航路別指数と、地域全体の包括的な動きを捉える総合指数で構成され、すべての運賃は40フィートコンテナ当たりの米ドルで報告される。

この指数は、アジアの主要港を結ぶ貿易ルートのカバーしている。これには、釜山(韓国)、ホーチミン(ベトナム)、ジャカルタ(インドネシア)、ジャワハルラールネルーポート(インド)、高雄(台湾)及びレムチャバン(タイ)から上海への航路、並びに上海から釜山、ホーチミン、ジャカルタ、ジャワハルラールネルーポート、ジェベルアリ(ドバイ)、高雄、レムチャバン、マニラ(フィリピン)、シンガポール、タンジュンペレパス(マレーシア)への航路が含まれる。さらに、横浜-上海間の航路も含まれている。このように詳細にカバーすることで、この指数はアジア域内のコンテナ輸送市場の動向と運賃を見守る関係者に貴重なベンチマークを提供する。

IACI総合指数は、3月前半に2%下落し、604ドルとなった。アジア内の18の主要貿易ルートのスبット運賃の加重平均であるこの指数は、2024年3月に比べて依然として39%高い。ドリュエリー社は、旧正月の休暇後に輸送時間が改善し、物流業務が通常に戻ったため、今後数週間で運賃が安定すると予想している。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

443. フィリピン パイナップル輸出額が7.5%増加

[FreshPlaza 2025年3月18日](#)

フィリピン統計局(PSA)は、フィリピンの昨年のパイナップル輸出額が約7億8,712万ドルに達し、7.5%増加したと報告した。生鮮または乾燥したパイナップルの輸出額は合計4億2,874万ドルで、パイナップル総輸出額の半分以上を占めた。中国が最大の輸出先であり、2023年より18%多い1億8,343万ドル相当のパイナップルを輸入した。

PSAのデータによると、フィリピンは昨年、合計67万5,540トンの生鮮または乾燥したパイナップルを輸出し、中国は42%に当たる約28万2,460トンを入力した。フィリピンは依然として中国向けパイナップルの最大の供給国であり、過去20年にわたり中国の年間輸入量の90%を占めている。(一部の文の順序を変更しました。)

国連食糧農業機関(FAO)は、2024年のフィリピンのパイナップル輸出の増加は、プレミアムパイナップル、特にMD2品種の需要に牽引されたものと見ており、「フィリピンで栽培されている主要品種であるMD2パイナップルの長い貯蔵寿命、年間を通じた生産サイクル、魅力的な品質的コストパフォーマンスが、特に強力なセールスポイントであることが証明された」と強調した。

世界的には、フィリピンはコスタリカに次いで第2位のパイナップル輸出国にランクされている。業界の専門家達は、パイナップルがフィリピンの次の10億ドルの輸出品になると予測している。経済協力開発機構(OECD)とFAOは、2033年までにフィリピンで生産されるパイナップルの4分の1が輸出されるようになると予測している。

調製または保存処理されたパイナップルの輸出額は2%増の2億2,049万ドルであり、非発酵のパイナップル果汁の輸出額は35%増の1億1,681万ドルであった。しかし、ブリックス値が20を超えないパイナップル果汁の輸出額は3,621万ドルに減少した。

出典: Philstar Global

444. 米国カリフォルニア州 核果類の見通しは良好

FreshPlaza 2025年3月18日

「風味を追求して育てた白肉のモモとネクタリン」

カリフォルニア州の今年の核果類の見通しは良好である。ファミリーツリー農場のライアン・ハワード氏は、「ほとんどの木はすでに開花しており、昨年とは対照的に今年の開花は均一であった」と言い、「これは非常に良い兆候だが、今後まだ多くの天候の変化があり、状況はまだ流動的である」と付け加えた(以下「」は同氏の話)。カリフォルニア州では最近雨が多いが、この段階では雨が様々な種類の核果類に影響を与えるにはまだ早い。「収穫が近づくほど、雨や降雹の懸念が大きくなる。」

カリフォルニア州セントラルバレーにある同農場の核果類の収穫は、5月1日頃にアンズ、果皮の赤いアンズ及びモモから始まる。ネクタリンの収穫はその後すぐに始まり、スモモが続く。プラムコット(スモモとアンズの交配種)やドーナツピーチ(蟠桃)など他の特産品種の収穫は、5月下旬または6月の第1週に始まる。その時点から9月末まで、カリフォルニア州は核果類を途切れることなく供給する。

白い果肉

他の大部分の核果類の生産者や出荷業者とは異なり、同農場は白い果肉のモモとネクタリンに特化している。同社の黄色い果肉の果実の出荷量は増加しているが、依然として白い果肉の果実が支配的である。「2001年に操業して以来、我々の使命は常に世界で最も風味豊かな果実を出荷することであり、白い果肉の核果類は我々がその使命を果たすのを助けてくれる。我々は、栽培するすべての果実において、風味が良く、糖度が高いものを求めており、それによって他の生産者との差別化を図っている。」

垂直統合された家族経営

同農場は、24年前にジャクソン一家によって設立され、現在も家族経営で、2代目と3代目も事業に携わっている。「我々は当初、世界中から集めた様々な核果類の品種を試してみることから始めた。その結果、白い果肉の品種と特産品種がほかのものよりも優れた成績を収めた。」長年の間に、黄色い果肉の品種が徐々に追加されてきた。水資源の課題や継続的な労働力の問題により、近年カリフォルニア州の核果類の栽培面積が減少している。「生産者と出荷業者の数が減少し、核果類を提供する人が少なくなったため、黄色い果肉の果実を含む完全な品揃えを提供することが重要だと感じている。」

同社は現在、カリフォルニア州リードリーに独自の研究開発施設を持ち、イスラエル、フランス、スペイン、カリフォルニア州など、世界中の約30の異なる育種プログラムの品種がテストされている。同社は完全に垂直統合されており、販売するほぼすべての果実を栽培、梱包、出荷している。

消費者教育

長年にわたり、ハワード氏は白い果肉の品種と特産品種の需要が増加するのを目の当たりにしてきた。「その理由は風味にあると考えている。我々の小売パートナーは、我々の核果類が提供する一貫した食体験のために弊社にやって来る。パーリシヤスホワイトネクタリンに代表される弊社の白い果肉のモモとネクタリンのラインナップは、他のサプライヤーとは一線を画している。(パーリシヤスホワイトネクタリンは他の品種と同じ甘い風味があり、果肉は柔らかくジューシーで花のような香りがする。果皮は赤みがかったクリーム色で、果肉は雪のように白い。)(「パーリシヤス」はパール+デリシヤスから作った造語のブランド名))

年齢階層別では、ハワード氏は若年層からの関心が高まっていることに注目している。「彼らは必ずしも多くの品種を知っているわけではないが、新しい果実を探し、試すことに興味を持っている。我々はソーシャルメディアで消費者を教育しているが、小売パートナーと協力して店内での販促を行い、果実を試食してもらうことにも取り組んでいる。一度試してもらえば、常連客になると思う。」(以下、イベントへの出展について省略)

執筆者: マリーカ・ヘムス

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

445. 台湾 より多くのカナダ産リンゴに市場を開放

[FreshPlaza 2025年3月20日](#)

カナダ食品検査庁(CFIA)は、台湾がより多くのカナダ産生鮮リンゴに市場を開放し、今後はケベック州と大西洋岸諸州が含まれると発表した。リンゴの輸出登録は、これらの地域のすべての生産者と梱包業者が利用でき、州ごとの輸出量の制限はない。

登録は2025年4月1日に開始される。生産者は、この日以降、最寄りのCFIA事務所に連絡して登録を行う必要がある。生産者の登録は、コードリングのトラップの要件により、リンゴの花が満開になる前に行う必要がある。果樹園は、コードリングの捕獲と処置の記録を保持しなければならない。

CFIAは輸出シーズンの少なくとも2カ月前に台湾の動植物防疫検疫署(APHIA)にリストを提出する必要があるため、梱包施設の登録申請は8月1日までに提出する必要がある。登録された梱包業者は、台湾への輸出登録がされた果樹園からのみリンゴを調達することができ、それらのリンゴは登録のない果樹園から供給されたリンゴとは別に分離して保管する必要がある。台湾向けのリンゴには病虫害が付着してはならない。

ブリティッシュコロンビア州とオンタリオ州の梱包業者は、台湾への輸出について引き続きCFIAに登録する資格がある。オンタリオ州の生産者は登録する必要があるが、ブリティッシュコロンビア州の生産者は、同州で必須の不妊虫放飼プログラムが台湾の要件を満たしているため、登録が免除される。

APHIAによって以前に登録または査察されていない新しい梱包業者は、現地査察が必要である。査察に関連する費用は、登録された梱包業者の負担となる。輸入要件はAPHIAからオンラインで入手できる。

出典: Farms.com

446. 米国 裁判所がスタックカートチェリーの特許を復活させる

[FreshFruitPortal 2025年3月20日](#)

ワシントン州東部地区地方裁判所は2025年3月12日に、カナダ農業・農産食料省(AAFC)が所有するスタックカートチェリーの米国植物特許を無効とした以前の命令を覆した。この決定は、「グローリー」チェリーが実際にはスタックカートチェリーであるという同裁判所の最近の決定に続くものである。

その結果AAFCは、米国の3人(法人)の被告が関与する現在進行中の法的紛争において、「グローリー」の果樹またはサクランボの繁殖、流通、販売がスタックカートの特許を侵害しているという主張を進める立場となった。この紛争に関与している米国の被告は、ワシントン州の果樹園主であり、「グローリー」の木を発見して特許を取得したと主張するゴードン・グッドウィン氏、スタックカートチェリーの木をグッドウィン氏に不適切に譲渡し、その後「グローリー」の木を栽培・販売したとされるヴァンウェル種苗会社及び「グローリー」チェリーの栽培、梱包、販売を行ったモンソン果実会社である。

同裁判所は、スタックカートの特許の無効性に関して「略式判決を下す際に明らかな誤り」を犯したことを認めた。被告らは、AAFCの特許出願前にスタックカートチェリーを販売したと実証する目的でエクセルのスプレッドシートを提出していた。しかし、このスプレッドシートでは、売上がスタックカートチェリーではなくソナタチェリーのものであることを示す10行のデータが他の証拠とともに省略されていた。

裁判所は、「被告らが、売上が実際には全く異なるソナタ品種のものであると記した[スプレッドシートの]最初の10行を除外し、その上でそれが元のスプレッドシートの正確なコピーであると裁判所に虚偽の説明をしたことは異論の余地が無い。訴訟のこの段階でこの行動を許すことは明らかに不当であろう」としている。

スタックカートチェリーのグローバルマスターライセンスを保有するサマーランドバラエティ社(SVC)の総括マネージャーであるショーン・ベインズ氏は、裁判所の判決に満足の意を表し、有効な特許のライセンスが適切に執行されるようになったと述べた。同氏は、世界の果樹業界における信頼の重要性を強調し、関係者が保護された品種に関連する知的財産権を尊重する必要性を強調し、SVCは違反に対して厳格な姿勢を維持すると述べた。(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の個人・企業や製品を推奨または批判するものではありません。)

447. イタリア ゼスプリがルビーレッドキウイフルーツの商業生産を承認

FreshFruitPortal 2025年3月20日

ゼスプリは、消費者の間での継続的な成功を受け、ルビーレッドキウイフルーツの生産をイタリアに拡大するとリリースで発表した。

ゼスプリのジェyson・テ・ブレイクCEOは、2025-26年度シーズンの生産者向けの最初のガイダンスを発表し、1箱当たりの力強いOGR(生産者収益)と栽培許可面積の範囲について概説した際、イタリアで追加される170ヘクタールは、ゼスプリの周年供給戦略の一環としてヨーロッパで赤肉品種を供給することで、ゼスプリブランドを継続的に強化する取り組みを支援するものであると述べた。(以下「」は同CEOの発言)

テ・ブレイクCEOはさらに、シーズン序盤の良好な生育条件が今シーズンの収穫の好調なスタートを支えており、現在、総収穫量は2億500万箱、すなわち73万8千トンを超えると予想されていると述べた。

「我々の業界は、シーズンのこの時期としてはこれまでにないほど多くの果実を出荷し、最初のチャーター船が無事に出航した。これは、迅速にスタートを切り、生産者に力強い収益を還元するために重要なことである。」

同CEOはまた、当初のガイダンスでは、今シーズンの果実のサイズと外国為替のポジションの改善も予想している一方、果実の品質が悪化した場合の品質コストの引当金、市場環境の軟化、世界的な地政学的不確実性の継続に起因する貿易の減少など、下振れリスクも考慮されていると付け加えた。

「ここ数週間でヨーロッパ、中国及び北米の取引先から寄せられたフィードバックは、ゼスプリキウイフルーツに対する強い需要があるというものであり、今後数週間でさらに多くの果実が市場に入荷するため、我々の営業販売チームは今シーズンの果実を販売しようと待ち構えている。」

ルビーレッドの成長

ルビーレッドキウイフルーツについて、同CEOは期待を込めて語った。「300万箱のニュージーランド産果実のほぼすべての梱包が完了している。今シーズンは、米国を含むいくつかの新しい市場で(ルビーレッドの)ベリーのような味が楽しめるようになった。」

イタリアでのルビーレッドキウイフルーツの商業的栽培は、2019年に生産者投票によって承認された、ニュージーランド国外で最大1千ヘクタールの新品種を植えるというゼスプリの既存の承認事項によってカバーされている。ゼスプリがこの割り当てを適用するのは今回が初めてである。

2025/26年度シーズンの指標の目安

区分(果実の種類)	2025/26 3月 生産者収益の目安 (1箱当たり)	2024/25 2月予測 (1箱当たり)	2025/26 3月 生産者収益の目安 (1ha 当たり)	2024/25 2月予測 (1ha 当たり)
ゼスプリグリーン	\$8.00 - \$9.50	\$8.10	\$86,000-\$103,000	\$86,987
ゼスプリ有機グリーン	\$10.50 - \$12.50	\$11.63	\$80,000-\$95,000	\$89,589
ゼスプリサンゴールドキウイフルーツ	\$11.00 - \$12.50	\$11.59	\$162,000-\$184,000	\$167,670
ゼスプリ有機サンゴールドキウイフルーツ	\$13.50 - \$15.50	\$14.93	\$147,000-\$169,000	\$153,543
ゼスプリグリーン 14	\$9.00-\$11.00	\$8.66	\$55,000-\$69,000	\$55,148
ゼスプリルビーレッドキウイフルーツ	\$14.50-\$16.50	\$16.66*	\$70,000-\$79,000	\$71,304

表中の\$はニュージーランドドル(1ニュージーランドドル=約86円)。*は収益が樹齢によって異なることの注釈(詳細省略)

出典: Zespri

448. 中国 2024年の果実輸出入統計

[PRODUCE REPORT 2025年3月20日](#)

中国食品・在来農産物・動物副産物輸出入商業会議所(中国食品土畜進出口商会)は3月7日、2024年の中国の果実輸出入の概要をまとめた報告書を発表した。

輸入

中国は2024年に、前年比5.81%の増加となる194億2,500万ドル相当の果実と果実加工品を輸入した。このうち、果実の輸入額は177億4,600万ドルで、2023年から5.25%増加した。一方、果実と果実加工品の総輸入量は前年比3.35%増の867万9,800トンで、そのうち果実は2.17%増の768万7,100トンであった。

中国の果実輸入先国のうち、2024年の輸入額上位10カ国は、タイ、チリ、ベトナム、ニュージーランド、フィリピン、ペルー、インドネシア、カンボジア、オーストラリア、マレーシアであった。これらの国を合わせると、中国の果実総輸入額の92.15%を占めている。タイからの輸入額は65億2,900万ドルで前年比10.54%の減少となったものの、同国は引き続き中国への果実及び果実加工品の最大の供給国であった。タイからの12月の輸入額は3億3,300万ドルに達し、前年同月比24.19%の増加を記録した。

品目別の上位は輸入額の多い順に、ドリアン、サクランボ、バナナ、マンゴスチン、キウイフルーツであった。これら5品目を合わせると、中国の果実総輸入額の72.2%を占めた。輸入量では、バナナ、ドリアン、ココナッツ、サクランボ、リュウガンが主要品目で、合わせて果実の総輸入量の64.9%を占めた。(品目別の記述省略)

輸出

中国の2024年の果実と果実加工品の総輸出額は85億6,100万ドルに達し、前年比20.88%の増加を記録した。このうち、果実の輸出額は前年比20.16%の顕著な成長を反映して59億8,700万ドルを占めた。果実と果実加工品の総輸出量は前年比31.08%増の659万2,500トンに達し、そのうち果実は506万1,200トンを占め、前年比30.86%の大幅な増加となった。

2024年の中国の果実と果実加工品の輸出額トップ10の海外市場は、ベトナム、米国、タイ、インドネシア、日本、キルギスタン、ロシア、香港、マレーシア、フィリピンであった。これらの市場を合わせると、総輸出額の74.74%を占めた。ベトナムが最大の輸出先で、同国への輸出額は前年比15.41%増の合計14億5,500万ドルであった。ベトナムへの12月の輸出額は前年同月比7.78%増の1億2,800万ドルであった。

輸出額上位5品目は、リンゴ、ブドウ、柑橘類(マンダリン、ウンシュウミカン)*、ナシ、オレンジで、これらの合計で果実輸出額全体の60.7%を占めた。輸出量別の主な品目は、リンゴ、柑橘類(マンダリン、ウンシュウミカン)、ナシ、生食用ブドウ、グレープフルーツ(ザボンを含む)で、果実の総輸出量の65.37%を占めた。(品目別の記述なし)

*編集部注:「柑橘類(マンダリン、ウンシュウミカン)」は、中国税関が使用している輸出入品目システムのHSコード08052190を指す。

執筆者: ジン・ザン

この英文記事は中国語から翻訳されたものである。元の記事はこちら(原文参照)

訳注: HSコードは上6桁が各国共通で、7桁目以降は国によって異なります。品目の表記の一部について、英語の原文がHSコードの品目名と異なるため、中国語の原文によりました。また、編集部注のうち英文の相違に基づく部分を省略しました。

449. ブルーベリーが健康的な老化を促進する可能性

FreshFruitPortal 2025年3月21日

米国臨床栄養学ジャーナル(The American Journal of Clinical Nutrition)に掲載された最近の研究で、ブルーベリーやその他のフラボノイドが豊富な食品の摂取が、メンタルヘルスの低下リスクの軽減等、健康的な老化を助ける可能性があることがわかった。

クイーンズ大学ベルファスト(英国・北アイルランド)、エディンバラ大学(オーストラリア・パース)、ハーバード大学T.H.チャン公衆衛生大学院(米国マサチューセッツ州ボストン)及びラッシュ大学医療センター(同伊利ノイ州シカゴ)の研究者達が主導したこの研究は、フラボノイドやブルーベリー等フラボノイドが豊富な食品の摂取と、健康的な老化の3つの指標(フレイル、身体機能の障害、メンタルヘルスの低下)との関連を強調している。

この調査には8万5千人以上の60歳以上の男女が参加し、ブルーベリー、イチゴ、リンゴ、オレンジ、お茶が健康的な老化を促進することが示された。

クイーンズ大学ベルファストと(学内組織の)世界食料安全保障研究所で栄養学及び予防医学の座長と学際的研究の責任者を務めるエディン・キャンディ博士は、「公衆衛生の観点からは、フラボノイドが豊富な食品を1日3単位(サービング)増やすという、控えめで達成可能な調整により、女性では健康的な老化指標全体の6~11%のリスク低下に、男性ではメンタルヘルスの悪化リスクの15%の低下につながった」と述べている。

研究者らは、「看護師健康研究」(NHS)と「医療従事者追跡調査」(HPFS)という全米を対象とした2つの前向きコホート研究のデータを用いた。この研究では、6万2,743人の女性を1990年から2014年までと、2万3,687人の男性を2006年から2018年まで追跡し、60歳以上に達した時点のデータを含めた。食事によるフラボノイド摂取量は、被験者が調査への参加を開始した時及びNHSでは24年間、HPFSでは12年にわたり4年ごとに収集された食物頻度アンケートから計算された。

参加者には4年ごとに、疲労、筋力低下、有酸素能力の低下、慢性疾患の存在、体重減少等、フレイル(加齢に伴う心身の衰え)に関連する状態を評価するための健康調査も実施した。身体的な障害は、中等度及び高強度の様々な活動を行う際の身体的制限に関連する質問に基づいて評価された。メンタルヘルスは、疫学研究センター抑うつ尺度(CES-D)と高齢者用抑うつ尺度(GDS)の質問を使用して評価及び点数化された。

NHSではフラボノイド総摂取量について、それが多いグループでは最も少ないグループと比較して、フレイルのリスクが15%低く、身体機能障害を発症するリスクが12%低く、メンタルヘルスが悪化するリスクが12%低いことと関連付けられた。これらのリスクの低下は、特定の食品や飲料(お茶、赤ワイン、リンゴ、ブルーベリー、オレンジ)の習慣的な摂取量の多さとも関連していた。

HPFSの男性では、お茶とブルーベリーの摂取量の多さと赤ワインの適度な摂取が、メンタルヘルスが悪化するリスクの低下と関連していた。ただし、フラボノイドが豊富な他の食品の平均摂取量と、フレイルまたは身体機能障害との間に関連性はなかった。

研究者たちはまた、フラボノイドが豊富な食品の消費の減少による変化を調べた。NHSでは、お茶、ブルーベリー、リンゴの摂取量の最も大きな減少は、フレイルを発症するリスクがそれぞれ7%、31%、16%高いことと関連していた。ブルーベリーの摂取量を1日当たり0.5サービング増やすと、フレイルのリスクが12%低下した。

この研究の限界は、大部分が白人の中年以上の男女のみに焦点を当てていることである。フラボノイドが豊富な食品のより幅広い摂取について多様な集団を対象とした今後の研究が必要である。

この研究は、ブルーベリーのようなフラボノイドが豊富な食品の生涯にわたる摂取が健康的な食事の重要な部分であることの証拠の増加に貢献している。キャンディ博士は、「我々の調査結果は、食事の少しの変更が全体的な生活の質に影響を与え、健康的な老化に貢献する可能性を強調している」と説明した。

450. 米国フロリダ州 フィンガーライムが柑橘類産業を助ける可能性

[FreshFruitPortal](#) 2025年3月21日

オーストラリア原産のHLB耐性ライム品種がフロリダの柑橘類産業を助ける可能性がある

真珠のような粒から一般に「柑橘類のキャビア」として知られているフィンガーライム(*Citrus australasica*)は、オーストラリア原産の小さくて細長い果実である。その果汁の詰まった独特の粒は酸味と強い香りがあり、グルメ料理で人気が高まっている。

フロリダ大学食品農業科学研究所(UF/IFAS)柑橘類研究教育センター(CREC)園芸科学部の助教授であるマンジュル・ダット博士は、オーストラリアとカリフォルニア州での栽培に成功したフィンガーライムをフロリダ州の柑橘類産業に適応させる研究を主導している。

フロリダ州の新しい特産作物

フィンガーライムの最も有望な特性の1つは、カンキツグリーニング病(黄龍病、HLB)に対する天然の耐性である。この病害は、ミカンキジラミによって広がり、柑橘類の果樹を弱らせ、葉の黄変や未熟果の落果を引き起こす。商業的に栽培される多くの柑橘類品種とは異なり、フィンガーライムはHLBに対する回復力を示し、この病害による損失を挽回しようとしている生産者にとって貴重な選択肢となっている。

フィンガーライムの耐病性は、生産者が柑橘類の生産に再投資することを後押しするだけでなく、作物の多様化も可能にする可能性が有る。さらに、フィンガーライムは量り売りではなく個別に販売できるため、従来の柑橘類と比較してより高い利益を生み出す可能性がある。フロリダ州は、その亜熱帯気候がフィンガーライムの栽培条件を完璧に満たしており、この柑橘類の生産に理想的な場所となっている。

育種の取り組み

ダット博士は、15年近くにわたり、フロリダ州の気候に適した優れたフィンガーライム品種の開発を主導してきた。同博士の研究による大きな進歩の1つは、より高い気温でも色を保持する赤い果肉の品種である。これは、マイアミで栽培されたフィンガーライムが、そこよりも涼しい地域で栽培されたものと同じ鮮やかな見た目になることを意味する。

また、従来の育種技術による種なしフィンガーライムの育成にも焦点を当てている。有名なタンゴマンダリン等、いくつかの種なし品種はすでに実用化されて成果を上げている。

研究者達はまた、高いトンネルを使用してフロリダ州の北部でも育つ耐寒性品種についても調べている。トンネルは、生育期間を延長し、極端な天候から果樹を保護することで栽培方法を変える可能性がある。

ダット博士は「植物の健康と適応力にとって、適切な台木の選択は不可欠である」と述べている。異なる種類の台木は、耐病性や生育条件に影響を与える可能性がある。

この研究のもう一つの目標は、とげの少ないフィンガーライムの木を育種し、収穫プロセスを簡素化することである。さらに、ポストハーベスト技術を強化するための研究も進行中であり、品質を維持しながら貯蔵寿命を延ばすため、梱包、貯蔵及び輸送の方法に焦点を当てている。

UF/IFASの助教授であるタイ・ルー博士は、廃棄物の削減と市場性の向上を目指す中で、フィンガーライムの細胞壁が貯蔵寿命にどのように影響するかに関する研究を強調し、「フィンガーライムの鮮度、食感、風味を維持し、市場での魅力を高めるためには、貯蔵条件の最適化が不可欠である」と述べた。

継続的な研究と進歩により、フィンガーライムがフロリダ州の柑橘類生産者にとって持続可能な作物になることが期待されている。

執筆者: カルラ・エスピノーザ・グティエレス

451. ペルー 柑橘類の輸出は競争の中で堅調に推移

FreshFruitPortal 2025年3月24日

ペルーの柑橘類生産者協会(ProCitrus)は最近、2024年のペルーの柑橘類輸出量が前年比で19%増加したと発表した。ペルーの柑橘類産業は前向きな傾向にあるのか？ この結果に寄与した要因は何か？ 柑橘類の専門家でペルーの農業界のリーダーであり、ラカレーラ社(柑橘類生産)の代表であるエストゥアルド・マシアス・マラガ氏によると、このセクターの動きは「非常に安定」している。(以下「」は同氏の話)

「この安定性は、過去5年間の総輸出量に反映されており、この期間中にはわずか20%の成長しか見られなかった。言い換えれば、年間約5%の動きがあった。」

この安定性は、激しい競争を特徴とする世界の柑橘類市場が成熟した状態にあることが主な要因である。この市場で扱う主な品目はオレンジ、グレープフルーツ、レモン等で、量産型の商品作物であると見なされている。これら3つの主要品目が、世界の柑橘類輸出を支配している。

同氏はさらに、ペルーのオレンジ、レモン、マンダリン等の柑橘類の果樹に深刻な影響を与えているカンキツトリステザウイルスがもたらす課題を指摘した。クロステロウイルス属の一種であり、主にアブラムシや感染した植物材料によって伝染するこのウイルスは、攻撃的であり、この病原体に対してより耐性のあるマンダリンと比較して、これら3品目の柑橘類の生育を妨げてきた。

これらの課題はあるものの、過去5年間のマンダリン輸出の伸びの鈍さは、このビジネスの厳しさを示すものだとマシアス氏は指摘している。

「レモン(及びライム)の輸出量は5年前の5千トンから2024年には4万4千トンに増加した。タヒチライムがエキゾチックな商品であり、その消費が輸出先の気候に依存し、また主に料理の飾りとして使用されることを考慮すると、ペルー北部地域からの出荷時期のタヒチライムの輸出の伸びは成熟したレベルに達している可能性があると考えている。ペルーの柑橘類が繁栄するためには、生産または輸出に対する動機付けが必要である。我々は約束されている農業法を心待ちにしている。」

北部のもろさ

マシアス氏は、ペルーが南半球に位置することから、柑橘類生産における主な競争相手は南アフリカやチリなど、(南半球の)高緯度に位置する国であることを強調した。

「競合国はこの地理的な優位性により、園地の病虫害が我々よりも少なく、柑橘類の着色もよい。両国は、ペルーで我々に影響を与えているウイルスの影響を緩和することに成功し、オレンジ、グレープフルーツ、レモンの重要な生産国となっている。一方、ペルーは主にマンダリンで競争している。」

イカ県の産地で最近降った雨と、2025年の気候の予測の困難性について同氏は、「エルニーニョ現象は、南部よりも北部のプランテーションに深刻な影響を与える傾向があり、特に開花(生産量)と果皮の色に影響を与える」と指摘した。

「実際、2023年には国の北部地域にある園地からの出荷量が減少し、2024年には回復して通常の生産量に戻った。弊社はペルーの南部に位置しているため、非常に安定した気候の恩恵を受けており、毎年生産目標を達成することができる。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の個人・企業や製品を推奨するものではありません。)

452. 南アフリカ 柑橘類の輸出予測は「バランスの取れた成長と優れた品質」

[FreshFruitPortal](#) 2025年3月25日

2025年の柑橘類輸出シーズンが4月に正式に始まるのを前に、南部アフリカ柑橘類生産者協会(CGA)の様々な品目別グループが、来たるシーズンの輸出可能量の予測を発表した。

CGAのゲリット・ファン・デル・メルヴェ会長は、「利用可能なすべてのデータは、5年平均に即した輸出量を予測しており、これは、我々のグローバル市場に供給できる十分な果実があることを意味している。見通しは供給過剰や供給不足がないことを示唆している」と述べた。

CGAは、2025年の果実の品質は総じて優れているようだとしている。様々な品種の予測の内訳は、バランスの取れたシーズンになることを示している。

レモン

現在の予測は、昨年比べて5%減となる3,290万箱(15kg/箱)のレモンが主要市場に輸出されるとしている。柑橘類の産地であるサンデーズリバーバレー、センウェス(マーブルホール及びグロブラスダル)、ボーランド、パテンシーの各地域の推計値はすべて減少しているが、ホドスブルート地域のレモン生産量は増加すると推定されている。

早生のレモンは、海外市場、特に中東、ロシア、カナダに既に出荷されている。

オレンジ

ネーブル種とバレンシア種のオレンジの数字は今年増加すると予想されている。予測によると、ネーブルオレンジは2,610万箱(15kg/箱)が梱包可能で、輸出量は5%増加する。

オレンジの品目別グループは、追跡しやすくするため、初めて推定値を早生/中生ネーブル(1,134万箱)と晩生ネーブル(1,475万箱)に分割した。昨年は西ケープ州の洪水やリンポポ州の降霜等の異常気象がネーブルの輸出に影響を与えたが、天候が許せば2025年には輸出量が増加すると予想されている。

バレンシアオレンジの輸出量はこの4年間わずかに減少していたが、2025年には改善する可能性が高い。2024年の数値は6%増の5,200万箱(15kg/箱)と予測されている。この数字に対する搾汁用果実価格のあらゆる影響はまだ定量化されていない。

昨年は、国内の加工用果実の価格が異常に高かったため、バレンシアオレンジの輸出が抑制された。

グレープフルーツ

グレープフルーツの輸出も増加すると予測されている。6%の成長は、1,350万箱(17kg/箱)に相当する。

グレープフルーツの輸出のピークは4月中旬から5月中旬の間と予想されている。今シーズン、グレープフルーツの品目別グループは、ヨーロッパ市場の若年層を対象にグレープフルーツの消費量を増やすことを目的とした新しい販促プロジェクトに着手する。

マンダリン

2つの早生マンダリン品種の供給が安定している。ウンシュウミカンの出荷シーズンは、再び180万箱(15kg/箱)で終わる見込みである。ノヴァの出荷シーズンは、2%減の450万箱(15kg/箱)となった。3つ目の早生マンダリン品種であるクレメンタインは、10%の堅調な増加を示し、輸出量は540万箱(15kg/箱)に増加すると予想されている。

晩生のマンダリン品種の推計は、より正確な生産データが入手できる来月になってから行われる。シーズン中、様々な品目別グループは定期的に集まり、必要に応じて推計値を追跡・更新する。

長期的な予測では、すべての関係者が協力して課題に対処すれば、南アフリカの柑橘類業界は2032年までに2億6千万箱を輸出するという目標を達成し、その過程で10万人の新規雇用を創出できることが引き続き示されている。

南アフリカの柑橘類の課題

この目標を達成するために最も重要な2つの課題は、相変わらず鉄道と港湾の物流の不備と、カンキツ黒星病(CBS)及びフォールスコドリグモス(FCM)に関する欧州連合の不必要な植物検疫措置である。

CGAの物流開発マネージャーであるミッチェル・ブルック氏は、「CGAは、港湾での機器取得に関してトランスネット(運輸公社)が進歩を遂げたことに感謝しているが、必要な効率性を達成するための唯一の長期的な方法は、公共部門の参加によってのみ達成することができる構造改革を通じたものである」と述べた。

食糧農業政策局(BFAP)の最近の調査によると、非効率な物流が柑橘類産業にもたらす総コストは、年間52億7千万ランドに達している。(1ランド=約8円)

CGAはリリースで、世界貿易機関(WTO)の貿易紛争機関における過去2件の事例は、CBSとFCMに対するEUの制限的で非科学的な貿易措置に焦点を当てているとしている。

CGAのCEOを退任するジャスティン・チャドウィック氏は、「我々は本件の迅速な進展を望んでいるが、このような紛争には時間がかかる。この問題が2026年の出荷シーズンまでに最終決定されることについて、引き続き楽観的である。この措置は、毎シーズン、南アフリカの生産者に37億ランド以上の費用負担を強いており、特に新興の生産者をEU市場から締め出している」と述べた。

453. 2024年の世界のリンゴ輸出量

[FreshPlaza 2025年3月26日](#)

アイコンサルティング社の2025年リンゴ国際市場年鑑によると、2024年の世界の生鮮リンゴの輸出量は0.2%増の750万トンであった。この増加は中国と米国からの出荷によるもので、イタリアとポーランドは天候の問題が生産に影響したことにより減少した。業界全体の出荷額は、前年比8.1%増の76億9千万ドルに達した。

北半球の輸出量は合計600万トンで、全体の80%を占めた。中国は、生産量の増加と、輸出可能な果実が入手しやすくなったことで、主要供給国としての地位を確固たるものにした。

南半球の輸出量は9.1%増加し、150万トンに達した。チリ、南アフリカ、ニュージーランドがこの地域をリードし、品種の交代が進んでいる。チリの輸出量は18.8%増加し、南半球全体の37%にあたる55万6千トンで、南半球の輸出をリードした。主な輸出先は中南米諸国で、出荷量の59%を占め、輸出単価は1.05ドル/kgであった。ブラジルがチリ産リンゴの最大の輸入国であり、8年ぶりにコロンビアを上回った。

ヨーロッパ市場では、ガラ系品種の価格は前シーズンよりも低く、域内産の果実が引き続き上回った。グラニースミスは高値で始まったが、第21週(5月下旬)の後には下落した。ふじ系品種は2023年よりも業績が落ち込んだが、チリ産は終盤に高値を記録した。クリップスピンク(商標ピンクレディー)系は、安値でスタートし、シーズン終盤に跳ね上がった。

米国では、伝統的に高価格帯にあったハニークリスプが、国内産の増加と輸入により価格が下落した。また、有機リンゴの価格は依然として慣行栽培品の価格を上回っており、ハニークリスプの価格は3ポンド当たり10ドルを超えた。(1ポンド=約0.45kg)

アイコンサルティング社のレポート全文はこちら(原文参照)

出典: frutasdechile.cl

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

454. 世界のドラゴンフルーツ市場の未来を形作る

FreshFruitPortal 2025年3月26日

世界のドラゴンフルーツ市場は大幅な成長が見込まれており、その価値は2023年の5億730万米ドルから2033年には9億7,360万米ドルに達すると予想されており、これは年率(複利計算)6.7%の増加に当たる。ドラゴンフルーツは温暖で湿度の高い気候でよく育ち、その常緑樹としての性質により一年中出荷される。

ドラゴンフルーツの人気の高まりは、がんや喘息などの慢性疾患との闘いや血糖値の調節を助け、肌や髪 の健康の促進に役立つ豊富な栄養的特徴に起因している。食物繊維、ビタミン、抗酸化物質を豊富に含むこの果実は、バランスの取れた食事のために栄養価の高い食材を求める健康志向の消費者の間で注目を集めている。

多様な消費者の好みを満足させるため生産者や食品製造業者が様々な熱帯産品を開発する中で、ドラゴンフルーツは市場の拡大を推進しており、飲食料品業界で重要な役割を果たしている。持続的な市場成長の可能性は、パーシステンスマーケットリサーチ (PMR) 社の調査結果で強調されているように明らかである。

主要な市場成長要因

ドラゴンフルーツの豊富な栄養素含有量や抗酸化特性など、ドラゴンフルーツの健康上の利点に対する認識の高まりは、需要を促進する主要な要因である。消費者は、慢性的な不健康状態の緩和を助けるこの果実の能力を次第に認識してきており、食事に加えるのが望ましい食材となっている。さらに、より健康的な食生活へのシフトは、自然で栄養価の高い食品の選択肢の一部として、ドラゴンフルーツの消費の増加を促進している。

飲食料品業界は急速に拡大しており、ドラゴンフルーツは様々な製品の原料として人気を集めている。その汎用性は、生産者や食品製造業者が革新に取り組み、変化する消費者の好みに対応する新しい製品を生み出すことを可能にした。さらに、市場のグローバル化と貿易促進的な政策により、ドラゴンフルーツの市場の範囲が拡大し、以前はあまり見かけることのなかった地域でドラゴンフルーツの入手が容易になった。

課題と市場の制約

その常緑樹の性質にもかかわらず、季節的な変動が供給と価格の安定性に影響を与える可能性があるため、ドラゴンフルーツの栽培は依然として課題に直面している。また、この植物は病害虫の被害を受けやすく、収量や品質に影響を与える可能性がある。さらに、この果実の繊細な性質から、特に長距離輸送では慎重な取り扱いが必要であり、輸送や日持ちの問題も大きなハードルとなっている。

ドラゴンフルーツの栽培は温暖で湿度の高い気候の特定の地域に限られており、地理的な制約がある。このため、この果実が栽培されていない地域では供給不足や価格変動が発生する可能性がある。さらに、ドラゴンフルーツ果樹園の設置には、土地、インフラ、栽培方法など、多額の初期投資が必要であるため、一部の潜在的な生産者の市場への参入を妨げている可能性がある。

市場動向

消費者は、有機栽培や持続可能な方法で生産されたドラゴンフルーツにますます関心を持つようになっており、環境に優しい農法の需要が高まっている。この持続可能性へのシフトにより、生産者は有機栽培、総合的病害虫管理、水保全技術など、環境に優しい農法を採用するようになった。

供給サイドがこの果実の新しい使用方法を模索するにつれて、ドラゴンフルーツ製品の革新は重要なトレンドとなっている。多様な消費者のニーズに応えるため、ドラゴンフルーツベースの飲料、スナック、デザート、さらにスキンケア製品が開発された。また、電子商取引の台頭により市場が拡大し、消費者は様々な地域のドラゴンフルーツ製品に簡単にアクセスできるようになり、オンライン販売の成長が促進されている。

健康とウェルネスのトレンドが消費者の行動に影響を与え続ける中、栄養上の利点と病気と闘う特性で知られるドラゴンフルーツのような機能性食品の需要が急増している。

最近の主な動向

需要の高まりを受けて、ドラゴンフルーツの栽培は、ベトナム、タイ、コロンビアなどの気候条件が適した新しい地域に拡大している。これらの地域では、世界的な需要に対応するため、増産に取り組んでいる。水耕栽培、垂直農法、環境制御農業などの技術の進歩も、収量、品質、持続可能性を向上させることにより、ドラゴンフルーツの栽培を改善している。

供給サイドは、新しいタイプのドラゴンフルーツベースの飲料、スナック、デザート、さらには美容製品など、革新的な製品の開発にますます注力している。一方、より多くの生産者が環境に優しい農法を採用するにつれて、業界内の持続可能性への取り組みが強化されており、環境配慮型農業への需要をさらに支えている。

出典: Persistence Market Research

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の個人・企業や製品を推奨するものではありません。)

(関連記事)ドラゴンフルーツが抗酸化物質と食物繊維で人気

[FreshPlaza 2025年3月26日](#)

およそ3英国ポンド(約3.75米ドル)のある熱帯果実が、その潜在的な健康上の利点で注目を集めている。この果実は鮮やかなピンクまたは黄色の外皮と緑の鱗で知られ、内部の明るい白またはピンクの果肉と黒い種子は、その栄養プロフィールで注目されている。

ハーバードヘルス(医療情報サイト)は、ドラゴンフルーツにはビタミンCやセレンなどの抗酸化物質が豊富に含まれており、これらが炎症の緩和に役立つ可能性があることを強調している。抗酸化物質が豊富な農産物を多く含む食事は、心臓病、糖尿病、及び特定の癌のリスクの低下と関連している。3.5オンス(約100グラム)のドラゴンフルーツは、約82カロリーの熱量を持ち、14mgのマグネシウム、206gのカリウム、2gの食物繊維が含まれている。ハーバード大学公衆衛生大学院のテレザ・ファン博士は、ドラゴンフルーツが果実の摂取を多様化する役割を強調し、「もしそれで人々がより多くの果実を食べるようになるなら、そうすべきだと思う」と述べている。

ファン博士はまた、利便性の観点から冷凍ドラゴンフルーツを推奨しており、「冷凍ドラゴンフルーツは旬の時期に収穫され、すぐに冷凍される。言うまでもなく、すべてがきれいにされ、皮がむかれているので、手間がかからない」と話す。

メキシコ南部と中央アメリカを原産地とするドラゴンフルーツは、現在世界中で栽培されている。クリーブランドクリニックの栄養士であるジョイス・プレスコット氏は、消化器系と心臓血管系の健康をサポートするその繊維含有量について言及している。同氏はさらに、「食物繊維は満腹感も与えるので、体重を減らそうとしている場合に役立つ」と述べている。

プレスコット氏はまた、この果実は腸内の善玉菌のエサとしても作用し、善玉菌の生育を促進すると説明する。これにより、消化が促進されて結腸がんのリスクが低下する可能性がある。ドラゴンフルーツは、単品で摂取することも、サラダ、スムージー、デザート、カクテルに加えることもできる。

出典: SurreyLive

455. 米国 果実とナッツ類の生産見通し(主要果実抜粋)

米国農務省経済調査局 2025年3月27日

この報告書では、米国の計量単位が使用されています。メートル法の単位への換算率は次のとおりです。

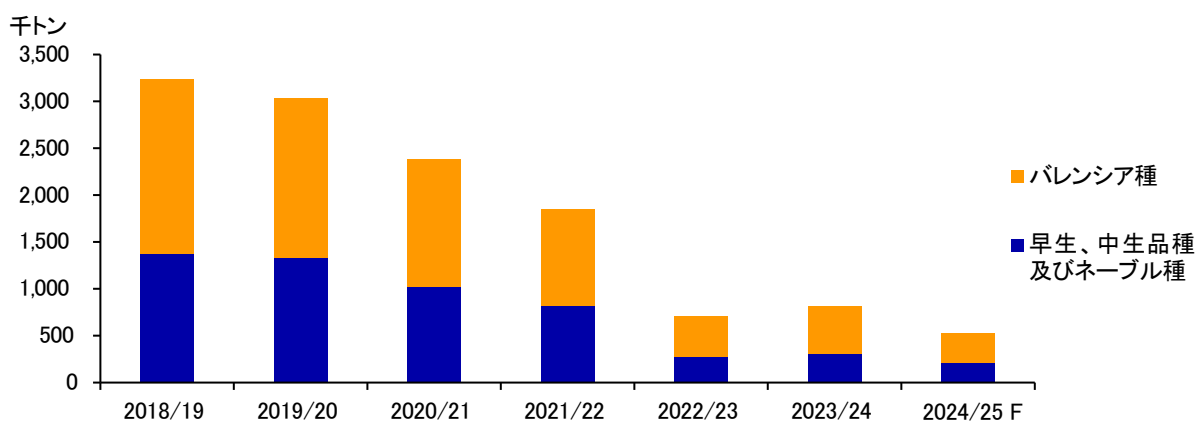
1ポンド＝約453.6グラム(1億ポンド＝約4万5千トン)、1トン(1米トン、ショートトン)＝約907kg(1万米トン＝約9千トン)、

1エーカー＝約0.405ヘクタール、1ガロン＝3.785リットル(1億ガロン＝約38万キロリットル)

フロリダ州の2024/25年度のオレンジ予測出荷量は減少

2024/25年度のフロリダ州の全オレンジの最新(2025年3月)の予測出荷量は52万2千トンで、2023/24年度の最終総出荷量80万8千トンに比べ35%少ない。もしこのとおりになれば、2024/25年度のフロリダ州のオレンジ出荷量は、この95年間で最少となる。米国農務省農業統計局(NASS)の作物生産報告書によると、フロリダ州の早生・中生品種及びネーブル種のオレンジの出荷量とバレンシア種のオレンジの出荷量は、2023/24年度と比較してそれぞれ32%及び38%減少すると予測されている。2024年10月にハリケーンミルトンがフロリダ半島の柑橘類主要産地を襲った。この嵐は数百万ドルの損害をもたらし、既に壊滅的な植物病害である「黄龍病(HLB)」(カンキツグリーニング病)に悩まされていたフロリダ州の柑橘類産業にさらなる打撃を与えた。フロリダ州の柑橘類産業の著しい弱体化にもかかわらず、フロリダ州産オレンジは米国のオレンジ果汁業界で引き続き主要な役割を果たしており、2023/24年度シーズンに米国内の果汁製造に使用されたオレンジの49%を占めた。

フロリダ州のオレンジ出荷量：2024/25年度はハリケーンミルトンとカンキツグリーニング病により減少



F = 予測

注：フロリダ州のオレンジの販売年度は10月に始まり、翌年の9月に終わる。

出典：米国農務省農業統計局(NASS)の「作物生産報告書」(2025年3月)のデータに基づき同省経済調査局が作成

柑橘類の見通し

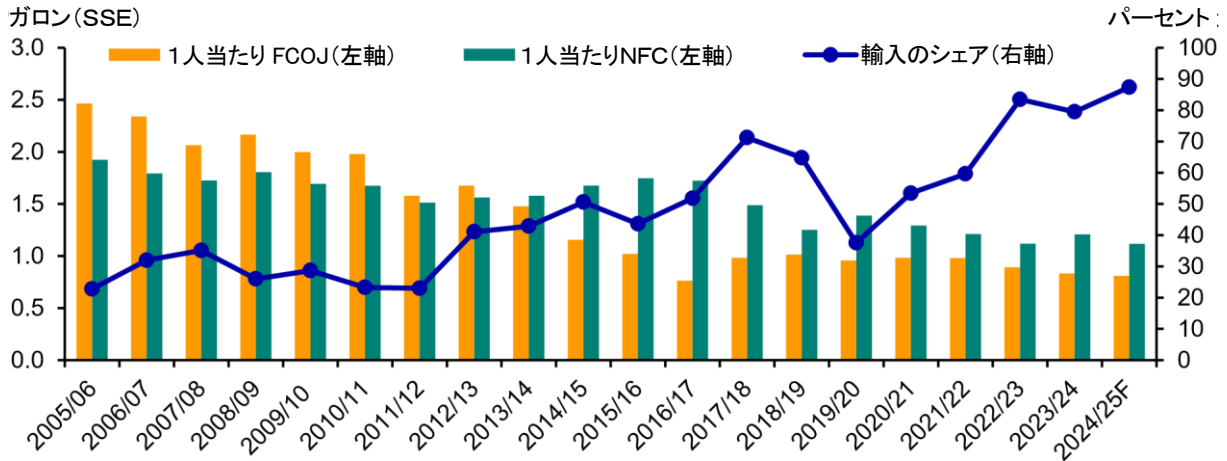
米国の柑橘類消費量に占める輸入の割合が拡大

2024/25年度の1人当たりの生鮮柑橘類供給量は、26ポンドを超えると予想されている。実現すれば、この数値は過去5年間で最高となり、10年平均を7%上回る。米国で消費される全生鮮柑橘類に占める輸入のシェアは拡大している。20年前には生鮮柑橘類の国内供給量に占める輸入のシェア(輸入量を国内供給量で割ったもの)は約20%であったが、2024/25年度には40%を超えると予想されている。カリフォルニア州は産地として非常に大きな役割を果たしており、ライムを除くすべての主要な柑橘類の生産で全米をリードしている。

柑橘類の果汁(特にオレンジ果汁及びグレープフルーツ果汁)の消費量は、10年前に比べて大幅に減少した。オレンジ果汁とグレープフルーツ果汁の消費量は2005/06年度以降57%減少し、2024/25年度には1人当たりの年間供給量が生果汁換算(SSE)で2ガロンに減少すると予想されている。従来、米国で消費用に入手できるオレンジ果汁はほとんどが冷凍濃縮オレンジ果汁(FCOJ)であったが、2013/14年度に非濃縮(NFC)果汁の市場シェアがFCOJを上回った。米国内のオレンジ果汁の製造量が減少するにつれ、消費

者は一層輸入品に頼るようになった。今シーズン(2024/25年度)のオレンジ果汁供給量に占める輸入品のシェアは90%近くに達し、ブラジルとメキシコが引き続き米国のオレンジ果汁輸入の95%を供給すると予想されている(図5)。

図5 1人当たりのオレンジ果汁供給量は減少し、輸入の占めるシェアが増加



F=予測; SSE=天然果汁換算; FCOJ=冷凍濃縮オレンジ果汁; NFC=非濃縮果汁

出典: 米国農務省農業統計局のデータ、商務省センサス局の貿易データ及びフロリダ州政府柑橘局の出荷データに基づき農務省経済調査局が作成

2024/25年度のオレンジ生産量は減少の予測: オレンジは品種によって、果実の風味、サイズと色、果汁の含有量、種子の有無、成熟期が異なる。米国農務省農業統計局は市場データを追跡するため、オレンジを、1) 通常は種子があり、果汁の生産に優れているバレンシア種のオレンジと、2) バレンシア種以外のオレンジ(ネーブル種を含む)の2つの主要なカテゴリーに区分している。非バレンシアオレンジには、シーズンの早い時期に成熟し、生鮮市場で広く消費される品種が含まれている。出荷シーズンは州によって異なるが、全米のオレンジ販売年度は前年の11月に始まり、当年の10月までである。

2024/25年度の米国産オレンジの予測総出荷量は、昨シーズンに比べて12%減の242万トンと推定されている。カリフォルニア州の非バレンシアオレンジの出荷量は2%増の156万トンと予測される一方、バレンシア種は19%減の30万トンと予想されている。フロリダ州のバレンシアオレンジの出荷量は昨シーズン(2023/24年度)に比べて38%減の31万5千トン、非バレンシアオレンジの出荷量は32%減の20万7千トンと予測されている。テキサス州のオレンジ出荷量は22%減の3万9千トンと予測されている。米国のオレンジ生産量の純減は主にフロリダ州での減少によるもので、2004/05年度以降、ほとんどの年で生産量が前年比で減少している。また、カリフォルニア州産バレンシアオレンジの出荷量も前年より7万2千トン少ないと予想され、これが米国の生産量の純減にさらに拍車をかけている。

オレンジの価格と貿易の見通し: 2024年9月から2025年1月の期間の生鮮オレンジの樹上換算生産者価格は1箱当たり平均23.60ドルで、昨シーズンより約4%高かった。今シーズンのフロリダ州の生産量が歴史的に少ないことから、生鮮オレンジの価格上昇は国内供給の逼迫を反映している。フロリダ州の加工用オレンジの生産量の減少により、加工用オレンジの価格が上昇している。加工用オレンジの樹上換算生産者価格は1箱当たり平均11.48ドルに達し、前年比で74%上昇した。

生鮮オレンジの輸入量は、シーズン序盤(2024年11月～2025年1月)に前年同期比で6%減少したが、これは主にメキシコからの輸入が減少した(19%減)ためである。チリ、ドミニカ共和国、モロッコからの輸入の増加が、この減少の一部を埋め合わせた。生鮮オレンジの輸出量は、前年同期比で1%減少した。

オレンジ果汁の市況: ハリケーンミルトンは、過去8年間で3回目のフロリダ州の柑橘類産業に大きな損失をもたらした熱帯低気圧である。ミルトンによる被害は、フロリダ州の柑橘類産業がカンキツかいよう病やさらに壊滅的な植物病害であるカンキツグリーニング病に苦しめられ、20年間衰退してきた末に発生した。歴史的

に、フロリダ州は米国のオレンジ果汁生産を支配しており、フロリダ州産のオレンジは、比較的最近の2016/17年度には国内のオレンジ果汁生産の約90%を占めていた。今シーズンのオレンジ果汁の製造量は、1億830万SSEガロンと予測されており、これは昨シーズンに比べて22%少なく、少なくとも1970/71年度以来の最低となる。期首在庫は1億6,600万SSEガロンで、1991/92年度以来の最低であり、期末在庫は53年ぶりの低水準に達すると予想されている。国内の供給量の減少により、今シーズンのオレンジ果汁価格は上昇を続けている。

2024年10月から2025年1月の期間に、米国のオレンジ果汁輸入量は前年比で5%増加し、過去40年間の最高水準の1つ(5億7,700万SSEガロン)に近づくとも予測されている。ブラジル、メキシコ、コスタリカが、米国が輸入するオレンジ果汁のほぼすべてを供給している。米国のオレンジ果汁の輸出量は、今シーズンこれまで(2024年10月～2025年1月)に29%増加し、カナダ、メキシコ、コスタリカへの輸出量が増加した。ただし、2024/25年度のフロリダ州産オレンジの収穫量が減少することから、この傾向は今後数カ月で収束すると予想される。米国のオレンジ果汁製造業者は、毎シーズンの販売のかなりのシェアを国外の消費者に依存しており、2014/15年度から2023/24年度の期間の米国のオレンジ果汁の輸出量が国内製造量に占める割合は9～28%の範囲であった。カナダは何十年にもわたって米国のオレンジ果汁の最大の輸出先であり、今シーズン(2024/25年度)も既に最初の4カ月間の米国の果汁輸出の68%を占めている。そのほかの米国のオレンジ果汁の重要な輸出市場は、日本とコスタリカである。

グレープフルーツの見通し: 米国のグレープフルーツの販売年度は9月に始まり、翌年8月に終わる。一時期、グレープフルーツは米国の消費者に2番目(オレンジに次ぐ)に人気のある果実であった。1975/76年度シーズンの生鮮市場向けの年間出荷量は130万トンを超え、1人当たりの供給量は9ポンドを超えていた。今シーズン(2024/25年度)の生鮮消費と加工用を合わせた出荷量は29万9千トンと予測されており、これは1922年以来の最低水準である。2024/25年度シーズンのお荷量は、カリフォルニア州が14万8千トン(前年度比14%減)、フロリダ州が5万1千トン(同33%減)、テキサス州が10万トン(同4%増)と予測されている。

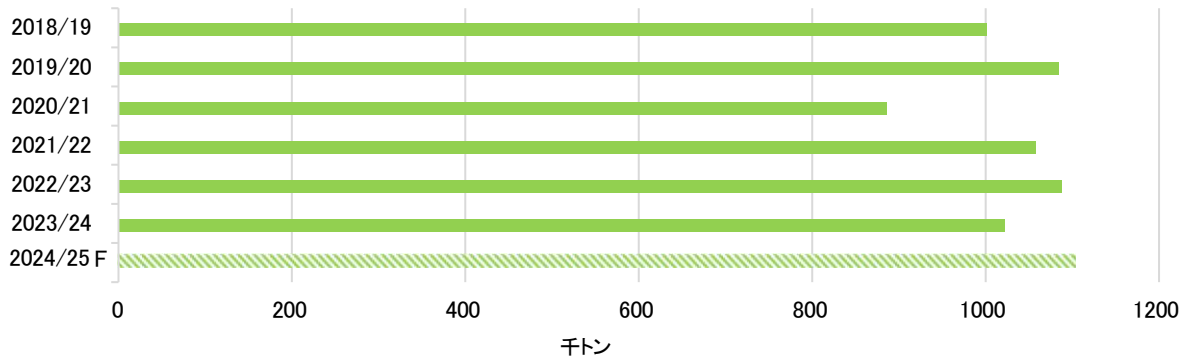
生鮮グレープフルーツの樹上換算平均生産者価格は43.16ドル/箱(10月～1月)で、前シーズンの同時期に比べて19%上昇した。価格の上昇は、供給の逼迫と国内での入手のしにくさによって支えられている。2024/25年度シーズンのお初めの5カ月間の生鮮グレープフルーツの輸入は13%減少し、輸出は16%減少した。カナダと韓国への出荷は、それぞれ8%及び48%減少し、日本への輸出は9%増加した。

経済調査局の現在の推定によると、2024/25年度シーズンのグレープフルーツ果汁の製造量は、歴史的な低水準の1,060万SSEガロンと予測され、1人当たりの供給量は0.04ガロンと予想される。輸入量は800万ガロンと予測される。輸出量は増加傾向にあり、約500万ガロンと予測される。今シーズンの最初の5カ月の貿易データに基づくと、カナダ、韓国、英国への輸出はそれぞれ17%、95%及び71%増加した。

レモンの見通し: 2024/25年度のレモンの出荷量は110万トンと予測されている。カリフォルニア州は100万トン(2023/24年度に比べ6%増)、フロリダ州は2万7千トン(今年度が初めての予測)、アリゾナ州は3万6千トン(5%減)を占めている(図6)。生鮮レモンの樹上換算価格は平均30.61ドル(8月～1月)で、8%下落した。2024/25年度シーズンのレモン果汁の製造量は、2,450万SSEガロン(14%増)と予測されている。

生鮮レモンの輸入量は、今シーズンこれまで(2024年8月～2025年1月)に8%増加したが、国内生産量の増加により、輸入が少なかった昨年のお準(4億2,300万ポンド)に近づくとも予想されている。レモン果汁の輸入も、昨年の同時期と比較して大幅(20%)に増加している。ただし、今後数カ月のレモン果汁の輸入量は、減少傾向になると予想されている。シーズン序盤はチリからの輸入がリードしたが、後半はアルゼンチン産が優勢になると予想されている。生鮮レモンの輸出量は、今シーズンこれまでで3%減少した。カナダ向けの輸出量は前年同期比で16%増加したが、日本と韓国への輸出量は減少した。レモン果汁の輸出は、今シーズン前半の堅調な輸出と国内の製造量の増加により、昨年の456万SSEガロンを超えると予想されている。米国における1人当たりのレモン果汁供給量は、昨年の0.20ガロンを超えると予想されている。

図6 レモンの出荷量：フロリダ州での増産により2024/25年度シーズンは増加の予測



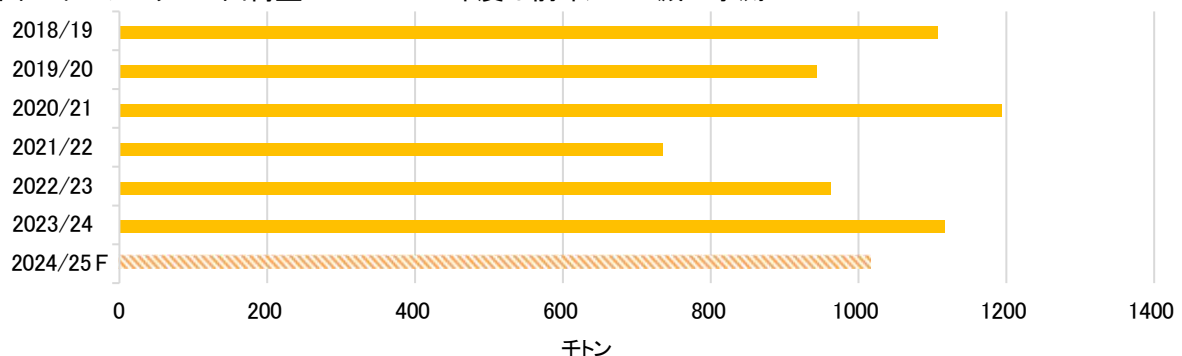
F=予測

出典：米国農務省農業統計局(NASS)の「作物生産報告書」(2025年3月)及び「柑橘類要覧」各号のデータに基づき同省経済調査局が作成

タンジェリンの見通し： 広義のタンジェリンには、タンジェリン、マンダリン、クレメンタイン等の様々な柑橘類(ミカン科ミカン属)が含まれる。これらの果実は通常、オレンジよりも小さく、皮をむきやすい。タンジェリンは歴史的に東アジア市場で重要であったが、この数十年は米国で人気が高まっている。

2024/25年度の生産量は102万トンと予測されており、カリフォルニア州が100万トン(2023/24年度に比べて9%の減)、フロリダ州が1万7千トン(同19%減)を占めている(図7)。米国のタンジェリンの総出荷量は今年9%減少すると予想されているが、それでも過去5年間の平均を上回っている。米国の生鮮市場向け出荷量は13億9千万ポンドで、1人当たりの生鮮タンジェリン供給量は7.24ポンドと予測されている。

図7 タンジェリンの出荷量：2024/25年度は前年比9%減の予測



F=予測

出典：米国農務省農業統計局(NASS)の「作物生産報告書」(2025年3月)及び「柑橘類要覧」各号のデータに基づき同省経済調査局が作成

予測出荷量が減少したため、今シーズンの最初の3カ月間の輸入は53%増加し、合計1億1,300万ポンドとなった。輸入は従来から、タンジェリンの供給量の大部分を占めてきた。2023/24年度シーズンに米国で流通したタンジェリンの約43%は、他の国からの輸入であった。米国のタンジェリン輸出量は、2024/25年度シーズンの最初の3カ月(2024年11月～2025年1月)に47%増加し、合計4,750万ポンドに達した。しかし、国内生産量の減少が予想されることから、この傾向が続くとは考えにくい。米国産タンジェリンの主な輸出先は、2024/25年度シーズンも引き続きメキシコ、カナダ、韓国であると予想されている。

非柑橘類の見通し

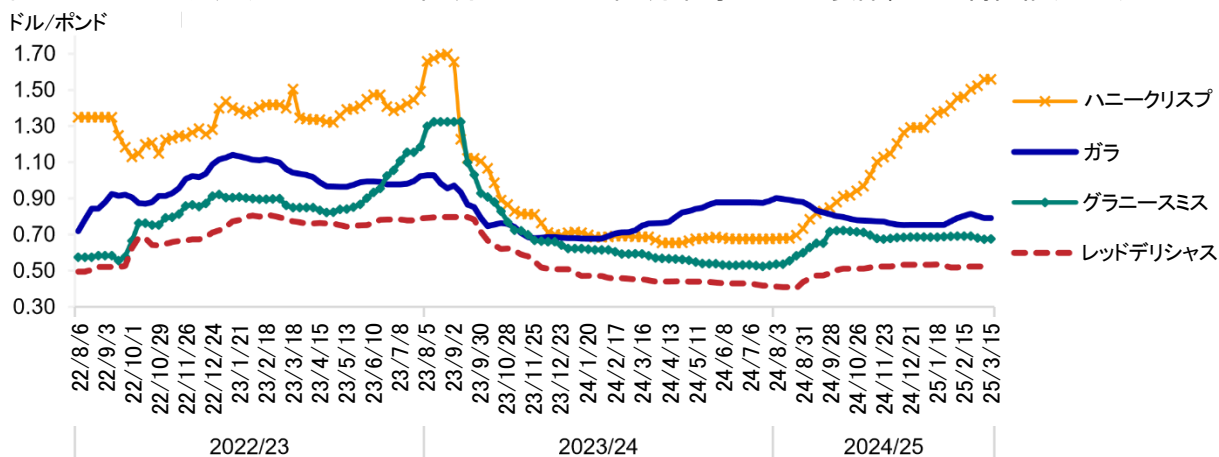
リンゴの生産者価格は4年ぶりの安値から回復

米国農務省農業統計局(NASS)が報告した生鮮リンゴの生産者価格は、前シーズンの4月に名目、実質ともに4年ぶりの安値に下落した後、2024/25年度の最初の6カ月にはゆっくりと上昇し始めた。2025年1月の生鮮リンゴの生産者価格は1ポンド当たり75セントで、前年同月より20%高いものの、2023年の同月よりは19%低くかった。米国のリンゴの総生産量は、天候等の要因により3シーズン連続で110億ポンドを下回った後、2023/24年度(8月～7月)には前年比14%増加した。

2024/25年度の生産量予測は2023/24年度よりわずかに低いものの、リンゴの収穫量は依然として平均を上回ると予測されている。全米リンゴ協会の報告によると、2024年2月1日現在の米国のリンゴ総貯蔵量(生鮮消費用及び加工用)は、前年よりは5%少ないが、2年前の同月より26%多くなっている。

2025年3月中旬には、ガラ、グラニースミス、レッドデリシャス等の人気品種の出荷価格(FOB)は前年同週より高かったものの、依然として2023年の同時期の平均を下回った(図9)。2023/24年度下半期のハニークリスピの価格は、貯蔵量が平均よりも多かったため下押し圧力がかかり、ガラの価格を下回った。ハニークリスピは2008年まで特許品種であり、従来は他の一般的なリンゴ品種と比較して価格プレミアムを獲得してきた。2024/25年度のハニークリスピの出荷価格は、前年比での生産量の減少を反映して回復した。

図9 ワシントン州産リンゴ：2022年8月から2025年3月中旬までの主要品種の出荷価格(FOB)



FOB＝出発地積載済み価格

注：米国産の慣行栽培リンゴ、40ポンド箱入り、入数64～88玉、上級品(エクストラファンシー級)

出典：米国農務省農業流通局「マーケットニュース」の出荷価格データに基づき経済調査局が作成

ガラとレッドデリシャスは2024/25年度もリンゴのトップ品種の座を維持：全米リンゴ協会によれば、ガラとレッドデリシャスの両品種を合わせると、今シーズンの米国のリンゴ生産量の約3分の1を占めると予想されている(図省略)。2023/24年度に記録的な収穫量であったハニークリスピは、グラニースミスに次ぐ4位に後退すると予想されている。コズミッククリスピ品種(ワシントン州でのみ栽培)は、引き続き結果面積が増加するため2024/25年度の実産量は記録を更新すると予測されている。コズミッククリスピの実産量は現在、ふじとゴールデンデリシャスに次ぐ7位にランクされている。

2024/25年度上半期(8月～1月)に、米国の生鮮リンゴ輸出は、前シーズンの同時期と比較して、輸出額で1%、輸出量で4%減少した。主要市場であるメキシコ、カナダ、台湾、インドへの生鮮リンゴの輸出の減少が、ベトナム向けの前年比14%の増加を上回った。2025年1月までに、有機リンゴは生鮮リンゴ輸出量の約5分の1(1億8,150万ポンド)を占め、重量ベースで有機リンゴの60%がメキシコに輸出された。米国では、生産された生鮮市場向けリンゴの約4分の1が輸出される。生鮮リンゴの輸入が国内市場に占める割合は相対的に小さく、2023/24年度には国内総供給量の2%であった。

456. 米国 柑橘類の遺伝子編集に対する消費者の反応を調査

FreshFruitPortal 2025年3月28日

フロリダ州の柑橘類産業は、カンキツグリーニング病の壊滅的な影響により、引き続き大きな課題に直面している。これに対して、生産者達は様々な解決策を模索しており、科学者達は遺伝子編集を同州の象徴である柑橘類を救うための有望な選択肢として特定している。この取り組みの重要な側面は、遺伝子編集に対する消費者の認識を理解することである。

フロリダ大学食品農業科学研究所(UF/IFAS)の助教授であり、作物改変センター(CTC)で人的側面チームの共同リーダーを務めるバシール・カッサス氏は、バイオテクノロジーに対する消費者の受容について研究している。同氏の発見は、科学者、柑橘類生産者及び業界関係者に対し、消費者が遺伝子の編集と改変をどのように見ているかについての貴重な洞察を提供する。

柑橘類の生産者は、^{クリスパー}CRISPRについて学ぶ機会を得る。これは、科学者が遺伝暗号の特定の部分を切断してDNAを編集することを可能にする技術であり、遺伝子の除去、追加、または変更によって、病気に対してより抵抗力のある木を作出したり、果実の風味を高めたりすることができる。一方、遺伝子組み換えは、同様の目的を達成するために、ある種の生物の遺伝子を別の種に移植することを含んでいる。

CRISPR編集された柑橘類から抽出されたオレンジ果汁に対する消費者の購入意欲を知るには、消費者がCRISPRの基礎を理解する必要がある。カッサス氏は、2021年にニューヨーク市とジャクソンビル市(フロリダ州)で実施された課題別グループを通じて、この技術に対する一般の人々の認知度の評価を既に実施した。

参加者はCRISPRの情報ビデオを見たが、それでもこの略語を理解し、遺伝子編集と遺伝子組換えを区別するのに苦労していた。カッサス氏は「ほとんどの人はそれが冷蔵庫の中の何かだと思っている」と話す。

カッサス氏は来年にかけて、遺伝子組換え(GM)とCRISPR編集の柑橘類から作られたオレンジ果汁に対する消費者の受容と支払い意欲に、様々なコミュニケーション戦略がどのように影響するかの評価を行う予定である。ゲインズビル市(フロリダ州)で行われるこの調査では、消費者に様々なプロモーションメッセージを提示し、柑橘類やバイオテクノロジー関連の刺激に対する消費者の生理学的反応を評価するとともに、バイオテクノロジーと従来の方法で製造したオレンジ果汁に対する嗜好を評価する。

これから行うこの研究は、カッサス氏と他の研究者が約2千人のオンライン参加者に様々な形式の情報を提示し11月に発表した成果に基づいている。そこでは、消費者は一般的にバイオテクノロジーを使用したものよりも従来のオレンジ果汁を好み、CRISPRを使用して開発されたものと比較してGM製品に対する嫌悪感が強いことが示された。

カッサス氏は「我々の以前の研究では、すべてのメッセージ形式がCRISPRの受け入れを増やすのに効果的であることが示された」と強調する。具体的には、ポジティブに表現したメッセージは、ネガティブなメッセージよりも効果的であった。同氏はさらに、「特にGM食品が市場で直面している抵抗を考えると、CRISPR食品の商業化を成功させるには、効果的な教育・マーケティング活動が重要である」と付け加えた。

改善されたメッセージ戦略を通じて、UF/IFASの科学者とエコノミストは、農作物を含め、様々な生物の遺伝的変更に対する消費者の理解を深めることを目指している。

海外果樹農業情報 刊行物一覧

No.	調査報告書名	発行年月
114	世界の主要果実の生産・貿易概況 2012 年版	12. 3
115	台湾における日本産果実の流通状況等実態調査報告書	12. 6
116	中国におけるブドウの生産・流通・消費調査報告書	12. 10
117	韓国の対米国 FTA 締結による韓国果樹産業への影響等調査報告書	12. 11
118	台湾における東日本大震災後の日本産果実等流通状況実態調査報告書	13. 3
119	中国におけるモモの生産・流通・消費調査報告書	13. 3
120	世界の主要果実の生産概況 2013 年版	13. 10
121	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入に関連する規制等に係る調査報告書	14. 3
122	世界の主要果実の貿易概況 2013 年版	14. 3
123	世界の主要果実の生産概況 2014 年版	14. 10
124	世界の主要果実の生産概況 2015 年版	15. 3
125	台湾における日本産果実の流通及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	15. 3
126	ニュージーランドの果樹農業及び香港の日本食品・果実事情調査報告書	15. 8
127	海外の果樹産業ニュース 2015 年度版	16. 3
128	台湾における日本産食品の輸入規制強化にともなう日本産果実の流通への影響に係る調査報告書	16. 3
129	海外の果樹産業ニュース 2016 年度上期版	16. 10
130	世界の主要果実の生産概況 2016 年版	17. 2
131	海外の果樹産業ニュース 2016 年度下期版	17. 3
132	台湾における日本産果実の流通状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	17. 3
133	海外の果樹産業ニュース 2017 年度上期版	17. 9
134	世界の主要果実の生産概況 2017 年版	18. 2
135	世界の果樹産業ニュース 2017 年度下期版	18. 3
136	台湾における日本産果実の流通・消費の状況及び輸入促進に向けた諸課題に係る調査	18. 3
137	海外の果樹産業ニュース 2018 年度上期版	18. 10
138	世界の主要果実の生産概況 2018 年版	19. 2
139	海外の果樹産業ニュース 2018 年度下期版	19. 3
140	米国ワシントン州のりんご生産の現状と省力・機械化技術に関する調査報告書	19. 3
141	海外の果樹産業ニュース 2019 年度上期版	19. 10
142	欧州及びイタリアの果樹農業の現状とスマート農業に関する調査報告書	20. 3
143	海外の果樹産業ニュース 2019 年度下期版	20. 3
144	世界の主要果実の生産概況 2019 年版	20. 3
145	海外の果樹産業ニュース 2020 年度上期版	20. 9
146	世界の主要果実の生産概況 2020 年版	21. 3
147	海外の果樹産業ニュース 2020 年度下期版	21. 3
148	世界の醸造用ぶどう栽培の動向 気候変動対応と持続可能性の取組	21. 3
149	世界の主要果実の貿易概況 2021 年版	21. 5
150	海外の果樹産業ニュース 2021 年度上期版	21. 9
151	世界の主要果実の生産概況 2021 年版	22. 3
152	海外の果樹産業ニュース 2021 年度下期版	22. 3
153	世界の生食用ぶどう産業 品種動向と栽培流通技術	22. 3
154	世界の主要果実の貿易概況 2022 年版	22. 5
155	海外の果樹産業ニュース 2022 年度上期版	22. 9
156	海外の果樹産業ニュース 2022 年度下期版	23. 3
157	世界のもも産業 生産・消費動向と栽培流通技術	23. 3
158	世界の主要果実の生産・貿易概況 2022 年版	23. 3
159	日本の果実の貿易概況 2022 年版	23. 4
160	海外の果樹産業ニュース 2023 年度上期版	23. 7
161	海外の果樹産業ニュース 2023 年度中期版	23. 11
162	世界の主要果実の生産・貿易概況 2023 年版	24. 1
163	世界のおとうろ産業 生産・流通の現状と品種・栽培流通技術	24. 3
164	新型コロナウイルス禍の世界の果樹農業 生産流通消費への影響と今後の対応	24. 3
165	海外の果樹産業ニュース 2023 年度下期版	24. 3
166	日本の果実の貿易概況 2023 年版	24. 4
167	海外の果樹産業ニュース 2024 年度上期版	24. 7
168	海外の果樹産業ニュース 2024 年度中期版	24. 11
169	世界の主要果実の生産・貿易概況 2024 年版	25. 1
170	世界のカンキツ産業 生産流通の現状と栽培流通技術	25. 3
171	海外の果樹産業ニュース 2024 年度下期版	25. 3
172	日本の果実の貿易概況 2024 年版	25. 4

